

# 大川遺跡

都市計画道路根上小松線街路工事に係る  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2014.3

石川県小松市教育委員会



## 例言

1. 本書は、石川県小松市大川町地内において、小松市教育委員会が実施した大川遺跡発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査及び出土品整理・報告書刊行は、石川県南加賀土木総合事務所の依頼により、小松市が受託して、小松市教育委員会埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査に係る費用は、石川県南加賀土木総合事務所が負担した。
4. 対象となった埋蔵文化財並びに、調査地、調査原因、調査面積、調査期間、調査担当は次のとおりである。

### 【大川遺跡】

《調査地》 小松市大川町2丁目地内

《調査原因》 都市計画道路根上小松線街路工事

《調査面積》 5,600㎡

《調査期間》 2010. 8. 24～2011. 6. 24

《調査担当》 川畑謙二、岩本信一（2011. 6. 4まで）、北村史織（同年6. 4より）

5. 発掘調査は、作業員を直接雇用し実施した。遺構毎の実測・写真撮影は、担当者が行った。ただし、空中写真測量については、㈱太陽測地社に委託して行った。
6. 出土品整理は、調査中である平成22年度内より実施し、川畑が担当した。  
しかし、調査原因となる事業が平成25年度までであることから、通常認められる整理期間を確保することが困難となった。よって、原因者と協議の上、一部外部委託も併用し、整理期間の短縮を図った。

〈出土品整理業務（日本海航測㈱）、遺物図化学業務（㈱太陽測地社）〉

なお、遺構図や遺物実測図のトレースについては、臨時職員久保沙也佳を雇用し実施した。

7. 遺物の写真撮影については、川畑が実施した。
8. 出土植物遺体・貝類等の自然科学分析を、パリノ・サーヴェイ㈱に委託して行った。
9. 出土陶磁器の整理について、平成25年度に佐々木達夫氏、佐々木花江氏にご指導頂いた。
10. 本書の執筆及び編集については、川畑が担当し、岩本の補佐を受けた。

執筆分担は、以下のとおり。

第1章 岩本信一

第2・3・5章 川畑謙二

第4章 パリノ・サーヴェイ株式会社

11. 本調査において出土した遺物及び遺構・遺物の実測図、写真等の資料は、小松市教育委員会が保管している。
12. 現地調査から報告書刊行に至るまでには、下記の機関・個人等の協力を賜った。記して謝意を表する。

### 〈機関等〉

大川町の皆様、大川やわらぎ街道まちづくり協議会

石川県南加賀土木総合事務所、石川県教育委員会、(公財)石川県埋蔵文化財センター

### 〈個人（敬称略、五十音順）〉

新井英之、垣内光次郎、九千房百合、坂下雅子、佐々木達夫、佐々木花江、沢辺利明、鈴木重治、布尾和史、能芝 勉、藤田邦雄、三浦純夫

## 凡 例

1. 本書に示す座標は世界測地系（Ⅶ系）に準拠している。
2. 本書で示す方位は、全て座標北である。水準高は海拔高（TP）で示している。
3. 調査区に設定したグリッドは、凡例1の座標に合わせて設置されている。東西軸にアルファベット、南北軸に算用数字を付し示している。
4. 本書に示す土色は、マンセル表色系に準拠している。
5. 各図の縮尺は、図版内に示した。
6. 遺構の名称は、下記の略号に算用数字を示して表記した。ただし、特殊なものについては、固有の表現を使用した場合がある。  
SA：柵・塀、SD：溝、SE：井戸、SF：道路、SK：土坑、SX：その他（造成・整地痕及び不明確遺構）、P：柱穴・小穴
7. 包含層については、上位から包含層1～3の順となっている。
8. 遺構番号について  
本来は整理して、通し番号で提示すべきであるが、時間的制約から、調査時に付した番号をそのまま使用した。その時点での法則は以下の通りである。
  - ①調査区毎に1～の通し番号を使用する。
  - ②A区はそのまま、B区は1001～とし、C区は2001～とする。
  - ③泥川のみ、各区共通のSX01に固定して使用する。よって、多くの欠番や番号飛びが生じる結果となったが、調査効率向上のためであり、ご容赦願いたい。  
各位置の位置については、調査区詳細図によりご確認ください。
9. 遺物実測図については、土器・陶磁器類、瓦、土人形等、石製品、木製品、銭貨、金属器ごとに通し番号を付した。遺物図版と観察表で番号は一致させている。
10. 遺物実測図の提示方法については、それぞれの属性に合わせて、提示方法を変えた。陶磁器・土器類のみ、遺構ごととまとめ組成を示すことを重視し、器種ごとに分けず提示した。その順序は、遺構本文と対応しており、想定町屋区画ごととなっている。  
他は、器種ごとに分類して提示した。ただし、その中での順序は土器・陶磁器類に準じ、本文と対応させている。
11. 観察表については、単位は大きさは全てcm、重さはgで示してある。（ ）内の数値は、残存値を示している。
12. 「実測番号」欄は、実測時に付した番号であり、調査区や外部委託品毎に通し番号を付したものである。

直営で実施したもの（全ての属性）	調査区毎に a-○○○、b-○○○、c-○○○
平成24年度外部委託品（陶磁器）	24-○○○
平成25年度外部委託品（陶磁器）	25-○○○

以上は、保管している遺物実測図（原図）と一致する。

# 目次

第1章 位置と環境	
第1節 遺跡の位置及び地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第3節 調査に至る経緯等	10
第2章 遺構	
第1節 報告の方法について	15
第2節 誓願寺地区	15
第3節 町屋地区	17
第4節 道路地区	36
第5節 泥川地区	37
第3章 遺物	
第1節 出土遺物について	106
第2節 土器・陶磁器類	106
第3節 瓦	107
第4節 土人形等	107
第5節 石製品	107
第6節 木製品	108
第7節 銭貨	109
第8節 金属製品	109
第4章 自然科学的分析	227
第5章 総括	238

第4章写真図版1～3

写真図版 1～47

報告書抄録

## 挿図目次 (第1章～第3章)

### 第1章

第1図	小松市の位置	1
第2図	小松市の地形	1
第3図	遺跡分布図	2
第4図	大川遺跡発掘調査地位置図	12
第5図	大川遺跡発掘調査区域図	12

### 第2章

第6図	遺跡全体図・グリッド配置図	40
第7図	町屋区画想定図	41
第8図	調査区詳細図1(～第25図)	42
第26図	誓願寺地区遺構図1(～第30図)	59
第31図	誓願寺地区遺構図6・町屋1地区遺構図1	64
第32図	町屋1地区遺構図2	65
第33図	町屋2地区遺構図1(～第34図)	66
第35図	町屋2地区遺構図3・町屋3地区遺構図1	68
第36図	町屋3地区遺構図2(～第38図)	69
第39図	町屋4地区遺構図1(～第41図)	72
第42図	町屋5地区遺構図1(～第44図)	75
第45図	町屋6地区遺構図1(～第47図)	78
第48図	町屋7地区遺構図1(～第50図)	81
第51図	町屋8地区遺構図1(～第52図)	84
第53図	町屋8地区遺構図3・町屋9地区遺構図1	86
第54図	町屋9地区遺構図2(～第58図)	87
第59図	町屋10地区遺構図1(～第61図)	92
第62図	町屋10地区遺構図4・町屋11地区遺構図1	95
第63図	町屋11地区遺構図2・町屋12地区遺構図1	96
第64図	町屋12地区遺構図2(～第65図)	97
第66図	道路地区遺構図1	99
第67図	泥川地区遺構図1(～第72図)	100

### 第3章

第73図	土器・陶磁器実測図	誓願寺地区(1)(～第92図)	110
第93図	土器・陶磁器実測図	誓願寺地区(21)・町屋1地区(1)	130
第94図	土器・陶磁器実測図	町屋1地区(2)(～第95図)	131
第96図	土器・陶磁器実測図	町屋1地区(4)・町屋2地区(1)	133
第97図	土器・陶磁器実測図	町屋2地区(2)(～第98図)	134
第99図	土器・陶磁器実測図	町屋2地区(4)・町屋3地区(1)	136
第100図	土器・陶磁器実測図	町屋3地区(2)(～第108図)	137
第109図	土器・陶磁器実測図	町屋3地区(11)・町屋4地区(1)	146
第110図	土器・陶磁器実測図	町屋4地区(2)(～第111図)	147
第112図	土器・陶磁器実測図	町屋4地区(4)・町屋5地区(1)	149
第113図	土器・陶磁器実測図	町屋5地区(2)	150
第114図	土器・陶磁器実測図	町屋5地区(3)・町屋6地区(1)	151
第115図	土器・陶磁器実測図	町屋7地区(1)(～第116図)	152

第 117 図	土器・陶磁器実測図	町屋 7 地区 (3)・町屋 8 地区 (1)	154
第 118 図	土器・陶磁器実測図	町屋 8 地区 (2)・町屋 9 地区 (1)	155
第 119 図	土器・陶磁器実測図	町屋 9 地区 (2) (～第 120 図)	156
第 121 図	土器・陶磁器実測図	町屋 9 地区 (4)・町屋 10 地区 (1)	158
第 122 図	土器・陶磁器実測図	町屋 10 地区 (2)・町屋 11 地区 (1)・包含層	159
第 123 図	土器・陶磁器実測図	町屋 11 地区 (2)	160
第 124 図	土器・陶磁器実測図	町屋 11 地区 (3)・町屋 12 地区 (1)・道路地区 (1)・泥川地区 (1)	161
第 125 図	土器・陶磁器実測図	泥川地区 (2) (～第 136 図)	162
第 137 図	瓦実測図 (1) (～第 141 図)		174
第 142 図	土人形等実測図 (1)		179
第 143 図	土人形等実測図 (2)・石製品実測図 (1)		180
第 144 図	石製品実測図 (2) (～第 146 図)		181
第 147 図	石製品実測図 (5)・木製品実測図 (1)		184
第 148 図	木製品実測図 (2) (～第 157 図)		185
第 158 図	銭貨拓本図 (1)		195
第 159 図	銭貨拓本図 (2)		196
第 160 図	金属図製品実測図 (1) (～第 162 図)		196

## 表目次 (第1章～第3章)

### 第1章

第1表	遺跡地名表	5
-----	-------	---

### 第3章

第2表	木製品樹種同定表	194
第3表	土器・陶磁器類觀察表	199
第4表	瓦觀察表	220
第5表	土人形等觀察表	220
第6表	石製品(硯)觀察表	221
第7表	石製品觀察表	221
第8表	木製品(漆器)觀察表	222
第9表	木製品(曲物等)觀察表	222
第10表	木製品(櫛等)觀察表	223
第11表	木製品(箸)觀察表	223
第12表	木製品(杓子等)觀察表	223
第13表	木製品(不明品)觀察表	223
第14表	木製品(編物)觀察表	223
第15表	木製品(下駄)觀察表	224
第16表	錢貨觀察表	225
第17表	金屬器觀察表	226



# 第1章 位置と環境

## 第1節 遺跡の位置及び地理的環境

小松市は石川県の南西部に位置し、人口約11万人・面積371.13km<sup>2</sup>を擁する。

市街西部には小松空港が立地しており、北陸地域における重要な人・モノの交流拠点としての機能を有している。

市域は、北西縁部で日本海に面し、南縁部は市域最高峰である大日山（標高1,368m）で福井県勝山市との県境をもつ。また東縁部・北縁部は白山市および能美市、西縁部は加賀市に接している。この南北に長い市域の大部分は山地・丘陵で占められ、南東部では能美江沼丘陵・能美山地を形成している。また北西部では海岸線に沿うように小松・江沼平野が広がり、市街地や農地が集中している。

市域を流れる一級河川の梯川は、白山山系の大日連峰に源を発し、北流を続けながら中流域の軽海町付近で西方へと流れを変え、さらに蛇行しながら日本海へと注いでいる。この梯川には前川・八丁川・鍋谷川・仏大寺川・湊上川・鍋谷川などが合流している。大川遺跡は、この梯川下流域左岸に位置している。

小松・江沼平野の南部には、加賀三湖と称される今江湖・木場湖・柴山湖が、その水郷風景をとどめていたが、国営干拓事業によって今江湖の全てと柴山湖の3分の2が干拓され、往時の景観は失われてしまった。しかし、この豊潤な水辺に恵まれた三湖と梯川からの水系で構成されていた水上交通網は、当地における古くからの地域間を結ぶ重要なネットワークとして、大きな意義を持つものであった。その反面、特に梯川の氾濫による被害もよく知られており、大川遺跡が所在する大川町の市制施行以前の旧町名が、たびたびの水害で泥の中に埋まったことにより「泥町」と呼称されていたことに、その歴史を窺い知ることができる。

## 第2節 歴史的環境

小松市は、豊かな自然地形に呼応した多数の遺跡の存在が知られている。それら遺跡の変遷を時代別に概観すると、高位海成段丘上の八里向山遺跡A～F遺跡（300～305）で後期旧石器時代に属する石器が確認されている。

縄文時代では加賀三湖に近接する今江5丁目遺跡（77）から草創期・前期の土器が出土しており、古くからの生活の痕跡を留める。また、三湖周辺で漁業を盛んに営んでいたことの証左として石錘



第1図 小松市の位置



第2図 小松市の地形



第3圖 遺跡分布圖



が大量に出土している。その他にも、この渦周辺では土百遺跡(76)、五部座貝塚(78)、矢崎宮の下遺跡(69)、三谷遺跡(176)等の遺跡の展開がみられ、活況を呈する。丘陵部においても軽海西芳寺遺跡(246)を初見とする縄文遺跡が存在し、中海遺跡(333)や大長野A遺跡(210)では中期から後期頃の各種生活遺構が確認されている。また千木野遺跡(239)や八幡遺跡(244)では、狩猟活動の痕跡とみられる落とし穴が検出されている。

弥生時代では遺跡の中心地が梯川周辺に移り、梯川鉄橋遺跡(200)、梯川鉄橋B遺跡(201)、平面梯川遺跡(215)、平面梯川B遺跡(216)、白江梯川遺跡(217)などが盛行する中、弥生時代中期において八日市地方遺跡(198)が北陸における拠点集落として、一際存在感を示すようになる。なお本遺跡は学史的にも弥生時代中期の「小松式土器」標識遺跡として著名であり、近年の土地区画整理事業に伴う大規模な発掘調査によって確認された大量の遺構および遺物のうち、出土品1,020点が平成23年6月27日、国の重要文化財として指定を受けている。弥生時代中期後半以降、八日市地方遺跡が衰退していくと共に、梯川流域にかけては千代・能美遺跡(225)や一針B遺跡(222)などで併行期の土器が確認されている。弥生時代後期では、青銅器鋳造のための土製鋳型外枠が出土した一針B遺跡が特筆される。

古墳時代に入ると、継続して梯川沿いを中心地とする遺跡の展開が推移する中、新たに漆町遺跡(220)など大規模な集落が現れる。また古墳時代前期の千代・能美遺跡では、様々な機能をもつ区画を有する首長居館が確認されている。古墳造営に関しては、能美丘陵及びその縁辺部に能美古墳群、八里向山古墳群、河田山古墳群(277)、埴田後山古墳群(273)等が看取される。古墳時代後期では、月津台地上に多くの古墳が築かれた。この中の一つである矢田野エジリ古墳(55)は、多量の埴輪片が出土し、その質・量とも北陸最大の規模をもつもので、出土埴輪一括は平成9年6月30日、国指定の重要文化財となっている。これら古墳造営の変遷は、古墳時代終末期に、切石積横穴式石室をもつ河田山12・33号墳を築造することで、その終局を迎えることとなる。一方、南部の丘陵地帯では広範にわたる生産遺跡の分布がみられるようになる。その一群は南加賀古窯跡群、南加賀製鉄遺跡群と称され、北陸随一の窯業・製鉄業地帯の拠点となった。

弘仁14(823)年には、越前国であった江沼・加賀の二郡が全国で最も遅くに、加賀国として立国を遂げる。この加賀国府の所在としては古府台地周辺がその推定地として、今日まで活発な議論が及んでいる。奈良時代以降の集落遺跡では、佐々木遺跡(231)、荒木田遺跡(245)、高堂遺跡等から、掘立柱建物群や多くの墨書土器が確認されており、加賀国分寺の成立を探る上で貴重な成果が得られている。また、漆町遺跡から出土した10世紀前半に位置づけられる「庄」字の墨書土器からは、国衙領における荘園化の動きが読み取れる。さらに丘陵部においては、八里向山B遺跡(301)、里川E遺跡(314)、浄水寺跡(243)等で伽藍が検出されており、山間寺院の営みが確認できる。これら寺社勢力の伸張は、平安時代末期に至って、中宮八院の成立を促すこととなったとも考えられる。

中世では、加賀国守護代を務めた国人本折氏の居城と伝聞される本折城(本折城跡・197)が知られるが、城跡自体は既に削平されており、詳細は不明である。この本折城跡に近接する遺跡として多太神社境内遺跡(196)、幸町遺跡(195)がある。本折城跡との関連性は明確でないが、多太神社境内遺跡からは埋納銭出土の報告があり、幸町遺跡からは多くの井戸跡および大量の鍛冶関連遺構、遺物が出土している。

小松城(小松城跡・193)は一向一揆の拠点として築城されたが、天正7(1579)年、織田信長から一揆平定の命を受けた越前北庄城主柴田勝家によって落城し、天正11(1583)年より村上頼勝が城主となった。その後、慶長3(1598)年には丹羽長重が松任城から移るが、慶長5(1600)年の浅井暲・関ヶ原合戦を経て、徳川家康によって改易されるに至る。以後は加賀藩主前田家の領有となり、一国一城令において、一時廃城されたと考えられるが、寛永16(1639)年に加賀藩三代藩主前田利常が家督を長子に譲り、小松城に隠居することを幕府に申し出、許可を受ける。翌寛永17(1640)年、利常は小松城に入城し、万治元(1658)年の死去まで在城した。この利常入城には多くの家臣も随行、移住しており、それに伴い小松城下の整備が進められた。本報告の大川遺跡は、その城下町

として整備された町屋の一部である。全国でも珍しい浮城としてその風情をたえた小松城であったが、慶応元(1865)年には藩の財政事情の逼迫により廃城準備が進められた。折しも三の丸に置かれた小松憲役場服役者の労役として土地改良が課せられたことで、堀は埋め立てられ、城郭のほとんどが取り壊されてしまった。現在、往時を顧みられる遺構として本丸櫓台石垣(昭和38年市指定文化財)と本丸堀石垣(西側の一部のみ)が、残存している。

#### 引用・参考文献

- 浅香山木・田川捷一他 1981 『角川日本地名大辞典』17 石川県 株式会社角川書店  
 石川県教育委員会 1992 『石川県遺跡地図』  
 新修小松市史編集委員会 1999 『新修小松市史資料編 1 小松城跡』 石川県小松市  
 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2004 『小松市幸町遺跡』  
 小松市教育委員会 2005 『幸町遺跡Ⅰ』  
 小松市教育委員会 2006 『幸町遺跡Ⅱ』  
 (財)石川県埋蔵文化財センター 2007 『小松市小松城跡』  
 小松市教育委員会 2011 『小松城跡発掘調査報告書』  
 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター 2012 『小松市千代・能美遺跡』

第1表 遺跡地名表

No	名	類	種別	時代	備考
1	備山水成良原		良原	縄文	
2	備山中段原		その他の原	中世	
3	備山神社遺跡		敷布地	不詳	
4	備山城跡		城跡跡	中世	
5	一白A遺跡		敷布地	古墳～古代	
6	備山貝塚		貝塚・集落跡	縄文	加賀市指定史跡
7	備山水成遺跡		良原	古代	
8	備山山村遺跡(A地点)		集落跡	弥生	備山山村遺跡A地点に所在する良原
8	備山山村遺跡(B地点)		集落跡	弥生	
9	山の土遺跡		敷布地	古代～中世	備山貝塚に隣接する地点
10	飯茶野原		野原	縄文	
11	日本野原		野原	不詳	
12	合河遺跡		敷布地	不詳	
13	動機遺跡		敷布地	古代(平安)	
14	御機遺跡		集落跡	縄文	
15	都もどり地蔵遺跡		敷布地	弥生～中世	
16	動機塚跡		塚跡跡	古代(平安)	
17	備川衛生センター遺跡		敷布地	古代	
18	備川遺跡		敷布地	古代	
19	分枝A遺跡		敷布地	古代(平安)	
20	分枝B遺跡		敷布地	古代(平安)	
21	分枝山王古墳群		古墳	古墳	円墳2
22	分枝カツ山古墳群		古墳	古墳	前方後円墳3、円墳10、方墳6
23	分枝高山古墳		古墳	古墳	前方後円墳
24	行徳A遺跡		敷布地	縄文	
25	行徳B遺跡		敷布地	弥生	
26	行徳遺跡		城跡跡	中世(聖土橋山)	
27	備豆町西遺跡		集落跡	弥生～中世	
28	備山山A遺跡		敷布地	不詳	
28	備山山B遺跡		敷布地	縄文	
29	備山山神社遺跡		その他の(祭祀)	古代(奈良)	
30	月津オオ遺跡		敷布地	古墳・中世	
31	月津A遺跡		敷布地	古代(奈良)	
32	備豆町遺跡		敷布地	縄文	
32	備豆町遺跡		集落跡	古墳～中世	
33	備豆神社前A遺跡		敷布地	古墳	備豆町遺跡の一部
34	備豆神社前B遺跡		敷布地	縄文	備豆町遺跡の一部
35	幸町遺跡		敷布地	縄文・不詳	
36	矢田新遺跡		敷布地	縄文・古代	
37	念仏林遺跡		集落跡	縄文	
38	念仏林南遺跡		集落跡	弥生～古墳	
39	矢田新遺跡		集落跡	古代(奈良)	
40	刀狩塚遺跡		敷布地	縄文	
40	刀狩塚遺跡		集落跡	古代～中世	
41	矢田A遺跡		敷布地	縄文	
42	矢田B遺跡		敷布地	古墳	矢田野遺跡の一部
43	矢田野遺跡		集落跡	古墳～古代	

No	名 称	種 別	時 代	備 考
44	白のほぎ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
45	五門殿古墳	古墳	古墳	円墳
46	藤石山古墳	古墳	古墳	円墳、2段築成
47	興宗寺古墳	古墳	古墳	円墳
48	念仏塚古墳	古墳	古墳	円墳
49	念仏林古墳	古墳	古墳	円墳、木立跡土室
50	丸山古墳	古墳	古墳	円墳、切石構築式石室、象形石棺
51	龍崎岡古墳	古墳	古墳	円墳、文様方板円墳
52	矢田原神社古墳群	古墳	古墳	円墳14、前方後円墳3、中冨1、木立跡土室
53	百人塚古墳	古墳	古墳	円墳
54	矢田野古墳群	古墳	古墳	円墳3、前方後円墳1
55	矢田野エダリ古墳	古墳	古墳	前方後円墳
56	新藤塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳
57	苜蓿山古墳	古墳	古墳	円墳、切石構築式石室
58	中村古墳	古墳	古墳	円墳、切石構築式石室
59	矢田野神社古墳群	古墳	古墳	円墳、切石構築式石室
60	下藤井 A 横穴墓	横穴墓	不詳	横穴7～8
61	島村塚	横穴墓	不詳	
62	下藤井 B 横穴墓	横穴墓	不詳	横穴2
63	島遺跡	横穴墓	弥生～中世	
64	島 B 遺跡	横穴墓	古代	
65	島 C 遺跡	横穴墓	古墳	方溝?
66	苜蓿 A 遺跡	横穴墓	縄文	
67	苜蓿 B 遺跡	横穴墓	縄文	
68	苜蓿 C 遺跡	横穴墓	古墳	
69	矢野宮の下遺跡	横穴墓	縄文～中世	
70	島前遺跡	横穴墓	古墳～古代	
71	車かンヤマ A 遺跡	横穴墓	古代(奈良)	
72	車かンヤマ B 遺跡	横穴墓	古墳	
73	車かンヤマ C 遺跡	横穴墓	古墳	
74	今江向ノ山遺跡	横穴墓	弥生	
75	長山遺跡	横穴墓	古墳	
76	土百遺跡	横穴墓	縄文	
77	今江五丁目遺跡	横穴墓	縄文・古墳	
78	五郎宮貝塚	貝塚	縄文	
79	丸山古墳	古墳	古墳	
80	長山古墳	古墳	古墳	
81	土百古墳	古墳	古墳	
82	藤中塚古墳	古墳	古墳	前方後円墳、小形市指定史跡
83	今江横穴群	横穴墓	不詳	横穴4
84	藤中塚遺跡	横穴墓	中世	土葬土葬輪の一部
85	車古遺跡	生産遺跡	中世末	製鉄
86	紅土古遺跡	生産遺跡	縄文前期	縄瓦窯
87	大塚遺跡	生産遺跡	古代	横穴
88	浅井横穴群	生産遺跡	中世末	横穴指定史跡
89	林越峠寺跡	生産遺跡	古墳	不詳
90	林遺跡 (林タカヤマ古墳群跡)	生産遺跡	古墳	須倉跡3、南加賀古墳跡北群
90	林遺跡 (林オオカミダニ古墳群跡)	生産遺跡	古墳	須倉跡2、土葬跡1、南加賀古墳跡北群
90	林遺跡 (林御前古墳群跡)	生産遺跡	古代	製鉄跡2、製鉄区4、掘り出し2、銅区跡2
91	戸津 1～12 号製鉄跡	生産遺跡	古代(平安)	須倉跡2、南加賀古墳跡北群
91	戸津 13号製鉄跡	生産遺跡	古代(平安)	製鉄跡4、製鉄区5
92	戸津古墳群跡	生産遺跡	古代、中世(鎌倉)	須倉跡36(瓦陶器群 15)、土葬跡19、製鉄区2、加賀区1、南加賀古墳跡北群
93	戸津六ツヶ丘古墳群跡	生産遺跡	古墳	須倉跡7、製鉄区1、南加賀古墳跡北群
94	戸津 1号製鉄跡	生産遺跡	古代(平安)	製鉄区
94	戸津クラダニ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡1、製鉄区1
95	戸津クラダニ2遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須倉跡群1、製鉄跡1、南加賀古墳跡北群
96	戸津アサキヤマ古墳跡	生産遺跡	不詳	製鉄区
97	戸津オオタニ遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	須倉跡2、製鉄跡1、南加賀古墳跡北群
98	ニツ 1～11 号古墳群跡	生産遺跡	古代	須倉跡12、土葬跡12、製鉄跡1、製鉄区2、南加賀古墳跡北群
99	ニツ 12号古墳群跡	生産遺跡	古墳～古代	須倉跡4
100	ニツ 13号古墳群跡	生産遺跡	古墳～古代	須倉跡18(縄文群2、瓦陶器群2)、南加賀古墳跡北群
101	ニツ 14号古墳群跡	生産遺跡	古墳～古代(平安)	須倉跡(須賀原群)3、土葬区3、南加賀古墳跡北群
102	ニツ 15号古墳群跡	生産遺跡	古代	土葬跡14、須倉跡、南加賀古墳跡北群
103	ニツ 16号古墳群跡	生産遺跡	古墳	須倉跡3、南加賀古墳跡北群
104	ニツ 17号古墳群跡	生産遺跡	古墳	須倉跡8、南加賀古墳跡北群
105	ニツ 18号古墳群跡	生産遺跡	古墳	須倉跡5、南加賀古墳跡北群
106	ニツ 19号古墳群跡	生産遺跡	古代(奈良)	須倉跡群1、製鉄区1、製鉄区1、南加賀古墳跡北群
107	ニツ 20号古墳群跡	生産遺跡	古代(奈良)	須倉跡群1、製鉄区1、南加賀古墳跡北群
108	ニツ 21号古墳群跡	生産遺跡	古代(平安末)	須倉跡群2、加賀区1、南加賀古墳跡北群
109	ニツ 22号古墳群跡	生産遺跡	不詳	製鉄区2
110	ニツ 23号古墳群跡	生産遺跡	古代	須倉跡6(瓦陶器群 1)、南加賀古墳跡北群
111	ニツ 24号古墳群跡	生産遺跡	不詳	須倉跡2、南加賀古墳跡北群
112	矢田野丸山古墳群跡	生産遺跡	古代(奈良)	須倉跡6、南加賀古墳跡北群
113	矢田野長尾山遺跡	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須倉跡群4、加賀区2、製鉄区3、南加賀古墳跡北群
114	新宮ウツギヤ古墳群跡	生産遺跡	古代(奈良)・中世(鎌倉)	須倉跡群5、加賀区2、南加賀古墳跡北群
115	新宮 B 遺跡	横穴墓	中世	
116	新宮 B 遺跡	横穴墓	中世	
117	小天玉 1～2号製鉄跡	生産遺跡	古代(鎌倉)	加賀区2
118	小天玉 1号製鉄跡 (天山11号製鉄跡)	生産遺跡	不詳	製鉄跡
119	小天玉 2～3号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄区2
120	大久保 1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄区2
121	大久保 1号製鉄跡	生産遺跡	不詳	
122	新宮 1号製鉄跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀区

No.	名 称	種 別	時 代	備 考
123	矢田野カクゾノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 3
124	矢田野1～2号焼穴	焼穴遺	不詳	
125	那谷1～5号焼穴	焼穴遺	不詳	
126	那谷6号焼穴	焼穴遺	不詳	
127	那谷中山台製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 3
128	上瓦屋ホムイザン製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 2
129	上瓦屋ジョモンゴニ製鉄跡	生産遺跡	古代(平安)	須原跡群 4、製鉄 3、南加賀古銅跡北部
130	上瓦屋サマイザン製鉄跡	生産遺跡	古代(平安)	須原跡群 4～5、製鉄 2、焼穴 1、地下式灰 1、南加賀古銅跡北部
131	上瓦屋サマイザンニヤマガ製鉄跡	生産遺跡	古墳～古代(奈良)	須原跡群 4、南加賀古銅跡北部
132	上瓦屋キダシノ古銅跡	生産遺跡	古代(奈良)	須原跡群 2、南加賀古銅跡北部
133	上瓦屋トビダノ古銅跡	生産遺跡	古代(奈良)～中世(鎌倉)	須原跡群 1、加賀 1、製鉄跡 1、南加賀古銅跡北部
134	上瓦屋オシヤマ古銅跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀 4、製鉄跡 1
135	戸津1～2号製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 2
136	戸津本遺跡群	社寺跡	中世(室町)	
137	戸津ノ藤原社跡群	社寺跡	古代～中世	
138	上瓦屋那谷川遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 1
139	高尾ニホヤマ遺跡	生産遺跡	古代(平安)	須原跡群 1、製鉄跡 1、南加賀古銅跡北部
140	高尾タニヤマ遺跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 1
141	上瓦屋ホウジョウヤマ遺跡	生産遺跡、社寺跡、墳墓	古代(平安)～中世	須原跡群 5、製鉄跡 2、墳墓、南加賀古銅跡北部
142	上瓦屋ハカクニ古銅跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀 2
143	黒上谷古銅跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	加賀 10、製鉄跡 2
144	西原ツルギノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 1
145	西原ムカイヤマカクゾノ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
146	物口キドラ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄 2
147	物口中沢遺跡	墳墓	中世(鎌倉)	穴塚塚北地
148	白山田フヤマ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡複数
149	川口神止製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
150	川口コンドウ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄
151	川口遺跡	敷布地	不詳	
152	林八幡神社屋敷	屋敷	中世(鎌倉)	
153	津波赤ホツジ遺跡	焼穴遺	中世(室町末)	地下式灰 6、2基調査
154	大谷山遺跡	瓦葺	縄文	
155	小山田コゴダニ遺跡	敷布地	不詳	藍押敷布地
156	小山田ヌキト平製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 2
157	小山田オウサダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 2
158	津波赤ホウマイダニ製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 1、製成炭敷
159	本場古遺跡	古墳	古墳	円墳 4
160	本場古墳	古墳	古墳	墳元で南田城跡とされる
161	北田城跡	城跡	不詳	
162	本場城跡遺跡	敷布地	縄文	
163	本場 A 遺跡(本場遺跡目地区)	生産遺跡	古代(奈良)	製鉄跡 1、製鉄跡 2
164	本場 B 遺跡	敷布地	古代(平安)～中世	
165	本場 C 遺跡	敷布地	弥生	
166	本場遺跡 A 地区(1号遺跡)	生産遺跡	古代(平安)	製鉄跡 3、藍押敷布地
167	本場遺跡 B 地区(2号遺跡)	生産遺跡	古代(平安)	製鉄跡 2、製鉄跡 2
168	本場遺跡 C 地区(3号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
169	本場遺跡 D 地区(4号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄跡 1、製鉄跡 1
170	本場遺跡 E 地区(5号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
171	本場遺跡 F 地区(6号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄
172	本場遺跡 G 地区(7号遺跡)	生産遺跡	不詳	製鉄跡 1
173	本場遺跡 D 地区(8号遺跡)	焼穴遺	不詳	焼穴 1
174	大曲遺跡	敷布地	不詳	藍押敷布地
175	長谷原池原の山遺跡	敷布地	不詳	藍押敷布地
176	三谷遺跡	敷布地	縄文	
177	三谷 B 遺跡	敷布地	弥生～古墳	
178	三谷 C 谷谷遺跡	不詳	不詳	塚石又は塚
179	三谷大谷遺跡	敷布地	古代～中世	
180	三谷大谷製鉄跡	生産遺跡	不詳	製鉄跡 1、藍押敷布地
181	鎌台寺城跡	城跡	不詳	小規模な城跡か
182	鎌代寺ムコシヤマ製鉄跡	生産遺跡	中世(鎌倉)	製鉄跡 1
183	鎌代寺ガッシュウタニ遺跡	生産遺跡	古墳	製鉄跡 3、藍押敷布地
184	鎌代寺 A 遺跡	敷布地	不詳	藍押敷布地
185	本江古銅跡	生産遺跡	近世	銅製
186	鎌代寺城跡	生産遺跡	近世末	縄長九段「鎌代寺城」
187	鎌代寺瓦葺跡	生産遺跡	近世前期	瓦葺瓦
188	鎌台寺跡	社寺跡	中世	西川氏菩提寺「鎌台寺」其地
189	安宅城跡	その他	不詳	奥府安宅跡
190	安宅住吉神社遺跡	敷布地	不詳	
191	安宅中世墓群	その他(墓)	中世(室町)	
192	安宅大塚古墳	古墳	不詳	塚石塚とも遺石の塚とも、塚跡せず
193	小松城跡	城跡	不詳	本丸・二ノ丸・三ノ丸の一基、本丸跡は小松市指定史跡
194-1	大川遺跡	河原跡	縄文	縄文小松城下町・粟野の河原跡
194-2	粟野遺跡	河原跡	近世	近世小松城下町・粟野の河原跡
195	中町遺跡	生産遺跡	中世(室町)	銅冶
196	多太郎神社内遺跡	敷布地	中世(室町)	埋納跡出土
197	本町遺跡	城跡	敷布地	本町氏菩提寺弘法地の一
198	八日市地方遺跡	敷布地	縄文、中世	
199	上小水遺跡	敷布地	古代(平安)	埋納遺跡
200	横田跡遺跡	敷布地	弥生	横田に分断された右岸野田遺地
201	横田跡遺跡 B	敷布地	弥生	横田に分断された右岸野田遺地
202	高田 A 遺跡	敷布地	古墳～古代	
203	高田 B 遺跡	敷布地	古墳	
204	柳原遺跡	城跡	中世(室町)	
205	陸原遺跡	敷布地	弥生～古代	
205	陸原遺跡	墳墓	中世	一向一揆・蜂川新七其墓群跡分庫地

No	名 称	種 別	時 代	備 考
206	群遺跡	散布地 集落跡	弥生～古代 中世	
207	松坂遺跡	散布地 集落跡	縄文～弥生・中世 古墳～古代	
208	長田遺跡	散布地	弥生～古墳	
209	長田南遺跡	散布地	弥生・古代(平安)	
210	大長野 A 遺跡	集落跡	中世(室町)	
211	大長野 B 遺跡	散布地	弥生～中世	
212	牛島宮の高遺跡	集落跡	古代(平安)	
213	千代子ジジ遺跡	集落跡	弥生～中世	
214	千島ウツシ遺跡	集落跡	縄文～中世	
215	平田川遺跡	集落跡	弥生	堀川に分割された左岸部遺地
216	平田川 B 遺跡	散布地	弥生	堀川に分割された右岸部遺地
217	白江川遺跡	集落跡	弥生・中世	
218	白江集跡	城郭跡	中世(室町)	白江新築集落跡附伝
219	白江遺跡	散布地	古墳～中世	鎌野遺跡の一部
220	鎌野遺跡	集落跡	弥生～中世	
221	一針遺跡	散布地	縄文	
222	一針 B 遺跡	集落跡	弥生～古墳	
223	一針 C 遺跡	集落跡	弥生～古墳	
224	定地遺跡	散布地	古墳(室町)	
225	千代・能久遺跡	集落跡	古墳～中世	
226	千代オキダ遺跡	散布地 集落跡	縄文～弥生 弥生～中世	
227	千代小野町遺跡	散布地	古墳	方墳 6
228	千代遺跡	城郭跡	中世(室町)	
229	千代村遺跡	散布地	古墳	
230	鶴地遺跡	散布地	縄文	
231	長々水遺跡	集落跡	古代	野尻宅跡(奈良)
232	長々水ノノウタ遺跡	集落跡	弥生～中世	
233	長々水アサヒタケ遺跡	集落跡	弥生～中世	
234	打屋遺跡	散布地	古代	
235	彩形遺跡	生産遺跡	近世末	
236	吉竹 A 遺跡	集落跡	弥生～中世	
237	吉竹 B 遺跡(吉竹遺跡 19 地区)	散布地	古墳	石河遺の隣跡
238	吉竹 C 遺跡	集落跡	弥生～中世	
239	千木野遺跡	散布地	縄文	
240	千木野 (A) 遺跡	古墳	古墳	方墳 8
241	千木野 (B) 遺跡	集落跡	古墳	
242	柳生 1 号墳	古墳	古墳	所在不詳、掘削するのは現代戦士の山
243	柳生 2 号墳	古墳	古墳	柳生跡穴式石室
244	柳生 3 号墳	古墳	古墳	築造跡
245	柳生 4 号墳	古墳	古墳	創建は加賀国府、関分寺周辺山科寺跡跡の一部
246	八幡遺跡	集落跡	弥生～古墳・古代(奈良)・中世(鎌倉)	
247	八幡古遺跡	その他の墓	古代(平安)	土坑墓
248	八幡村古遺跡	生産遺跡	近世末	行儀 8、木芝跡土室
249	常木遺跡	集落跡	古墳～中世	西興九谷「八幡古伝説」、八幡 6 号墳を削りして築いた遺跡穴式石室
250	常木西芳寺遺跡	集落跡	縄文～中世	
251	常木口遺跡	散布地	弥生	
252	常木寺遺跡	散布地	弥生～中世	
253	常木山遺跡	生産遺跡	古墳	玉作
254	常木寺北遺跡	その他の墓	中世(室町)	墓石 鎌倉
255	常木寺南遺跡	社寺跡	古代(平安)	大興寺伝承地
256	常木寺東遺跡	社寺跡	古代(平安)	西芳寺伝承地
257	常木寺西遺跡	社寺跡	古代(平安)	
258	常木寺北西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
259	常木寺南西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
260	常木寺南東遺跡	その他の墓	中世(室町)	
261	常木寺北東遺跡	その他の墓	中世(室町)	
262	常木寺南東西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
263	常木寺北東西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
264	常木寺南東西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
265	常木寺北東西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
266	常木寺南東西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
267	常木寺北東西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
268	常木寺南東西西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
269	常木寺北東西西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
270	常木寺南東西西西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
271	常木寺北東西西西西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
272	常木寺南東西西西西西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
273	常木寺北東西西西西西西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
274	常木寺南東西西西西西西西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
275	常木寺北東西西西西西西西西西西遺跡	その他の墓	中世(室町)	
276	河田山遺跡	散布地 集落跡	弥生 弥生	高地性集落、河田山 10～12 号墳が遺跡 土葬墓、河田山 1 号墳の西側に所在



No	名 称	種 別	時 代	備 考
277	阿田山古墳群 阿田磯穴	古墳 磯穴墓	古墳 不詳	前方後円墳2、前方後方墳2、円墳22、方墳34、不明1、木棺直葬、木芯粘土室、切石磯穴式石室 地下式穴、阿田山54号墳の南に開口
278	阿田山1号塚跡 阿田山古墳群	生産遺跡 生産遺跡	古代(奈良) 不詳	須恵器窯、埴轮古窯跡南群 八里・阿田山支群 北西斜面に所在
279	阿田B遺跡	聚布地	縄文・古代(奈良)	
280	阿田C遺跡	聚布地	不詳	
281	下八里中遺跡	磯穴墓	不詳	地下式穴6、磯穴1、不明1、3地点で計6基
282	六塚磯穴群	磯穴墓	不詳	磯穴2基
283	上八里磯穴群	磯穴墓	中世(室町)	磯穴11基
284	上八里中世墓群	その他の墓	中世(室町)	
285	上八里A遺跡	聚布地	縄文・古代(平安)	
286	上八里B遺跡	聚布地	古代(奈良)	
287	上八里C遺跡	磯穴墓	古墳	磯穴2基
288	上八里D遺跡	古墳	古代(奈良)	
289	上八里1号塚跡	生産遺跡	古代(奈良)	須恵器窯、埴轮古窯跡南群 八里・阿田山支群
290	上八里2号塚跡	生産遺跡	不詳	地下式穴群、埴轮古窯跡南群 八里・阿田山支群
291	谷内磯穴	不詳	不詳	
292	阿田跡遺跡	聚布地	縄文・中世	
293	下出地跡遺跡	聚布地	不詳	
294	佐野A遺跡	聚布地	弥生	
295	佐野B遺跡	聚布地	古墳	
296	佐野八反田遺跡	聚布地	古代	
297	佐野神社遺跡	聚布地	古代(平安)	
298	阿田山D遺跡	聚布地	縄文・古代(平安)	
299	阿田山古墳群	古墳	古墳	円墳7
300	八里内山A遺跡	聚布地 集積跡 古墳	縄文 弥生 古墳	
301	八里内山B遺跡	聚布地 社寺跡 古墳	弥生 古墳	高地性集落
302	八里内山C遺跡	集積跡 古墳	弥生 古墳	加賀国府・国分寺周辺山科寺群跡の一
303	八里内山D遺跡	集積跡 古墳	古墳	前方後方墳1、木棺直葬
304	八里内山E遺跡	集積跡 古墳	古墳	方墳2、木棺直葬
305	八里内山F遺跡	集積跡 古墳	古墳	方墳1
306	八里内山G遺跡	その他の墓・磯穴墓	中世(室町)	円墳10、木棺直葬 集石墓1、磯穴3
307	八里内山H遺跡	聚布地	弥生～古代(平安)	
308	八里内山I遺跡	生産遺跡	古代(奈良)	集石跡群、06集積舎
309	八里内山J遺跡	生産遺跡	古墳	須恵器窯、埴轮古窯跡南群 八里・谷内支群
310	栗川A遺跡	生産遺跡	不詳	須恵器窯、埴轮古窯跡南群 八里・谷内支群
311	栗川B遺跡	生産遺跡	不詳	製瓦窯2、製瓦片約20
312	栗川C遺跡	生産遺跡	不詳	製瓦窯
313	栗川D遺跡	聚布地	縄文	
314	栗川E遺跡	社寺跡	古代(平安)	加賀国府・国分寺周辺山科寺群跡の一
315	栗川F遺跡	社寺跡	古代(平安)	加賀国府・国分寺周辺山科寺群跡の一
316	栗川G遺跡	聚布地	不詳	
317	遺泉寺・タボタA遺跡	聚布地	古代(平安)～中世	
318	遺泉寺・タボタB遺跡	聚布地	古代(平安)～中世	社寺(護国寺)又は城跡伝承地
319	立明寺古墳群	生産遺跡	古代(平安)	須恵器窯(瓦高瀬窯) 古代集積の可能性も
320	立明寺遺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八反、数数ある伝承地の一
321	岩の奥跡遺跡	その他の墓	(平安)	墳墓4、3基調査、2号墓は鎌倉時代に破壊に利用された?
322	須泉寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八反、数数ある伝承地の一
323	常盤寺跡	社寺跡	中世(室町)	一尚一徹・宇田重徳の伝七跡とも
324	藤川跡	城跡跡	不詳	一尚一徹・宇田重徳の伝七伝承地
325	藤川磯穴	不詳	不詳	地下式穴?
326	仏大寺弘法寺跡	社寺跡	中世	
327	仏大寺とうの南古墳	古墳	古墳	
328	仏生寺跡	社寺跡	中世	
329	仏生寺塚	経塚	中世	
330	ブッシュワジヤ古墳群	古墳	古墳	円墳2、木芯粘土室
331	中宮B遺跡	集積跡	古墳～中世	
332	(伝)長生寺跡	社寺跡	古代(平安)	中宮八反、地名伝承のみ
333	中宮C遺跡	聚布地	古代(平安)～中世	
334	中宮遺跡・岩保遺跡	聚布地	縄文	
335	岩保上野遺跡	聚布地	石石跡	
336	赤野石口遺跡	聚布地	縄文	
337	赤野石口磯穴群	不詳	不詳	存在自体が不明、5基に1とされる
338	赤野石口ノ半谷磯穴群	磯穴墓	不詳	磯穴9、地下式穴4
339	赤野磯穴	社寺跡	古代(平安)	中宮八反
340	赤野磯穴	城跡跡	中世	
341	仏影跡・藤原・弘藤前墓	その他の墓	古代(平安)	小松市指定史跡
342	長江遺跡	聚布地	縄文	
343	東江中世墓群	その他の墓	中世	
344	下長江磯穴群	磯穴墓	不詳	磯穴3

№	名 称	種 別	時 代	備 考
343	行森神社	城跡跡	中世(室町)	
346	櫻の木山遺跡	散石地	縄文	
347	昌隆寺跡	社寺跡	不詳	中世八代
348	護国寺跡	社寺跡	古代(平安)	中世八代
349	松竹庵寺	社寺跡	古代(奈良)	8世紀前半に遷る古山神社院
350	平野神社	城跡跡	中世(室町)	中世八代
351	江崎神社(山神山御所)	城跡跡	中世(室町)	一宮一殿・平野某跡伝承地
352	藤尾寺跡	社寺跡	不詳	中世八代
353	成長寺跡	散石地	中世(室町)	
354	成長寺跡 (伝) 藤尾寺松竹庵跡	城跡跡	中世(室町)	一宮一殿・宇津呂丹波守伝承地
355	渡辺寺跡六郎	礎石基	不詳	礎穴13、地下式目5
356	八幡遺跡	散石地	縄文	
357	森山寺遺跡	散石地	縄文	
358	松竹寺跡	社寺跡	中世(室町)	
359	火打山遺六郎	礎石基	不詳	礎穴3
360	こたい寺礎穴	礎石基	不詳	礎穴1
361	ア山礎穴	礎石基	不詳	礎穴1
362	地城跡等	経塚	中世(室町)	
363	登山礎穴	礎石基	不詳	礎穴1
364	牛嶋遺跡	散石地	縄文	
365	寺ノ原遺跡	散石地	縄文	ほかに寺院跡の伝承あり
366	観音下城跡	城跡跡	不詳	
367	和泉池山谷奥遺跡	生産遺跡	古代(平安)	土師器焼成坑。能美古蹟跡南群 鳩山谷支群
368	和泉池山谷2号遺跡	生産遺跡	古代(奈良末~平安)	土師器焼成坑。能美古蹟跡南群 鳩山谷支群
369	和泉下城瓦古蹟跡	生産遺跡	古代(平安)	能美古蹟跡南群
370	和泉近所瓦古蹟跡	生産遺跡	古墳	
371	和泉文ノ原遺跡	散石地	縄文	
372	和泉公文原遺跡	城跡跡	不詳	
373	和泉中和瓦古蹟跡	生産遺跡	不詳	能美古蹟跡南群 鳩山谷支群
374	徳守城跡	城跡跡	中世	
375	徳守城山礎穴遺	礎石基	不詳	
376	寺山古蹟跡	生産遺跡	不詳	能美古蹟跡南群
377	寺山新所瓦古蹟跡	古墳	古墳	
378	熊井社跡	社寺跡	不詳	
379	熊井中世瓦遺	その他の遺	中世	
380	熊井礎穴	礎石基	不詳	
381	熊井寺跡	城跡跡	不詳	

### 第3節 調査に至る経緯等

#### 1. 調査に至る経緯

大川遺跡の調査は、石川県が行う「都市計画道路根上小松線路工事」を原因として実施したものである。石川県施行の街路事業としては、昭和10年に架設されてから老朽著しい小松大橋の架替工事を平成10年度より着手していたが、この架替に伴い橋梁前後の取付道路が最大3m近く嵩上げとなることから、県では地元である大川町（大川やわらぎ街道まちづくり協議会）と連携を図りながら、嵩上補償とともに景観に配慮した「まちづくり」を進めてきた。この内、嵩上げ補償については、平成16年度に地元説明の後、まず小松大橋の東側について補償を開始し、嵩上げ・造成工事、住宅新築・引越等が進められ、平成20年度に完了した。本調査区に該当する大橋の西側については、平成20年度より地元交渉に着手し、概算補償費の提示および土地再編作業を行った。平成21年度は、一部補償契約を締結し、平成22年4月末までの取り壊し完了に向け、交渉・調整を進めてきた。

埋蔵文化財調査については、当初この工事範囲における埋蔵文化財は石川県遺跡地図にも記載されておらず、工事に伴う調査は不要との考えであった。しかし先行して着手した東側において平成17年度に実施された試掘調査によって、周知の埋蔵文化財包蔵地である大川遺跡が確認されたことにより、(財)石川県埋蔵文化財センターによる同遺跡の発掘調査が行われ、北国街道沿いの江戸時代の町屋跡が確認された。この調査結果によって、西側においても遺跡の存在する可能性が高まり、調査の必要性が検討されることとなった。本来は、東側と同様に県において埋蔵文化財調査を実施すべきところであったが、当時は北陸新幹線工事に伴う大規模な調査を抱えている中であり、調査の遅れは事業協力者である地元大川町への多大な負担となることは明らかであった。そこで平成21年10月、石川県教育委員会事務局文化財課（以下、県文化財課）より当時の小松市教育委員会埋蔵文化財調査室へ調査依頼の打診があり、以後継続して協議を行うこととなった。埋蔵文化財調査室としては、翌年度に埋蔵文化財センター開館を控えた諸準備の最中であったが、調査に対応できる人員や予算措

置等の調整を図りながら、最終的に県からの受託事業として小松市が発掘調査を実施することで了承し、平成22年度より大川遺跡発掘調査事業として、工事区域全域約6,400㎡のうち、工事によって影響が及ぶ範囲を対象とする発掘調査・記録保存を実施することが決定された。また工事範囲における大川遺跡の有無・状況を確認するための試掘調査は、現状の既存家屋が立ち並ぶ状況下では困難なため、翌年の平成22年から、その取り壊しの作業と並行する形で、段階を追って実施された。

平成22年2月18日、県文化財課により工事範囲の一部狭小地を対象としたものであったが、初めての試掘調査が行われた。その結果、埋蔵文化財が確認されたため、この時点で工事範囲には大川遺跡が存在することが、明らかとなった。

平成22年4月27日、県文化財課により工事範囲の全域を対象に試掘調査が実施された。その結果、埋蔵文化財の存在が確認されたが、同時にこの時点では、工事範囲に含まれる市道（大川町二丁目線）から北側および工事範囲の南側の一部の区域においてはまだ既存家屋の基礎が残存していたこともあり、調査未了範囲や埋蔵文化財が確認されなかった範囲も存在するなど、発掘調査対象範囲を確定するためには、なお継続した調査および協議を行う必要があった。

平成22年5月14日、石川県土木部南加賀土木総合事務所（以下、県土木事務所）・県文化財課・埋蔵文化財センターの三者にて協議。先の試掘調査結果を踏まえ、調査に係る懸案事項として、①調査面積・調査方法、②既存家屋基礎撤去・表土除去・残土処理・現場養生・現場事務所・駐車場用地の確保について、④工事範囲に含まれる市道の取り扱い、⑤受託契約方法について協議を行った。その後、工事範囲に残る基礎の撤去作業が進んだことにより、平成22年6月14日、県文化財課による追加の試掘調査が実施され、埋蔵文化財の存在範囲がより明確なものとなった。この試掘調査結果を基に、平成22年度当初は工事範囲全域のうち北側約半分の区域約2,500㎡をA区として調査に着手する計画となった。また調査に伴う具体的な事務は、次のような手続きを経た。

平成22年6月16日付けで、県文化財課より小松市教育委員会（担当：埋蔵文化財センター）に対し、埋蔵文化財の発掘調査等についての依頼が提出された。また同日付けにて、小松市教育委員会は発掘調査を実施するため、文化財保護法に基づく発掘調査報告を石川県教育委員会へ提出した。

平成22年6月17日付けで、県土木事務所より小松市教育委員会に対し、埋蔵文化財の発掘調査について依頼が提出された。それを受け、小松市教育委員会より県土木事務所に対し、埋蔵文化財発掘調査の実施について回答し、事業計画書を提出した。

平成22年6月21日付けで、石川県知事と小松市長との間で発掘調査委託契約を締結した。

平成22年6月22日付けで、小松市長より石川県知事に対し、作業日程表及び資金使用計画書を提出した。

その後、平成22年7月よりA区の現地調査準備に入ることとなった。

また平成22年9月には、県文化財課より小松市教育委員会に対し、工事範囲のうちA区以外の残りの箇所についての埋蔵文化財の発掘調査等について、調査範囲の正確な情報を基としながら調査範囲を追加（3,360㎡＝B・C区）して依頼があったため、同日付けで依頼を受け入れる旨の回答を行う。また県土木事務所からも調査範囲を追加しての依頼があり、これについても同日付けで回答を行った。これらの具体的な事務は、次のような手続きを経た。

平成22年9月3日付けで、石川県教育委員会より小松市教育委員会に対し、埋蔵文化財の発掘調査等について、調査範囲を追加して依頼が提出された。それを受け、小松市教育委員会より石川県教育委員会に対し、埋蔵文化財の発掘調査等について調査範囲の追加を受け入れることとし、その旨を回答した。また県土木事務所からも小松市教育委員会に対し、埋蔵文化財の発掘調査等について調査範囲を追加して依頼が提出された。これについても、小松市教育委員会より県土木事務所に対し、調査範囲を追加して依頼のあった埋蔵文化財発掘調査の実施について回答し、事業計画書を提出した。

平成22年9月27日付けで、調査範囲の追加に伴い、発掘調査委託契約の一部変更について小松市教育委員会より県土木事務所に対し、委託契約の内容変更について協議を行った。

平成22年10月1日付けで、石川県知事と小松市長との間で発掘調査委託変更契約を締結した。



第4図 大川遺跡発掘調査地 位置図

S=1:2500



第5図 大川遺跡発掘調査区域図

S=1:1000

平成22年12月3日にはA区調査の見通し等について、県文化財課・県土木事務所・埋蔵文化財センターの三者にて協議。A区の現地調査が終了した直後の平成23年1月21日には、先の三者に加え、工事施工業者を交えた四者間での会議を開催。今後の埋文調査の進行や、それに伴う事務処理について協議を行った。

工事範囲全域のうち南側半分・西側区域にあたるB区調査への準備作業の最中であった平成23年2月15日には、県文化財課より埋蔵文化財分布調査に結果について通知があり、調査区南側の、B・C区にまたがる一部の強固な地盤改良が施されている箇所について、埋蔵文化財の確認がなされなかったとの調査結果が得られた。そのことを受け平成23年2月21日、石川県教育委員会より小松市教育委員会に対し、埋蔵文化財発掘調査の計画変更について依頼があり、B・C区の調査面積が、当初の規模である3,360㎡から分布調査により発掘調査対象外となった260㎡を差し引いて3,100㎡となった。これにより、工事範囲内における最終的な発掘調査対象面積はA区の面積2,500㎡を含め、計5,600㎡と確定した。

平成23年2月22日には、小松市教育委員会より石川県教育委員会に対し、埋蔵文化財発掘調査の計画変更について回答した。

平成23年3月、当初の調査終了予定時期を年度末日としていたが、遺構密度が想定以上に高かったことなどにより不測の日数を要したため、平成23年3月16日付けで小松市長より石川県知事に対し、発掘調査委託の期限を平成23年12月22日までとする、履行期限延長願を提出した。またこのことに伴い、発掘調査委託契約の一部変更について小松市教育委員会より県土木事務所に対し、委託契約の内容変更について協議を行った。平成23年3月31日付けで石川県知事と小松市長との間で発掘調査委託変更契約を締結し、同日小松市長より石川県知事に対し、A区全作業完了及びB区の遺構掘削作業まで完了分の委託事業執行結果報告書を提出した。

平成23年4月末より最後の調査区であるC区の調査準備に着手し、平成23年6月24日にC区の現地調査が終了。これをもって工事範囲全域の発掘調査が全て完了し、発掘調査委託延長期限となる平成23年12月22日付けで、B・C区全作業完了分の委託事業執行結果報告書を提出した。

この発掘調査で得られた多くの出土品については、遺失物法第4条第1項の規定に基づき、平成23年6月29日付けで埋蔵物発見届を小松警察署宛てに提出した。

## 2. 現地調査の概要

〔平成22年度調査〕

調査期間及び対象面積：(A区) 平成22年8月24日～平成23年1月20日 2,500㎡

(B区) 平成23年2月3日～平成23年3月30日 1,800㎡

(A区)

- 7月6日～7月20日 表土除去、市道取り壊し
- 7月20日～8月13日 グリッド測量業務委託（1回目）
- 8月10日～8月11日 現地事務所等設置
- 8月20日 ベルトコンベア納品
- 8月24日 作業員を投入し、掘削作業を開始
- 12月5日 大川やわらぎ街道まちづくり協議会及び関係者への現地説明会を開催
- 1月19日 ラジコンヘリによる空中写真測量（1回目）
- 1月20日 現地調査終了

(B区)

- 2月3日～2月11日 表土除去
- 2月9日～2月25日 グリッド測量業務委託（2回目）
- 2月21日 作業員を投入し、掘削作業を開始

3月30日 平成22年度の現地調査終了

〔平成23年度調査〕

調査期間及び対象面積：(B区)平成23年4月4日～平成23年4月14日 1,800㎡

(C区)平成23年4月26日～平成23年6月24日 1,300㎡

(B区)

4月4日 作業員を投入し、作業を開始

4月13日 ラジコンヘリによる空中写真測量  
(2回目)

4月14日 現地調査終了

(C区)

4月26日 表土除去

5月2日 作業員を投入し、掘削作業を開始

5月9日～5月20日 グリッド測量業務委託  
(3回目)

6月18日 大川やわらぎ街道まちづくり協議  
会及び関係者への現地説明会・概要報告会を開催

6月21日 ラジコンヘリによる空中写真測量  
(3回目)

6月24日 現地調査終了



現地説明会

### 3. 整理作業の概要

平成22年度は直営によりA区遺物の洗浄・注記作業を実施した。また、平成24年度以降に予定していた出土品整理(A区包含層遺物・B・C区遺物の洗浄・注記・分類・接合作業)および木製品保存処理(大型で水浸け保存が不可能な井戸枠)業務を委託事業により先行して実施した。

平成23年度は洗浄・注記・分類・接合作業を実施した。実測遺物抽出作業は、主として木製遺物について行い、台帳作成及び一部実測作業も実施した。また、現場測量図についても分類・整理し、台帳作成を行った。

平成24年度は分類・接合・復元作業、実測遺物抽出及び実測作業を実施した。合わせて遺物台帳作成も行い、電子データ化を行った。また、現場実測図については、デジタルトレース作業を行った。また、高度な専門性が必要な業務(自然科学分析・木製品保存処理・遺物図化(陶磁器の一部))については、専門業者に委託して実施した。

平成25年度は実測遺物抽出作業、接合・復元作業、実測作業、実測図トレース作成作業、図面作成・報告書作成作業を実施した。また、高度な専門性が必要な業務(遺物図化(陶磁器の一部))については、専門業者に委託して実施した。

近世陶磁器整理作業において、原因者との協議・了解のもと、講師に佐々木達夫氏(金沢大学名誉教授)を招聘し、指導を受けた。

## 第2章 遺構

### 第1節 報告の方法について

今回、各遺構の報告を行うにあたり、近世～近代へ連続と続く遺跡であり、遺構種別ごとに網羅的に提示しても非常に煩雑となる。また、調査時に設定された調査区ごとでは、工事の工程により決定されたものであるため、遺跡の全体像が見えにくくなる。そこで、遺構から導きだされる区割りを想定し、提示することとした。

区割りは、遺構の性格や地境とみられる遺構及び、絵図などの資料を基に設定した。大きく「誓願寺地区」・「町屋地区」・「道路地区」・「泥川地区」に分けて報告する。なお、このような方法は、恣意的な報告になるきらいがあるが、前述の理由などにより今回はご寛容願いたい。なお、区割り等の位置関係については、第7図で確認頂きたい。

### 第2節 誓願寺地区

#### 1. 概要

当該地区は、SD06に区画された西側で道路地区より北の部分である。誓願寺は曹洞宗寺院であり、安永2年(1773)に創立され、安政2年(1855)に市内の向本折町に転出している。転出時に、部材は移築したとみられ、寺院関連の建物跡は確認できなかった。誓願寺より前の土地利用の状況を絵図により確認してみたい。承応元年(1652)絵図によると町屋で、寛文7年(1667)絵図によると侍屋敷となっている。今回の調査では、その変遷や様相差は判別できなかったが、町屋地区と比較すると重層関係は少なく、比較的長期に渡る土地利用であったことが想定される。誓願寺転出後は、共同の塵芥処理場として使用されたとみられる。

なお、当該地区の東端は、水が湧き出す近現代井戸とSX12により非常に複雑で、掘削困難な状況であった。上層面検出の大型土坑SK03と同じ確認面において確認された遺構に、SK18とSD11がある。

#### 2. 区画遺構

SA01は、東西に連なる杭列であり、一部で柱根が残存していた。西側は調査区外に延びているものと推察され、残存長で6.5mを測る。西側延長線上の近接した位置に、ほぼ平行するSD03があり、両者で敷地を東西に分けていた可能性がある。

#### 3. 井戸

明確に井戸と認識できたのは、SE01のみである。凝灰岩製の列り抜き円形井戸側が設置されていた。楕円形の掘方で径1.4mを測り、井戸側内径は0.6mである。

#### 4. 土坑

最も数多く検出された遺構である。長軸長で2m以下の小型(SK01・07・08・09・41・83など)、2m以上3m未満中型(SK02・04・53など)、3m以上5m未満の大型(SK10・30・42)、5m超の特大型(SK03・22)に分類可能である。その性格は判定し難いが、多くは塵芥処理のためのものと考えられ、特に大型になる程その傾向は強い。以下、特徴的なものを詳述する。SK01は、径1.05mの円形土坑であり、底面は平坦で深さ40cmと浅いものである。砂を敷いた上に大量の礫により埋め立てあり、塵芥処理坑ではない。おそらく、地盤沈下を防ぐ目的で

設置されたものであろう。SK04は、長辺2.1m、短辺1.6mを測る方形土坑である。錐鉢状を呈し、深さ0.4mである。下層に腐植層があり木片を含む塵芥処理土坑と考えられる。SK10は、長径3.5m、短径3mを測る大型土坑である。断面錐鉢状を呈し、最深部で深さ0.9mを測る。埋土の殆どが腐植土であり、木片も多く含んでいる。塵芥処理土坑と考えられ、常に水が溜まった不衛生な状況が想定される。SK23は、SK22に切られているため残存長で1.8mを測る。底面は比較的平坦であり、深さ0.6mを測る。地山が細砂であり、水脈に近いのか湧水が非常に激しかった。砂層と腐植土層が互層となる、特徴的な堆積で埋まっている。SK30は、短辺2.7mで長辺は3mを超えると思われる大型土坑である。深さは約0.25mとごく浅いが、全て腐植土層で埋まっており、木製遺物の出土が多い。SK41は、SK22・47よりも上位にあり、断面上の復元で長辺2mを越す。深さは約0.6mで、腐植土層の堆積が認められる。SK42は、短辺2.2mを測る中型土坑であり、深さは0.7mとやや深い。最下層に薄く腐植土層が堆積し、それより上位は平坦に整地されながら埋め立てられていた。SK03は、南北辺7.3m、東西辺8.3mを測る大型の方形土坑である。深さは0.5～0.7mであり、底面は平坦に造成されている。基本的には全て腐植土層で埋没しており、木製品を含む塵芥処理土坑と考えられる。腐植土層より上位については、この廃棄土坑を埋め立てる際の整地土及び、その後掘削された土坑の埋土と考えられる。北東部の一角より、凝灰岩の削り屑がまとまって出土しており、町屋に土工が存在した可能性も考えられる。SK22も、南北辺7.2m、東西辺8.8mを測る大型土坑であり、やや不整形ではあるがSK03同様方形と考えられる。堆積土層も腐植土であり、その後の造成・整地により埋め立てられている。よって、その機能も同様であると考えられる。特徴的な廃棄物として、北端付近に鉛滓の集中廃棄箇所が確認されている。町屋の中に鍛冶屋の存在が想定される。この特大土坑は、それぞれ想定町屋区画①及び④の背面すく近く形成されるという類似点が指摘できる。誓願寺転出後に、町屋の住人によって、共同利用を目的に掘削されたのではないだろうか。

## 5. 溝

区画及び排水の機能を持つと考えられ、SD02～06・09・11・21などがある。その多くは比較的長さが短く、何らかの区画に伴うものと推察される。町屋との境でもあるSD06は、当地区の報告に含まれる。以下、特徴的なものを詳述する。SD02は、幅1.5m、深さ概ね0.5mを測る南北溝である。箱型で、壁面は直立に近い。北側は調査区外に延びるとみられる。新しい段階の遺構であり、下層に腐植土層の堆積が認められる。SD03は、直線的な東西溝であり、幅0.5～0.7mで、深さは0.2～0.3mと浅い。断面台形上で、底面レベルから西から東への傾斜が確認され、東側は調査区外へ延びる。下底に粘性の非常に強い粘土が溜まっていた。SD04は、幅は1.5mを測る東西溝で、深さは0.16mと浅い。しかし、比較整然とした長方形型を呈し、下層に腐植層が確認されることから、確認面より上位が生活面だった可能性がある。SD05は、幅概ね1m、深さ0.3～0.4mを測る断面半円状の溝である。2回程度の掘り直しが認められる。SD06は、前述のとおり町屋と侍屋敷ないし誓願寺跡の地境を示すと考えられる。東西溝と南北溝が直角に連続しており、北端は調査区外に延びる。ただし、攪乱も多く、遺構の把握が非常に困難であった。よって、最終的に幅1.0～1.5m、深さ0.7m程度に復元されたものである。やや底部の平坦な部分も存在するが、溝の中で唯一、V字の葉研堀である。掘りなおされた箇所も再び葉研堀となっており、境界性が強く意識されたものと推察される。底面レベルは、北西隅をピークに東側と南側の両側に下がる傾向がある。よって、排水の面から考えると、おそらく南方のSD09とは連続しており、道路の北側溝に連結していたものと予想する。SX12に伴う整地段階では、埋没していた可能性が高い。

## 6. 整地・造成痕跡

SXと表記した遺構は、土層が複雑に入り乱れており、その性格を判断し難いものである。おそらく整地土や造成土の痕跡ではないかと考えられる。掘削段階で、土坑と判断できるものは土坑として



報告するが、分離しきれないものはSXのままで報告せざるを得なかった。SX04は、SD06北西隅部付近の落ち込んだ部分を埋めた整地痕跡と考えられる。埋め立てには、粘性の低い土砂が使用されている。SX12は整地に伴う造成痕跡と、下位土坑が複雑に交錯した遺構といえる。まず北側は、SK40が埋まり、SX12cが掘削される。12cは土坑とみられ、下層で腐植土と粘土の互層が確認された。湿気対策のためか、粘土系の土で埋められ、最終的にSX12aの落ち込みを含めて粘性の低い土砂で整地されている。南側は、SK03側のSX12bの落ち込みは粘土で埋められている。SX12dⅡは土坑と考えられ、下から腐植土、粘土、砂、腐植土の順に堆積が確認できる砂層段階でSX12dⅠにも落ち込みがあったようで、同様に粘土、腐植土の順で薄い堆積が確認できる。それらも北側と同質の土砂及び順序で整地されている。

### 第3節 町屋地区

#### 1. 地区の概要と細分について

町屋地区は、誓願寺地区及び泥川地区東側が該当する。膨大な遺構が重層的に重なっており、各遺構を番号順に報告することは、煩雑であり位置が把握し辛い。よって、ここでも地境遺構を手掛かりに町屋地区内を細分した区割りで提示する。区割りには、船舶がある可能性があるが、現時点のものとして提示したい。

町屋地区といっても、重層的な遺構の重なりや改変により、建物跡は全く把握することができなかった。また、北国街道に面した正面部分は調査区外であり、町屋の奥側を中心に調査したものと判断され、多くの土坑や井戸、溝などで構成される。なお東西道路（道路地区）が通っており、町屋地区を横切っている。

#### 2. 町屋1の遺構

##### (1) 概要

調査区北端の区域で、SD06より東側、SD12北側の範囲である。他の地区より町屋形成が遅れた可能性を考えている。それは、この区域の地盤全体が湿地・大溝・池など水の滞留していた部分（調査時SD13）を埋め立てた上に形成されているからである。その堆積土からは、近世遺物は出土するが、中世以前の遺物は出土しない。よって、上面に形成された町屋遺構と造成痕跡を分けて考える必要がある。また、SD06埋没後は、SK03辺りまで区画を拡張していたものと推察される。

##### (2) 柱根

建物などの柱と考えられ、町屋1形成後の遺構である。根石による地盤補強が施されている。柱は、直径0.1mであるが、風化した結果であり、もう少し太いものであったと考える。東側と南側に幅0.1m厚さ0.3m以上の凝灰岩切石で固定し、周囲を栗石で固めている。

##### (3) 井戸

SE11は、柱のすぐ南側に検出され、結構式の井戸枠を持つ。町屋形1成後の遺構である。枠内径で、0.65mを測り、比較的大型の掘方を持つとみられる。湧水が激しく保持が困難な状況であり、掘削を断念した。掘方から遺物は出土していない。

##### (4) 土坑

SK31は、長径2.1m、深さ0.3mを測る楕円形の土坑である。下底面を葦の編物のようなもので全体を覆っているのが特徴である。直上に堆積している腐植物より硬く、激しい湧水に対処し、穴の形を保持する意図や、造成工法の一つなどが想定される。

### (5) 溝

SD12は、町屋1形成時の遺構と考えている。幅0.9～1mの溝底に、礫や凝灰岩を詰めてある状態であった。礫は、こぶし大以上の大きさのものが多く、比較的隙間なく詰められていた。断面では、底面北側がテラス状で、中央部が深くなる形状である。深さは、その地点で0.4mを測る。石の隙間を埋めていたのは粘土であった。このような溝は、土壌の基礎ではないかという指摘がある。また、直く南側に平行して、柱状の木材が検出されており、塀に関連した構造物の一部かもしれない。SD13は、町屋1形成前の遺構で、湿地ないし大溝一部などが考えられる。北及び東側調査区内に対岸は確認されていない。南岸は、一部町屋2敷地内にも及んでいる。溝状のⅢ、落ち込み状のVが確認されている。Ⅲは、SD13を一度埋めた後に掘削された溝であり、SD06と平行した直線的な同規模の溝である。SD06段階より前の区画を示すものかもしれない。SD03の下底面は平坦で、地山砂が約0.5m下で検出される。砂層からの湧水は非常に激しい。SD03VはSD03内の土坑状の落ち込みであり、断面図幅で2.8m、深さ0.5mを測る大型のものである。町屋1形成前の遺構であろう。

## 3. 町屋2の遺構

### (1) 概要

北と西をSD06、南を土手状遺構で区切られた区域である。確認面では近代以降に砂で埋め戻した部分が多く、攪乱を受けていた。G04Gr北端部とG05Gr南端部に近現代井戸が掘削されており、特に後者は溜め井戸も含めて4基と集中している。近現代井戸は、きれいな砂で一気に埋められており、近世井戸と判別可能である。近世においては、SK86・70が井戸ではないかと考えている。塵芥処理機能を担ったのは、区画南端に位置する特大型土坑SX02である。また、下位遺構として、土手状遺構に直行し跨いでいるSD14や、その真下にSD19がある。町屋2～4分割以前の古い区画が存在した可能性がある。

### (2) 区画遺構

土手状遺構は、調査区東端から全長8.5mに渡って検出されており、幅1.1～0.6m、比高差0.2mを測る。突き固めにより、硬化していた。西側延長線上は同軸とする位置に砕石を引いた箇所が上面で検出されており、近代基礎により破壊されたと考えられる。SD19は、土手状遺構の直下に確認された溝状遺構である。後世の造成によりその延長は定かでないが、幅0.5～0.6m、深さ0.3mを測る。

### (3) 土坑

SK12・13は、土手状遺構に接して検出された土坑である。SK12は、長幅1.6m、深さ0.3mを測る。埋め立てに礫を多用し、硬く締められており、造成痕の可能性はある。SK13は、長径0.9m、深さ0.2mを測り、下層の炭化物の集中があり焼却材を廃棄したのであろう。SK86は、直径2.0mを測る土坑であるが、堆積状況や形状から井戸と考えられる。深さ約1.0mまで掘削したが、湧水が激しく掘削を断念した。北側に掘方部分が確認されており、井戸本体の径は0.6m程度に復元される。埋戻しには凝灰岩屑など礫を含む土砂が使用されている。SK70は、土手状遺構より下に位置し、確認径で1.1m、深さ0.5m測る。下層は粘性の強い粘土で埋まっていることから、溜め井戸の可能性はある。G04南・05北Grは、土坑や溝状遺構が多数重複する地点であり、同形状のものが何度も掘削されている。土坑として認識したのは、SK72・59・55などがある。SK72は、長径2.45m、短径1.25mを測る楕円形で、SD15に切られている。よって、上部は失われていると考えるが、深さは0.12mと浅い。SK59も全形は分からないが、短径0.8mを測る小型土坑である。SK55は、長辺3.2m、短辺1.8mを測る大型の土坑である。深さも0.4～0.5m程度に復元され、下層に腐植土層の堆積から有機物の廃棄があったとみられる。F04Grも土坑が集中する区域であ

り、SK36・54・56・85などがある。SK36は、長径1.65m、深さ0.35mを測り、土砂を平均にならして埋められている。SK54は、長辺1.2m、短辺0.9m、深さ0.15mを測り、南寄りにピット状に落ちこむ部分がある。SK56も同種の浅い掘り込みであろう。SK85は、長辺1.2m、短辺0.9m、深さ0.15mを測る小土坑だが、完形の磁器碗が出土している。E04・05Grは、SX02・03が大部分を占めており、廃塵芥処理場であった可能性が高い。SX02埋没後に、SK27～29などの中型土坑が掘削されている。SX02は、確定幅長辺5.8m、短辺4.0mを測る方形特大土坑である。深さ約0.6m掘り下げたところで、湧水より底面が崩壊し、掘削を断念している。底面は平坦と考えられ、比較的粘性の少ない土砂で埋まっている。SK27は、長径1.5m、短径1.1mを測る楕円形土坑である。深さ0.32mであるが、2面の腐植土層の形成がみられた。SX03は、直径2mを測る円筒形を呈する土坑である。ほぼ礫のみで埋められており、これも激しい湧水のため深さ0.6mで掘削を断念した。これより下位もまだ礫層が続くと考えられ、誓願寺地区のSK01の規模を大きくしたような遺構である。

#### (4) 溝

前述の町屋2～4を跨ぐSD14については、町屋4においてまとめて述べることにし、ここでは、町屋2に関するもののみを扱う。SD15・18は、前述の土坑集中地区にあるが、ここでは形状から溝とした。SD15は、幅0.8m、残存長2.2mであるが、深さ0.12mと浅い。砂で埋まっている。SD18は、その下位から検出された遺構で、幅1.8m、深さ0.4mで、掘方か掘り直しの痕跡がみえ、幅はもっと狭いものであったのかもしれない。このような掘り込みについては、解釈が困難で、単なる泥濘などの補修の痕跡かもしれない。

#### (5) 整地・造成痕跡

SX13は、明確な遺構の輪郭が引けず、F05Grを中心とする区域の整地痕跡と土坑が重なりあったものと考えられる。この土の中にも遺物が含まれていることから、最終的には除去した。中心部と同じ高さの平坦面をIaとし、西側の1段低い箇所をIa下層、東側をIb、その中でさらに1段低い箇所をIb下層とした。全体的には、最大厚約0.6mに及ぶ盛土層で、中位に薄い砂層が確認できるが、基本的には粘性土が使用されている。上面付近に粘性の少ない土砂を用いる点は、他の造成痕跡と共通している。IaとIb下層の低い部分には、前者は砂層、後者は粘性土が入っているのが確認された。土砂除去後において、下位遺構は確認されなかった。

### 4. 町屋3の遺構

#### (1) 概要

南側を幕末以後とみられる凝灰岩切石列までの範囲とした区画である。当地区も、造成痕の錯綜が激しく、遺構の把握が困難であり、近現代の擾乱も多くみられた。よって、大きくSX11・14と括って掘削していく方法を探った。そのなかで、おそらく最上位に位置する遺構として、SK11・SK35・37・39・SD17が把握できた。当該区域の土地利用の特徴は、比較的東側にも大型土坑がみられることである。町屋奥側の西半に、中央を画するようにSD08があり、町屋3成立以前の区画を示す可能性もある。よって、下位で発見された土坑は、その区画に対応したものであろう。塵芥処理場は、町屋2と同じくSD06に隣接したSX13ⅢやSK24などが担ったと考えられる。井戸はSE12の1基のみである。最終的には、区画ほぼ中央に土手状遺構2が設置され、区画はさらに南北に分断されたか、町屋2ないし4区画が拡張された可能性がある。

#### (2) 区画遺構

凝灰岩切石列は、長さ5.5mに渡り確認されており、南側に面を描いている。その北側は小割りした石材を幅0.5m程度敷き詰めていた。なにか構造物の土台であろうか。土手状遺構2は、長さ3.9

mに渡り残存していた。上面はすでに削られているとみられる。

### (3) 井戸

SE12は、町屋区画奥寄りF06Gr南東隅部で検出され、今回唯一、縦板差込横桟止めの井戸枠が設置されたものであった。短辺1.5m、長辺1.8m以上の方形掘方を持ち、東辺寄りに井戸が設置されていた。井戸は、土圧でやや拉げているが、一辺約0.6m程度の正方形であり、幅6～12cmの板材が使用されている。厚い泥炭層の下に薄い腐植土層の形成があり、その下は細砂となる。細砂が下底かどうかは、湧水やそれに伴う崩壊があり、確認できなかった。大川遺跡では古い型式の井戸枠であるが、出土遺物に中世のものは存在しない。よって、近世町屋に伴う遺構と判断された。

### (4) 土坑

SK11は、長径1.8m、短径1.3m、深さ0.55mを測る楕円形の土坑である。土圧や崩落により、壁面の立ち上がりが歪である。上層土に木製遺物が多い。SK16は、全形は不明だが、長径1.0m以上、深さ0.25mを測る。遺物は小片のみで、造成痕とも考えられるが、土手状遺構より下位である。SK15は、直径約3.0mを測る中型土坑と考えられ、深さ0.5mに復元されるが、全形は定かではない。土層断面と出土遺物から、大川遺跡の中では初段階に該当する遺構と考えられる。SK35は、長辺1.4m、短辺0.7m、深さ0.3mを測る。円礫、凝灰岩の屑を含む土砂で埋められている。SK37は、長径2.5m、短径1.5mを測る不整形な土坑である。上部は失われているとみられ、深さは0.12～0.22mと浅い。しかし、下底面から、一括性の高い状態で遺物が出土している点が特筆される。SK39は、長径1.8mを測り、下層に腐植土の溜りがある。埋土に凝灰岩の破砕礫が多く含まれ、意図的に廃棄したものと考えられる。SK24は、長辺5.45m、復元短辺3.4mを測る大型の楕円形土坑である。深さも0.5m程度に復元され、下層に粘性の強い粘土が堆積し、中・上層は厚い腐植土で埋まっており、常に水が溜まっていたことが考えられる。塵芥処理用土坑とみられ、SD08・06と連結しており、SD06より排水していたものと推察される。激しい湧水による崩落のため、下底ラインを記録できなかった。SK25・26は、SK24に先行する小土坑と考える。SK25は、直径1.1mの深さ0.3mの円形、SK26は長径1.6m程度、深さ0.2mの楕円形を呈する。両者とも腐植土で埋まっていた。町屋3は、後述するSX14Ⅲ全体が塵芥処理場と想定されるため、SK24は西端の落ち込み部分で、下に物を溜め汚水のみを外部へ流す機能を担ったとも考えられる。

### (5) 溝

SD08は、SX14中位より全長9.2mに渡り確認された幅50～60cmの溝である。東端より約4.0m地点で、土坑状に一旦幅1.74mに広がり、西側で再び絞りSK24まで延長している。深さはその部分で、0.65mを測る。ただし、SX14Ⅲ部分においては、水圧による地山の崩壊が生じたため、一部想定による復元であることを断っておく。下層には、厚く腐植土が溜まった状態であった。

### (6) 整地・造成痕跡

SX11は、土砂により平均的に整地された痕跡である。1層部分は非常に硬く砂を突き固めており、土手状遺構2として認識したものである。SX14は、明確な遺構の輪郭が引けず、F・G06Grを中心とする区域の整地痕跡と土坑が重なりあったものと考えられる。中心部の落ち込んだ平坦面14とし、東側の落ち込みをⅠ・Ⅱ、西側の落ち込みをⅢとした。全体的には、最大厚約0.2～0.4m盛土した整地痕跡である。腐植土溜まりを粘性土で蓋をして、粘性の少ない土砂で均すイメージであろうか。Ⅰは、東端の浅い落ち込みだが、南端部分に深さ0.4mとやや深くなる部分があり、ほぼ砂により埋まる。Ⅱは、下層に厚く腐植土が堆積している土坑である。長幅4.0m、短辺2.1m、深さ0.4mを測る大型のもので、塵芥処理機能を担ったと考える。Ⅲは、前述のとおり、SK24などと連動

した特大土坑の可能性があり、最大長辺約 7.0 m、短辺約 4.9 m に復元される。深さは 0.3 m 程度だが、水圧による地山崩壊のため掘削を断念したものであり、断面観察からはまだ深くなることが予想される。凝灰岩屑を含む腐植土が底に溜まっている。

## 5. 町屋 4 の遺構

### (1) 概要

西を S D 0 9、南を道路遺構で区切られた区域である。表土除去面（幕末～近代）切石設置面から平均 0.3 m 下げた面より近世遺構が確認されている。F G 0 8 G r 北端部の道路際に 4 基集中して近現代井戸が掘削されている。この区画は、明確な井戸の検出はないが、形状から S K 7 3 が井戸ではないかと考えており、東寄りの配置である。塵芥処理土坑は、特大型土坑 S X 1 5 ~ 1 7 で、区画南端から約 5.0 m 離れた位置にある。これは町屋 2・3 とは異なる特徴であり、道路側溝に直接排水できる立地が影響しているのであろうか。その開いた空間からは、北端に凝灰岩切石列、下位遺構に小土坑群が検出された。それらの東側の土坑状遺構は、遺物の出土も少なく、造成痕と考えられる。また、前述のとおり、短冊状の町や区画に縛られない南北溝である S D 1 4 がここまで続き、道路に併走して存在する S D 3 2 と連結している。両者が前段階の区画を示す可能性があらう。

### (2) 土坑

S K 7 3 は、長辺 2.4 m、短辺 2.0 m を測る楕円形土坑で、壁面は直立気味に掘削されている。埋土は、平均的に均し積み重ねた状態であった。深さ 0.9 m を掘削し砂層に達した途端、激しい湧水があり危険と判断されたため掘削を断念した。S K 7 7 は、直径 0.9 m を測る略円形の土坑であり、深さは 0.16 m と浅い。S D 3 2 を切る上位遺構であり、上面を削ってしまった可能性がある。S K 7 8 は、長辺 1.6 m、短辺 0.4 ~ 0.7 m を測る細長い土坑で、S K 7 7 と同じく上位遺構であろう。S K 9 5 は、やや不整形だが、S X 1 5 東側に面したテラス状遺構である。長辺 2.8 m、短辺 1.7 m、深さ 0.2 ~ 0.25 m を測り、砂で埋まっている。S K 7 9 も、S X 1 5 に北西隅部で接している浅い落ち込みである。確認幅で約 1.5 m を測るが、S X 1 5 肩部まで続く粘土層が確認されることから、護岸の造成痕かもしれない。S K 7 4 は、S X 1 5 埋没後に掘削された土坑である。一辺 1.25 m、深さ 0.28 m を測り、下層に円礫や腐食物が混在した粘性土の堆積がみられ、ある程度穴の開いた状態で使用された塵芥処理土坑であろう。S X 1 5・1 6 は、大型塵芥処理土坑であり、切り合いから 1 6 → 1 5 の順であることがいえる。両者とも、下層に 0.3 m もある厚い腐植土の堆積が確認できるが、その進行度合いに差が認められる。つまり、先行する S X 1 6 の方が、かなり土壌化が進んでおり、前後関係を示す傍証となる。S X 1 5 は、G 0 7 G r の角どを占め、一辺約 4.3 m を測る特大方形土坑である。深さ 0.7 m を測り、上層は砂で埋め戻されている。S X 1 6 は、中位に砂層の被りと薄い腐植土の互層が形成された後、粘土によって埋められていた。長径約 4.5 m、短径 2.5 m に復元される楕円形土坑で、深さ 0.75 m を測る。S X 1 5 埋没後は、盛土により地盤が約 0.1 m 嵩上げされている。区画西端区域は、土坑が多数重複した区域である。北側では、S K 4 3・4 4・5 0・6 8 がある。S K 4 3・4 4 は、径 0.9 m を測る楕円形土坑に復元され、深さは 0.3 m 程度である。S K 5 0 は、長径 0.75 m、短径 0.4 m、深さ 0.65 m とやや大きい。S K 4 3・5 0 は下層に腐植土が溜まる。S K 6 8 は、長径 1.8 m、短径 1.5 m、深さ 0.5 m に掘削されたが、造成痕跡であろう。S K 4 8 及び S K 4 9・6 2・6 7 は、地盤の造成過程とも連動しており様相は複雑である。S K 4 8 は、中位段階（6 層）からの掘り込みとみられ、長径 2.0 m、短径 0.9 m、深さ 0.4 m を測る。下底には腐植土が溜まり、溝状を呈す。この地点には嵩上げされても溝状の遺構が掘り込まれており、何か意味があるのかもしれない。S K 6 2 は最初期の土坑とみられ、その後の造成で形は不明瞭である。径 1.5 m 程度と推測しており、中位に腐植土層の堆積がある。S K 4 9・6 7 は、径 1.0 ~ 1.5 m、深さ 0.5 m 程度の土坑と考えられる。両者とも下層に腐植土の堆積があり、塵芥処理土坑の掘り直しとみられる。掘削順序は、S K 6 2 → 4 8（ここまで中位段階、以下上位）→ 6 7 → 4 9 の順と考えられる。

### (3) 溝

SD14は、町屋2～4に掛けて検出されており、南北ラインを軸とした溝である。SD32との連結地点まで約16mを測る。その合流地点より約2m北で東へ直角分岐している。北端からは、北東方向へ調査区外にまで伸びている。幅0.7～0.8m、深さ0.35mを測り、断面は二段掘り状を呈している。極めて直線的な溝であることから、町屋2～4区画に分かれる前の敷地を東西に分ける境界溝の可能性を考えたい。SD32は、道路側溝であるSD31と併走する東西溝であり、前述のSD14との連結部分より東にも延長している。両者はある時点では、同時並存したとみられるが、最終的にはSD32だけになったようだ。途中攪乱を受けた箇所も多いため不明瞭だが、幅約0.68m、深さ約0.3mを測り、下層には粘土が堆積している。また、確証はないが、SD14により区画された時代、SF01路盤整備前の道路側溝であり、南側のSD38と対応していたのかもしれない。

### (4) 整地・造成痕跡

SX17は、SX16西側の整地・造成痕跡である。基本的に砂による埋め立てである。

## 6. 町屋5の遺構

### (1) 概要

ここより泥川に接した区画となり、北を道路遺構、南をSD33（石列）-35で区切られた区域である。I08Grの道路側溝際には、凝灰岩切石による補強がみられた。南区画ラインに並行して内側に円礫による石列及びSD36があり、同様の意味を持つと考えられる。北側もFG08Gr南端部にSD38があり、前述の通り初期段階の区画を示す可能性がある。この区画では、SX30とした整地・造成痕跡部分に玉砂利による舗装が確認されており、他の町屋にはない特徴である。井戸は、区画中央街道寄り付近に2基と、北西端に1基確認されている。また、中央部井戸より西には、径2.0m程度の形態の共通した円形土坑が存在することも特徴である。しかし、規模はそれらが最大であり、北側町屋区画で確認された特大塵芥処理土坑は存在しない。土坑とした大型の落ち込みは、遺物量の少なさや埋土の状況から、造成痕と判断している。

### (2) 区画遺構

石列は、東西軸に沿って、長さ8.3mに渡り確認されている。径0.2mの円礫を使用しており、玉砂利舗装面段階のものであろう。

### (3) 井戸

SE14は、町屋奥に単独であり、結桶式の井戸枠が設置されたものである。長辺1.7m、短辺1.05mの楕円形掘方を持ち、中央に井戸本体が設置されていた。井戸枠は21枚のくれ板により製作され、内径で0.52mを測る。井戸内部には、砂混じり粘性土の堆積が認められる。井戸枠の外側には、漆喰が塗り込められており、壁の強化が図られていた。湧水及び土砂崩れにより、約0.9mまでの掘削で断念した。SE15は、14と同じく長辺1.87m、短辺1.1mの楕円形掘方を持ち、井戸本体は、南端寄りに設置されている。井戸枠は、確認面から約0.95m下から検出され、結桶式のものであった。土圧により既に崩壊した状態であり、11枚のくれ板が残存していた。径は、SE14と同程度と推定される。上位の井戸枠は撤去され、厚い砂混じり粘性土で埋められた状態であった。この井戸も、井戸枠検出段階で地山崩壊が起こっており、これ以上の掘削は危険であると判断された。SE16は、径1.6mの円形掘方持つ井戸である。遺構確認最上面からの掘削であり、深さ約0.95mを測る。井戸枠は、凝灰岩の削り抜き材であるが、既に破壊された状態であった。内径で0.5m程度に復元される。廃棄に際し、礫や円礫が多量に投げ込まれ、その上を漆喰混じりの土砂で埋め立てていた。時期よ、一番新しい幕末以降の井戸ではないだろうか。

#### (4) 土坑

SK157は、径0.9m、深さ0.16mを測る円形土坑で、砂で埋まっている。下底よりいぶし瓦片が出土しており、下位遺構と考えられる。SK136は、SE15を切る土坑で、長径1.7m、短径1.4m、深さ0.3mを測る。底面は平坦であるが、中央部がやや凹む。SK134は、長辺1.62m、短辺0.65m、深さ0.4mを測る細長い土坑で、下層に粘性の強い粘土がある。SK65・130・132は、中型の円形土坑である。SK65は、径2.1m、深さ0.7mを測る円筒形の土坑である。下層に約0.4mに及ぶ腐植物の堆積がみられる。SK130も径1.8m、深さ0.65mを測る円筒形の土坑である。SK65に比して、底面が平坦である。上面には、凝灰岩切石の集積がみられ、単なる廃棄地地固めと考えられる。下層に腐植物の堆積はなく、砂混じりの粘性のある土砂が厚く堆積していた。SK132は、径1.9m、深さ0.6～0.7mを測る円筒形の土坑であり、底面にやや傾斜が認められる。砂混じりの土砂で埋まっており、腐植物は確認されない。ただし、色調から豊富に有機物を含むと考えられ、地下水位の関係で土壌化が進んだのであろう。よって、近接するSK65・132は、同種の一時的な塵芥処理土坑と考えられ、SK130はやや性格を異にすると考えられる。SK112は、長辺1.6m以上、短径1.5m、深さ0.3～0.55mを測り、隅丸長方形土坑である。中層に厚い土壌化した有機物層が認められることから、SK65などと同種のものであろう。下底より、凝灰岩製の行火（バンドコ）が出土している。SK138・139は、重複関係にあり、前者が後出である。長辺1.7m、短辺0.75m、深さ0.4mを測る細長い土坑である。下層は、粗砂をブロック状に含む粘性土で埋められている。SK139は、長辺1.9m、短辺1.2m以上あり、一回り大きい。埋土の殆どが粘性の非常に強い粘土であり、深さもほぼ同じことから、SK138の掘方である可能性もあろう。SK150は、長径1.3m、短径0.7m、深さ0.65mを測る、やや深い断面逆台形の土坑である。粘土ブロック混じりの土砂単層で埋まっており、壁面補強の凝灰岩切石の埋め込みがみられた。SK151・152は、石列より下位に検出された土坑である。前者は後者を切っており、径1.5m、深さ0.35mを測る断面摺鉢状の土坑である。後者は、径0.85m、深さ0.5mを測る円筒形の土坑である。後者には砂混じり粘土の厚い堆積が認められる。SK153は、断面逆台形の土坑で、砂と粘土が交互に入れられ埋められている。北側が攪乱で失われており、法量は確定できないが、径1.2m以上、深さ0.45mとなる。SK154は、2カ所の落ち込みを確認したものの、南側は攪乱により形状不明である。北側は、長径1.4m、幅0.65m、深さ0.3mを測る溝状のものである。南側も同形状であり、SD36の続きの可能性もあろう。SK137は、深さ0.4mの底面が平らな窪状遺構で、平面規模で1辺3.5mを測る大型のものである。しかし、埋土には殆ど遺物や腐植物を含まないことから、整地・造成痕の可能性が考えられる。

#### (5) 溝

SD38は、ほぼ道路遺構に沿って検出された東西溝で、約4.8m部分のみが残存していた。道路南側側溝であるSD30より下位の遺構と考えている。一部土坑などとの重複により乱れてはいるが、ほぼ直線的といえよう。幅0.85～1.2m、深さ0.3～0.4mを測り、断面は二段掘り状を呈している。埋土は、粘土系である。その、北側の道路下とみられる部分からピットが検出されたが、攪乱の激しい地点であることから、先行道路の存在の存否は判断を保留したい。SD36は、区画遺構としたSD35に併走する東西溝である。SK112に切られているが、長さ約5.4mが検出されている。幅0.6m、深さ0.3～0.4m程度を測り、粘性土で埋まっている。中央付近には、土坑状の落ち込みが形成されている。

#### (6) 整地・造成痕跡

SX30は、区画東寄りの整地・造成痕跡で、前述の玉砂利舗装に伴う部分を除去した結果である。埋り方の特徴などからa～dの部分に分けられる。ほぼ砂によって埋め立て及び整地が成されており、bの一部やcでは下底に粘性土が認められた。aは、上層除去後に検出された土坑状の落ち込み

である。長径 1.2 m、短径 1.0 m、深さ 0.2 m を測る。17 世紀前半代の初期伊万里や越中瀬戸が含まれることから、町屋形成段階のものと考えたい。SD39 は、当初溝として認識したが、掘削が進むにつれ、土坑状に広がった。長辺 5.5 m、短辺 2.7 m 以上、深さ 0.4 m 程度を測り、深さ 0.6 m に落ち込む部分もあるが、基本的には平らに整地した跡であろう。腐植層の形成がなく、遺物も混入程度の少量であることから肯定される。ただし、そこから表土除去面までの嵩上げ分については、細かい単位の盛土や、新たな掘り込みも確認できる。

## 7. 町屋 6 の遺構

### (1) 概要

北を SD33 (石列) - 35、南は調査区外に延びる区域である。非常に造成範囲が広く、泥側沿岸部のみが地山であった。それは、この付近の地山が砂であることから地盤が弱く、大規模な造成工事により安定させる必要があったのであろう。そのため遺構の把握が非常に困難で、また、掘削後の保持も不可能であった。上位で確認された遺構は、SK96・99・110・111 である。井戸は、区画中央に 1 基に大型のものが設置されている。ただし、砂の崩落により掘削できなかった SK114 や、調査区南端境で検出された土坑は、円筒形に深くなる型式のものであり、井戸の可能性がある。なお、一部 SD33 下位に及ぶ遺構があり、先行する区画が存在することが想定される。

### (2) 井戸

SE13 は、最下部に結桶式の井戸枠が設置されたものである。表土除去面からの掘削であるが、その面の精査では把握できず、約 0.3 m 下げた段階で確認した。一辺約 2.5 m の大型の方形掘方で、井戸本体は南寄りに設置されていた。そのため井戸枠検出時に半裁位置を再設定している。井戸枠は、一辺 16cm の均質なくれ板 16 枚が使用されており、内径で 0.72 m を測る大型のものが使用されていた。内部には、砂混じり粘性土の堆積が認められ、凝灰岩製削り抜き井戸枠の残骸が落ち込んでいた。おそらく結桶上部に設置していたものが撤去される際に落ち込んだものであろう。湧水及び土砂崩れにより、掘削は約 0.9 m 下までが限界であった。

### (3) 土坑

前述のとおり遺構の峻別は非常に困難であり、造成痕と判断されるも含まれる。SK117 は、方形プランと推察されるが、全景は不明である。深さ 0.3 m を測り、下層粘土と上層砂のほぼ 2 層で埋まる。SD33 と同じ面に位置するが、造成痕の可能性もあろう。SK116 は、長径 1.36 m、短径 1.0 m、深さ 0.25 m を測り、二段掘り状を呈する。上層は、非常に粘性の強い粘土で覆われている。SK98 は、平面上は SK116 と同形状・同法量の土坑である。ただし、埋土には混入物のない非常にきれいな砂が使用されていた。湧水が激しく、上面以下の掘削は不可能であった。他の事例から、近現代井戸の可能性がある。SK114 は、径 1.4 ～ 1.7 m、深さ 0.6 m 以上を測る円筒形の中型土坑である。砂混じり粘土の厚い堆積を確認したが、激しい湧水により調査中に崩壊してしまった。おそらく、SE13 廃棄以降に掘り直された新しい井戸ではないかと考える。SK113 は、径 0.86 m、深さ 0.7 m を測る円筒形の土坑で、約 0.3 m 下の下層面から掘り込まれた遺構である。厚い粘土の堆積があり、底面が平坦であることから、小型の溜め井戸のような使用を想定したい。SK96 は、長辺 1.65 m、短径 1.15 m、深さ 0.9 m を測る隅丸長方形土坑で、上層面からの掘削である。掘方が認められ、内部径 1.1 m は楕円形を呈する。壁面はほぼ直角に立ち上がり、下層に砂混じり粘土、中層に砂の堆積が認められる。SE13 と同じ面にあって、その性格は SK113 と同様に考えている。SK97 は、長辺 1.45 m、短径 1.0 m、深さ 0.55 m を測る隅丸長方形土坑で、SK96 を一回り小さくしたような形状である。区画とみられる SD33 や 35 を切っており、最新段階の遺構と考えられる。粘土ブロックを含む土砂で埋められているが、その性格は同様のものであろうか。SK155 は、底辺 2.5 m、高さ 1.5 m、深さ 0.5 m を測り、三角形状を呈する。最下層に腐植土の堆積が確認



され、その上に細かい単位で砂と粘土の重なりがあり、落ち込みの上に造成が及んだものと推察される。SK119は、長辺3.7m、短辺1.7m、深さ0.3m程度を測る細長い大型土坑である。形がやや不整形で、砂のみで埋められた状態であることから、整地・造成痕跡であろう。SK99は、長径2.7mを測り、楕円形を呈するとみられる。東寄りに径約1.0mの円筒形部分があり、深さ0.6mを測る。西側はおそらく掘方であり、井戸の可能性はある。ほぼ砂で埋まっているが、表土除去面より1層下位であり、近世遺構であると考えられる。SK110・111は泥川肩部付近に位置する土坑である。SK111は、直径0.9m、深さ0.4mを測る小土坑である。SK110は、掘方と中央の円筒形部分から成る。中央部分は、直径0.6m、深さ0.25mを測る。掘方は、砂で埋まっていたことから、形を保持できなかった。復元径で、1.35mを測る。中央部に何かを設置し、周りを砂で埋めたのであろう。

#### (4) 溝

SD33は、東西軸に合致した溝状遺構で、約12.3mに渡って検出された。町屋5側の石列に対応した箇所に礫の集積が約4.2m検出されている。幅0.35～0.7m、深さ0.08～0.18mと場所によって差があり一定しない。区画を示すことは間違いないと考えるが、排水溝や塀などの基礎というよりは、隣接した構造物の雨落ち痕跡ではないだろうか。その点で、隣接して約6mに渡って直線的に並ぶピット(P156は礎石あり)列が目目される。下位遺構としても、その地点は何らかの境を示す位置にあるようだ。SD35は、SD36に併走して約5.6mに渡り検出されている。幅0.5～0.7m、深さ0.3mを測り、断面台形状を呈している。泥川に近い部分で、直径1.3m、深さ0.4m、テラス状部分を含めると直径1.8mの土坑状に広がり、再び溝状となる。溝はシルトで埋まり、土坑は粘土で埋まっている。おそらく泥川への排水機能を持っていたとみられ、一旦土坑状部分で雨水を沈殿させ上澄みを流したものと考えられる。

#### (5) 整地・造成痕跡

SX18は、調査区南端で検出された全体が溝状に落ち込む整地・造成痕跡である。断面観察により、土坑状に落ち込む部分2箇所(I・II)と、南北溝の断面が把握された。それらは最上位からの掘り込みではなく、1層下位面の遺構であると判断される。Iは、長径0.9m、短径0.6m以上、深さ0.6mを測る円筒形である。下底面の造作がやや凸凹している。IIも、径1.2m、深さ0.7mを測る円筒形を呈すが、底面は平坦である。両者とも砂質系の土砂で埋まる。溝状部分は、幅1.1m、深さ0.36mに復元され、粘性の乏しい土砂で埋まっている。土坑は、遺物の出土量や状況から、塵芥処理ではなく溜め井戸などの用途が考えられる。町屋6のほぼ全域を覆う整地・造成痕跡をSX19としている。表面上で分けることは不可能であったので、IGrをaとし、以下グリッドごとに西へむかってb～dに便宜上分岐したものである。盛土厚は0.3～0.4mあり、一部0.5mの箇所も存在する。a・b区域では、平均的に均した部分と、盛土を積み上げた部分の両者が確認され、比較的粘性のある土砂を多用している。泥川に近いc・dでは、ほぼ砂であり、川が溢れた時に溜まったのを平均に均したものであろうか。

## 8. 町屋7の遺構

### (1) 概要

北をSD02付近、南は攪乱区域境と仮定した区域である。区域内では、敷地を南北に分岐する痕跡がみえず、比較的広い区画となっている。この区画以南でも、特大型塵芥処理土坑は検出されておらず、その機能は泥川が担ったのではないかと考える。この区域では、直径1.5m前後の規模の円形土坑が目立つ。井戸は、区画東寄りに1基と、泥川に近い西寄りに1基設置されている。特に、前者は凝灰岩の板材を方形に組んだ井戸枠であり、今回調査のなかで唯一の事例である。他の井戸枠より、技巧的にみても格式が上ではないかと考える。

また、この区域以南には、IGrの中央付近に、やや不整形だが南北に連なる造成痕跡の跡があり、

何らかの地境がこの地点に存在した可能性が想定される。

## (2) 井戸

SK2063は井戸で、凝灰岩切石井戸枠が二段以上設置されたものである。一辺約1.5mの略方形掘方で、井戸本体は東寄りに設置されていた。井戸枠は、東西辺が長さ0.75m、高さ約0.5m、厚さ6cm、南北辺は長さを0.65mとした同種の石板の組み合わせで構成される。東西辺の石板には、両端部内側に組み合わせのためのホゾが加工されている。表面には、鑿跡が明瞭に残存している。南辺は既に使用中から土圧による破損が起っていたとみられ、板材の差込による補強が施されていた。東辺の板材も、既に亀裂が生じており、かなりの土圧が掛かっていたことが考えられる。掘削深さまで同質の土砂で埋まっていることから、埋め戻しは一気に行われた可能性が高い。湧水が激しく危険なため、深さ約1.05mまでしか掘削できなかった。SE2001は、結桶の井戸枠が設置された井戸である。直径1.3mの円形掘方で、ほぼ中央に井戸本体が設置されている。井戸枠は、くれ板21枚が使用されており、内径で0.68mを測る一般的なものが使用されていた。枠内部は、腐植土の堆積であり、枠頂部より約0.5m下に、長さ0.56m、幅0.3mの板材が、底面を覆うように水平な上体で出土している。約1.0m下で砂層となることから、その辺りが井戸底ではないかと考えている。

## (3) 土坑

調査区東端(I・J15~17Gr)は、土坑の掘り込みが多く重複が激しい区域である。SK2043・44は調査区北東隅に位置し、円形プランと推察されるが、全景は不明である。SK2043は、径1.46m程度に復元され、深さ0.45mを測る断面逆台形状土坑である。SK2044も、深さはほぼ同じである。SK2089は、SK2043に切られている。長辺1.5m、短辺1.25mを測る長方形土坑である。深さは0.45mで、径0.7mの円筒形の部分があり、下層に腐植土の堆積があることから、井戸や溜め井戸とも考えられる。SK2027・28は、前者は長径1.0m、深さ0.3m、後者は長径0.7m、深さ0.4mを測る楕円形土坑である。両者とも、下層に粘性土が認められるが、切り合いから後者のほうが新しいことが分かっている。SK2103は、確認幅で約1.9mを測る方形土坑で、南西隅部がやや突出する。深さ0.3mで、底面が平坦な窪穴状を呈する。上面西側一帯が一段低くなっていた(SK2104)。SK2046は、長辺1.6m、短径1.3m、深さ0.55mを測る隅丸長方形土坑で、上層面からの掘削とみられる。底面はすり鉢上に中央部が低く、覆土のレンズ状堆積が認められる。最下層の粘性土から上層に向かって徐々に砂質感が増しており、ある程度の期間口を開けたままで維持されたことが推察される。SK2049は、長辺約3.0m、短径1.2m、深さ0.16mを測る溝状の落ち込みであり、整地・造成痕の可能性もある。SK2082は、一辺1.0~1.2mを測り、略方形を呈する。深さは約0.3mで、底面からの壁の立ち上がりは丸い。SK2062は、直径1.5m、深さ0.4mを測る略円形土坑である。円筒形状を呈し、下層に粘性土の堆積がある。SK2068は、SX2002より上位の遺構で、長径1.25m、短径1.06mを測り、楕円形を呈する。深さ0.3mを測り、西側はテラス状となる。SK2047・48はピットとみられ、48には底に20cm大の礫があり、根石の可能性もある。SK2029は、直径0.7m、深さ0.5mを測る円筒形小土坑である。埋土中に貝殻が含まれるのが特徴で、下層は特に多く、中に集中部分も確認される。おそらく、貝食に伴う残渣廃棄坑と考えられる。SK2040は、SX2001内から検出されており、長径0.9m、短径0.6m、深さ0.5mを測る楕円形である。壁面は、円筒形に立ち上がっており、下層に厚めのシルトの堆積がある。I16Gr杭付近は、中型土坑が集中している。SK2008は、長径1.8m、短径1.5mの楕円形である。深さ0.4mで、底面は平坦である。埋土は、小石や礫の混入が目立ち、平坦に埋められている。SK2009・20は重複しており、前者の方が新しい。SK2009は、直径1.5mの円形で、深さ0.4mを測り、断面錐錐状を呈する。SK2020は、長辺1.65m、短辺1.45mを測る略長形状を呈する。砂の単層で埋まっており、深さ0.3m以上も掘削できないような湧水の激しさから、近現代井戸の可能性も考えられる。SK2004・

05は、後者の方が上位遺構であるが、この確認面では、底部の痕跡のみであった。前者は、直径1.7mを測る円筒形土坑で、断面上では壁面は直立する。深さ0.4mを測り、上層は凝灰岩片を多く含む。G15・16Gr杭付近も、土坑が密に重なり合う部分である。SK2001は最上位遺構で、長径1.1m、短径0.9mの平面楕円形を呈する。深さ0.4mを測り、壁面は直立し底面は平坦である。下底層に非常に粘性の強い粘土が堆積しており、湧水も激しいことから、井戸の可能性も考えられる。SK2041・42は、後者の方が新しい遺構である。SK2041は、長辺3.0m以上、短辺1.5mを測る長方形竪穴状遺構である。最下層に粘土層があり、6層より上から遺物が混入する。粘土層も含めた深さは、0.5mである。SK2003は、2041に切られているが、長辺1.7m、短辺1.3mに復元可能な竪穴状遺構で、深さ0.2～0.3mを測る。SK2021も楕円形中型土坑であり、長径1.85m、短径1.55m、深さ0.3mを測る。最下層にシルトの堆積が確認できる。SK2066・67は重複しており、前者が新しい遺構である。SK2066は、長辺0.7m、短辺0.5m、深さ0.16mの長方形で、2067は、直径0.55m、深さ0.2mを測る円形である。SK1009・1021は、前者の方が新しい遺構である。SK1009は、断面上で径1.2mに復元可能な丸底土坑で、深さは0.2mを測る。SK1022は、SK1020の上から掘り込まれ、長径0.85m、短径0.65m、深さ0.3mを測る楕円形土坑である。非常に粘性の強い粘土で埋まっている。SK1020は、長径3.2m、短径1.3mを測る大型であるが、土層などから整地・造成痕跡と考えられる。

#### (4) 溝

SD2001は、南北軸に合致した溝状遺構で、約4.0mに渡って検出された。幅0.55m、深さ0.18m程度を測る。SD2002は、東西軸に合致しており、約3.2mに渡り検出されている。幅0.3m、深さ0.15m程度を測る。両者とも、調査区外へと延長しており、最下位面から検出されたものである。初期の区画を示す遺構である可能性も考えられる。

#### (5) 整地・造成痕跡

SX2001は、IGr中央付近で検出された全体が浅く落ち込む溝状遺構である。幅1.75m～2.05m、深さ概ね0.2mを測るが、0.4mを測る深い部分も存在する。下底面の造作は、凸凹しており、通常の溝状遺構ではない。上層は砂質系の土砂、下層には粘性土という傾向はあるようだが、基本的には埋土である。区画を示す構築物を除去した跡の可能性も考えられるが、単なる整地・造成痕跡かもしれない。SX2002は、長辺2.5m、短辺2.2mを測る長方形の落ち込みである。西寄りには、溝状に上位より掘り込まれ、深さ0.16mである。SK1008は、区画北端泥川沿岸に位置する。炭混じりの厚さ約0.1mの粘性土の分布であり、プランは不整形で範囲は5m以上に及ぶと予想される。両者とも整地・造成痕跡に分類されるであろう。

### 9. 町屋8の遺構

#### (1) 概要

北を攪乱区域境より南、南はSX2007とSD2017境に仮定した区域である。泥川埋没後にこの地点の延長線上に区画境に関わる遺構があることも手掛かりとした。この区域では井戸の掘削が多く、調査区東端に1基、約5m西の北寄りに1基、泥川近接部に3基設置されている。ただし、井戸枠の痕跡すら存在しなかったSE2004・05は、近現代井戸と考えられる。また、SD2003は東西溝であり、敷地内の区画や想定区画とは異なる範囲の区画を示しているのかもしれない。

#### (2) 井戸

SE2002は、直径約1.35mの略円形掘方で、井戸本体は中央に設置されていた。井戸枠は既に抜き取られているが、タガが残った状態であったため結構式井戸枠とわかる。井戸内部は、確認程

で0.82 mを測る比較的大型のものである。下底から粘土層、腐植土層の順で堆積しており、腐植土層上面には、木製遺物が詰まった状態であった。北側と西側の掘方周辺は、幅0.5 m程度一段低くなっている。SE2008は、長径1.4 m、短径1.2 mの楕円形掘方で、中央やや北寄りに井戸本体が設置されている。井戸枠は結桶式で、くれ板21枚が使用されており、内径で0.55 mを測るやや小型のものが使用されていた。枠内及び掘方とも同じような砂で埋まっている。枠内中位より、略完形の小瓶が出土している。SE2009は、長径2.9 m、短径1.9 mを測る大型楕円形土坑で、中央北寄りに井戸本体が設置されている。井戸枠は結桶式で、最下層より検出されている。掘方とした土坑は、井戸枠撤去時に掘られたものだが、枠周辺の土層から掘方自体も大型であったと予想される。井戸枠は、既に何枚かくれ板が抜き取られており、14枚のみ残存していた。復元内径で0.55 mを測る小型である。下層が砂であることから、既に土圧で崩壊気味であり、湧水も激しく下方への掘削は断念した。SE2004・05は、近現代井戸とみられる。両者とも砂で埋まっており、他の近現代井戸と共通する。両者とも、竹筒が井戸中央に差し込まれていた。後者は、鋼材の単管もあり、現代まで使用されたのであろう。井戸枠は存在しなかった。

### (3) 土坑

町屋7と同じく、調査区東端(J20Gr)において、土坑が多く確認され、SK2120・2108・2109が位置する。SK2120は最上位の遺構で、長径2.9 m以上、短径1.9 mで、深さ0.2 m程度の浅い部分と、北よりの深さ0.5 mに落ち込む部分から成る。底部分以外は、砂質系の土砂で埋まる。井戸枠除去後の土坑であろうか。SK2109は中位の土坑で、長径1.85 m以上、短径1.45 mで、深さ0.8 mを測る、やや歪な楕円形である。下層は、厚い黒色土の堆積であり、有機物を含んでいたのであろう。SK2108は最下位の土坑で、一辺1.5 mを測る隅丸方形土坑である。壁面も直立し、深さは0.85 mと深い。この土坑も、下層は黒色土で埋まっている。SK2107は、長径1.5 m、短径1.1 m、深さ0.6 mを測る楕円形土坑である。壁面は直立し、底面も平坦な形状である。粘性の乏しい土砂で埋まっている。これらは、小規模な塵芥処理土坑であろうか。SX2004は、長径3.0 m、短径1.9 mの楕円形を呈し、北西隅部が約0.1 m低いテラス状となっている。落ち込み部の深さは0.8 mで、底面は平坦である。土坑の東壁は、何層もの粘土を張り付けた特異な土層断面である。その東面側と北面側には、端部に杭を打ち、その間に横木と小枝列を打ち込んだものが残っている。東面は1.0 m、北面は0.7 mを測り、水路でゴミのみを引かける格子門状を呈する。しかし、周辺を断ち割り調査したが、暗渠も含めて溝は連結しておらず、砂流出防止の土止めである可能性が高い。SK2141は、SX2005を切っており、長辺1.2 m、短径0.9 m、深さ0.4 mを測る楕円形土坑である。下層に粘性土がやや厚めに堆積する。SK2142は、直径約1.45 mを測る円筒形土坑で、SX2004に切られている。深さは0.5 mで、下層に厚い黒色土がみられる。SK2108などと同種と考える。SK2144・2145は、前者が後者を切っているようだが、上層では一体となる。前者は直径1.25 mの略円形を呈し、深さは約0.25 mである。後者は、長径0.85 m、深さ0.2 mを測る楕円形である。土層から整地・造成痕跡の可能性もあろう。SK2164は、長辺3.0 m、短辺1.25 mを測る長方形の窪穴状遺構である。ごく浅い部分のみの検出であり、もっと上からの掘り込みと考えられるため、その性格は判断できない。SK1003は、幅0.6 m、深さ0.2 mの溝状の落ち込みで、粘性土のみで埋まっている。

### (4) 溝

SD2003は、東西軸に合致した溝で、調査区東端から2.7 mに渡って検出された。東端から約0.7 mの地点以西は狭くなる形状であり、幅0.35～0.64 m、深さ0.16～0.2 m程度を測る。SD2005は、東西軸に合致しており、長さ4.7 m、幅1.1～1.2 m、深さ0.2～0.3 mを測る溝状遺構である。底面はほぼ平坦であり、東よりの箇所を下駄など木製遺物が多数出土している。埋め立てられているため、断面ごとに土層は共通しない。遺物出土地点の下位には、長径0.7 m、短径0.5 mの楕円形に落

ち込む部分が検出された。SD2008は、05に切られ、南側の一部のみが検出されている。SD2007・2009も重複し、全体で幅1.3～1.9mで西へ行くほど広い。深さは2007が0.36m、09が0.3mで、2009下層以外ほぼ砂で埋まっている。2007が後出する遺構で、幅は0.75m程度に復元される。これらはほぼ同じ位置で重複して掘削されており、この地点に何らかの意味があるのかもしれない。

#### (5) 整地・造成痕跡

SX2005は、IGR中央付近で検出された落ち込みで、幅1.7m～3.0m、深さ概ね0.3～0.4mを測る。平面及び下底面の形状は歪である。粘性の乏しい土砂で埋まっており、おそらく整地・造成痕跡とみられる。SX2007も2005の一部であろう。SK1002も、5.0m以上の広範囲に渡り確認されることから、同種のものと考えられる。

### 10. 町屋9の遺構

#### (1) 概要

北を町屋8想定境から、南を残存凝灰岩壁及びSD1002を根拠とした区画である。通常の町屋区画2軒分はあるが、内部に区画遺構が確認されなかったことから1軒分と判断した。町屋8に比較しても、井戸の掘削が非常に多くなっている。明瞭に井戸と判断されたものだけでも、I・JGr境に2基以上、H・IGR境に3基、泥川近接部に3基あり、東西約5m間隔で位置する特徴がある。当然、近現代井戸も含まれ、SE2006などが該当すると考える。また、想定区画を跨いで位置するSE2003などは、上記想定区画が再編成されたあとのものであろう。土地利用の特徴としては、IGR以东において非常に遺構密度が高く、小規模な塵芥処理土坑もみられ生活に伴う空間であったと想定される。一方で西側は、一部に円礫を敷いた池状の落ち込みがあり、庭とも考えられる。周辺に見られるやや不整形な落ち込みは、樹木の移植痕かもしれない。

なお、IGR中央の造成痕は、ここでは不整形ではなく、明瞭な溝状を呈している。ほぼ想定区画境の両端に渡り検出されており、敷地を東西に分断するものである。遺構の重複からも最下位遺構であり、初期の区画等を示す可能性が強いと判断する。

#### (2) 井戸

SE2003は、北側の円形土坑を切る形で設置され、一辺約2.1mの大型略方形掘方を持つ。井戸本体は北寄りに設置され、井戸枠は凝灰岩くり抜き材であり、二段分が確認された。井戸内部は、確認径で0.52mを測り、比較的小型のものである。内部及び掘方ともほぼ砂で埋まっており、幕末以降の近代井戸であろう。SE2013は、長径2.0m、短径1.65mの楕円形掘方で、北東よりに井戸本体が設置され、南側はテラス状となっている。井戸枠は特殊で、葦系の材を使用した編物であり、復元内径で0.7mを測る。この枠で土圧に耐える強度があるか疑問だが、井戸の最下位部分の数少ない調査例と考える。枠内は厚い粘土層で埋まっており、上位の井戸枠は撤去時に抜かれたようである。SK2148は、長径2.9m、短径1.8mを測る大型楕円形土坑だが、南側に結桶のタガが残存していたことから井戸であることが判明した。タガの復元内径で0.6mを測り、内部は砂で埋まっていた。湧水が激しく、下方への掘削は断念した。上位の大型土坑は、抜き取り穴で、その部分もほぼ砂で埋まっている。SE2007は、SK2149の上位に掘削された井戸である。長径2.2m、短径1.4mの楕円形掘方であるが、北東部分が凹凸やや歪な形である。全体からみればほぼ中央に井戸本体は設置されている。井戸枠は結桶式で、細いくれ板24枚で構成されるが、土圧に既に歪んだ状態であった。内部は、上位の井戸枠が撤去された時の埋め戻し砂が流れ込んでいた。SE2019は、一辺約1.8mの方形掘方を持つもので、南寄りに井戸本体が設置される。井戸枠は凝灰岩くり抜き材で、二段分が確認されており、約0.4m以上上面の生活面で使用された井戸である。井戸内部は、内径幅0.66mを測り、上段内は礫混じりの土砂、下段より砂で埋まっていた。掘方は粘性土で埋め

立てられている。S E 2 0 1 7 は、直径 1.0 ～ 1.1 m の略円形掘方で、結桶式の井戸枠である。井戸本体は、くれ板 21 枚が残存した状態で、内径 0.6 m に復元可能で、掘方との隙間は狭い。井戸枠撤去の際、一部が抜き取られ、残されたものは上部を割り取られている。内部は凝灰岩礫で埋められており、隙間に腐植土の混入がみられた。S E 2 0 0 6 は、町屋 8 の近現代井戸と共通しており、井戸枠の痕跡がなくきれいな砂で埋められている。中央に竹筒が直立している点も共通している。S E 2 0 1 8 は、長径 2.0 m、短径 1.5 m の楕円形掘方で、中央やや南寄りに井戸本体が設置されている。井戸枠は凝灰岩くり抜き材で、内径 0.5 m を測る。内部は砂、掘方は円礫を含む土砂で埋められている。S E 1 0 1 1 は、長径 2.0 m、短径 1.65 m の楕円形掘方で、井戸本体は南東部に寄った形で検出されている。井戸枠は凝灰岩くり抜き材であるが、上段は 26 cm の高さで割られた状態であった。内部には、その割られた時の破片が落ち込んでおり、整地の際に邪魔になった部分のみを割ったのであろう。内径で 0.6 m を測る。内部、掘方とも砂で埋まっている。この井戸では、凝灰岩下段のさらに下に、一周り小さい内径 0.5 m のくれ板 19 枚から成る結桶式井戸枠が設置されていた。当初からこの組み合わせなのか、上段を修復した結果なのかは不明である。全体として敷地西半に掘削された井戸は、新しい段階のものが多く、

### (3) 土坑

S K 2 1 2 1 は、長辺 2.3 m、短辺 1.45 m、深さ 0.55 m を測る長方形で、断面は逆台形状を呈する。底部は平坦であり、下層に粘性土の堆積がある。北側は、階段状のテラスとなっており、南半分が落ち込む。S K 2 0 7 3 は二つの土坑の重複であり、新しい掘り込みを a、切られている方 b とした。a は、直径 1.1 m、深さ 0.45 m を測る円形を呈する。最下層に腐植土の溜まりがあり、底面から板材が出土している。b は、長径 1.7 m、短径 1.3 m 以上、深さ 0.8 m を測る楕円形を呈する。腐植土は薄い間層のみで、砂で埋まっている。前者は、小規模な塵芥処理土坑と考えるが、後者は不明である。S K 2 0 7 5 は、長辺 2.9 m、短辺 1.8 m の略長方形を呈しているが、断面上から二つの土坑の重複と判断される。上位土坑は深さ 0.9 m を測り、下底に建築部材である角柱が廃棄されていた。埋め立て時には、多量の凝灰岩礫を面的に廃棄しており、地盤の強化を図ったようである。一方で、先行土坑は、深さはほぼ同じであるが、短辺が 1.4 m と小さいもので、埋土も厚い粘土層であった。下底面には、ビット状に落ち込む部分があり、内部から陶磁器と柄付の包丁が出土しており、何か意味あるのかもしれない。S K 2 0 7 4 は、長辺 1.5 m、短径 1.3 m、深さ 0.65 m を測る楕円形で、壁面は下層から斜めに立ち上がる。北側は、直立する壁に沿って、棒材を突き刺していた。下層には、厚い粘土が堆積している。S K 2 0 5 6 は、長径 2.0 m、短径 1.1 m の楕円形で、深さは 0.7 m で、木製遺物を含む厚い腐植土層が堆積している。長期間水が貼られた状態だったのであろうか。S K 2 0 5 7 は、上位土坑と、大型掘方の井戸とが重複している。上位土坑は、長径 1.8 m、短径 1.35 m の楕円形で、中央がやや凹み、深さ 0.35 m を図る。下位の井戸は、直径 2.1 m の略円形掘方で、南東寄りに井戸本体が設置されていた。タガのみが残存しており、井戸枠は撤去された状態である。復元内径 0.6 m、確認面からの深さ 0.7 m を測り、最下層は、粘土の堆積であった。S K 2 1 2 7 は、S E 2 0 0 3 に切られているが、長径 1.2 m、短径 1.0 m、深さ 0.55 m を測る楕円形である。壁面は直立し、円筒状を呈する。主に黒色で砂質系の土砂で埋め立てられている。土層から整地・造成痕跡の可能性もあろう。S K 2 1 2 9 は、一辺 1.15 m、深さ 0.65 m を測る略方形土坑で、壁面は直立する。中層に腐植物を含む黒色土が認められ、木製遺物が出土している。両者は、町屋 8 での同種の土坑と同様、小規模な塵芥処理土坑であろう。S K 2 0 9 4 は、直径 0.9 m を測る略円形を呈しており、S D 2 0 1 7 を切っている。おそらくもっと上面からの掘り込みと考えられる。S K 2 0 7 2 は、長径 1.5 m、短径 1.1 m を測る楕円形を呈するが、南東部がやや尖る形状である。内部は北西から段上に落ち込んでおり、深さ 0.3 m を測る。その部分に、礫や木材片などが集中して廃棄されていた。S K 2 0 7 6 は 3 つの土坑の重複であり、北から a ～ c とした。a は、長径 1.55 m、短径 1.25 m を測る、きれいな楕円形である。深さ 0.7 m を測り、ほぼ砂で埋め立てられている。b は、長辺 2.6 m、

短辺 1.5 m のやや不整形な落ち込みで、深さは 0.45 m を測る。最下層には、粘土の堆積が認められる。c は、b に半分以上切られており、残存径 1.1 m の半円部分のみの検出であった。遺物は非常に少なく、その性格は判断できない。SK2099 は、直径 1.6 m を測る略円形で、断面はやや崩れた逆台形状を呈する。深さ 0.8 m と深手の土坑だが、土砂で一気に埋められている。SK2161・2166 は重複しており、前者が後出である。2161 は、直径 0.7 m、深さ 0.4 m の円筒形小型土坑で、2166 が径約 1.5 m のやや歪な楕円形土坑である。前者は、円礫混じりの砂で埋まっている。SK2149・2160・2167 は重複しており、2149 が最下位である。2149 は、長径 6.0 m、短径 2.6 m を測る大型楕円形土坑である。深さ 0.6 m の内、肩部付近を除き、殆どが砂の堆積で埋没している。特に、西側肩部は緩傾斜であり、その傾斜に合わせて州浜状に円礫が敷き詰めであった。また、陶器製の中裏 1 固体分に近い破片がまとまって出土しており、その場で割ったようである。おそらく、導水路は確認できないが、池である可能性も考えられる。SK2160 は、長径 1.55 m、短径 1.2 m の楕円形を呈し、深さ 0.6 m を測る。断面逆台形で、ほぼ粘性土で埋まり、最下層には腐植土の堆積があり、塵芥処理土坑と考えられる。SK2097 は、長径 2.4 m、短径 1.65 m の略楕円形で、深さは最深部で 0.66 m を測る。底部は、西側が直で落ち、中央付近から東側へなだらかに上がっていく形状である。その深い箇所に腐植土が溜まり、その上を厚い砂が覆っていた。SK2033 は、長径 2.6 m、短径 1.45 m の楕円形状を呈しているが、2 つの土坑が重複している。両者とも深さ 0.3 m 程度だが、湧水が非常に激しい地点であった。SK1006 は、直径 1.6 m の円形で、SK1007 を切っている。深さは 0.26 m 程度で、小礫を多く含む土砂で埋まっており、隣接する SK2161 と類似性がある。SK1014 は、直径 1.7 m 程度を測る円形土坑で、SE1011 に切られている。半分ずつ異なる土砂で埋めるといった特異な埋まり方をしている。下層は砂で湧水が激しく、周りの地盤が崩壊していったことから、掘削を断念した。SK1016 は、直径約 1.8 m の崩れた範囲に、凝灰含炭材を投げ込み地盤を固めた範囲であろう。

#### (4) 溝

SD2017 は、南北軸に合致した溝で、南端は土坑に切られているが、全長 9.5 m に渡って検出された。幅 1.1 ~ 1.5 m の直線的な溝で、断面逆台形状を呈する。下層は粘性土で埋まっており、出土遺物は少ない。SD2018 も南北軸に合致する溝で、幅 0.4 ~ 0.55 m、深さ 0.1 m 程度の痕跡を確認したに過ぎない。しかし、想定区画を跨ぐことから、最初期の遺構の可能性がある。SD2006 は、東西軸に合致した溝状遺構で、町屋 8 の SD2005 と類似性の高い遺構であり、設置された位置も似通っている。SK2148 に切られているが、長さ 3.5 m 以上、幅 1.8 m を測る。深さは 0.18 ~ 0.26 m を測り、南側がやや浅い。西寄りの箇所では柄杓など木製遺物が出土している。その下層木製遺物の直上に、粘性の非常に強い粘土層が水平にあり、その上を砂で埋めた状態であった。SD2019 は、北西方向の直線的な溝で、SK2072 に東端を切られるが、長さ 5.0 m に渡り検出されている。幅は 0.4 m 程度で一定しており、深さ 0.17 m を測る。この方向の溝は、本調査では特異な存在であるが、下層に腐植土の堆積が認められることから遺構と判断した。遺物は皆無だが、下位遺構といえるだろう。SD1014 は、泥川東岸に併走する溝であり、SD1012 に切られている。長さ 6.0 m、幅 0.6 m 以上、深さ 0.2 m である。砂質土で埋まっており、泥川と町屋を連る施設の痕跡であろうか。

#### (5) 整地・造成痕跡

SX2014 は、I・J 23・24 Gr 境付近で検出された、南北 3.5 m、東西 6.0 m の範囲における複雑な窪地を埋めた整地・造成痕跡であろう。その落ち込みの単位に合わせて a ~ d の範囲に分けている。深さ 0.1 ~ 0.2 m の痕跡のみで、d 付近に砂が確認される以外は、概ね粘性土で埋まっている。SX2011 は、東西 2.0 ~ 5.0 m、南北 8.5 m にも及ぶ、砂質土の分布範囲である。町屋想定区画を超えて広範囲に認められることから、町屋区画が成立する以前のものであろう。SX1013

は、泥川沿岸部の造成痕跡である。粘性土で埋まっており、中央部がやや落ち込んでいた。

## 11. 町屋 10 の遺構

### (1) 概要

北を残存凝灰岩壁とし、南をSD2012までとする区画である。SD2012の延長線上は、遺構の空白部分があり、敷地境である信憑性は高いと考えている。ここでも、井戸の掘削が非常に多く、明確に認識されたものでも5基以上あり、J・KGrに集中している。特に、小径のものがみられるのが特徴で、それらを含めた集中度合いは、町屋区画の中で随一である。また、想定区画を跨いで位置するSE2003などは、上記想定区画が再編成されたあとのものであろう。

なお、IGr中央の造成痕は、ここでは不整形な土坑が連続する形態で存在している。しかし、一定の軸や幅に規則的に取まっていることから、何らかの区画に伴う痕跡と理解しておきたい。また、SD2016のように区画の枠を超えるものもあり、想定区画成立以前の整地・造成痕跡であろう。

### (2) 井戸

SE2014は、直径1.25mの円形掘方で、井戸本体は北西寄りに設置されている。井戸枠は結桶式であり、20枚のくれ板から成る。井戸内部は、直径で0.64mを測り、内部及び掘方ともほぼ砂で埋まっている。この井戸は、凝灰岩切石の長方形材を2枚底板として敷き、その上に桶を置いていた。また、井戸内部も最下層に円礫層を設け水質の浄化を図るなど、丁寧な作りといえる。SE2015は、長径2.65m、短径2.1mの大型楕円形掘方で、東よりに井戸本体が設置されている。井戸枠は既に抜き取られており、復元内径で0.64mを測るが、既に歪んだ状態であった。内部は、ほぼ砂で埋まっている。掘方としたものは、抜き取り穴かもしれない。SK2012は、長径0.9m、短径0.66mを測る楕円形小土坑として検出されたが、結桶のタガが残存していたことから井戸であることが分かった。タガの復元内径で0.6m程度であるとみられ、掘方の小さいものである。井戸は、円礫や凝灰岩屑を含む粘土で埋まっており、溜め井戸であろうか。SE2010は、長辺1.8m、短辺1.5mの長方形掘方であるが、北端部はテラス状となっている。内部の直径1.6mの円形部分が井戸設置に関わる土坑である。井戸本体は北よりに設置されている。井戸枠は既に抜かれており、タガのみが残存した状態であった。内径で0.6m前後に復元される。掘方埋土は、地山を掘った土砂をそのまま使用したようである。SE2016は、長径1.75m、短径1.25mを測る楕円形掘方を持つ井戸で東寄りに井戸本体が設置される。井戸枠は結桶式で、25枚のくれ板から成り、内径で0.66m以上を測る。板は、折り取らずに残されたものであり、長さ0.7m以上の長大なものであったことが分かる。内部は埋めた砂を除去すると、粘性土の堆積があり、その下は厚い円礫層となっていた。井戸枠に近接して竹が一本直立していたが、枠内を外れていた。これは、井戸枠と同様に傾いていないことから、井戸設置時ではなく、直ぐ脇に新たに近現代井戸が掘削されたことと見るべきではないだろうか。

### (3) 土坑

SK2052は、長辺1.5m、短辺1.0m、深さ0.45mを測る楕円形井戸である。南側は、テラス状となっており、中央部が深くなっている。その落ち込む部分にはタガが残存しており、内径0.64mに復元できる結桶式井戸枠が設置されていたと考えられる。また、井戸内部に該当する埋土には貝殻が含まれている。SK2051は、直径1.1～1.2mの略円形土坑で、2段掘り状に中央部分が落ち込んでいる。中央の落ち込み部分で径0.72m、深さ0.55mを測る。内部には円形に細い枝材を等間隔に突き刺しており、横木も渡してあった。壁の補強か、特殊な構築物かは分からないが、井戸の可能性もあろう。SK2054は、長径1.2m、短径0.85m、深さ0.48mを測る楕円形を呈する。中央に円筒形に落ち込む部分があり、断面上で0.45m～0.55mに復元できる。最下層に腐植土の溜まりがあり、井戸の可能性もあるがタガなどの痕跡はない。SK2115は、最大径1.2m程度を測る楕円形に復元可能な土坑である。同様に円筒形に深くなる部分があり、深さ0.7mを測る。底には



腐植土が堆積していることから、井戸の可能性も考えられる。SK2055も、直径1.0mの円形を呈し、中央に落ち込み部分のある土坑である。内径で0.5m、深さ0.5mを測る。下層に腐植土の堆積があり、井戸の可能性がある。下底より行火（バンドコ）片が出土している。SK2050は、直径1.7m、深さ0.4mを測る円形である。南西寄り落ち込みで、北東側は掘方であったようだ。落ち込み部は砂で埋まる。SK2070は、長径1.5mのやや形の歪な楕円形で、底が凸凹した不整形土坑である。深さは0.46mで、礫や木材の廃棄土坑である。SK2059・2131・2130・2037・2038は前述のIGrで南北軸に連なって位置する土坑状遺構である。SK2059は、長径1.9m、短径1.5m、深さ0.25mで、粘性土で埋まっている。SK2131は、2030より下位であり、粘性土で埋まる。SK2030は、長径1.5m、短径1.4m、深さ0.5mを測り、土坑と考えられる。北側と東側がテラス状になっており、南西部が直径約1.1mの円筒形上に落ち込む。埋土は砂質土で、埋めた後に板材を差し込んでいた。SK2038はSK2030・2131の上位で検出された落ち込みである。長径2.0m、短径1.7mを測る不整形な落ち込みで、底面も凸凹している。埋土は砂質土であるが、上層部分はSK2037と一体的に埋められていた。SK2058は当初、長径1.8m、短径1.35mの楕円形で、深さ0.35mを測る、ほぼ砂で埋まる土坑とみられた。しかし、西寄りに径0.8mの落ち込み部分が検出され、タガや取り残した結桶のくれ板が残っていたことから、井戸であることが判明している。SK2018は、長径2.0～2.1m、短径1.5～1.6mを測る、やや歪んだ楕円形を呈する。深さ0.45mを測り、円礫や凝灰岩屑を含む粘性土で平均に埋められている。土坑北西部分より、竹筒が直立した状態で検出されており、類例から井戸である可能性が高い。やや歪な形状は、井戸抜き取りの際に生じたものと推察される。SK2034は、長径1.6m、短径1.25m、深さ0.2mを測り、西側がテラス状となった楕円形土坑である。粘質土で埋まっていた。SK2039・2017は重複しており、2017が上位遺構である。SK2039は、残存径1.2m、深さ0.34mを測る円形を呈し、粘性土で埋まっている。SK2017は、残存径で1.95mを測るが、中央の円筒形部分が全く異質の凝灰岩材を多量に含む土砂で埋められていた。その部分の径0.85mを測り、おそらく井戸であった可能性が高い。内部に落ち込んでいた凝灰岩材破片から、そのくり抜き材を井戸枠として使用していたことが推察される。SK2016は、残存径約1.2mを測る略円形土坑であり、砂で埋められていた。円礫を土坑の壁面に隙間無く貼り付けた状態で検出されている。おそらく壁面の崩落を防ぐための補強と考えられる。SK1036・1035は重複しているが、SK1036は長辺3.0m、短辺2.0mに及ぶ範囲を完整地形成した痕跡と考えられる。そこを掘り込む形で、SK1035が存在する。長径1.4m、短径1.2mを測る楕円形を呈するが、深さは僅か0.1mのみであることから、上位遺構と考えられる。SK1033・1032も重複しており、1033が上位遺構である。SK1033は、直径1.1mの円形で、深さ0.55mを測る。壁面は直立するタイプの土坑であり、最下層に砂を入れ、その上に粘土を平均的に被せて埋められていた。SK1032は、残存径で1.2mを測る土坑とみられるが、深さ0.1mと浅く礫が面的に広がりをもって検出されており、何らかの造成に伴うものかもしれない。SK2018は、全長1.5m、最深部で深さ0.14mを測る溝状遺構である。泥川沿岸部に位置し、SD1014の延長線上に位置していることから、護岸や地境など同様な意味を持つ遺構の可能性もある。

#### (4) 溝

SD2016は、北西-南東軸の溝状の痕跡である。遺構の重複により全体は不明だが、長さ6.0mに渡って検出された。幅1.2～1.5mで推移し、町屋9側で幅約2.8m以上に広がっている。粘性土で埋まっているが、完整地形成痕跡の可能性もあろう。SD2012は東西軸に合致する溝であり、区画の根拠にしたものである。全長3.2m、幅0.45～0.65m、深さ0.14～0.22m程度である。中央より東側が一段低くなっており、粘性土の堆積が認められる。SD1013は、調査区端で検出したため溝としたが、おそらく土坑であろう。長径2.2m以上、短径1.1mを測る楕円形に復元される。上位遺構とみられ、砂や粘性土で埋まる。深さ0.2m程度を確認したに過ぎないが、陶磁器片がまと

まって出土している。

#### (5) 整地・造成痕跡

SX2013は、想定町屋境とした凝灰岩壁の直ぐ南側で検出された、南北2.6m、東西2.0mの範囲を整地・造成した痕跡と考えられる。

## 12. 町屋11の遺構

### (1) 概要

北をSD2012、南をSD2010までとする区画である。南北軸に沿ったSD2014の南端とは延長線上で直角に交差しており、両者で何らかの区画を示すのであろう。ここでは、町屋10と比較して、遺構密度がかなり低くなることが特徴である。目立った土坑も少ない。井戸は、明確に井戸枠が検出されたものはないが、SK2019やSK1039が形態からその可能性が高い。敷地の東半と西半に1基ずつと、井戸の数も明らかに少ない。よって、町屋区画として成立するのかが疑問が残るが、ここでは地境遺構を重視することとした。

なお、IGr中央の造成痕は、ここでも不整形な土坑が連続する形態で存在している。

### (2) 井戸

SK2019は、直径2.0mの円形土坑であったが、中央に深い円筒形部分が検出されたことから井戸と認定したものである。また、湧水も非常に激しかったことから裏付けられる。井戸本体及び掘方は、ほぼ砂で埋まっており、掘削途中の崩落を止めることはできなかったが、深さ約1.0mまで調査した。円筒形部分は土坑中央にあり、断面図復元で直径0.52mを測り、井戸枠は既に撤去された状態であり、そのために坑が広げられた可能性がある。結核、凝灰岩削り抜き材とも明確な残留物はなく、判断ができない状況である。SK1039は、長径1.46m、短径1.39mの略円形土坑で、東よりに円筒形部分が検出された。この土坑も、形状及び湧水の激しさから井戸と認定したものである。湧水により壁面崩壊したため、断面図は下位まで実測できなかった。井戸枠は既に抜き取られていたが、円筒部分を埋めた砂中に凝灰岩礫を多量に含んでいることから、その削り抜き材ではないかと想定される。円筒形部分は、復元内径で0.9～1.0mを測るが、枠自体は通例の0.6m前後のものであったと考えている。また、想定枠内からは、木製品も出土している。内部は、ほぼ砂で埋まっており、土坑自体は抜き取り穴かもしれない。

### (3) 土坑

概要にも記述したとおり、明確な土坑は少ない区域である。SK2036・2035は、IGr中央部の造成痕跡であり、南北に連なって検出されている。SK2036は、長辺2.35m、短辺1.55m、深さ0.2mを測る長方形である。内部はやや歪であり、南東隅部は、テラス状となっており、北西隅部が深くなる形状である。その落ち込む部分は深さ0.3mを測り、当初からこの形状であったようだ。内部はほぼ砂で埋まっており、深い部分には粘性土も認められる。SK2035は、長辺2.1m、短辺1.9m、深さ0.25mの不整形土坑である。底面は比較的平坦に造作され、南端部は、西側のみ壁面の傾斜が緩やかな溝状を呈する。北側の土坑部分は、西辺が非常に直線的である。内部は、ほぼ砂で埋まる。SK2035との境は、盛土によって造作されたものであった。この両者の不整形な形態からは、工作物の除去痕などが考えられる。SK2010は、長径2.1m、短径0.8m、深さ0.2mを測る溝状の土坑である。底面は平坦であり、粘性の乏しい土砂で埋まる。おそらく、上位遺構である可能性が高い。SK1054は、長径1.0m、短辺0.8mを測る略楕円形を呈する。埋土は、砂層の上に粘性土が被さるものであり、円礫や凝灰岩屑が多量に含まれていた。深さ0.12m程度であることから、上位遺構の下底部分という可能性もあろう。

#### (4) 溝

SD2015は、北北西-南南東軸の溝状の痕跡で、長さ4.0mに渡って検出された。幅0.3m、深さ0.1m程度の痕跡である。東西軸や南北軸に合致しない溝は、本調査区では特異な存在である。地山とは異なる粘土で埋まっており、簡便な排水を意図したものであろうか。SD2014は東西軸に合致する溝であり、全長2.35m、幅0.8m、深さ0.12~0.28m程度である。ただし、南端部分約1.6mは、幅を1.3mに広げた状態であった。また、中央及び南北西端部分には、土坑状(ビット状)に落ち込む部分があり、布掘柱穴のような形態である。埋土に共通性がみられ、粘性土で埋まるが、北端のみ上層に砂が使用されている。前述の通り区画や、建物の基礎抜き取り痕などが考えられる。SD2010は、東西軸に合致した溝であり、長さ5.3m、幅0.8mを測る。西端部分は、一段高いテラス状を呈している。b断面付近では、最下層は地山粘土ブロックを多く含んでおり、掘り返し土が使用されたのであろう。

#### (5) 整地・造成痕跡

SK1030は、泥川の直ぐ東側で検出された、南北2.2m、東西2.8mの範囲にクランク状に検出された落ち込みである。炭化物や木質を含む粘性土で埋まっており、整地・造成痕であろうか。

### 13. 町屋12の遺構

#### (1) 概要

北側のSD2010から調査区南端までとし、区画は調査区外まで伸びる。前項の町屋11とは異なり、遺構密度が再び高くなることが特徴である。特に、町屋東半にあたるJ・K27Grにおいて重複して土坑が掘削されている。ただし、井戸については、町屋11と同様の傾向があり、敷地の東半と西半に1~2基ずつと少ない。加えて西半の井戸は、泥川縁辺部に掘削されることも共通している。IGr中央の造成痕は、ここでも不整形な土坑が連続する形態で存在している。また、SX2010・2012のように、想定町屋区画を越えて広がる整地造成痕が検出されており、初期段階のものと同推察する。

#### (2) 井戸

町屋東半には、明確に井戸と断定できる遺構はないため、ここでは西半の2基について報告する。SK1050は、長径2.2m、短径1.75mの楕円形土坑であったが、中央に深い円筒形部分を検出されたことから井戸と認定したものである。井戸本体は、中央やや東よりから検出されており、断面図復元で直径0.8mを測る。深さ約0.7mまで調査したが、井戸枠は既に撤去された状態であり、砂で埋没した状態であった。井戸枠は、結核、凝灰岩割り抜き材とも明確な残留物はなく、判断ができない。SK1051は、長径1.85m、短径1.6mの楕円形土坑で、ほぼ中央部に落ち込み部分を検出された。その落ち込み部分から竹筒が突き刺さった状態で検出されたことから、井戸と認定したものである。井戸枠は既に抜き取られており、そのため円筒部分は長径1.05m、短径0.55mの楕円形に歪んだ状態であった。調査確認面から深さ0.6mで底に到達しており、上位遺構と考えられる。井戸本体は砂で埋まっており、凝灰岩礫を若干含むが、井戸枠材の断定はできない。

#### (3) 土坑

SK2096は、調査区東端に位置し、東半分は調査区外である。長辺1.2m、深さ0.15mを測り、上位遺構であることが予想される。SK2031は、一辺1.2~1.3mの略方形で、深さ0.1m程度の確認であるが、底部が段状に落ち込む。形状的にはSD2014に近いと考えられ、延長線上に位置することからも、両者の関係に意味があるのかもしれない。SK2090は、調査区南端に位置し、確認された大きさで南北1.5m以上、東西3.0mを測る大型土坑である。西よりに位置する底面は比較的平坦に造作され、東側はスロープ状の緩やかな傾斜となっている。下層には腐植土の堆積

が認められ、一時的な塵芥処理土坑であろうか。SK2092・2093・2079は、重複して検出された土坑群である。SK2092は、確認径0.85m、深さ0.26mを測る断面逆台形の円形土坑と予想される。粘性の乏しい土砂で埋まり、下層には木片や凝灰岩屑が含まれていた。SK2093は最も先行する土坑で、確認径0.88m、深さ0.52mを測る円筒形を呈する土坑と考えられる。底面は平坦で、下層に腐植土の溜まりがあり、木製品や円礫が含まれている。小規模な塵芥処理土坑と考えられる。SK2079は、長径2.05m、短径1.2m以上の3基の中では大型の楕円形土坑である。深さは0.35m程度だが、断面上で両側に掘方が存在することが分かった。中央部分は、直径1.3mの断面台形に復元される。その部分は全て腐植土であることが特徴で、円礫や凝灰岩屑を多く含んでいた。長期間空いていたことが想定され、塵芥処理土坑ではなく井戸の可能性も考えられる。SK2030・2032・2091は、IGr中央部に位置する土坑状遺構である。SK2030・32は、約2.6m四方の範囲に広がる落ち込みで、浅く平坦な部分を2032、ピットや溝状に落ち込む部分を2030とした。両者は、ほぼ砂で埋まっており、2030の落ち込み部にのみ粘性土がみられる。やはり、通常の土坑というよりは、構造物などを撤去したあとの痕跡とみるべきであろう。それに対し、SK2091は、長径2.8m、短径1.1m以上の楕円形を呈し、深さは0.3mを測る。下層には、粘土や腐植土があり、こちらは土坑とみるべきであろう。ただし、深く落ち込む部分は直径1.5m程度あり、円礫を含む上層部分が一連の造成痕跡と判断すべきかもしれない。

#### (4) 整地・造成痕跡

SX2012は、調査区東端で検出された、南北5.3m、東西3.4mの範囲に検出された落ち込みである。南北両短部に土坑状にやや深くなる部分があり、北側をa、南側をbとした。炭化物や陶磁器片を含む粘性土で埋まっており、整地・造成痕である。SX2010は、町屋区画西側において、約7.5m四方の範囲において確認された整地・造成痕である。水圧による地山崩壊（液状化）が起こり、土層や形状は把握しきれなかったが、砂や粘性土が使用されたようである。SD2010の直ぐ西側、想定町屋11と12の地境付近から、土坑状に落ち込む部分が出された。直径約1.7mの略円形だが、周縁部は浅いテラス状で、中央部分に落ち込む箇所が検出されている。直径0.75m程度であり、深さ0.32mを測る。下底から、木杭など木片が出土している。

## 第4節 道路地区

### 1. 概要

現代の県道から折れ、霞島神社方向に向かう道路の直下より江戸時代の道路遺構が検出されている。絵図にも常に記載されるものであり、主要街道である北国街道から小松城の方向へ向かう東西道である。現代まで維持された道路であることから、後世の改変が著しい。よって、下水管などの地下埋設物設置工事により殆どが破壊された状態であった。ただし、県道に近い部分は、現代の嵩上げ工事により、厚く盛土された部分であったことから、東端より2.5mのみ比較的良好に確認することができた。

### 2. 道路遺構 (SF01)

道路確認面の標高は1.5m前後で、約28m西側では1.3mとなることから、約4.5°の傾斜角で下がっていることとなる。路盤は3面確認している。道路幅は、第2・3面路盤で約1.5m、第1面で約1.9mを測る。路盤は、砂を基盤とした土で堅固に突き固めた状態である。ただし、最初の第1面のみ、砂に礫を多く混ぜていた。第1面は中央部に穴があいたようで、砂で埋めた上に第2面が舗装されている。県調査区で検出された北国街道の路盤は、手斧で叩き割るほどの固さであったそうで、この道路の路盤にはそこまでの強度はなかった。

### 3. 側溝

道の両側には側溝が敷設されており、南側SD30、北側SD31・07が該当する。両側側溝幅を含めると道幅は約3.2mに復元される。側溝幅及び深さは、SD30が幅0.9～1.0m、深さ0.4m、SD31が幅0.7m、深さ0.4mと規模に共通性がある。側溝は常に維持管理が行われていたのか、砂質土で下底より埋められた状態であった。D08Gr以西の北側側溝と考えられるSD07は、幅1.5m、深さ0.5～0.6mと規模が大きくなっている。おそらくSD06がその直前で合流したと推定されることから、排水の処理能力を向上させる必要があったのであろう。下層には粘質土が堆積しており、常に水が滞留していたと考えられる。

## 第5節 泥川地区

### 1. 概要

泥川は、小松城の東側外堀と総構えとみられる新町堀の中間に位置する。南北軸に約650mにわたり掘削された人工の堀である。その泥川を挟んで、西に侍屋敷、東に町屋が配されており、両者を分ける境界の機能と武家町の防衛を意図したものと考えられる。さらに、小舟による物資の輸送路兼ねていたことが、泥川へと降りる階段上遺構が3か所確認されたことからいえる。今回の調査では、その西岸部（町屋側）を検出しており、絵図通りの位置であろう。承応元年（1652）「加州小松城之図」には幅と深さの注記があり、「幅一三間、深三尺」となっている。メートル法に換算すると、幅約23.64m、深さ約0.91mとなる。調査区内では幅16～18m分が検出され、東岸は調査区外であり絵図記載の幅と対応した状況である。また、この水路の重要な機能としては、「生活排水路」の側面も考えねばならない。さらに生活排水だけでなく、塵芥処理機能も担ったことも調査結果より考えられる。ただし、梯川へ貫けない構造や、中央1箇所でのみ西側の泥町口堀と細い水路で連結する構造（※1）では、泥川の衛生状態はあまり良くなかったことが予想される。よって、生活用水は井戸を多用したのではないだろうか。

また、泥川は、町屋の土地利用にも影響を与えており、泥川に面するかどうかで大きな違いが確認できた。それは、泥川に面しない敷地では、塵芥処理のための廃棄土坑が敷地内に掘削されるのに対し、接している区画ではそのような土坑は掘削されていない。それは、前述のとおり泥川自体が塵芥処理場として利用されたためであり、遺物の出土量からも判断できる。一方で、川のほぼ中央付近から西側は、遺物の出土量が激減しており町屋側とは状況が異なっている。万治元年（1658）の利常の死後、多くの家臣が金沢へ帰り、天明6年（1786）頃と推定される「小松城内分間絵図」の段階に至っては、泥川西側の侍屋敷地が全て畠地と化している。いつの段階で畠地となったのかは判断できないが、侍屋敷が存在した時期は町屋に比べ短期であったことは間違いなく、このことが要因の一つといえるだろう。また、その出土量の差は、泥川が廃棄物を広範囲に移動させるほどの水流がなかったことを物語っている。

泥川は、19世紀代の絵図にもその描写があることから、廃城後に埋められたものと考えている。埋没後に各町屋が西側へ敷地を拡大していったことが、地境とみられる南北溝や石列が徐々に西側へ展開していく様子から確認できる。ただし、東岸から約10～11m地点に設置された各町屋共用の近代排水路を超えることはなく、この地点が明治維新後の行政により決定された地境ラインなのであろう。このラインはかさ上げされた現代（調査要因の工事後は除く、以下同じ）にも引き継がれるものであった。また、その近代排水路西側の区域は、土地利用の痕跡は存在しない。現代にかさ上げされるまで、表層のみを利用する畑地か空閑地であった可能性が高い。

調査自体は、遺構プランの確認、沿岸部付近の掘削及び断面割り調査のみで不十分なものとなった。しかし、当初石垣などの明確な護岸施設の検出も視野に入れたが、そのような部分もなく水路や廃棄場としての機能が主であると判断されたことから、調査期間・調査費・掘削土量・膨大な地下水の汲み上げによる周辺の地盤沈下などを総合的に鑑み、石川県文化財課とも協議した結果である。以下、

北から想定町屋区画割に沿ってその特徴的な遺構を詳述する。なお、埋没し町屋区画拡張後の近世町屋と直接関係がないと判断される遺構については、この節に含め略述のみに留めたい。

## 2. 遺構

泥川は、町屋5以南に検出されている。埋没後の土地利用としては、SK64が下層に腐植層があり、溜め井戸の可能性がある。SK81は一辺2.0m、深さ0.25mの竅穴状遺構である。DE10Gr境の石列は、ある時点の地境を示す可能性がある。凝灰岩削り抜きの円筒は、横に並べたものはかさ上げ後の近代道路からの排水を流す暗渠排水である。この地点では沿岸部より8~9mにある排水のラインが前述の近代地境に対応している。縦に並べたものは近代建物の基礎である。現在でも梯川沿岸部である園町や上小松町の古い住居にみることができる。

町屋6では、東端から3mの地点で凝灰岩の石列が確認でき、若干ではあるが栗石とみられる円礫も存在することから、護岸施設の可能性がある。さらに6mの地点では、凝灰岩削り抜き枠が設置された近代井戸が掘削されている。泥川は、前述の暗渠排水施を境に、埋まり方に差がある。その地点より東側では厚い腐植土層の溜まりが確認されるのに対し、以西では粘性土とそれに腐植土が混在した薄い層が交互に確認され、最終的に粘性の少ない土で埋められている。埋められた時期も異なるとみられ、西側は溝状態を保っていた時期があったと考えられる。町屋区画の拡大とは別に埋められたのであろう。堀の下底面はほぼ平坦であり、地山は砂層である。深さは東端から4~6m地点で1.3m、7m付近が最深部で1.5m、西端付近で0.9mと、町屋側で絵図記載数値より深い傾向にあった。

町屋7付近では明確な護岸施設は確認されていない。東岸に接して結箱式井戸側を持つ井戸(SE1001)が掘削されているが、埋没後の遺構であろう。上面で確認された溝群(SD1001~04)は、町屋区画拡張過程に伴う地境や排水施設であろう。板と杭による護岸を施した部分も検出されている。町屋8でも引き続き石列や木材、溝による区画拡大の痕跡がみえる。特に、SD1006下底面には、幅約0.2~0.3mの長大な板材が敷設されており、護岸施設の一部と考える。同様の遺構は、町屋12まで連続して確認(SD1005・12など)されており、個人ではなく集団の総意で設置されたものであろう。特にSD1005・12は、砕石砂利で一気に埋められるという共通項がある。板材は厚み(6~10cm)のあるものであり、上部の積載物は全て除去されて不明であるが、胴木としての利用が考えられる。石材を除去した後に、砕石などで埋め戻したのではないだろうか。ただし、板上層の砕石・玉砂利層を含めた構造物の可能性もある。

町屋9のSD1012において、先行する井戸(SE1012)を潰し、凝灰岩製井戸枠上端を加工して設置していることから、泥川成立当初からは敷設されたものではないと判断される。また、町屋12では、板材の基礎にも玉砂利を使用していた。板の上部も玉砂利で埋めている点は、SD1005・12と同様である。町屋9では、階段上施設が検出された。凝灰岩製の板材を使用し、3段で約0.6mの高差がある。際下段は、円形で中央も円形に削り抜いた材を使用しており、趣向を凝らしたものとなっている。なお、中段の南側に切石列が続くことから、下段は水面下であったのかもしれない。東岸から約6m西方にあるSD1011は、町屋10まで続いており、杭と板材による護岸があり、区画拡大時の地境及び排水溝と考えられる。

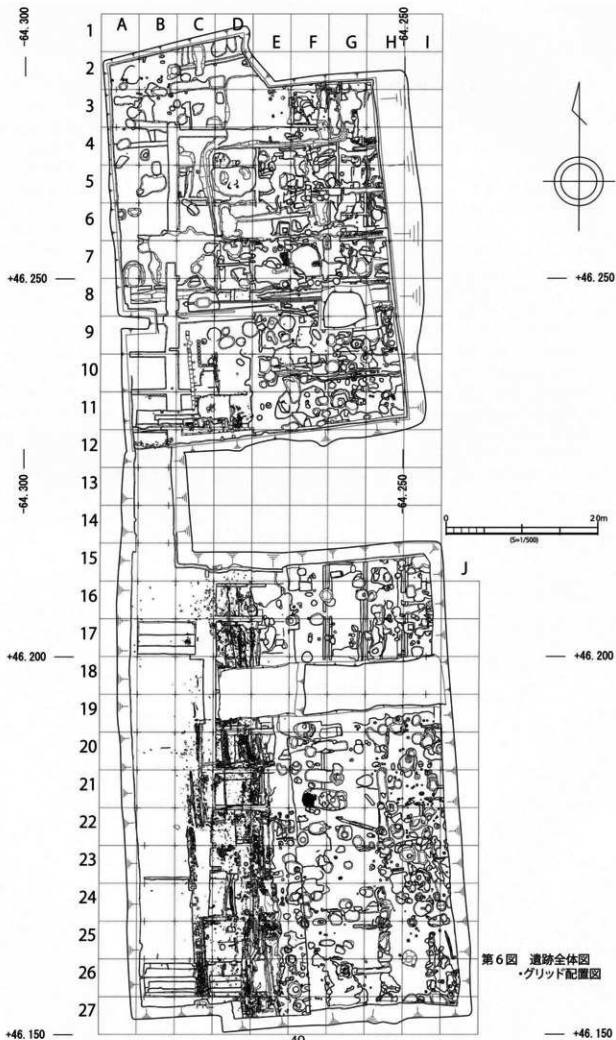
町屋10でも階段上施設が検出されており、位置的に町屋11と共用された可能性がある。2枚の板状石材を組み合わせただけの単純な構造で、最上段は土のままである。上段(土)と下段の比高差は0.4mを測る。その北西側には、土坑状に落ち込む部分が検出されている。前述の長大板材設置より先行する遺構と考えられる。

上面には、石列などの区画拡張の痕跡とみられる遺構も存在しているが、北東南の3方向を幅0.4m、厚さ0.2mの板材で足場を組んだ廃棄土坑が近代排水溝に接して設置されていた(SX1012)。いわゆるゴミ捨て場で、足場板内側長辺で6.2m、排水溝まで約3mを測る。誓願寺地区で確認された大型廃棄土坑の系譜上にある遺構と考える。南側足場板西端から南方に凝灰岩切石列が敷設され、調査区外に延びる。町屋11も同様に、石列が確認できる。町屋12では、階段状施設

が確認されている。基本的には3段構成であるが、上段と中段の間には2段小上がりが設置されている。3段目は、河川側を角材で土止めし、その内側を凝灰岩の削り粉を突き固めて硬化してあった。上段と下段の比高差は、0.35 mを測る。確認された階段状施設のなかで最も幅が広く、約2.4 mを測る。第1段目の石材が長大板材の上面に載っていることから、組み合わせられて設置されたものか、後出の遺構と考えられる。県調査区の例からみれば、硬化面の上に化粧石板が載っていた可能性も考えられる。拡張後に掘削された土坑（SK1037・38）は、廃棄物に偏りがみられた。前者は瓦で、後者は下駄である。特に後者では、直径0.8 m、深さ0.2 mの穴に10点出土している。

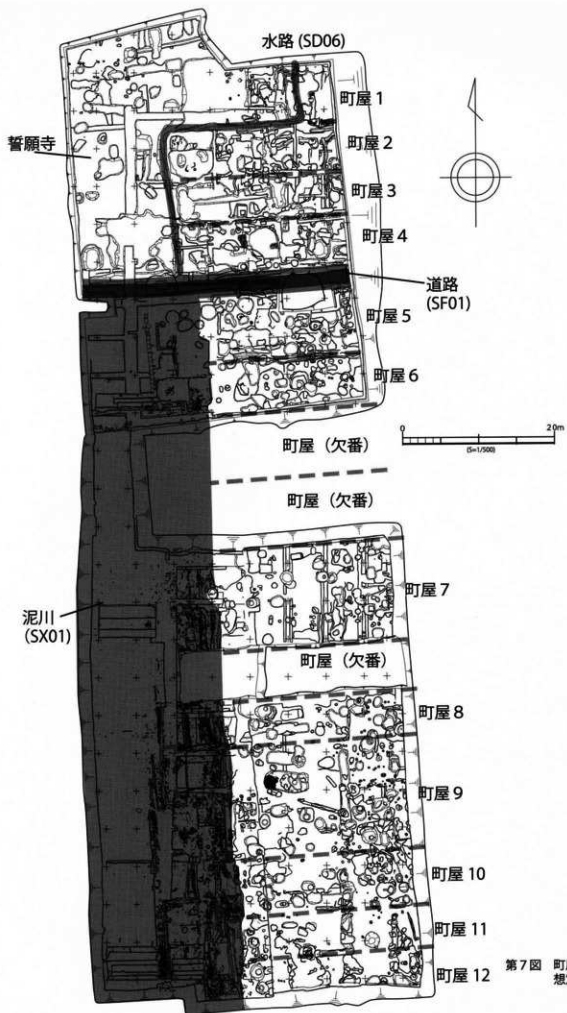
泥川について、中央部と南側の埋まり方を確認すると、近代排水路から町屋側の下層に腐植土層が溜まっている点は共通している。湧水が激しく確認できなかったが、17 Gr 辺りでは、東端から6.0～7.0 m付近で、0.9 m以上の深さに到達する。しかし、21 Gr では、下層に腐植土層が確認されていない。再び23～27 Gr では腐植層が確認されるようになる。24 Gr 付近で東端から2.0 mで深さ0.8 mである。26 Gr 中央部では、東端から約2.0 mでは、なだらかに下る肩部であり、そこから落ち込み、約3.0 mで深さ1.3 mに到達する。下層では腐植土、粘性土、腐植土の順で埋まっている。27 Gr では、それが腐植土、砂、腐植土の順に変化し、粘性土の堆積はみられない。その上位の腐植土堆積の上に新たな肩部の造成が成される。東端より2.7 m地点付近である。この段階の溝では、下層については近代排水溝以東でも共通した土層を確認できる。最下層は腐植土層で、粘土、厚い腐植土の堆積である。町屋側との埋まり方の差は、肩部の移動（町屋敷地の拡張）に起因するのかもしれない。ただし、上層部は近代排水溝を起点に差がある点は、この地点でも同様である。町屋側は、腐植土、砂層の薄い互層の後、砂や粘性の乏しい土で埋め、土坑など新たな掘削が確認される。しかし、西側では砂、粘土、砂の順で埋めた後、上位の掘り込みがみられないのである。深さは、東端から3.0 mで深さ1.0 m、4.0 m～7.0 mで深さ1.1 m、9.0～16.0 mより深さ1.2 m、16.0 mから再び深さ1.1 mに上がり、18.0 mで0.95 mと段階的に上がっている。極めて平坦でかつ人工的な下底部であり、砂地山であるが抉れた部分もないことから、水流が乏しく滞留した状態が想定できよう。

※1 新町掘とは連結していた可能性があるが、大規模なものではなかったと考えている。

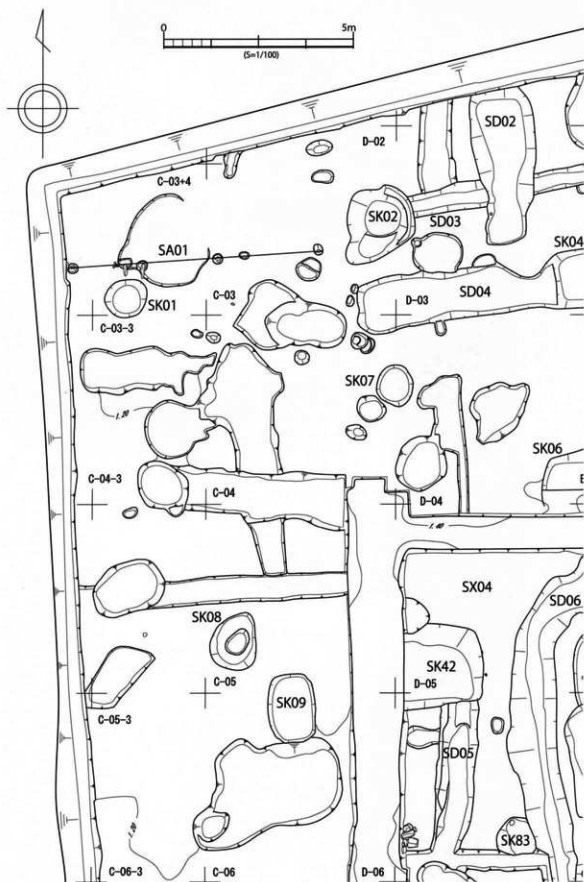


第6図 遺跡全体図  
・グリッド配置図

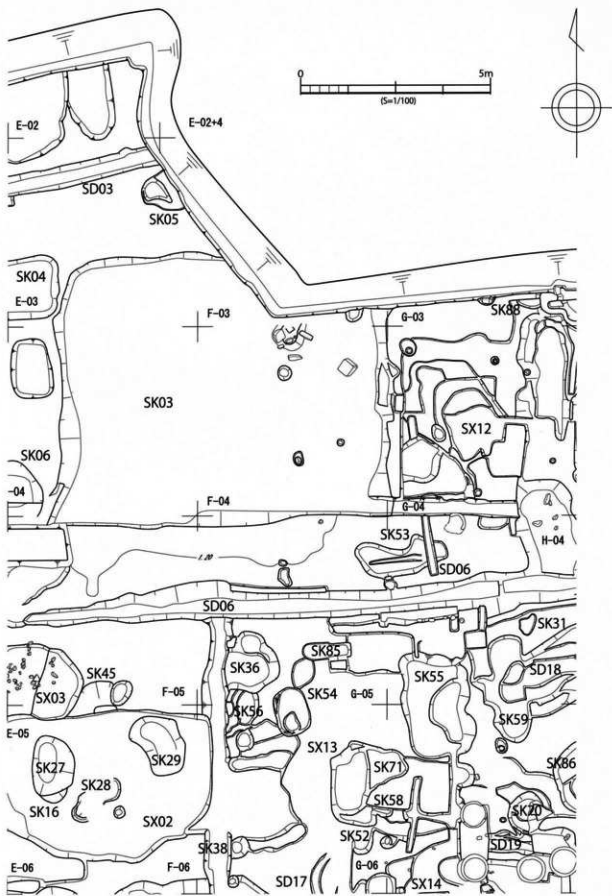




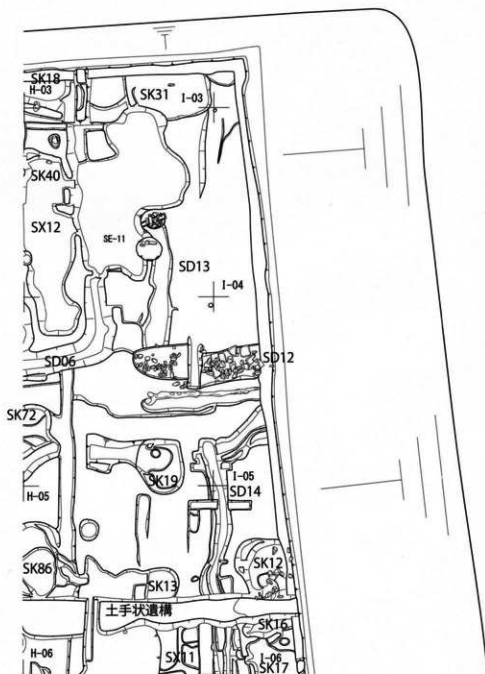
第7図 町屋区画  
想定図



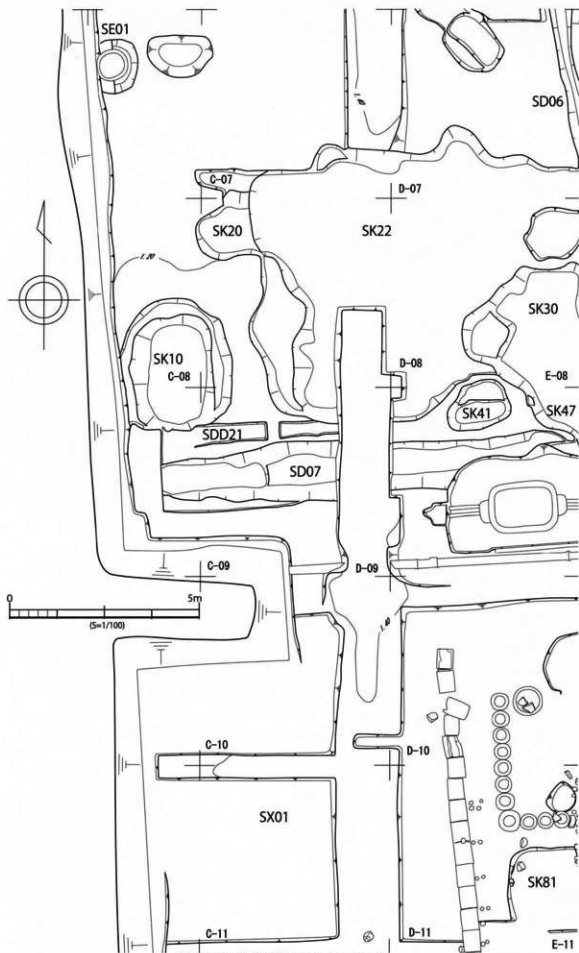
第8図 調査区詳細図1 (1/100)



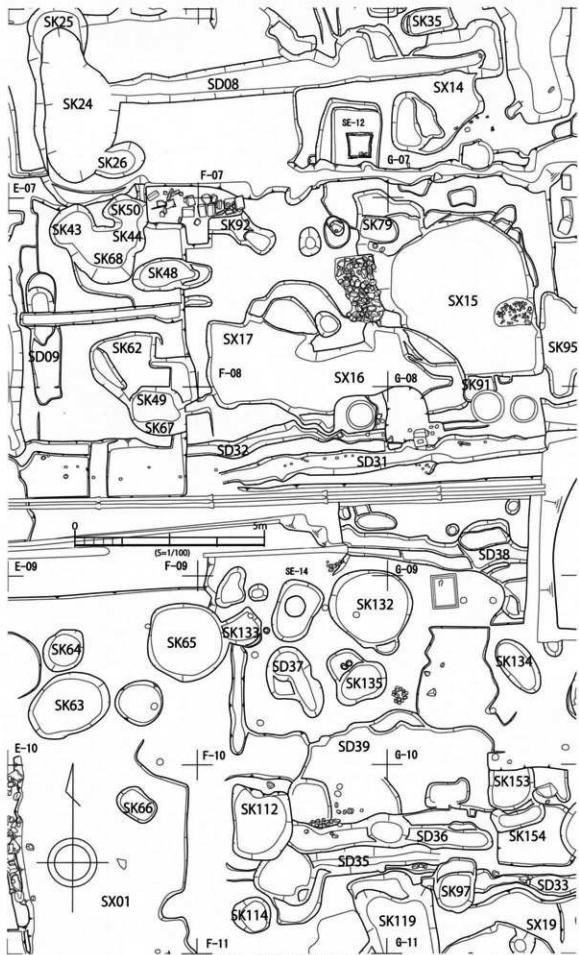
第9図 調査区詳細図2 (1/100)



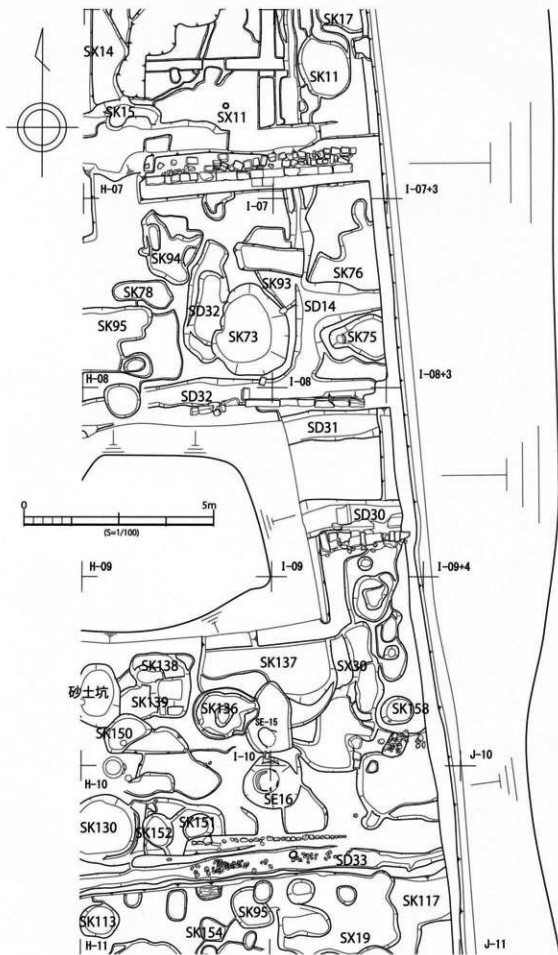
第10図 調査区詳細図3 (1/100)



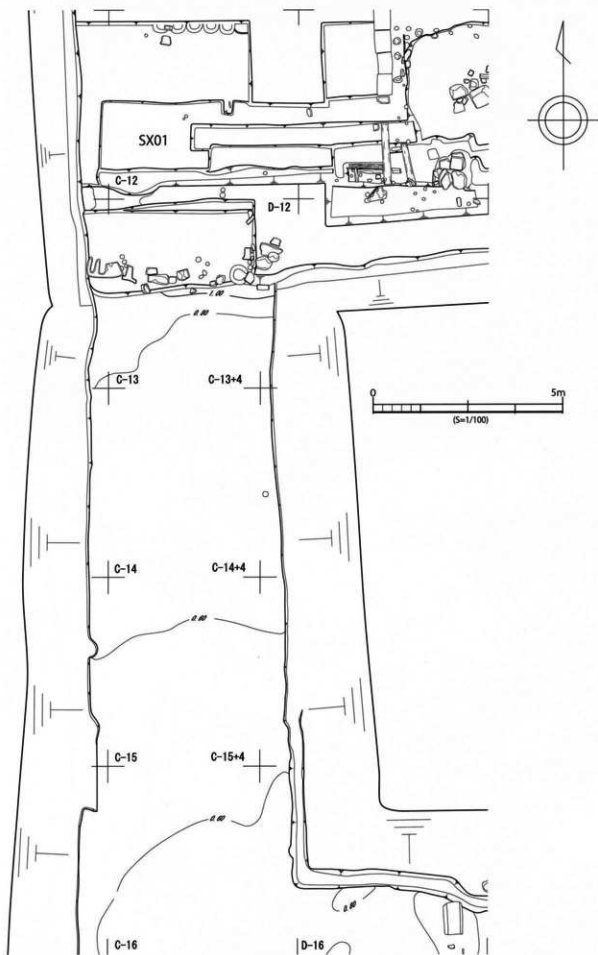
第11図 調査区詳細図4 (1/100)



第 12 図 調査区詳細図 5 (1/100)

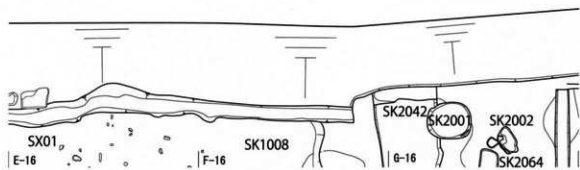
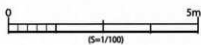
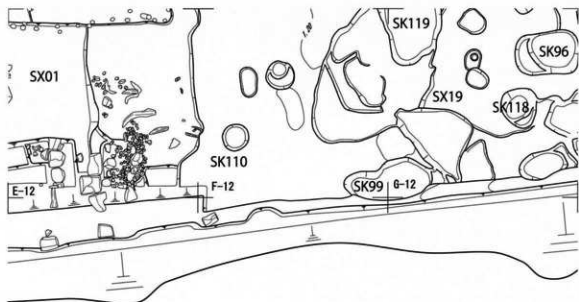


第13图 调查区详细图6 (1/100)

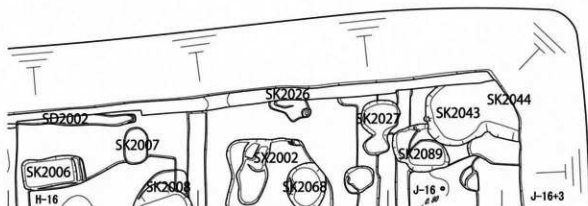
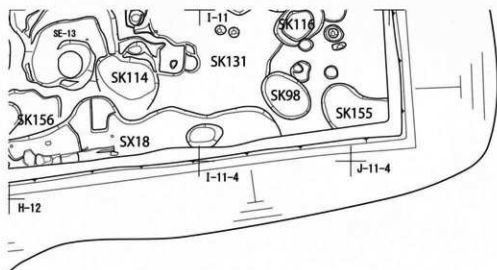


第14図 調査区詳細図7 (1/100)

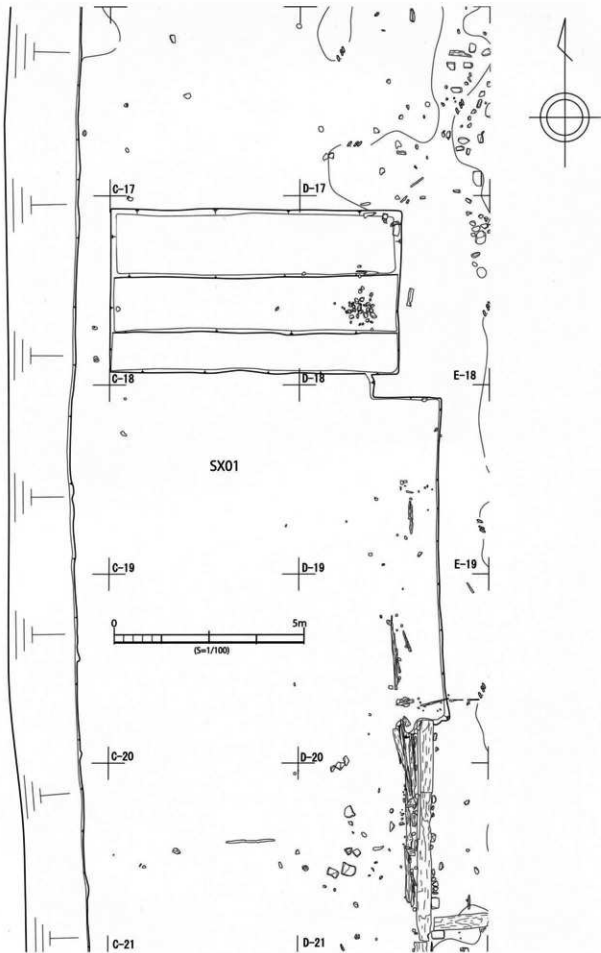




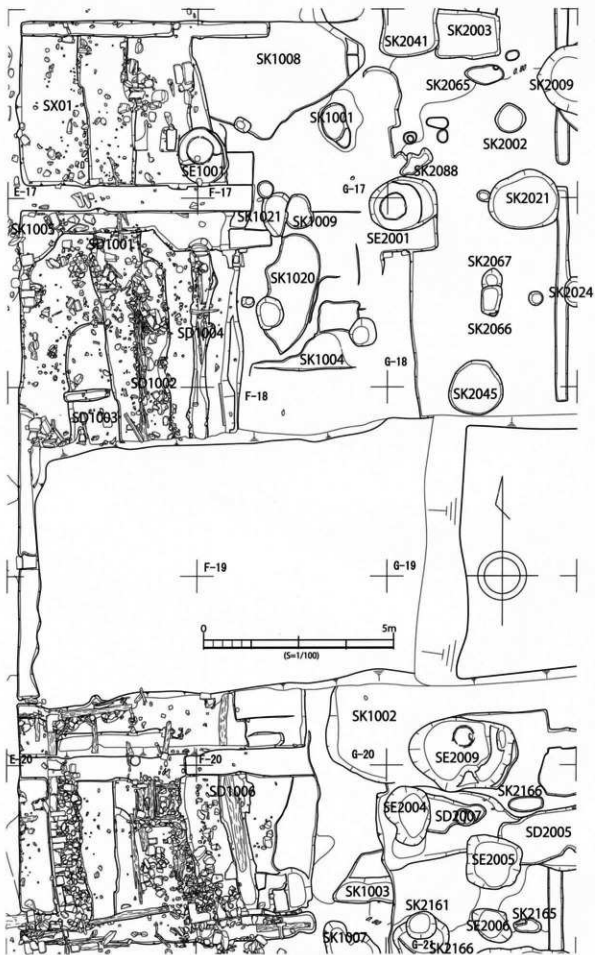
第15図 調査区詳細図8 (1/100)



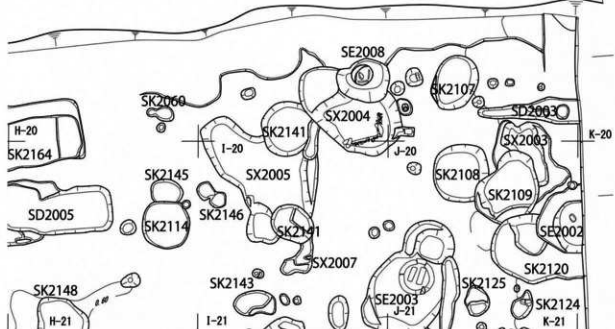
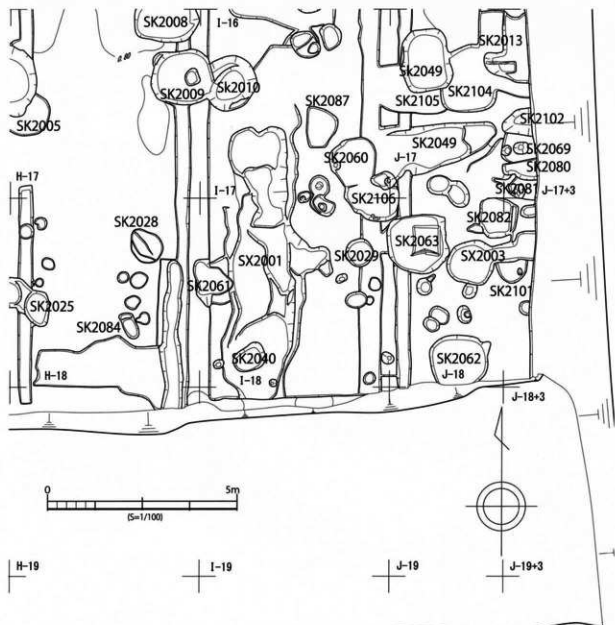
第16图 調査区詳細図9 (1/100)



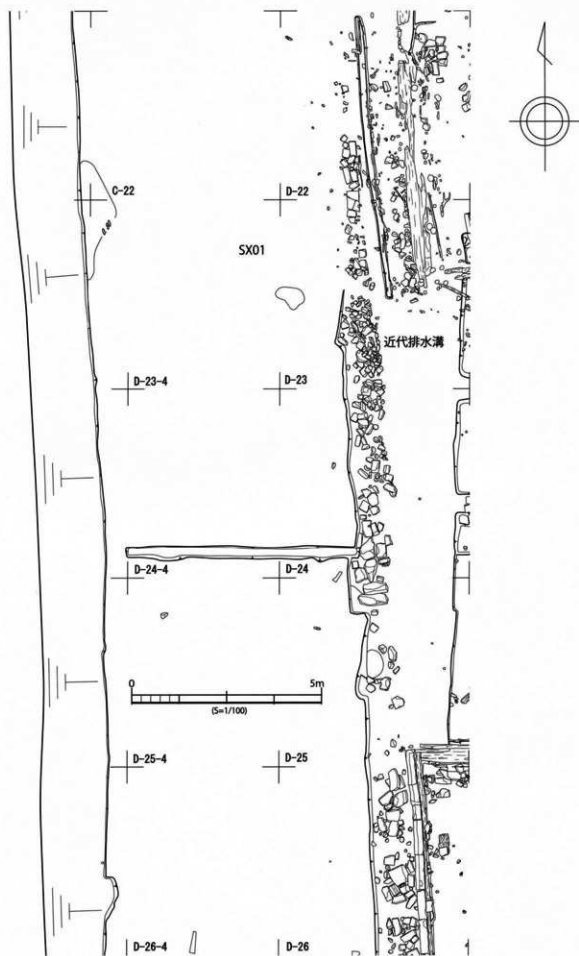
第 17 図 調査区詳細図 10 (1/100)



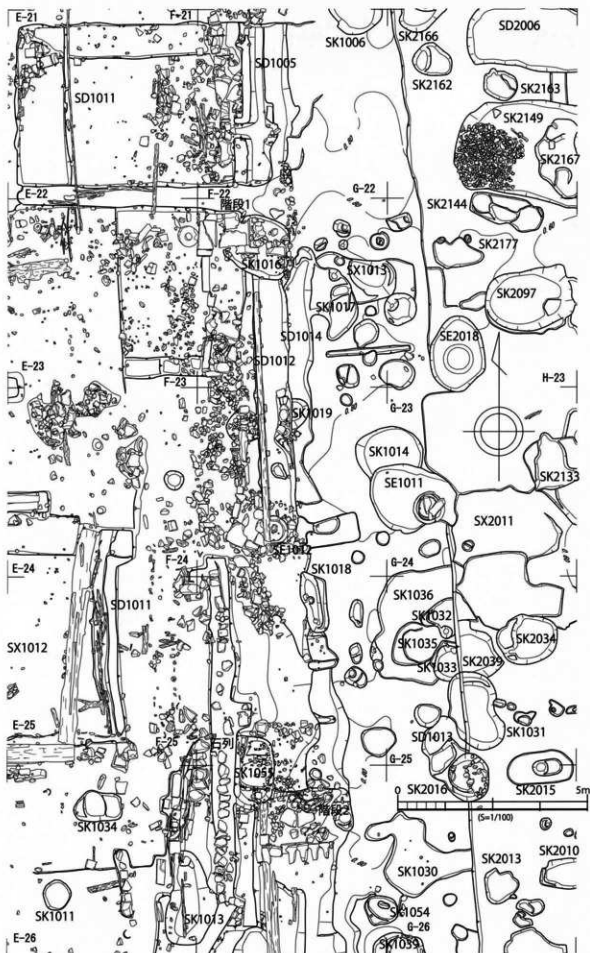
第 18 図 調査区詳細図 11 (1 / 100)



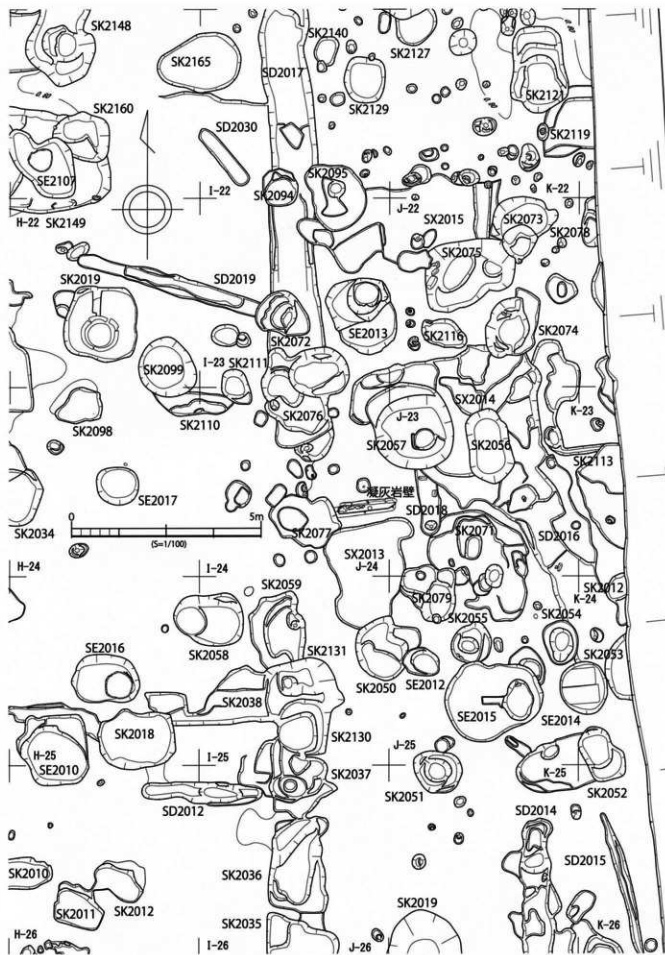
第19図 調査区詳細図12 (1/100)



第 20 図 調査区詳細図 13 (1/100)

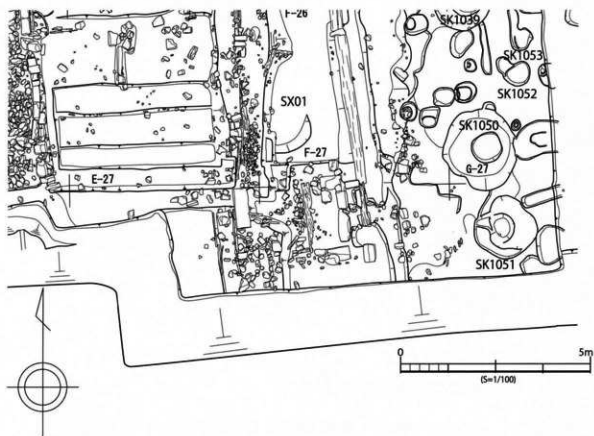
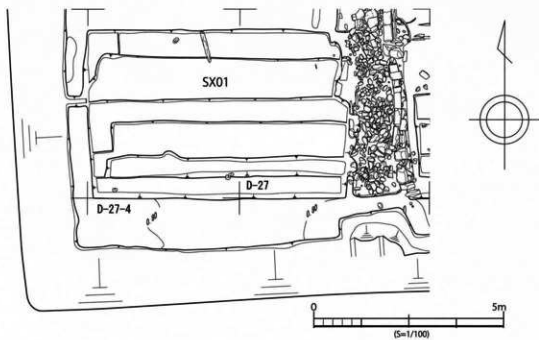


第 21 图 調査区詳細図 14 (1 / 100)

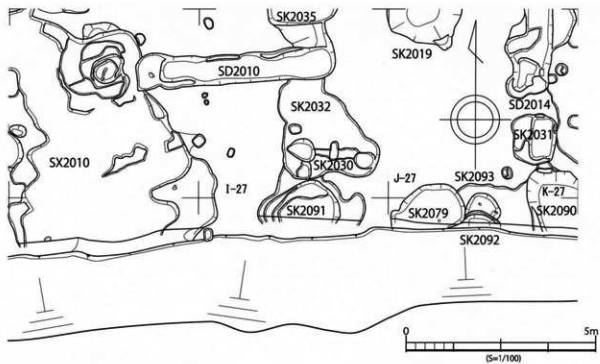


第 22 图 調査区詳細図 15 (1/100)

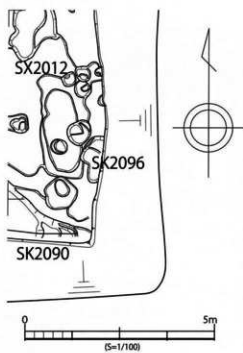




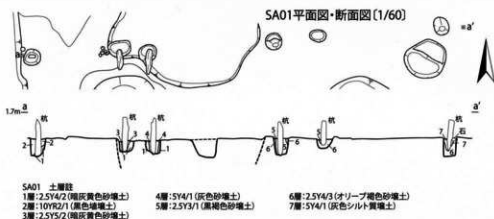
第 23 図 調査区詳細図 16 (1/100)



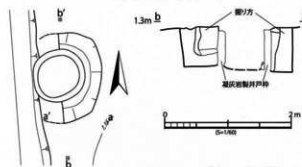
第 24 図 調査区詳細図 17 (1 / 100)



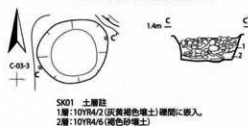
第 25 図 調査区詳細図 18 (1 / 100)



SE01平面図・断面図(1/60)



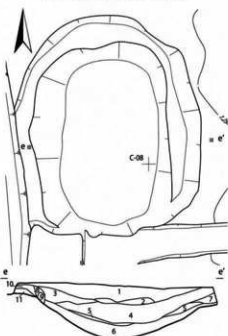
SK01平面図・断面図(1/60)



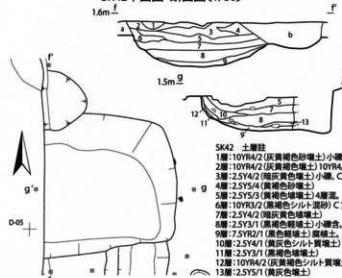
SK04平面図・断面図(1/60)



SK10平面図・断面図(1/60)

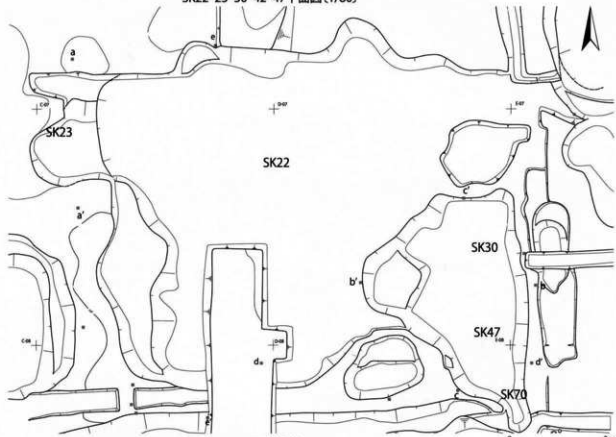


SK42平面図・断面図(1/60)



第26図 誓願寺地区遺構図1(1/60)

SK22・23・30・42・47平面図(1/80)



SK23断面図(1/60)

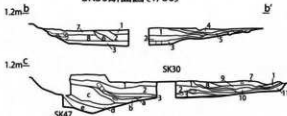


SK23 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色砂壤土)小礫含。
- 2層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 3層:7.5YR2/1(黒褐色粘壤土)小礫含。
- 4層:10YR3/2(黒褐色粘壤土)腐植土混。
- 5層:10YR4/1(褐灰色粘壤土)小礫含、腐植土混。
- 6層:10YR1.7/1(黒色粘壤土)腐植土。
- 7層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)小礫、Cブロック含。
- 8層:10YR5/2(灰黄褐色粘壤土)

- 9層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)C粒含。
- 10層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)黄褐色砂混。
- 11層:10YR4/3(上土)黄褐色砂。
- 12層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)C粒含。
- 13層:10YR5/2(灰黄褐色粘壤土)
- 14層:2.5Y3/1(黄灰色砂)

SK30断面図(1/60)



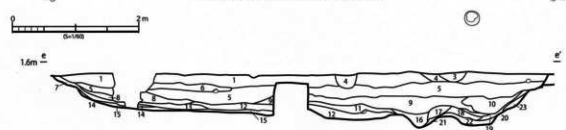
SK30 土層註

- 1層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)
- 2層:7.5YR2/1(黒色粘壤土)腐植土。
- 3層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 4層:10YR3/2(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 5層:10YR2/2(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 6層:10YR3/2(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 7層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土、黒褐色砂混。
- 8層:7.5YR2/1(黒色粘壤土)腐植土、黒褐色砂混。
- 9層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 10層:10YR4/1(褐灰色粘壤土)腐植土。
- 11層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。

SK22・41・47断面図(1/60)



SK22遺物出土状況図・断面図(1/60)



第27図 誓願寺地区遺構図2(1/60・1/80)

SK22 土層註

- 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)Cブロック,小礫含。
- 2層:10YR3/2(黒褐色壤土)小礫含。
- 3層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)Cブロック,小礫含。
- 4層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)小礫含。
- 5層:7.5YR3/1(黒褐色シルト質壤土)暗灰黄色砂,腐植土混,小礫含。
- 6層:10YR4/2(灰黄褐色シルト質壤土)小礫含,C乾燥少量含。
- 7層:10YR4/1(暗灰色壤土)
- 8層:2.5Y4/1(黄灰褐色壤土)腐植土混。

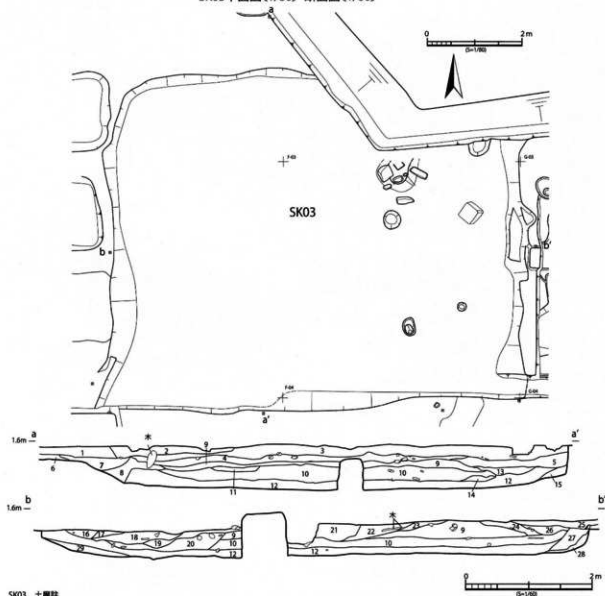
9層:2.5Y4/1(黄灰褐色壤土)腐植層,小礫含。

- 10層:10YR2/1(黒色壤土)鉄滓混中。
- 11層:7.5YR2/1(灰色粘壤土)腐植土。
- 12層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 13層:10YR4/1(暗灰色粘壤土)腐植土,黄褐色砂混。
- 14層:7.5YR1/7/1(黒色重壤土)腐植土。
- 15層:7.5YR3/1(黄褐色重壤土)腐植土。
- 16層:10YR2/1(黒色重壤土)腐植土。
- 17層:10YR2/1(黒褐色粘壤土)腐植土。

18層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。

- 19層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)腐植土,黄褐色砂混。
- 20層:10YR2/1(黒色重壤土)腐植土,鉄滓含。
- 21層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)
- 22層:2.5Y4/1(黄灰褐色壤土)小礫混。
- 24層:7.5YR2/1(黒色粘壤土)腐植土。

SK03平面図(1/80)・断面図(1/60)



SK03 土層註

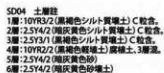
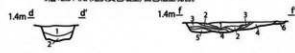
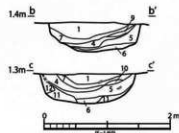
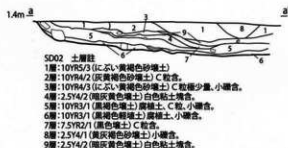
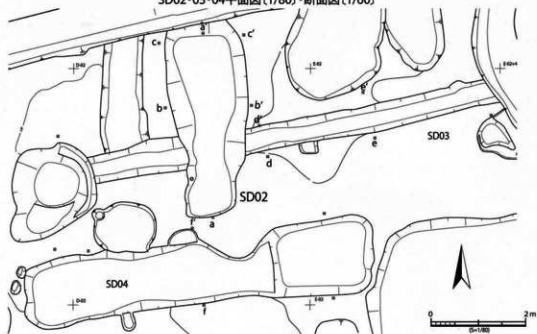
- 1層:2.5Y4/4(オリーブ褐色砂壤土)
- 2層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土)
- 3層:10YR3/2(黒褐色壤土)
- 4層:2.5Y5/4(黄褐色砂)
- 5層:2.5Y4/1(黄灰褐色シルト質壤土)Cブロック含。
- 6層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)
- 7層:2.5Y4/3(オリーブ褐色壤土)
- 8層:10YR4/1(暗灰色粘壤土)
- 9層:10YR3/2(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 10層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 11層:10YR3/2(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 12層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 13層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)
- 14層:2.5Y3/2(黒褐色砂)
- 15層:2.5Y3/2(黒褐色シルト質壤土)
- 16層:10YR3/2(黒褐色粘壤土)Cブロック含。
- 17層:10YR2/1(黒褐色粘壤土)黄褐色砂混。
- 18層:7.5YR3/1(黒褐色シルト質壤土)黄褐色砂混,小礫含。
- 19層:10YR4/2(灰黄褐色砂壤土)黄褐色土混。
- 20層:10YR3/1(黒褐色シルト質壤土)黄褐色砂混。

21層:10YR3/1(黒褐色シルト質壤土)腐植土,黄褐色砂混。

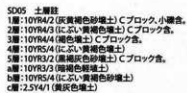
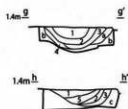
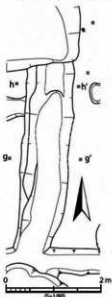
- 22層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土,黄褐色粘土粒混。
- 23層:7.5YR2/1(灰色粘壤土)腐植土,黄褐色粘土粒混。
- 24層:7.5YR2/1(灰色シルト質壤土)腐植土,黄褐色粘土粒混。
- 25層:10YR4/1(暗灰色粘壤土)
- 26層:10YR3/2(黒褐色シルト質壤土)
- 27層:2.5Y3/2(黒褐色粘壤土)
- 28層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)
- 29層:10YR3/2(黒褐色粘壤土)腐植土,Cブロック含。

第28図 誓願寺地区遺構図3(1/60・1/80)

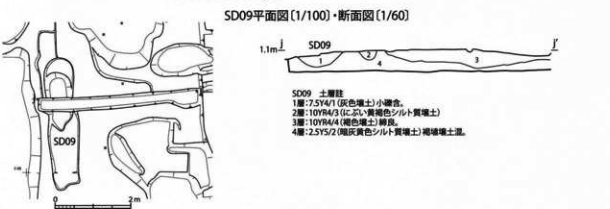
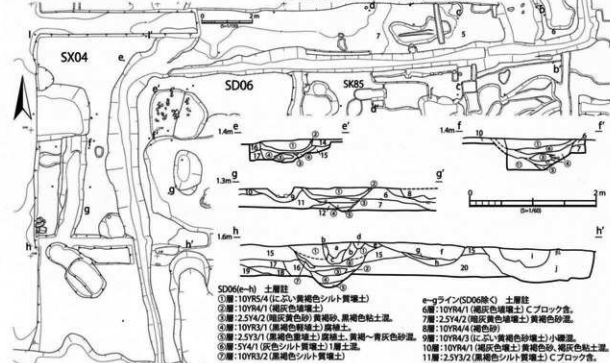
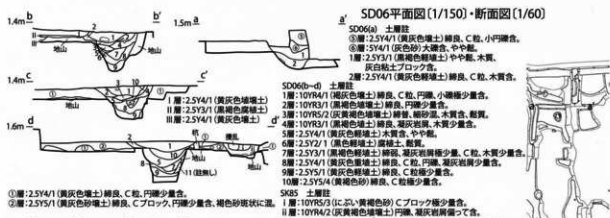
SD02・03・04平面図(1/80)・断面図(1/60)



SD05平面図(1/80)・断面図(1/60)

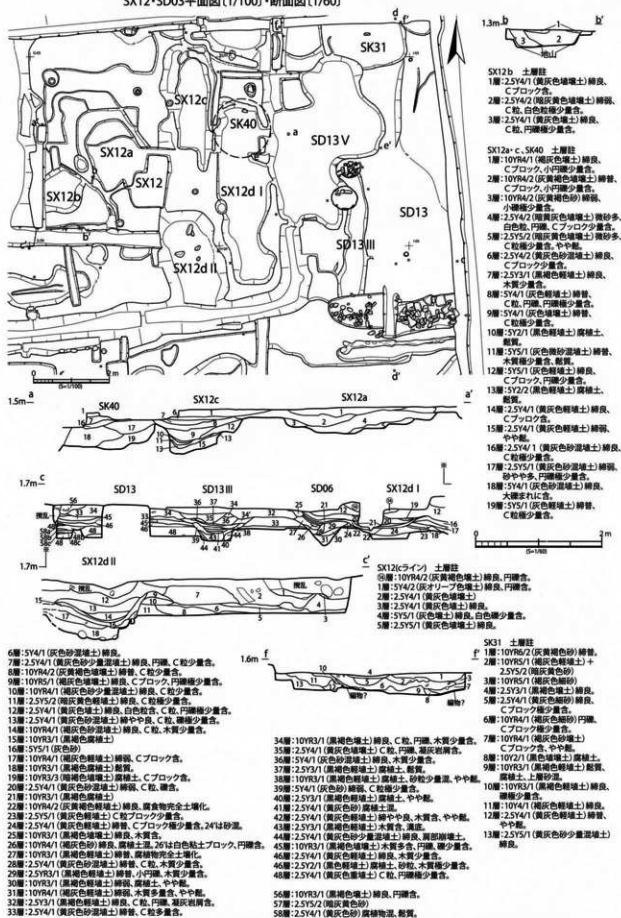


第29図 誓願寺地区遺構図4(1/60・1/80)



第30図 誓願寺地区遺構図5 (1/60・1/80・1/100・1/150)

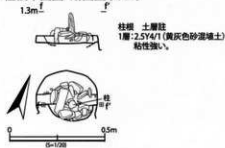
SX12・SD03平面図(1/100)・断面図(1/60)



第31図 賢願寺地区遺構図6・町屋1地区遺構図1(1/60・1/100)



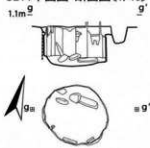
柱根平面図・断面図(1/20)



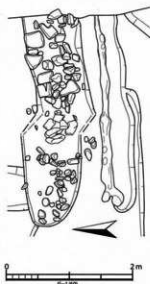
SE11 土層註

- ①層:10YR4/1(赭灰色壤土)  
+5Y7/2(灰白色砂) 締固、円礫多量。  
②層:2.5Y4/1(黄灰色壤土) 締固、木質含、やや粘。  
掘り方  
1層:2.5Y4/1(黄灰色砂混壤土) 締固、  
灰白色粘土ブロック含。  
2層:10YR4/1(赭灰色壤土) 締固、  
灰白色粘土ブロック、円礫含。  
3層:5Y3/1(オリーブ黄灰色砂混壤土) 締固、  
灰白色粘土ブロック含。

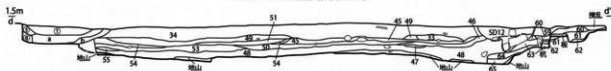
SE11平面図・断面図(1/40)



SD12平面図(1/60)



SK31・SD13断面図(1/60)



SD13V 断面図(1/60)



SD13V 土層註

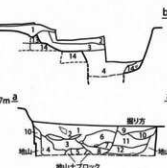
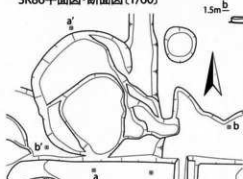
- 1層:10YR3/1(黄褐色壤土) 締固、10YR8/3(淡黄褐色砂)  
10YR8/1(灰白色粘土)ブロック含。  
2層:2.5Y4/1(黄灰色壤土) 締固、1層より砂多。  
3層:10YR3/1(黄褐色壤土) 灰白粘土ブロック含。  
4層:2.5Y5/1(黄灰色砂混壤土) 灰白粘土ブロック、  
黄褐色粘土ブロック含。  
5層:10YR4/1(赭灰色壤土) 締固、灰白色粘土ブロック、  
6層:2.5Y2/1(黒灰色土) 腐植土。  
7層:2.5Y4/1(黄灰色砂混壤土) 締固、灰白色粘土ブロック含。  
8層:2.5Y5/1(黄灰色砂混壤土) 灰白・灰色粘土ブロック、  
C粒少量含。

造成土 土層註

- ①層:10YR4/1(赭灰色壤土) 締固、円礫、凝灰岩屑含。  
②層:10YR4/1(赭灰色壤土) 締固、C粒、円礫極少量含。  
③層:10YR4/2(黄褐色壤土) 締固、C粒少量含。  
SK31 土層註  
a層:2.5Y4/1(黄灰色壤土) 凝砂混、円礫、木質含。  
b層:腐植土  
SD13 土層註(SK31とライン共通)  
49層:10YR3/1(黄褐色壤土) 締固、凝灰岩屑多量。  
50層:2.5Y3/1(黄褐色土) 砂粒、木質極少量含。  
51層:2.5Y2/1(黒灰色壤土) 締固、円礫、Cブロック極少量含。  
52層:2.5Y3/1(黄褐色壤土) 締固、円礫極少量含。  
53層:2.5Y4/1(黄灰色壤土) C粒少量含。  
54層:2.5Y4/1(黄灰色壤土) 締固、木質、C粒少量含。  
55層:2.5Y4/2(黄褐色粗砂) 木質少量含。  
59層:10YR4/2(黄褐色壤土) 締固、Cブロック極少量含。  
60層:2.5Y4/1(黄褐色壤土) 締固、砂多め、C粒極少量含。  
61層:2.5Y5/1(黄灰色壤土) 締固。  
62層:2.5Y4/1(黄褐色壤土) やや粘。  
63層:2.5Y5/1(黄灰色砂)  
64層:5Y4/1(灰色砂混壤土) 締固、木質含、腐質。  
65層:2.5Y4/1(黄灰色壤土) 粘質。

第32図 町屋1地区遺構図2(1/20・1/40・1/60)

SK86平面図・断面図(1/60)

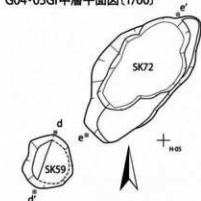


- b' SK86 土層註
- 1層:10YR5/1(褐灰色壤土)耕层、円礫、凝灰岩屑合。
  - 2層:10YR3/1(黒褐色壤土)耕层。
  - 3層:2.5Y4/1(黄灰色砂壤土)耕层、C粒、円礫合。
  - 4層:7.5YR2/1(黒色砂壤土)凝灰岩屑極少量合。
  - 5層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层。
  - 6層:5Y4/1(灰色粘壤土)耕层、円礫極少量合。
  - 7層:2.5Y3/1(黄褐色粘壤土)耕层、凝灰岩屑少量合。
  - 8層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层。
  - 9層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层、凝灰岩屑合。
  - 10層:5Y4/1(灰色壤土)耕层、C粒、円礫少量合。
  - 11層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层、小礫極少量合。
  - 12層:2.5Y3/1(黄褐色粘壤土)耕层、円礫、2.5Y2/1(黒色粘土)ブロック混。
  - 13層:5Y4/1(灰色砂壤土)円礫、木質極少量合。
  - 14層:5Y2/1(灰色粘壤土)耕层、や中粒。

G04・05Gr上層平面図(1/60)



G04・05Gr中層平面図(1/60)



SK72・59断面図(1/60)

- SK72 土層註
- 1層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)耕层、円礫、凝灰岩屑合、Cブロック少量合。
  - 2層:10YR4/1(褐灰色壤土)耕层、C粒少量合。
- SK59 土層註
- 1層:2.5Y5/1(黄灰色粘壤土)耕层。
  - 2層:2.5Y3/1(黄褐色粘壤土)耕层、円礫、凝灰岩屑合。

SD18断面図(1/60)

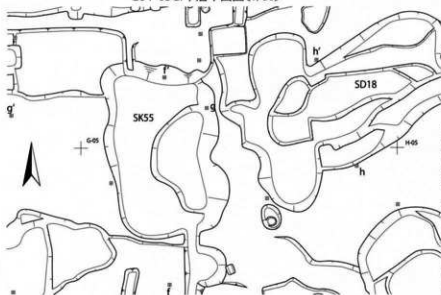
- SD18 土層註
- 1層:5Y4/1(灰色粘壤土)耕层、円礫少量合。
  - 2層:5Y4/1(灰色粘壤土)耕层、C粒極少量合。
  - 3層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层、砂粒極少量合。
  - 4層:2.5Y5/1(黄褐色粘壤土)耕层、円礫極少量合。
  - 5層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)C粒極少量合。



SD15断面図(1/60)

- SD05 土層註
- 1層:2.5Y4/2(褐灰黄色砂)耕层、円礫、凝灰岩屑少量合。
  - 2層:10YR4/2(灰黄褐色砂壤土)耕层、Cブロック、円礫合。

G04・05Gr下層平面図(1/60)



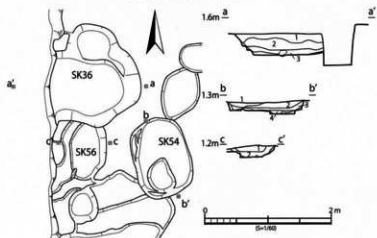
- SK55 土層註
- 1層:10YR4/1(褐灰色粘壤土)耕层、10YR7/1(灰白色砂)混、Cブロック合。
  - 2層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)耕层、2.5Y6/2(灰黄色砂)混、木質、小礫、凝灰岩屑合。
  - 3層:2.5Y2/1(黒色粘壤土)耕层、砂粒極少量合。
  - 4層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层、2.5Y7/2(灰黄色砂)ブロック合、礫極少量合。
  - 5層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)耕层、Cブロック、小礫極少量合。
  - 6層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层、C粒極少量合。
  - 7層:2.5Y5/1(黄褐色粘壤土)耕层、凝灰岩屑合。
  - 7-2層:2.5Y5/3(黄褐色砂)混。
- SK13 土層註
- 8層:10YR6/4(にぶい黄色砂)Cブロック合、小礫少量合。
  - 9層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层、C粒極少量合。
  - 10層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)耕层、Cブロック、小礫、凝灰岩屑少量合。
  - 11層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)耕层、C粒極少量合。
  - 12層:10YR5/6(黄褐色砂)
  - 13層:10YR5/6(黄褐色砂)耕层。
  - 14層:10YR4/1(褐灰色砂)
  - 15層:10Y4/3(にぶい黄褐色粘壤土)耕层、16層:10Y5/4(にぶい黄褐色砂壤土)耕层、C粒極少量合。

SK55断面図(1/60)



第33図 町屋2地区遺構図1(1/60)

SK36・54・56平面図・断面図 (1/60)



## SK36 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)埴良、礫、円礫、C粒少量含。
- 2層:5Y4/1(灰色粘壤土)埴良、礫、C粒少量含。
- 3層:2.5Y3/3(黒褐色粘壤土)埴良、礫少量含、中平礫。

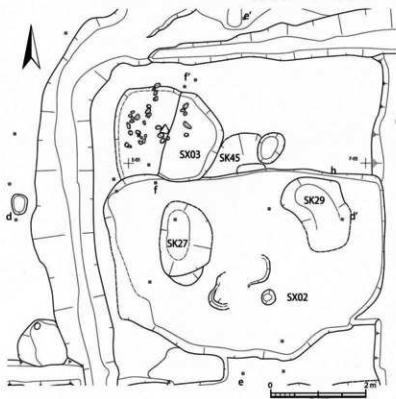
## SK54 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色粘壤土)埴良、Cブロック極少量含。
- 2層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)埴良、小円礫少量、C粒極少量含。
- 3層:10YR3/3(暗褐色粘壤土)未貫、小円礫、C粒少量含。
- 4層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)埴良、大円礫極少量含。

## SK56 土層註

- 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂)円礫少量含。
- 2層:2.5YR4/1(黄灰色壤土)埴良、礫、灰泥、円礫少量極少量含。

SX02・03/SK27平面図 (1/80)・断面図 (1/60)



## f



## SX03 土層註

- 1層:10YR5/4(にぶい黄褐色粘壤土)
- 2層:10YR5/1(暗灰色壤土)
- 3層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)
- 4層:2.5Y3/3(黄褐色粘壤土)隙間に散入。

## SX02 土層註

- 1層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)埴良、Cブロック含。
- 2層:10YR4/3(にぶい黄褐色砂)小円礫、礫含。
- 3層:2層+2.5Y4/1(黄灰色粘土)混。
- 4層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。

## SK27 土層註

- 5層:2.5Y3/1(黒褐色シルト質壤土)黄褐色砂混。
- 6層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。
- 7層:5Y6/2(灰オリーブ色砂)
- 8層:2.5Y4/2(暗灰黄色シルト質砂)
- 9層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土、7層土混。

## SX02(d) 土層註

- 10層:10YR3/2(黒褐色粘壤土)Cブロック含。
- 11層:2.5Y3/1(黒褐色シルト質壤土)Cブロック含。
- 12層:10YR4/1(暗灰色シルト質壤土)埴良。

## SK29 土層註

- 13層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)Cブロック含。
- 14層:2.5Y4/2(暗灰黄色土)
- 15層:10YR4/3(にぶい黄褐色壤土)
- 16層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)

## SK29 土層註

- 17層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)白色粒、Cブロック含。
- 18層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂)

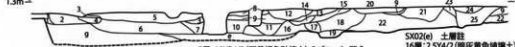
## SX02(e) 土層註

- 19層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)腐植土、18層混。
- 20層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)

## 1.3m d



## 1.3m e



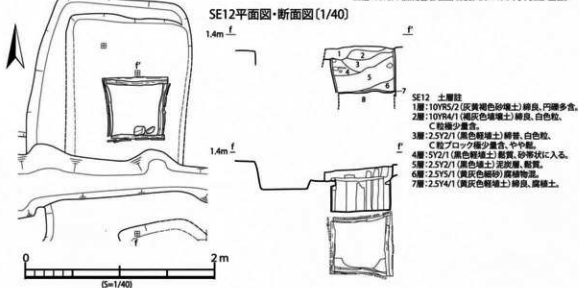
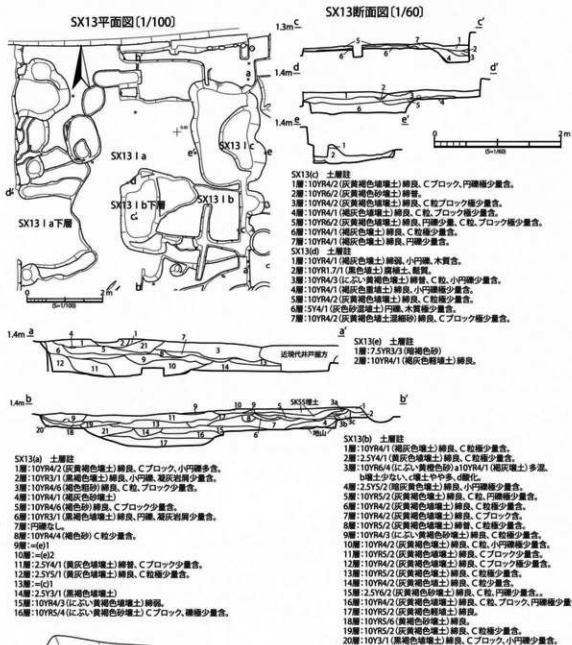
## SX02(d-e) 土層註

- a層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)Cブロック、白色粒含。
- b層:5Y4/1(灰色粘壤土)
- c層:5Y5/1(灰色シルト質壤土)
- d層:2.5Y4/1(黄褐色粘壤土)
- e層:2.5Y4/4(黄褐色粘壤土)
- f層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)
- g層:5Y3/1(オリーブ黄色粘壤土)
- SX02(f) 土層註
- 1層:10YR5/3(にぶい黄褐色粘壤土)
- 2層:10YR4/2(灰黄褐色粘壤土)黄褐色砂混。
- 3層:10YR4/4(褐色砂)
- 4層:2.5Y3/2(黒褐色粘壤土)礫含。
- 5層:10YR4/2(灰黄褐色粘壤土)Cブロック、礫含。
- 6層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)Cブロック含。
- 7層:10YR5/3(にぶい黄褐色粘壤土)Cブロック含。
- 8層:7.5YR3/1(黄褐色粘壤土)Cブロック極少量含。
- 9層:3層+10YR4/2(灰黄褐色粘壤土)混。
- 10層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)
- 11層:2.5Y4/2(暗灰黄色シルト質壤土)
- SK45 土層註
- 12層:10YR2/1(黒色粘壤土)小礫含。
- 13層:10YR4/2(灰黄褐色シルト質壤土)礫、Cブロック含。
- 14層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)
- 15層:2.5Y4/1(黄褐色粘壤土)

## SX02(a) 土層註

- 16層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)Cブロック極少量含。
- 17層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)Cブロック極少量含。
- 18層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)黄褐色砂混。
- 19層:2.5Y3/2(暗灰黄色粘壤土)
- 20層:10YR2/1(黒色シルト質壤土)礫、Cブロック含。
- 21層:10YR4/3(にぶい黄褐色粘壤土)
- 22層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)
- 23層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)
- 24層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)黄灰色壤土混。
- 25層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)Cブロック含。

第 34 図 町屋 2 地区遺構図 2 (1/60・1/80)



第 35 図 町屋 2 地区遺構図 3・町屋 3 地区遺構図 1 (1/40・1/60)

SK11平面図・断面図(1/60)



SK11 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)木質少量含。
- 2層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)練瓦、木質含、膠質。
- 3層:2.5Y3/1(黄灰色壤土)練瓦、木質、C粒少量含。
- 4層:2.5Y4/1(黄灰色土)膠質、微砂混。

SK06平面図・断面図(1/60)



SK06 土層註

- 1層:2.5Y5/1(黄灰色壤土)練瓦、C粒・円礫少量含。
- 2層:2.5Y6/1(黄灰色砂)練瓦。

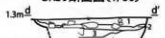
SK35平面図・断面図(1/60)



SK35 土層註

- 1層:10YR2/1(黒色壤土)練瓦、小円礫多量含。
- 2層:10YR2/2(黒褐色壤土)練瓦、小円礫、凝灰岩屑少量含。
- 3層:10YR3/2(黒褐色壤土)練瓦、Cブロック少量含。

SK39断面図(1/60)



SK39 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色砂壤土)練瓦、礫多量含。
- 2層:10YR3/1(黒褐色壤土)練瓦、砂粒多量含。
- 3層:10YR3/3(黄褐色土)礫多量含。
- 4層:10YR3/2(黒褐色壤土)膠質。

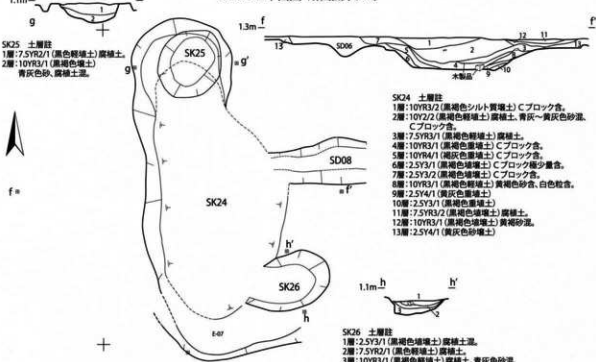
SK37断面図(1/60)



SK37 土層註

- 1層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)C粒少量含。
- 2層:2.5Y3/1(黒褐色土)練瓦、小瓦、円礫、凝灰岩屑含。
- 3層:2.5Y4/1(黄灰色砂壤土)C粒少量含。
- 4層:2.5Y2/1(黒色壤土)腐植土、円礫、木質、Cブロック少量含。

SK24~26平面図・断面図(1/60)



SK25 土層註

- 1層:7.5YR2/1(黒色壤土)腐植土。
- 2層:10YR3/1(黒褐色土)黄灰色砂、腐植土混。

SK24 土層註

- 1層:10YR3/2(黒褐色シルト質壤土)Cブロック含。
- 2層:10Y2/2(黒褐色壤土)腐植土、青灰~黄灰色砂混、Cブロック含。
- 3層:7.5YR3/1(黒褐色壤土)腐植土。
- 4層:10YR3/1(黄褐色壤土)Cブロック含。
- 5層:10YR4/1(黄褐色壤土)Cブロック含。
- 6層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)Cブロック極少量含。
- 7層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)Cブロック含。
- 8層:10YR3/1(黒褐色壤土)黄褐色砂含、白色粒含。
- 9層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)
- 10層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)
- 11層:7.5YR3/2(黒褐色壤土)腐植土。
- 12層:10YR3/1(黒褐色壤土)黄褐色砂。
- 13層:2.5Y4/1(黄灰色砂壤土)

SK26 土層註

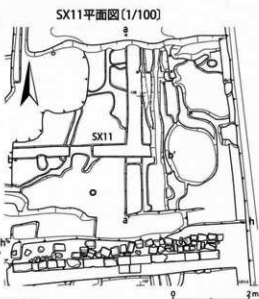
- 1層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)腐植土混。
- 2層:7.5YR2/1(黒褐色土)腐植土。
- 3層:10YR3/1(黒褐色壤土)腐植土、青灰色砂混。

第 36 図 町屋 3 地区遺構図 2 (1 / 60)

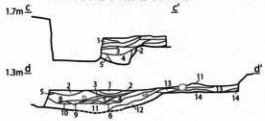


SX11 土層註

- 1層: 10YR2/8 (黄褐色砂) 純良。
- 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色壤土) 純良, Cブロック, 凝灰岩層含。
- 3層: 10YR3/2 (黒褐色壤土) 純良, C粒, 白色塵・粒少量含。
- 4層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 純良, Cブロック, 円礫極少量含。
- 5層: 2.5Y3/2 (黒褐色砂壤土) 純良, Cブロック, 小円礫, 凝灰岩層含。
- 6層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 純良, 凝灰岩層少量含。
- 7層: 10YR4/1 (褐色色壤土) Cブロック, 白色塵極少量含。
- 8層: 10YR4/1 (褐色色砂混壤土) C粒・ブロック少量含。
- 9層: 10YR3/2 (黒褐色壤土) 純良, C粒, 白色塵・粒少量含。
- 10層: 10YR4/1 (褐色色シルト) 純良, C粒少量含。

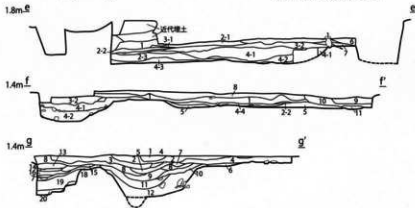


SX14平面図・断面図(1/60)



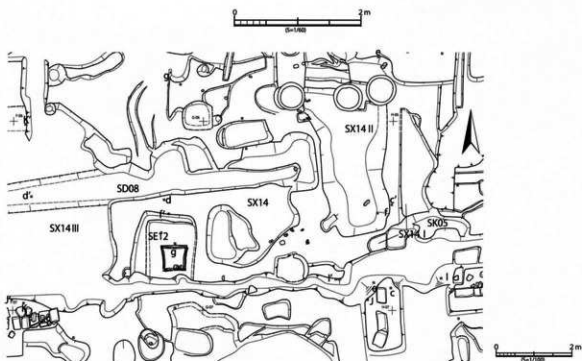
SX14(c) 土層註

- 1層: 10YR6/4 (ic, 2L) (黄褐色砂)
- 2層: 2.5Y5/2 (褐灰色砂)
- 3層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂混壤土) 純良, 2層砂帯状に入る。
- 4層: 2.5Y2/1 (黒色砂混壤土) 腐植土, 木質含, 円礫極少量含, やや粗。
- 5層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂混壤土)



SX14(d) 土層註

- 1層: 2.5Y3/1 (黒褐色壤土) 純良, 木質少量含。
- 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂混壤土) 純良, 円礫含。
- 3層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂混壤土) 木質多量含, 腐質。
- 4層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂混壤土) 腐植土, 小円礫, 木質少量。
- 5層: 2.5Y4/2 (褐灰色砂) 木質, 凝灰岩層少量含。
- 6層: 10YR4/1 (褐色色壤土) 純良, 木質少量, 凝灰岩層極少量含。
- 7層: 10YR4/1 (褐色色砂) 純良, 木質少量含。
- 8層: 10YR4/1 (褐色色砂混壤土) 腐植土混在, 円礫, 凝灰岩層少量含。
- 9層: 10YR3/1 (黒褐色腐植土) + 2.5Y5/1 (黄灰色砂)
- 10層: 10YR1/1 (黒色腐植土) 腐質。
- 11層: 10YR3/1 (黒褐色砂混壤土) 腐質, 凝灰岩層含。
- 12層: 2.5Y4/1 (黄灰色壤土) 純良, 凝灰岩層少量含。
- 13層: 2.5Y3/2 (黒褐色砂混壤土) 純良, C粒少量含。
- 14層: 2.5Y5/1 (黄灰色砂) 純良。



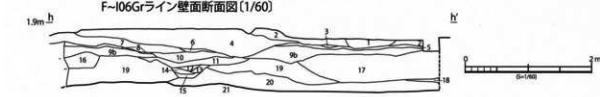
第37図 町屋3地区遺構図3 (1/60・1/100)

- SX14(a-f) 土層註  
 1層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)締良、円礫少量含む。  
 2層:10YR6/6(明黄褐色)締良。  
 2-2-3層:2.5Y6/2(灰黄色砂)Cブロック少量含む。  
 2.5Y6/1(黄灰色シルト)Cブロック少量含む。  
 3層:2.5Y5/1(黄灰色壤土)締良、砂・泥状粘土、木質少量、小円礫、凝灰岩碎屑少量含む。  
 4層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)腐植土、小円礫少量含む。  
 4-2層:地沢砂状砂、円礫含む。4.1層:砂状粘土、粘質。  
 4.4層:10YR2/2(黒色粘土)C粒・ブロック少量含む。  
 5層:2.5Y5/1(黄灰色壤土)C粒少量含む、やや粘。  
 6層:10YR3/1(黒褐色壤土)締良、円礫、白色粒を含む。  
 7層:10YR2/1(黒色締土)締良、C粒、ブロック少量含む。  
 8層:10YR4/1(黄灰色壤土)C粒・ブロック少量含む。  
 9層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)締良、円礫少量含む。  
 10層:10YR4/1(黄灰色砂状壤土)締良、円礫、凝灰岩質。

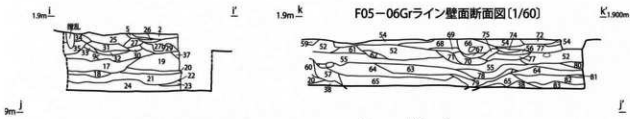
- SX14(g) 土層註  
 1層:10YR4/1(黄灰色壤土)締良。  
 2層:10YR5/4(にぶい黄褐色砂状壤土)締良、小円礫含む。  
 3層:10YR5/2(灰黄色粘砂)締良、Cブロック少量含む。  
 4層:10YR4/1(黄灰色粘砂)締良。  
 5層:10YR5/1(黄褐色粘砂)締良、凝灰岩屑少量含む。  
 6層:10YR5/2(灰黄色粘砂)締良。  
 7層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)締良。  
 8層:2.5Y4/1(黄灰色粘砂)締良、円礫少量含む。  
 9層:2.5Y4/1(黄灰色粘砂)+2.5Y3/1(黄灰色粘砂)C粒、やや粘。  
 10層:2.5Y3/1(黒褐色粘砂)締良、小円礫、木質含む。  
 11層:2.5Y2/1(黄褐色壤土)腐植土、円礫、木質含む。  
 12層:5Y2/1(黒色粘土)腐植土、木質、小円礫少量含む、凝灰岩質、粘質。

- SE12南方 土層註  
 13層:2.5Y2/1(黒色壤土)締良、木質含む。  
 14層:2.5Y5/2(暗灰黄色砂)締良、小円礫少量含む。  
 15層:2.5Y4/1(黄灰色粘砂)締良。  
 2.5Y3/1(黄褐色粘土)ブロック含む。  
 16層:2.5Y3/1(黄褐色粘砂)締良、木質少量含む。  
 17層:2.5Y6/2(灰黄色粘砂)締良、小円礫少量含む。  
 18層:2.5Y4/1(黄灰色粘砂)C粒、円礫少量含む。  
 19層:2.5Y5/1(黄灰色粘砂)締良、木質、C粒少量含む。  
 20層:2.5Y4/1(黄灰色粘砂)締良、やや粘。

F-106Grライン壁面断面図(1/60)



F05-06Grライン壁面断面図(1/60)

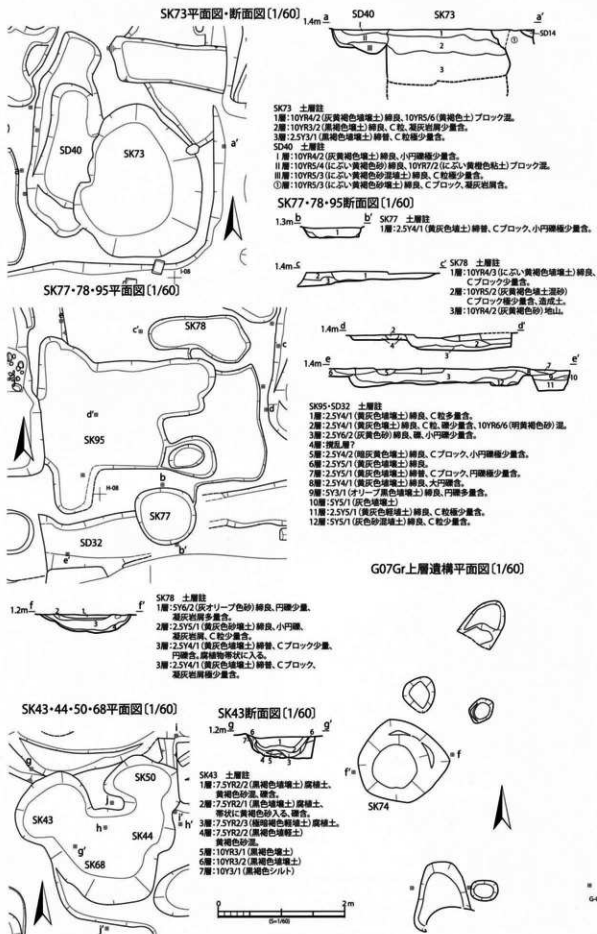


FG06 土層註

- 1層:7.5YR5.6(明褐色粘)締良。7.5YR5/1(黄褐色粘土)ブロック含む。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)締良、Cブロック少量含む。  
 3層:10YR2/2(にぶい黄褐色)締良。  
 4層:10YR5.6(黄褐色粘砂)締良、(にぶい黄褐色粘)土ブロック、灰質、凝灰岩、黄褐色砂。  
 5層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、Cブロック少量含む、黄褐色砂。  
 6層:10YR5.6(黄褐色粘砂)締良、Cブロック少量含む。  
 7層:10YR5/2(灰黄色粘砂)締良、Cブロック少量含む。  
 8層:2.5Y5/1(黄灰色粘砂)C粒少量含む、黄褐色砂状粘土を含む。  
 9a層:2層+砂多。  
 9b層:2.5Y4/1(黄灰色粘砂)締良、Cブロック、円礫含む。  
 9c層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、Cブロック、円礫少量含む。  
 10層:10YR3/2(黒褐色粘砂)締良、Cブロック、白色粘含む。  
 11層:10YR4/1(黄灰色粘砂)締良、Cブロック少量含む。  
 12層:2.5Y5/2(暗灰黄色粘砂)締良、Cブロック、円礫含む。  
 13層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、砂多量、粘質。  
 14層:10YR4/1(黄灰色粘砂)締良、Cブロック少量含む。  
 15層:10YR5/1(黄褐色粘砂)締良、砂多量、粘質。  
 16層:10YR5/2(灰黄色粘砂)締良、C粒少量含む、粘質。  
 17層:10YR3/2(にぶい黄褐色粘砂)締良、Cブロック少量含む。  
 18層:2.5Y5/1(黄灰色粘砂)砂多量、粘質。  
 19層:10YR5/1(黄褐色粘砂)締良、砂多量、粘質、Cブロック少量含む、やや粘。  
 20層:2.5Y4/1(黄灰色粘砂)締良、粘質、Cブロック少量含む。  
 21層:10YR6/1(黄褐色粘砂)締良、砂多量、粘質。  
 22層:10YR4/1(黄褐色粘砂)砂少量含む、やや粘。  
 23層:10YR5/1(黄褐色粘砂)締良、C粒少量含む。  
 24層:10YR5/2(灰黄色粘砂)締良、C粒少量含む。  
 25層:10Y4/2(灰黄色粘砂)締良、C粒、ブロック、小円礫少量含む。  
 26層:10YR2/2(黒褐色粘砂)締良、C粒、ブロック、小円礫少量含む。  
 27層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、10YR5/8(褐色砂)、砂少量含む。  
 28層:27層+粘砂多。  
 28a層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、砂多量、粘質。  
 29層:10YR4/2(灰黄色粘砂)C粒、凝灰岩屑少量含む。  
 30層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良、凝灰岩屑少量含む。  
 31層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、C粒、円礫少量含む。  
 32層:10YR2/2(黒褐色粘砂)締良、C粒少量含む。  
 33層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良、C粒少量含む。  
 34層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良、C粒、小円礫少量含む。  
 35層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良、C粒少量含む。  
 36層:10YR5/2(灰黄色粘砂)締良、C粒、ブロック少量含む、円礫、凝灰岩屑少量含む。  
 37層:10YR5/2(灰黄色粘砂)C粒、小円礫少量含む。  
 38層:2.5Y5/1(黄灰色粘砂)締良、粘質。  
 39層:10YR5/1(黄褐色粘砂)締良、Cブロック少量含む、円礫、凝灰岩屑少量含む。  
 40層:39層+砂多。  
 41層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良、C粒、小円礫少量含む。

- 42層:10YR5/2(灰黄色粘砂)締良、C粒、小円礫少量含む。  
 43層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良、C粒少量含む。  
 44層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘砂)締良、砂少量含む。  
 45層:2.5Y5/1(黄褐色粘砂)締良、砂少量含む。  
 46層:2.5Y5/1(黄褐色粘砂)締良、円礫、白色粘少量含む、粘質。  
 47層:2.5Y5/1(黄褐色粘砂)締良、Cブロック少量含む。  
 48層:2.5Y4/1(黄灰色粘砂)やや粘。  
 49層:2.5Y5/1(黄褐色粘砂)粘質。  
 50a層:10YR6/2(灰黄色粘砂)締良、円礫少量含む。  
 50b層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良。  
 51層:10YR5/2(灰黄色粘砂)締良、凝灰岩屑少量含む。  
 52層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良、Cブロック、小円礫、凝灰岩屑少量含む。  
 53層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、C粒、小円礫少量含む。  
 54層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、Cブロック、円礫少量含む。  
 55層:2.5Y4/1(黄褐色粘砂)締良、C粒、円礫少量含む。  
 55a層:10YR5/2(灰黄色粘砂)粘質。  
 56層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、C粒少量含む、2.5Y3/2(黒褐色粘土)ブロック少量含む。  
 57層:2.5Y6/2(灰黄色粘砂)締良、C粒少量含む、円礫、凝灰岩屑少量含む。  
 58層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、C粒少量含む、粘質。  
 59層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良、Cブロック、凝灰岩屑少量含む。  
 60層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、C粒、ブロック少量含む。  
 61層:2.5Y4/1(黄褐色粘砂)締良、粘質。  
 62層:10YR3/2(黒褐色粘砂)締良、C粒少量含む。  
 63層:2.5Y3/1(黄褐色粘砂)締良、小円礫少量含む。  
 64層:10YR4/1(黄褐色粘砂)締良。  
 65層:10YR5/1(黄褐色粘砂)締良。  
 66層:10YR4/3(にぶい黄褐色粘砂)締良、大礫含む。  
 67層:10YR3/2(黒褐色粘砂)締良、大礫、円礫少量含む。  
 68層:10YR4/3(にぶい黄褐色粘砂)締良、円礫、粘質少量含む。  
 69層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、C粒、白色粘少量含む。  
 70層:2.5Y4/1(黄褐色粘砂)締良、円礫、粘質。  
 71層:10YR3/2(黒褐色粘砂)締良、粘質。  
 72層:10YR4/4(褐色粘砂)締良。  
 73層:10YR3/2(黒褐色粘砂)締良。  
 74層:10YR3/2(黒褐色粘砂)締良、Cブロック、白色粘少量含む。  
 75層:10YR3/2(黒褐色粘砂)締良、大礫含む。  
 76層:10YR2/2(黒褐色粘砂)締良、土沢、粘質少量含む。  
 77層:10YR4/2(灰黄色粘砂)締良、粘質。  
 78層:10YR3/1(黄褐色粘砂)粘質、粘質。  
 79層:10YR2/1(黄褐色粘砂)木質含む、やや粘。  
 80層:2.5Y4/2(黄褐色粘砂)締良、C粒、小円礫少量含む。  
 81層:2.5Y4/1(黄褐色粘砂)締良、Cブロック少量含む。  
 82層:2.5Y3/1(黄褐色粘砂)締良、C粒少量含む、やや粘。  
 83層:2.5Y6/2(灰黄色粘砂)締良、やや粘。

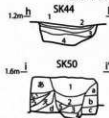
第38図 町屋3地区遺構図4(1/60)



第39図 町屋4地区遺構図1 (1/60)



SK44-50-68断面図(1/60)



SK44 土層註  
1層:10YR3/2(黒褐色壤土)腐植土流、Cブロック、礫含。  
2層:10YR3/1(黒褐色シルト質壤土)Cブロック含。  
3層:10YR4/1(黒灰色壤土)  
4層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)黒褐色粘土ブロック混。

SK50 土層註

1層:7.5YR3/2(黒褐色壤土)Cブロック含。  
2層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)  
3層:7.5YR3/2(黒褐色壤土)腐植土、黄褐色砂土。  
4層:7.5YR2/2(黒褐色壤土)腐植土。  
5層:10YR3/2(灰黄褐色壤土)

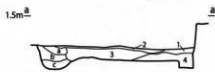
a層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)  
b層:7.5YR4/3(褐色シルト質壤土)  
c層:2.5Y4/1(暗灰色壤土)  
d層:2.5Y4/2(暗灰黄色シルト質壤土) 土層:2.5Y4/1(黄灰色砂壤土)



SK68 土層註

1層:5Y4/1(灰色砂壤土)礫含。  
2層:2.5Y4/1(黄灰色砂壤土)Cブロック含。  
3層:5Y5/1(灰色壤土)  
4層:5Y4/1(灰色壤土)黄褐色砂土、Cブロック含。  
5層:2.5YR4/2(暗灰黄色壤土)灰色砂土。  
6層:5Y5/2(灰オリーブ色砂壤土)灰色砂土。

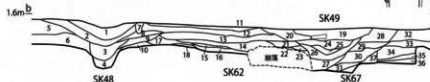
SK48-49-62-67断面図(1/60)



SK62 土層註

1層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)礫含。  
2層:5Y4/1(灰色シルト質壤土)黄褐色砂土。  
3層:5Y4/1(灰色壤土)  
4層:5Y5/1(灰色砂壤土)地山。

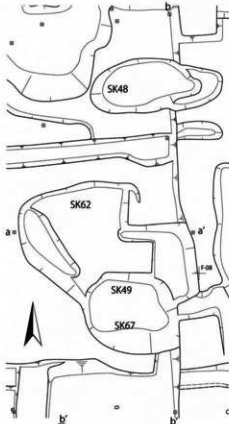
a層:5Y4/2(灰オリーブ色壤土)  
b層:5Y4/1(灰色壤土)  
c層:7.5Y4/1(灰色粘壤土)



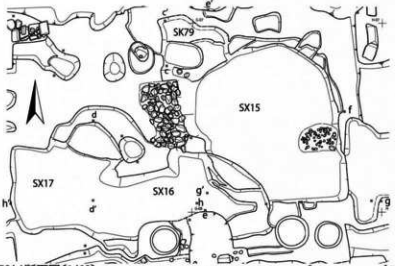
SK48-49-62-67 土層註

1層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)礫含。  
2層:10YR3/2(黒褐色壤土)  
3層:10YR3/2(黒褐色壤土)礫含。  
4層:7.5YR2/1(黒褐色粘壤土)腐植土。  
5層:10YR4/4(褐色壤土)  
6層:10YR3/2(黒褐色壤土)礫含。  
7層:7.5Y4/4(褐色砂壤土)  
8層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)  
9層:2.5Y3/1(黒褐色シルト質壤土)礫含。  
10層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)  
11層:10YR4/3(にじみ黄褐色砂壤土)  
12層:10YR3/2(黒褐色壤土)礫含。  
13層:10YR3/1(黒褐色壤土)礫含。  
14層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。  
15層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)  
16層:5Y4/1(灰色壤土)  
17層:2.5Y4/2(暗灰黄色シルト質壤土)  
18層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)  
19層:10YR3/2(黒褐色壤土)Cブロック含。  
20層:10YR3/1(黒褐色壤土)Cブロック、礫含。  
21層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。  
22層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土。  
23層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)腐植土。  
24層:7.5YR3/1(黒褐色シルト質壤土)腐植土。  
25層:7.5YR2/1(黒褐色粘壤土)腐植土。  
26層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐植土、黒色砂土。  
27層:10YR4/1(褐色粘壤土)礫含。  
28層:10YR3/2(黒褐色壤土)Cブロック、礫含。  
29層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)Cブロック含。  
30層:5Y4/1(灰色壤土)黄褐色砂土。  
31層:10YR2/1(黒色粘壤土)腐植土。  
32層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)礫含。  
33層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)  
34層:5Y4/1(灰色シルト質壤土)  
35層:5Y4/1(黄灰色砂壤土)  
36層:5Y5/1(灰色砂壤土)  
37層:5Y4/1(灰色砂壤土)

SK48-49-62-67平面図(1/60)



SK79-SX15-16平面図(1/100)



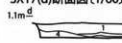
SK79(c)断面図(1/60)



SK79(c) 土層註

1層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)綿糸、小礫含。  
2層:5Y4/1(灰色粘壤土)綿糸、Cブロック少量含。  
3層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)綿糸、C粒、円礫、白色粘粒少量含。  
4層:5Y5/1(灰色砂壤土)綿糸、地山砂。  
5層:7.5Y5/1(灰色砂)綿糸、湯水に土り崩壊。

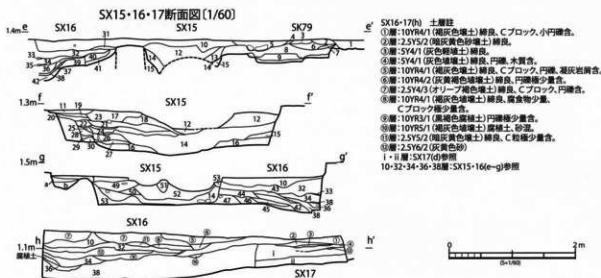
SX17(d)断面図(1/60)



SX17(d) 土層註

1層:2.5Y5/1(黄灰色砂)綿糸、円礫、木質含。  
2層:2.5Y4/1(黄灰色粘土混砂)C粒少量含。  
3層:2.5Y6/1(黄灰色砂)  
4層:2.5Y5/2(暗灰黄色粘壤土)地山砂。

第40図 町屋4地区遺構図2(1/60・1/100)

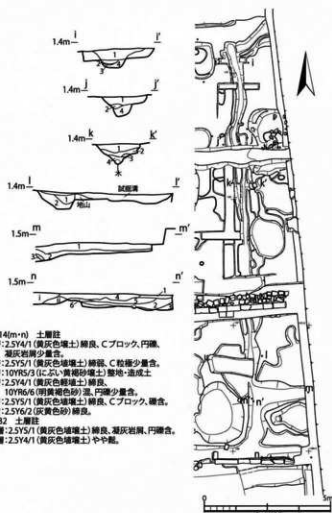


- SX15-16(e-g) 土層註**
- 1層: 2.5Y4/1 (黄灰色軽粘土) 締良, 10YR5/6 (黄褐色砂) 混, 円礫少量含む。
  - 2層: 10YR4/1 (黄灰色中硬土) 締良, C 粒極少量含む。
  - 3層: 10YR4/1 (黄灰色軽粘土) 締良, 円礫少量含む。
  - 4層: 10YR3/1 (黄灰色中硬土) 締良, C 粒, 小円礫極少量含む。
  - 5層: 2.5Y5/1 (黄灰色軽粘土) 締良, 礫, 凝灰岩屑含む。
  - 6層: 5Y5/1 (灰色軽粘土) 締良, C ブロック, 円礫極少量含む。
  - 7層: 2.5Y6/2 (灰黄色砂)
  - 8層: H4/0 (灰色砂) 円礫極少量含む。
  - 9層: 5Y5/1 (灰色砂) 締良。
  - 10層: 2.5Y5/3 (黄褐色中硬土) + 10YR5/6 (褐色砂) 混, C 粒, ブロック, 小円礫含む。
  - 11層: 2.5Y4/1 (黄灰色軽粘土) 締良, 10YR5/4 (黄褐色砂) 混, 小円礫含む。
  - 12層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂) 締良, C ブロック少量含む, 白色粘。
  - 13層: 2.5Y5/1 (黄灰色砂) 締良, C ブロック少量含む。
  - 14層: 10YR2/1 (黒色腐植土) 締良, 小円礫含む, 腐葉。
  - 15層: 2.5Y5/1 (黄灰色軽粘土) 締良。
  - 16層: 5Y2/1 (黒色中硬土) 締良, 木屑, 円礫含む。
  - 17層: 5Y4/1 (灰色軽粘土) 締良, 凝灰岩屑少量含む。
  - 18層: 5Y4/1 (灰色中硬土) 締良, 凝灰岩屑少量含む, 10YR5/2 (灰黄粘土) ブロック混。
  - 19層: 10YR4/1 (黄灰色中硬土) 締良, 小円礫, 凝灰岩屑含む。
  - 20層: 10YR4/1 (黄灰色中硬土) 締良。
  - 21層: 5Y4/1 (灰色砂混硬土) 締良, 凝灰岩屑含む, 2.5Y6/2 (灰黄粘土) ブロック混。
  - 22層: 5Y5/1 (灰色砂) 締良, 小円礫, C ブロック極少量含む。
  - 23層: 2.5Y4/1 (黄灰色軽粘土) 締良, C 粒極少量含む。
  - 24層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 締良, 木屑, C 粒極少量含む。
  - 25層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 締良, 小円礫, 凝灰岩屑含む。
  - 26層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 締良, 凝灰岩屑含む, 2.5Y6/2 (灰黄粘土) ブロック混。
  - 27層: 2.5Y6/1 (灰色砂)
  - 28層: 2.5Y3/1 (黄褐色中硬土) 締良, 腐植物多含む。
  - 29層: 10Y6/1 (灰色砂)
  - 30層: 2.5Y4/1 (黄灰色軽粘土)
  - 31層: 5Y4/1 (灰色中硬土) 締良。
  - 32層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 締良, C ブロック, 円礫含む。
  - 33層: 2.5Y2/1 (黒色腐植土)
  - 34層: 2.5Y3/1 (黒褐色中硬土) 腐植物多量混, 円礫含む。
  - 35層: 10YR2/2 (黒褐色腐植土) 砂粒かじ混。
  - 36層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 木屑, 円礫, C ブロック少量含む。
  - 37層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 締良, 木屑含む。
  - 38層: 2.5Y3/2 (黒褐色中硬土) 締良, 腐植土。
  - 39層: 10YR4/1 (黄灰色砂少量混硬土) 締良, 木屑, 小円礫, 凝灰岩屑多含む。
  - 40層: 2.5Y5/1 (黄灰色砂) 締良, 小円礫, C 粒極少量含む。
  - 41層: 2.5Y5/1 (黄灰色中硬土) 少量混砂の小円礫, 凝灰岩屑極少量含む。
  - 42層: 10YR5/1 (黄灰色砂少量混硬土) 締良。
  - 43層: 2.5Y5/1 (黄灰色砂少量混硬土) 締良, 木屑, C 粒極少量含む。
  - 44層: 2.5Y5/1 (黄灰色中硬土) 締良, C 粒, ブロック, 凝灰岩屑多含む, 小円礫少量含む。
  - 45層: 2.5Y3/1 (黄褐色中硬土) 粘質, 木屑, 凝灰岩屑多含む。
  - 46層: 2.5Y4/1 (黄灰色軽粘土) 締良, 腐砂少量混。
  - 47層: 2.5Y3/1 (黄褐色中硬土) 粘質, C 粒, 小円礫少量含む。
  - 48層: 10YR4/2 (灰黄褐色中硬土) 締良, 凝灰岩屑, 円礫少量含む。
  - 49層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 締良, C 粒, 円礫極少量含む。
  - 50層: 2.5Y3/1 (黄褐色中硬土) 締良, C 粒, 小円礫極少量含む, やや粘。
  - 51層: 10YR4/1 (黄灰色中硬土) 締良, C 粒, 小円礫少量含む。
  - 52層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 締良, 円礫, 凝灰岩屑, やや粘。
  - 53層: 2.5Y5/1 (黄灰色中硬土) C 粒極少量含む。
  - 54層: 10YR4/2 (灰黄褐色中硬土) 締良, C 粒, 円礫多含む。
  - ①層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) C ブロック, 小円礫極少量含む。
  - ②層: 5Y4/1 (灰色中硬土) 締良, C 粒極少量含む。

- SD140-k) 土層註**
- 1層: 10YR4/1 (黄灰色中硬土) 締良, C 粒含む, 円礫極少量含む。
  - 2層: 10YR4/1 (黄灰色軽粘土) 締良, C 粒少量, 木屑, 礫極少量含む。
  - 3層: 10YR4/2 (灰黄褐色砂)
  - 4層: 2.5Y5/1 (黄褐色中硬土) 締良, C ブロック極少量含む, 粘質。

- SD140) 土層註**
- 1層: 10YR4/2 (灰黄褐色中硬土) 締良, 円礫, C ブロック極少量含む。
  - 2層: 10YR4/1 (黄灰色中硬土) 締良, C ブロック少量含む。

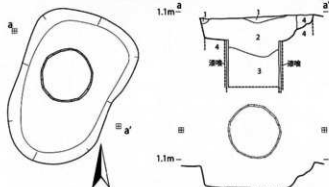
**SD14)平面図(1/100)断面図(1/60)**



- SD14(m-n) 土層註**
- 1層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) 締良, C ブロック, 円礫, 凝灰岩屑少量含む。
  - 2層: 2.5Y5/1 (黄灰色中硬土) 締良, C 粒極少量含む。
  - 3層: 10YR5/1 (比色-黄褐色中硬土) 粘土-腐植土
  - 4層: 2.5Y4/1 (黄灰色軽粘土) 締良, 10YR6/6 (明黄褐色砂) 混, 円礫少量含む。
  - 5層: 2.5Y5/1 (黄灰色中硬土) 締良, C ブロック, 礫含む。
  - 6層: 2.5Y6/2 (灰黄色砂) 締良。
- SD32 土層註**
- i 層: 2.5Y5/1 (黄灰色中硬土) 締良, 凝灰岩屑, 円礫含む。
  - ii 層: 2.5Y4/1 (黄灰色中硬土) やや粘。

第41図 町屋4地区遺構図3 (1/60・1/100)

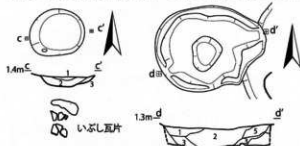
SE14平面図・断面図(1/40)



## SE14 土層柱

- 1層: 2.5Y5/2 (暗灰黄色壤土) 練瓦, C 粒極少量含。
- 2層: 2.5Y3/1 (黄褐色壤土) 練瓦, C ブロック木質, 極少量含。
- 3層: 2.5Y4/1 (黄灰色壤土) 練瓦, 小円礫極少量含。
- 4層: 2.5Y5/1 (黄灰色壤土) 練瓦, C ブロック極少量含, 薪瓦。

SK157平面図・断面図(1/60) SK136平面図・断面図(1/60)



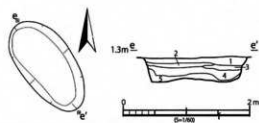
## SK157 土層柱

- 1層: 2.5Y5/2 (暗灰黄色砂壤土) 円礫含, 湖沢岩屑多含。
- 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂泥壤土) 練瓦。
- 3層: 2.5Y5/3 (黄褐色砂) 練瓦, 湖沢岩屑少量含。

## SK136 土層柱

- 1層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色壤土) 練瓦, C 粒, ブロック極少量含。
- 2層: 10YR5/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦, 小円礫, 湖沢岩屑, C 粒極少量含。
- 3層: 2.5Y5/1 (黄灰色砂泥壤土) + 2.5Y2/1 (黒色粘土) ブロック少量含。
- 4層: 10YR4/2 (灰黄褐色粘壤土) 練瓦, C 粒極少量含。
- 5層: 10YR5/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦, C 粒含, 10YR3/1 (黒褐色粘土) ブロック混。

SK134平面図・断面図(1/60)



## SK134 土層柱

- 1層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦, C 粒少量含。
- 2層: 10YR5/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦, C ブロック極少量含。
- 3層: 2.5Y3/1 (黄褐色砂泥壤土) 中や粗。
- 4層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 粘土ブロック, 円礫含。
- 5層: 10YR4/2 (灰黄褐色粘壤土) 練瓦, C 粒極少量含。
- 6層: 10YR4/1 (暗灰色砂泥壤土) 練瓦, C 粒少量含, やや粗。

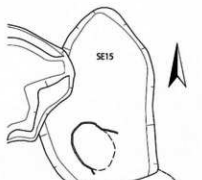
## SE15 土層柱

- 1層: 10YR5/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦。
- 2層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦, 円礫極少量含。
- 3層: 2.5Y3/1 (黄褐色砂泥壤土) 中や粗。
- 4層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 粘土ブロック, 円礫含。
- 5層: 10YR7/6 (黄褐色砂)
- 6層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦, C 粒少量含。
- 7層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土) 練瓦, C 粒少量含。

## SK137 土層柱

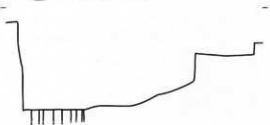
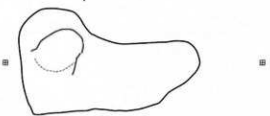
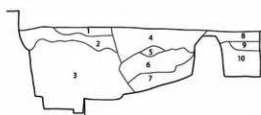
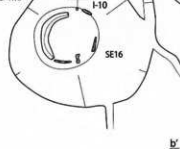
- 8層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦, C 粒, 小円礫少量含。
- 9層: 10YR5/2 (灰黄褐色粘壤土) 練瓦, C 粒含, ブロック状。
- 10層: 10YR5/2 (灰黄褐色壤土) 練瓦, C 粒少量含。

SE15平面図・断面図(1/40)

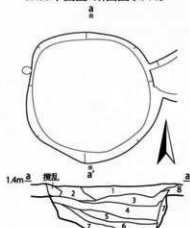


SE16平面図(1/40)

(断面図はH-10Gr参照)

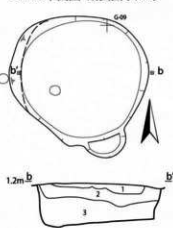


SK65平面図・断面図(1/60)



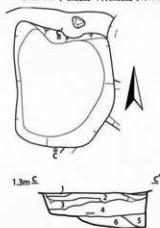
- SK65 土層註  
 1層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土)Cブロック倉。  
 2層:10YR3/2(黒褐色砂壤土)。  
 3層:5Y3/1(オリーブ藍色シルト質壤土)Cブロック倉。  
 4層:7.5YR3/1(黒褐色粘壤土)腐葉土、薄多量。  
 5層:7.5YR3/2(黒褐色粘壤土)腐葉土、薄少量。  
 6層:7.5YR2/1(黒褐色粘土)腐葉土、木質多量。  
 7層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)。  
 8層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)

SK132平面図・断面図(1/60)



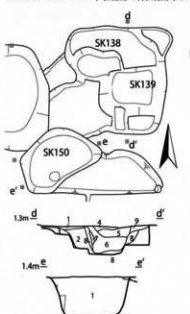
- SK132 土層註  
 1層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練瓦、C粒極少量。  
 2層:2.5Y3/1(黒褐色砂壤土)練瓦、C粒極少量。  
 3層:5Y3/1(オリーブ藍色粘壤土)練瓦、C粒極少量。

SK112平面図・断面図(1/60)



- SK112 土層註  
 1層:10YR4/2(灰黄褐色粘壤土)練瓦。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)練瓦。  
 3層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘土)練瓦、内縁極少量。  
 4層:10YR3/1(黒褐色粘壤土)粘瓦。  
 5層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)練瓦。  
 6層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂)練瓦、C粒極少量。

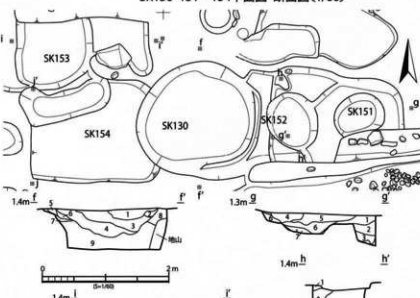
SK138-139-150平面図・断面図(1/60)



- SK138-139 土層註  
 1層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)C粒、暗灰粘質含。  
 2層:2.5Y5/1(黄灰色砂少量混着壤土)練瓦、C粒、ブロック少量。  
 3層:2.5Y6/1(黄灰色粘壤土)練瓦。  
 4層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)練瓦、C粒少量。  
 5層:2.5Y3/3(黄褐色砂)練瓦。  
 6層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)練瓦、Cブロック極少量。  
 上層砂ブロック状。  
 7層:2.5Y5/3(黄褐色砂)練瓦。  
 8層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土)練瓦、Cブロック極少量。  
 9層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)練瓦。  
 SK150 土層註  
 1層:5Y4/1(灰黄色粘土)練瓦、潮気岩屑極少量、10YR3/1(黒褐色粘土)ブロック置。

- SK130 土層註  
 1層:10YR5/2(灰黄褐色粘壤土)練瓦、褐色砂混、内縁、Cブロック倉。  
 2層:10YR4/4(褐色砂)練瓦。  
 3層:10YR5/2(灰黄褐色粘壤土)練瓦、内縁、潮気岩屑多量。  
 4層:2.5Y5/1(黄灰色壤土)練瓦、小円礫多、潮気岩屑少量。  
 5層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘土)練瓦。  
 6層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)練瓦、C粒、内縁極少量。  
 7層:2.5Y5/2(暗灰黄色砂壤土)練瓦、C粒極少量。  
 8層:10YR4/2(灰黄褐色粘壤土)練瓦、C粒、暗灰粘質極少量。  
 9層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)練瓦、C粒、内縁極少量。

SK130-151~154平面図・断面図(1/60)

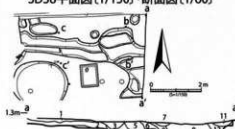


- SK151-152 土層註  
 1層:2.5Y5/1(黄灰色粘壤土)練瓦、Cブロック、内縁極少量。  
 2層:2.5Y5/1(黄灰色粘土)練瓦、Cブロック、内縁極少量。  
 3層:2.5Y4/1(黄灰色砂混壤土)練瓦、Cブロック少量。  
 4層:10YR4/2(灰黄褐色粘壤土)練瓦、C粒極少量。  
 5層:10YR5/2(灰黄褐色粘壤土)練瓦、C粒極少量。  
 6層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)練瓦、C粒極少量。  
 7層:10YR5/1(暗灰色粘壤土)練瓦、C粒極少量。  
 SK153 土層註  
 1層:2.5Y6/2(灰黄色粘砂)練瓦、C粒極少量。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)練瓦、C粒極少量。  
 3層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)練瓦、C粒極少量。  
 4層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)練瓦、C粒極少量。  
 5層:5Y6/1(灰色粘砂)練瓦、C粒極少量。  
 6層:10YR4/1(暗灰黄色粘土)練瓦、10YR7/2(灰黄褐色粘土)ブロック置。  
 7層:10YR4/1(暗灰黄色粘土)練瓦、10YR2/2(灰白色粘土)ブロック置。

- SK154 土層註  
 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘土)練瓦、C粒、ブロック極少量。  
 2層:10YR4/2(灰黄褐色粘壤土)練瓦、C粒、内縁極少量。  
 3層:10YR4/2(灰黄褐色粘土)練瓦、C粒極少量。  
 4層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)練瓦。  
 5層:10YR4/2(灰黄褐色粘土)練瓦、C粒極少量。  
 6層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)練瓦、Cブロック、内縁極少量。

第43図 町屋5地区遺構図2(1/60)

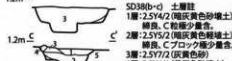
SD38平面図(1/150)・断面図(1/60)



SD38(a) 土層註

- 1層: 10YR5/6(黄褐色砂) 締良。
- 2層: 10YR5/1(褐灰色軽壤土) 締良, C 粒, 小円礫極少量。
- 3層: 10YR4/2(灰黄褐色壤土) 締良, C 粒極少量。
- 4層: 10YR4/1(褐灰色壤土) 締良, C 粒極少量。
- 5層: 10YR5/2(灰黄褐色壤土) 締良, C 粒極少量。
- 6層: 5Y5/1(灰色軽壤土) 締良, C 粒極少量。
- 7層: 10YR4/2(灰黄褐色軽壤土) 締良。
- 8層: 2.5Y5/1(黄灰色軽壤土) 締良。
- 9層: 2.5Y5/1(黄灰色軽壤土) 締良。
- 10層: 5Y4/1(灰色軽壤土) 締良。
- 11層: 10YR4/2(灰黄褐色壤土) 締良, C 粒極少量。
- 12層: 2.5Y4/2(褐灰黄色壤土) 締良, C ブロック極少量。

1.2m

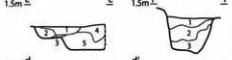


1.2m

SD36-39平面図(1/150)・断面図(1/60)



1.5m



1.4m

SD39(e) 土層註

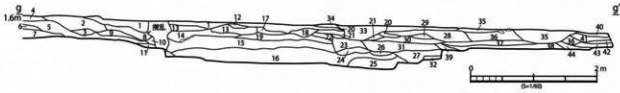
- 1層: 10YR4/2(灰黄褐色壤土) 締良。
- 2層: 10YR4/1(褐灰色粘土) ブロック少量。
- 3層: 10YR4/3(にぶい黄褐色壤土) 締良。
- 4層: 10YR3/1(黒褐色壤土) ブロック。
- 5層: 10YR5/2(灰黄褐色壤土) 締良, C ブロック極少量。
- 6層: 2.5Y5/2(褐灰黄色壤土) 締良, C 粒極少量。

SD39(e) 土層註

- 1層: 10YR5/2(灰黄褐色壤土) 締良, C 粒極少量。
- 2層: 10YR4/1(褐灰色砂少量混入) 締良, C 粒・ブロック, 褐灰粘粒少量。
- 3層: 10YR4/1(褐灰色軽壤土) 締良, C ブロック少量。
- 4層: 10YR3/1(黒褐色粘土) 締良, C ブロック少量。

SD35-36 土層註

- ①層: 10YR4/2(灰黄褐色壤土) 締良, C 粒極少量, 上位遺構。
- ②層: 10YR5/6(黄褐色砂) 締良, 円礫, 上位遺構。
- 1層: 10YR4/2(灰黄褐色壤土) 締良, C 粒極少量。
- 1層: 10YR5/2(灰黄褐色シルト) 締良, C ブロック極少量。(SD35)



1.8m



第44図 町屋5地区遺構図3 (1/60・1/100・1/150)

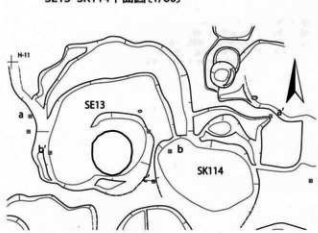
SD19(g) 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色砂壤土)締層、C粒、小円礫極少量。
- 2層:10YR5/2(灰黄褐色砂壤土)締層、小円礫少量。
- 3層:10YR5/2(灰黄褐色砂壤土)締層、C粒、小円礫、凝灰岩屑少量。
- 4層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒、小円礫少量。
- 5層:10YR4/1(褐灰色壤土)締層、C粒、小円礫極少量。
- 6層:10YR5/1(黄灰色壤土)締層。
- 7層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)締層、C粒極少量。
- 8層:10YR4/2(灰黄褐色砂壤土)締層、小円礫、凝灰岩屑極少量。
- 9層:10YR5/2(灰黄褐色砂壤土)締層、C粒、凝灰岩屑少量。
- 10層:10YR5/2(灰黄褐色砂壤土)締層、C粒極少量。
- 11層:10YR5/3(比ふい黄褐色砂)締層。
- 12層:10YR4/3(比ふい黄褐色砂)
- 13層:10YR6/4(比ふい黄褐色砂)
- 14層:10YR5/2(灰黄褐色砂壤土)締層、円礫極少量、凝灰岩屑少量。
- 15層:10YR5/1(褐灰色壤土)締層、C粒、ブロック少量。
- 16層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒、小円礫少量、灰色粘土+ブロック極少量。
- 17層:10YR5/3(比ふい黄褐色砂)締層、C粒極少量。
- 18層:10YR5/2(灰黄褐色砂壤土)締層、C粒極少量。
- 19層:10YR5/1(褐灰色壤土)締層、C粒極少量。
- 20層:10YR4/2(灰黄褐色砂壤土)締層、C粒少量。
- 21層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒極少量。
- 22層:2.5Y7/6(明黄褐色砂)締層、C粒極少量。
- 23層:10YR4/2(灰黄褐色砂壤土)締層、C粒少量。
- 24層:10YR5/1(褐灰色壤土)締層、C粒、ブロック極少量。
- 25層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒、ブロック、小円礫少量。
- 26層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)+2.5Y7/6(明黄褐色砂)
- 27層:10YR4/1(褐灰色壤土)締層、C粒極少量。
- 28層:10YR5/4(比ふい黄褐色砂)締層。
- 29層:10YR6/6(明黄褐色砂)締層。
- 30層:10YR5/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒極少量。
- 31層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒、ブロック極少量。
- 32層:5Y5/1(灰色粘土)
- 33層:7.5YR5/6(明黄褐色粘)締層、C粒極少量。
- 34層:2.5Y2/2(暗黄褐色粘)締層。
- 35層:2.5Y3/1(黄褐色粘土)締層、Cブロック、礫少量。
- 36層:2.5Y2/2(暗黄褐色粘)締層、C粒、円礫極少量。
- 37層:2.5Y6/2(灰黄色粘)締層、C粒極少量。
- 38層:2.5Y2/2(暗黄褐色粘)締層、C粒極少量。
- 39層:10YR6/8(明黄褐色粘)締層。
- 40層:10YR4/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒。
- 41層:10YR4/1(褐灰色粘土)締層、C粒極少量。
- 42層:10YR5/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒極少量。
- 43層:2.5Y4/2(暗黄褐色粘)締層、C粒極少量。
- 44層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)締層。

SK30d-SE16 土層註

- 1層:10YR5/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒、凝灰岩屑。
- 2層:10YR5/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒極少量。
- 3層:10YR4/1(褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 4層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒少量。
- 5層:10YR5/1(褐灰色壤土)締層、凝灰岩屑極少量。
- 6層:2.5Y5/1(黄灰色粘土)締層、C粒、凝灰岩屑少量。
- 7層:10YR5/2(灰黄褐色壤土)締層、C粒、円礫少量。
- 8層:10YR4/3(比ふい黄褐色粘土)締層、円礫、凝灰岩屑。
- 9層:10YR5/2(灰黄褐色砂壤土)締層、C粒極少量。
- 10層:2.5Y4/2(暗黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 11層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)締層、Cブロック少量。
- 12層:10YR5/6(黄褐色粘)締層。
- 13層:2.5Y5/2(暗黄褐色粘)締層、Cブロック、円礫。
- 14層:2.5Y6/2(暗黄褐色粘)締層、Cブロック少量。
- 15層:2.5Y6/3(比ふい黄褐色粘)締層、C粒少量。
- 16層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)締層、C粒極少量。
- 17層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 18層:2.5Y5/2(暗黄褐色粘)締層。
- 19層:10YR5/2(灰黄褐色壤土)締層、凝灰岩屑。
- 20層:10YR6/1(褐灰色粘土)締層、凝灰岩屑少量。
- 21層:2.5Y2/2(暗黄褐色粘)締層、C粒極少量。
- 22層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 23層:10YR6/4(比ふい黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 24層:10YR6/2(灰黄褐色粘土)漆喰。
- 25層:10YR6/1(褐灰色粘土)
- 26層:2.5Y7/2(暗黄褐色粘)締層。
- 27層:礫、円礫
- 28層:2.5Y5/2(暗黄褐色粘)并円礫内埋土。
- 29層:10YR6/6(明黄褐色粘)締層、円礫、凝灰岩屑少量。
- 30層:10YR5/4(比ふい黄褐色粘)円礫の埋込み。
- 31層:10YR6/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒少量。
- 32層:2.5Y6/2(灰黄色粘)締層、C粒極少量。
- 33層:10YR5/4(比ふい黄褐色粘)締層。
- 34層:2.5Y6/2(灰黄色粘土)締層、C粒極少量。
- 35層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 36層:2.5Y2/2(暗黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 37層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒、ブロック極少量。
- 38層:10YR4/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 39層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)締層、Cブロック極少量。
- 40層:2.5Y2/2(暗黄褐色粘土)凝灰岩屑少量。
- 41層:2.5Y6/3(比ふい黄褐色粘)締層、小円礫極少量。
- 42層:10YR4/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 43層:2.5Y5/1(黄灰色粘土)締層、C粒、円礫極少量。
- 44層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 45層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)締層、黄色粘土+ブロック。
- 46層:10YR4/1(褐灰色粘土)締層、木屑、円礫。

SE13・SK114平面図(1/60)



SK114断面図(1/60)



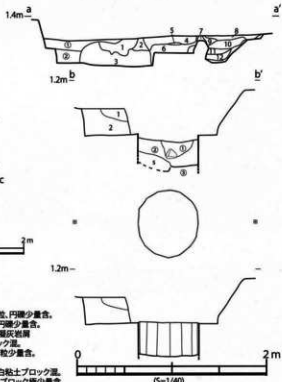
SE13(a) 土層註

- 1層:2.5Y5/1(黄灰色砂凝土)締層、C粒、円礫少量。
- 2層:2.5Y6/1(黄灰色砂凝土)締層、小円礫少量。
- 3層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)締層、C粒、凝灰岩屑極少量、2.5Y2/1(黒色粘土)ブロック。
- 4層:10YR4/2(灰黄褐色粘土)締層、C粒少量。
- 5層:2.5Y6/1(黄灰色砂凝土)締層、R(黒粘土)ブロック。
- 6層:2.5Y4/1(黄灰色砂凝土)締層、R(黒粘土)ブロック。
- 7層:10YR5/2(灰黄褐色粘土)締層、Cブロック少量。
- 8層:10YR4/2(灰黄褐色粘土)締層、Cブロック少量。
- 9層:2.5Y2/2(暗黄褐色粘土)締層、10YR4/1(褐灰色粘土)ブロック。
- 10層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)締層、7.5Y2/1(黒色粘土)ブロック。
- 11層:2.5Y6/1(黄灰色粘)締層。
- 12層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)締層、C粒少量。

SK114 土層註

- 1層:10YR4/1(褐灰色粘土)締層、10YR4/3(比ふい黄褐色砂)。
- 2層:10YR3/1(黒褐色粘土)締層、C粒極少量。
- 3層:2.5Y4/1(黄灰色砂凝土)締層、C粒、円礫、凝灰岩屑少量。

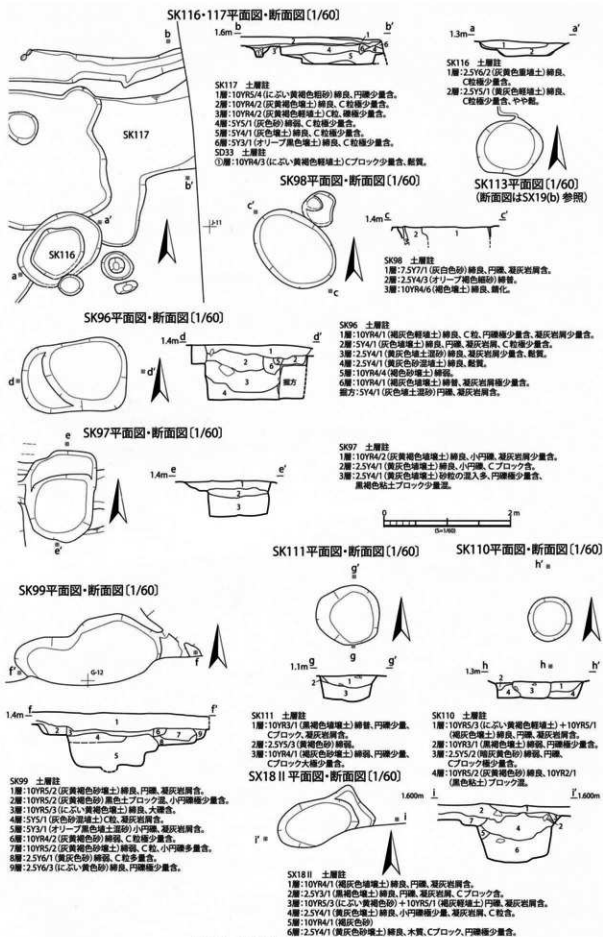
SE13断面図(1/40)



SE13(b) 土層註

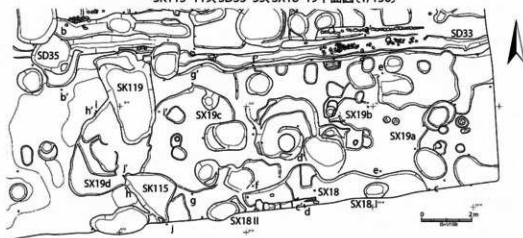
- 1層:10YR4/1(褐灰色粘土)締層、木屑。
- 2層:10YR3/1(黒褐色粘土)締層、10YR1/1(黒色粘土)
- ①層:2.5Y5/1(黄灰色砂土)締層、木屑。
- ②層:2.5Y4/1(黄灰色粘土)締層、黄色粘土+ブロック。
- ③層:2.5Y5/1(黄灰色粘土)少量混

第45図 町屋6地区遺構図1(1/60)



第 46 図 町屋 6 地区遺構図 2 (1 / 60)

SK115・119, SD33・35, SX18・19平面図 (1/150)



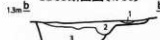
SD33断面図 (1/60)



SD33 土層註

1層: 2.5Y5/2 (黄灰色粘壤土) 締良。

SD35断面図 (1/60)



SD35 土層註

1層: 10YR4/1 (褐灰色粘壤土) 締良, 小円礫極少量。  
 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 3層: 2.5Y4/1 (褐色粘壤土) 締良, Cブロック極少量。

SX18断面図 (1/60)

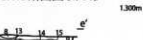


SX18(b) 土層註

1層: 2.5Y5/1 (黄灰色粘壤土) + 2.5Y5/2 (褐灰色粘壤土) 締良, 小円礫極少量。

2層: 2.5Y3/1 (黄褐色粘壤土) 締良, C粒, 木質極少量。  
 3層: 2.5Y6/2 (灰黄色砂) 締良。  
 4層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) + 2.5Y2/1 (黒色粘土) ブロックマーブル状に混。

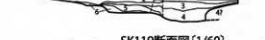
SX19断面図 (1/60)



SX19 土層註

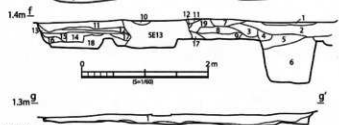
1層: 10YR4/1 (褐灰色粘壤土) 締良, 小円礫極少量。  
 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 3層: 2.5Y4/1 (褐色粘壤土) 締良, Cブロック極少量。

SK119断面図 (1/60)



SK119 土層註

1層: 10YR5/4 (灰に近い黄褐色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 2層: 10YR6/3 (灰に近い黄褐色砂) 締良, C粒極少量。  
 3層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) + 10YR2/2 (灰に近い黄褐色砂) C粒極少量。  
 4層: 2.5Y6/4 (灰に近い黄褐色砂) 締良。  
 5層: 2.5Y6/2 (灰黄色砂) 締良, 山?



SK115(g) 土層註

1層: 2.5Y5/1 (黄灰色砂少量混土)

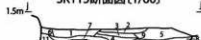
SK119(e) 土層註

1層: 10YR5/4 (黄褐色粘壤土) 締良。  
 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 3層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, 小円礫極少量。  
 4層: 5Y3/1 (オリーブ黒色粘壤土) 締良。  
 5層: 5Y3/1 (灰褐色土少量混砂)  
 6層: 5Y4/1 (灰褐色粘壤土) 締良, 小円礫極少量。  
 7層: 2.5Y2/1 (黒色粘土) 締良。  
 8層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) 締良。  
 9層: 10YR5/2 (灰黄色粘壤土) 締良。  
 10層: 10YR4/3 (黄褐色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 11層: 10YR4/1 (褐灰色粘壤土) 締良, 小円礫少量。  
 12層: 10YR4/1 (褐灰色粘壤土) 締良, Cブロック極少量。  
 13層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土少量混砂) 締良, Cブロック極少量。  
 14層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) 締良。  
 15層: 10YR4/3 (灰に近い黄褐色砂) 締良。  
 16層: 10YR5/3 (灰に近い黄褐色土少量混砂) 締良。  
 17層: 10YR5/3 (灰に近い黄褐色粘壤土) 締良。

SK19(f) 土層註

1層: 10YR4/4 (褐色粘壤土) 締良, C粒。  
 2層: 10YR5/2 (灰黄色粘壤土) 締良, 10YR7/1 (灰白色粘土) ブロック道。  
 3層: 10YR5/2 (灰黄色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 4層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) 締良。  
 5層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良。  
 6層: 5Y3/1 (オリーブ黒色粘壤土) やや粗。  
 7層: 10YR4/3 (黄褐色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 8層: 10YR4/1 (褐灰色粘壤土) 締良。  
 9層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良。  
 10層: 10YR5/2 (灰黄色粘壤土) 締良。  
 11層: 10YR3/3 (暗褐色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 12層: 10YR4/1 (褐灰色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 13層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) 締良, 10Y2/1 (黒色粘土) 混。  
 14層: 10YR4/3 (灰に近い黄褐色砂) 締良。  
 15層: 10YR4/1 (褐灰色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 16層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 17層: 16層砂  
 18層: 2.5Y3/2 (黄褐色粘壤土) 締良。  
 19層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) 締良, ブロック状。

SK115断面図 (1/60)



SK18 土層註

1層: 2.5Y4/3 (オリーブ褐色砂) 締良, 円礫多量。  
 2層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) 締良, Cブロック。  
 3層: 10YR5/2 (灰黄色粘壤土) 締良, C粒少量。  
 4層: 2.5Y3/1 (黄褐色粘壤土) 締良, C粒少量。  
 5層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良。  
 6層: 2.5Y2/2 (褐灰色粘壤土) 締良。  
 7層: 2.5Y2/2 (褐灰色粘壤土) 締良, 円礫少量。  
 8層: 2.5Y4/2 (黄褐色粘壤土) 締良。  
 9層: 2.5Y4/1 (黄褐色粘壤土) 締良。  
 10層: 2.5Y3/1 (黄褐色粘壤土) 締良, 小円礫少量。  
 12層: 2.5Y7/1 (黄褐色粘壤土) 締良, C粒少量。  
 13層: 2.5Y3/1 (黄褐色粘壤土) 締良, C粒少量。  
 14層: 2.5Y4/2 (灰黄色粘壤土) 締良, 2.5Y2/2 (灰褐色粘土) ブロック道。  
 15層: 2.5Y4/1 (黄褐色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 16層: 5Y3/1 (オリーブ黒色粘壤土) 締良, 木質。  
 17層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) 締良, 小円礫, C粒。  
 18層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, Cブロック。  
 19層: 2.5Y5/1 (黄褐色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 20層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒混泥岩層多量。

SK19(h) 土層註

1層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) 締良, C粒極少量。  
 2層: 10YR4/1 (褐灰色粘壤土) 締良, Cブロック極少量。  
 10YR2/1 (黒色粘土) ブロック極少量。  
 3層: 2.5Y6/2 (灰黄色砂) 締良, C粒極少量。  
 4層: 2.5Y6/2 (灰黄色砂) 締良, C粒極少量。  
 5層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, 小円礫極少量。  
 6層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, Cブロック極少量。

SK18 土層註

①層: 10YR4/2 (灰黄色粘壤土) Cブロック, 円礫。  
 ②層: 10YR5/1 (褐色粘壤土)  
 ③層: 2.5Y3/1 (黄褐色粘壤土) 粘泥。  
 ④層: 2.5Y5/2 (褐灰色粘壤土)  
 ⑤層: 10YR2/1 (黒色粘土) 粘泥, 円礫。  
 ⑥層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, 小円礫極少量。

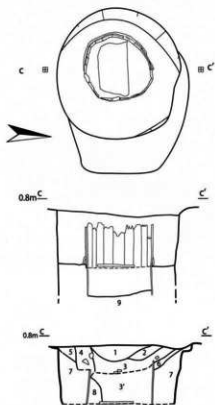
第 47 図 町屋 6 地区遺構図 3 (1/60・1/150)



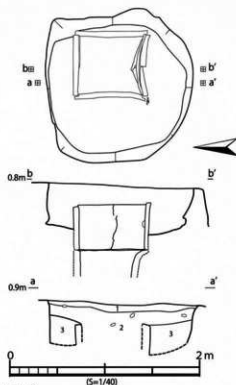
SK115 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色砂)雜良,10YR5/1(褐色粘土)ブロック混。
- 2層:10YR4/1(褐色砂壤土)雜良,C砂、円礫極少量含。
- 3層:2.5Y4/1(黄灰色砂)雜良,C砂極少量含。
- 4層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)雜良,C砂極少量含。
- 5層:10YR5/4(黄褐色砂)雜良,C砂極少量含。
- 6層:10YR5/3(にぶい黄褐色壤土)雜良,小円礫、凝灰岩屑少量含。
- 7層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)雜良,C砂極少量含。
- 8層:2.5Y5/2(暗黄灰色砂)雜良。
- 9層:2.5Y5/1(黄灰色砂)雜良,C砂極少量含。
- 10層:2.5Y6/1(黄灰色砂)雜良,C砂極少量含。
- 11層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)雜良,C砂、円礫極少量含、粘土帯状に入る。
- 12層:2.5Y6/2(黄灰色砂)雜良,C砂、凝灰土帯状に少量入る。
- 13層:2.5Y6/1(黄灰色細砂)雜良Cブロック極少量含。
- 14層:2.5Y5/1(黄灰色細土)雜良、円礫少量。
- 15層:~13層の砂。
- 16層:2.5Y2/1(黒色軽壤土)腐植土、乾瓦。
- 17層:5Y5/1(灰色砂壤土)雜良、C砂少量含。
- 18層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)雜良、Cブロック極少量含。
- 19層:5Y5/1(灰色砂)雜良、C砂極少量含。
- 20層:5Y3/1(オリーブ黒色軽壤土)雜良、Cブロック、木質少量含、乾瓦。
- 21層:5Y2/1(黒色腐植土)雜良、粘土ブロック極少量含、乾瓦。

SE2001平面図・断面図(1/40)



SK2063平面図・断面図(1/40)



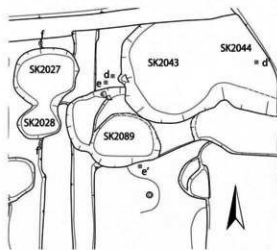
SK2063 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)+2.5Y4/2(暗黄灰色粘土)ブロック混。
- 2層:2.5Y3/1(黒褐色シルト質壤土)+2.5Y4/2(暗黄灰色粘土)ブロック混。
- 3層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)+2.5Y4/2(暗黄灰色粘土)ブロック+2.5Y2/1(黄灰色粘土)ブロック混状に入る。

SE2001 土層註

- 1層:10YR4/3(にぶい黄褐色砂)雜良。
- 2層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土)
- 3層:10YR3/1(黒褐色壤土)腐植物含。
- 4層:5Y3/1(オリーブ黄褐色壤土)腐植土、Cブロック極少量含、乾瓦。
- 5層:2.5Y3/1(黒褐色シルト質壤土)C砂含。
- 6層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)
- 7層:7.5YR3/1(黒褐色壤土)
- 8層:2.5Y4/2(暗黄灰色砂)
- 9層:5Y4/1(灰色軽壤土)木質少量含、乾瓦。
- 9層:地山砂壤砂

SK2043・44・89・27・28平面図・断面図(1/60)



SK2043・44 土層註

- 1層:7.5YR4/6(褐色砂)
- 2層:7.5YR4/4(褐色砂壤土)
- 3層:2.5Y4/2(暗黄灰色砂)
- 4層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)+2.5Y5/2(暗黄灰色粘土)ブロック混。
- 5層:2.5Y3/1(黒褐色シルト質壤土)
- 6層:10YR4/1(褐色壤土)Cブロック含。
- 7層:2.5Y5/2(暗黄灰色砂壤土)+10YR3/1(黒褐色粘土)ブロック混。
- 8層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)10YR2/1(黒褐色粘土)ブロック混。

SK2089 土層註

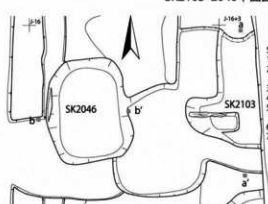
- 1層:2.5Y4/2(暗黄灰色軽壤土)雜良,C砂極少量含。
- 2層:2.5Y4/3(オリーブ褐色軽壤土)雜良,C砂極少量含。
- 3層:2.5Y5/4(黄褐色砂)雜良,C砂極少量、白色粘土ブロック少量含。
- 4層:2.5Y5/3(黄褐色砂)雜良。
- 5層:5Y5/1(灰色砂)腐植土、雜良、C砂、円礫極少量、白色粘土ブロック含。
- 6層:2.5Y4/1(黄灰色軽壤土)雜良、木質含、6層は砂少量含。
- 7層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)雜良、C砂極少量、木質少量含。

SK2027・28 土層註

- 1層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)+2.5Y5/2(暗黄灰色粘土)ブロック混。
- 2層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)Cブロック含。
- 3層:2.5Y3/1(黒褐色軽壤土)
- 4層:5Y4/1(灰色軽壤土)
- 5層:2.5Y4/2(暗黄灰色壤土)
- 6層:5Y4/1(灰色壤土)
- 7層:10YR3/1(黒褐色軽壤土)

第 48 図 町屋 7 地区遺構図 1 (1/40・1/60)

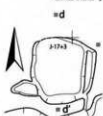
SK2103・2046平面図・断面図(1/60)



SK2103 土層註  
1層:2.5Y3/1(黒褐色硬粘土)練瓦、C粒極少量。  
2層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)練瓦、C粒極少量。  
腐植物。  
3層:2.5Y4/1(黄灰色砂)練瓦、黒色粘土ブロック少量。  
4層:2.5Y4/3(オリーブ褐色硬粘土)練瓦、C粒極少量。  
5層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)練瓦、C粒極少量。  
白色粘土ブロック。  
6層:R3/1(暗灰色粘土)練瓦、C粒極少量。  
7層:2.5Y4/2(暗灰黄色硬粘土)練瓦、C粒極少量。  
白色粘土ブロック少量。  
2.5Y6/6(明黄褐色粘土)ブロック。

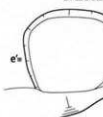
SK2046 土層註  
1層:10YR3/2(黒褐色砂壤土)  
2層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)  
+2.5Y5/2(暗灰黄色粘土)ブロック混。  
3層:2.5Y3/1(黒褐色シルト質壤土)  
+2.5Y5/2(暗灰黄色粘土)ブロック混。  
4層:5Y3/1(オリーブ黒色硬粘土)  
5層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)

SK2082平面図・断面図(1/60)



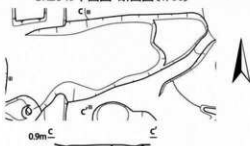
SK2082 土層註  
1層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)Cブロック含。  
2層:10YR4/1(暗灰色シルト質壤土)  
+10YR6/1(暗灰色粘土)ブロック混。  
3層:2.5Y3/1(黒褐色硬粘土)  
4層:7.5YR3/1(黒褐色硬粘土)

SK2062平面図・断面図(1/60)



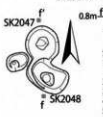
SK2062 土層註  
1層:2.5Y4/3(オリーブ褐色シルト質壤土)  
2層:5Y4/1(灰色砂壤土)  
3層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)  
4層:2.5Y3/1(黒褐色硬粘土)  
5層:5Y3/1(オリーブ黒色硬粘土)

SK2049平面図・断面図(1/60)



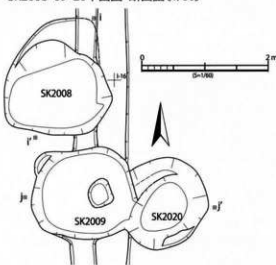
SK2049 土層註  
1層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)Cブロック含。  
2層:5Y4/1(灰色硬粘土)  
3層:7.5Y4/1(灰色砂)

SK2047・48平面図・断面図(1/60)



SK2047-48 土層註  
1層:2.5Y4/2(暗灰黄色硬粘土)Cブロック含。  
2.5Y5/2(暗灰黄色粘土)ブロック混。  
2層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)  
3層:2.5Y3/1(黒褐色硬粘土)  
4層:2.5Y4/3(オリーブ褐色砂壤土)  
5層:10YR3/2(黒褐色壤土)

SK2008・09・20平面図・断面図(1/60)

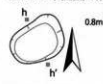


SK2029 土層註  
1層:5Y4/1(灰色シルト質壤土)  
2層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)  
3層:5Y5/1(灰色砂壤土)貝殻片少量含。  
4層:2.5Y3/1(黒褐色硬粘土)  
5層:5Y3/1(オリーブ黒色硬粘土)  
貝殻片多量含。

SK2029平面図・断面図(1/60)



SK2040平面図・断面図(1/60)



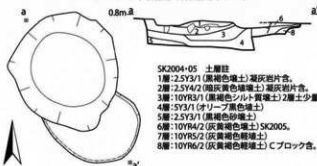
SK2040 土層註  
1層:2.5Y5/3(黄褐色壤土)Cブロック含。  
2層:2.5Y5/2(暗灰黄色壤土)  
3層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)

SK2008 土層註  
1層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)+2.5Y5/2(暗灰黄色粘土)ブロック混、小礫含。  
2層:2.5Y3/1(黒褐色シルト質壤土)+2.5Y5/2(暗灰黄色粘土)ブロック混。  
3層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)  
4層:5Y3/1(オリーブ黒色硬粘土)小礫含。

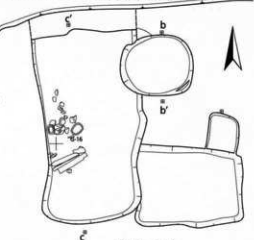
SK2009-20 土層註  
1層:10YR4/3(にぶい黄褐色壤土)Cブロック含。  
2層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)Cブロック含。  
3層:2.5Y4/2(暗灰黄色シルト質壤土)  
4層:2.5Y5/4(黄褐色砂)  
5層:2.5Y5/2(暗褐色壤土)練瓦、Cブロック含。  
6層:2.5Y4/1(黄灰色シルト質壤土)Cブロック含。  
7層:2.5Y3/1(黒褐色硬粘土)  
8層:5Y4/1(灰色硬粘土)  
9層:2.5Y4/1(黄灰色硬粘土)

第49図 町屋7地区遺構図2(1/60)

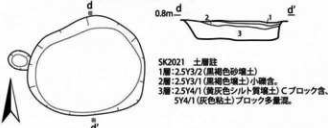
SK2004・05平面図・断面図 [1/60]



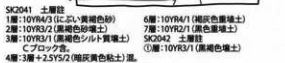
SK2001・41・42・64平面図・断面図 [1/60]



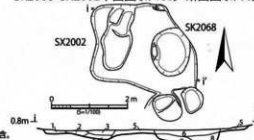
SK2021平面図・断面図 [1/60]



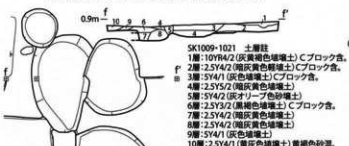
SK2066・67平面図・断面図 [1/60]



SK2068・SK2002平面図 (1/100)・断面図 (1/60)



SK1009・20・21・22平面図・断面図 [1/60]



SK2001平面図 [1/100]・断面図 [1/60]



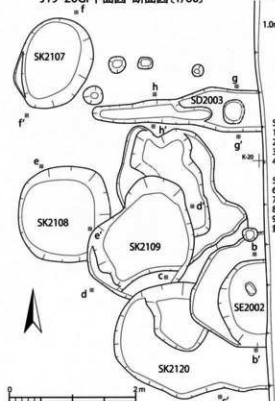
SK2001① 土層註

- 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)Cブロック倉。
- 2層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)葎良、Cブロック倉。
- 3層:2.5Y3/2(暗灰黄色砂壤土)+2.5Y6/2(灰黄色粘土)ブロック塙。
- 4層:5Y4/1(灰色砂壤土)+2.5Y6/2(灰黄色粘土)ブロック、10YR2/1(黒粘土)ブロック塙。
- 5層:2.5Y6/2(灰黄色粘壤土)黒色粘土ブロック塙。
- 6層:10YR3/1(黒褐色壤土)
- 7層:2.5Y4/6(オリーブ褐色壤土)+2.5Y6/2(灰黄色粘土)ブロック塙。
- 8層:10YR4/1(暗灰色壤土)

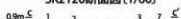
SK2001② 土層註

- 1層:2.5Y4/1(灰黄色壤土)+2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)。
- 2層:10YR3/1(黒褐色壤土)
- 3層:5Y4/1(灰色粘壤土)
- 4層:5Y3/1(オリーブ黒色粘土)
- 5層:7.5Y4/1(灰色シルト質壤土)

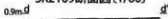
J19-20Gr平面図・断面図(1/60)



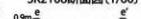
SK2120断面図(1/60)



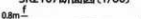
SK2109断面図(1/60)



SK2108断面図(1/60)



SK2107断面図(1/60)



SK2120 土層註

- 1層:10YR2/2(長褐色砂壤土)
- 2層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色壤土)Cブロック多量倉、灰色粘土ブロック塙。
- 3層:2.5Y3/1(オリーブ黒色壤土)
- 4層:2.5Y4/4(オリーブ褐色砂壤土)
- 5層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)
- 6層:2.5Y3/1(オリーブ黒色壤土)Cブロック倉。
- 7層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)
- 8層:5Y3/1(オリーブ黒色壤土)
- 9層:5Y4/1(灰色砂壤土)
- 10層:7.5Y2/2(オリーブ黒色砂壤土)
- 11層:2.5Y4/6(オリーブ褐色粘壤土)
- 12層:5Y3/1(オリーブ黒色粘土)
- 13層:5Y3/1(オリーブ黒色粘土)

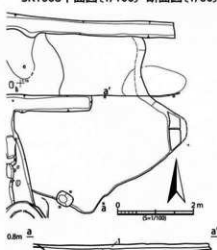
SK2109 土層註

- 1層:5Y2/2(オリーブ黒色壤土)Cブロック、貝殻倉。
- 2層:5Y3/2(オリーブ黒色壤土)Cブロック、貝殻倉、黄褐色粘土ブロック塙。
- 3層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)黒色粘土ブロック塙。
- 4層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色砂壤土)赤褐色粘土。
- 5層:2.5Y4/3(オリーブ褐色砂壤土)
- 6層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色壤土)黄褐色粘土ブロック塙。
- 7層:2.5Y3/1(黒褐色砂壤土)
- 8層:5Y3/1(オリーブ黒色壤土)
- 9層:5Y4/1(灰色砂壤土)
- 10層:5Y3/2(オリーブ黒色粘土)
- 11層:7.5Y2/2(オリーブ黒色粘土)

SK2107 土層註

- 1層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色壤土)赤褐色粘土ブロック塙。
- 2層:2.5Y4/3(オリーブ褐色砂壤土)
- 3層:2.5Y2/1(黒色砂壤土)
- 4層:2.5Y2/1(黒色砂壤土)灰色砂ブロック塙。
- 5層:2.5Y3/2(黒褐色粘土)
- 6層:2.5Y4/3(オリーブ褐色粘土)
- 7層:2.5Y3/2(黒褐色粘土)
- 8層:5Y2/2(オリーブ黒色砂壤土)
- 9層:5Y2/2(オリーブ黒色粘土)
- 10層:5Y2/1(黒褐色粘土)
- 11層:5Y3/2(オリーブ褐色粘土)
- 12層:5Y2/2(オリーブ黒色粘土)
- 13層:2.5Y3/2(黒褐色粘土)
- 14層:7.5Y4/6(褐色砂)

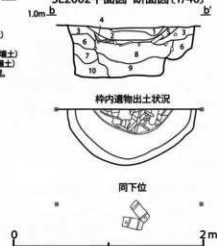
SK1008平面図(1/100)・断面図(1/60)



SK1008 土層註

- 1層:5Y3/1(灰色粘壤土)Cブロック倉。
- 2層:5Y4/1(灰色黒粘土)Cブロック倉。

SE2002平面図・断面図(1/40)



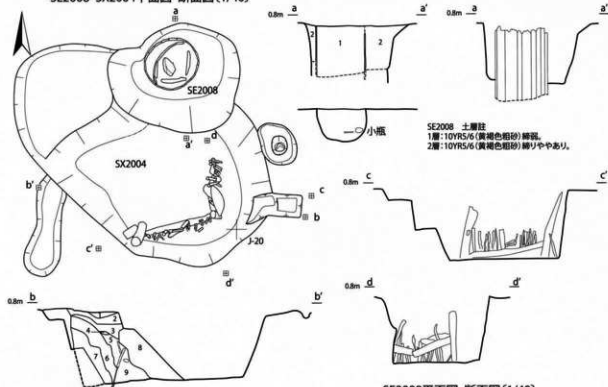
SE2002 土層註

- 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)葎良、C粘塊少量倉。
- 2層:2.5Y3/2(暗灰黄色粘土)ブロック塙。
- 3層:2.5Y3/1(黒褐色粘土)葎良、C粘塊少量倉、白色粘土ブロック少量塙。
- 4層:2.5Y4/1(灰黄色粘土)葎良、C粘塊少量倉、白色粘土ブロック少量塙。
- 5層:2.5Y4/1(灰黄色粘土)葎良、C粘塊少量倉、黄褐色粘土少量塙。
- 6層:2.5Y3/1(黒褐色粘土)葎良、C粘塊少量倉、白色粘土ブロック少量塙。
- 7層:2.5Y4/1(灰黄色粘土)葎良。
- 8層:2.5Y4/1(灰黄色粘土)葎良、葎良。
- 9層:10YR3/1(赤褐色粘土)葎良、水質倉、白色粘土ブロック少量塙。
- 10層:2.5Y3/1(黒褐色粘土)葎良、白色粘土ブロック少量塙。

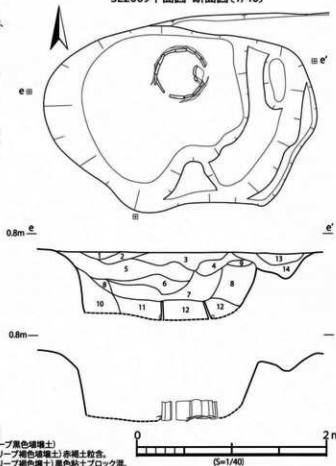
SK1008 土層註

- 1層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土)Cブロック倉、灰色粘土ブロック塙。
- 2層:2.5Y2/1(黒色粘土)灰色粘土ブロック塙。
- 3層:2.5Y3/1(黒褐色粘土)灰色粘土ブロック塙。
- 4層:5Y2/2(オリーブ黒色粘土)
- 5層:5Y3/1(オリーブ黒色粘土)
- 6層:5Y2/2(オリーブ黒色粘土)
- 7層:5Y2/2(オリーブ黒色粘土)黄褐色粘土ブロック塙。
- 8層:5Y3/2(オリーブ黒色粘土)

SE2008・SX2004平面図・断面図(1/40)



SE2009平面図・断面図(1/40)



SK2144・45平面図・断面図(1/60)

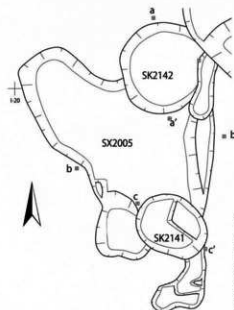


SK2164平面図・断面図(1/60)



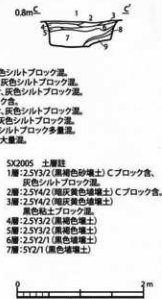
第52図 町屋8地区遺構図2 (1/40・1/60)

SK2141・42・SX2005平面図・断面図(1/60)



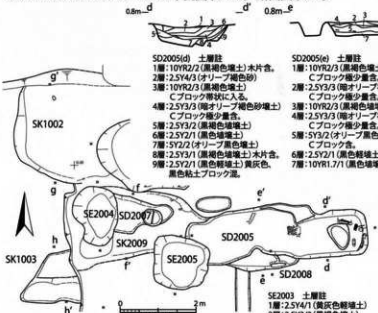
- SK2142 土層註  
 1層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土) Cブロック倉,灰色シルトブロック塙。  
 2層:10YR4/2(灰黄褐色壤土) Cブロック倉,灰色シルトブロック塙。  
 3層:5Y3/2(オリーブ黒色壤土) Cブロック倉,灰色シルトブロック塙。  
 4層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色砂壤土) Cブロック倉。  
 5層:5Y3/3(オリーブ黒色砂壤土) Cブロック倉,灰色シルトブロック塙。  
 6層:5Y3/2(オリーブ黒色壤土) Cブロック倉,灰色シルトブロック塙。  
 7層:2.5Y3/2(黒褐色壤土) Cブロック倉,灰色シルトブロック多量塙。  
 8層:2.5Y3/2(黒褐色壤土) 灰色シルトブロック大量塙。

- SK2141 土層註  
 1層:5Y4/1(灰色砂壤土)  
 2層:2.5Y6/4(こぶい,黄色砂壤土) 灰色壤土ブロック塙。  
 3層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)  
 4層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土)  
 5層:2.5Y4/1(黄灰色壤土) 黒褐色粘土ブロック塙。  
 6層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)  
 7層:2.5Y4/1(黄灰色壤土) 黒褐色粘土ブロック塙。  
 8層:2.5Y3/1(黒褐色砂)  
 9層:2.5Y2/1(黒色粘壤土)



- SX2005 土層註  
 1層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土) Cブロック倉,  
灰色シルトブロック塙。  
 2層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土) Cブロック倉,  
3層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)  
黒色粘土ブロック塙。  
 4層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)  
 5層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)  
 6層:2.5Y2/1(黒色壤土)  
 7層:5Y2/1(黒色壤土)

SK1002・03・SD2005・07・08・09平面図(1/100)・断面図(1/60)



- SD2005(d) 土層註  
 1層:10YR2/2(黒褐色壤土) 木片倉。  
 2層:2.5Y4/3(オリーブ褐色砂)  
 3層:10YR2/3(黒褐色壤土)  
 Cブロック倉状倉。  
 4層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色砂壤土)  
 Cブロック倉少量倉。  
 5層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)  
 6層:2.5Y2/1(黒褐色壤土)  
 7層:5Y2/2(オリーブ黒色壤土)  
 8層:2.5Y2/1(黒褐色壤土) 木片倉。  
 9層:2.5Y2/1(黒褐色壤土) 黄灰色,  
黒色粘土ブロック塙。

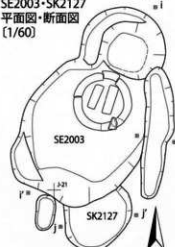
- SD2005(e) 土層註  
 1層:10YR2/3(黒褐色壤土)  
 Cブロック倉少量倉。  
 2層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色壤土)  
 Cブロック倉少量倉。  
 3層:10YR2/3(黒褐色壤土)  
 4層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色砂壤土)  
 Cブロック倉少量倉。  
 5層:5Y3/2(オリーブ黒色砂壤土)  
 Cブロック倉。  
 6層:2.5Y2/1(黒色粘壤土)  
 7層:10YR1/1(黒色粘壤土)

- SD2007-09 土層註  
 1層:2.5Y4/4(オリーブ褐色砂)  
 2層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂)  
 3層:10YR2/2(黒褐色壤土)  
 黒色粘土ブロック塙。  
 4層:2.5Y4/3(オリーブ褐色砂壤土)  
 黒色粘土ブロック塙。  
 5層:2.5Y4/4(オリーブ褐色砂)  
 黒色粘土ブロック塙。  
 6層:2.5Y2/5(暗灰黄色砂) 黒色粘土ブロック塙。  
 7層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂)  
 黒色粘土ブロック塙。

- SK1002 土層註  
 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘壤土) Cブロック倉,  
2層:10YR3/2(灰黄褐色粘壤土)

- SK1003 土層註  
 1層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土) Cブロック倉。  
 2層:5Y4/2(灰オリーブ粘壤土)  
 3層:5Y4/1(灰色粘壤土)  
 4層:5Y3/1(オリーブ黒色粘壤土)  
 5層:2.5Y3/3(黄褐色砂壤土)

SE2003・SK2127  
 平面図・断面図  
 (1/60)

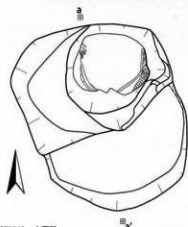


- SE2003 土層註  
 1層:2.5Y4/1(黄灰色粘壤土)  
 2層:2.5Y3/2(黒褐色粘壤土)  
 灰黄色粘土ブロック塙。  
 3層:2.5Y3/2(黒褐色粘壤土)  
 灰化層ブロック塙。  
 4層:5Y3/2(オリーブ黒色砂)  
 5層:5Y2/2(オリーブ黒色壤土)

- SK2127 土層註  
 1層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色砂壤土)  
 赤褐色土ブロック多量塙。  
 2層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土)  
 3層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土)  
 灰黄色粘土ブロック塙。  
 4層:5Y3/2(オリーブ黒色壤土)  
 Cブロック倉。  
 5層:5Y3/2(オリーブ黒色粘壤土)  
 灰黄色粘土ブロック塙。  
 6層:2.5Y3/1(黒褐色粘壤土)  
 7層:2.5Y2/2(オリーブ黒色粘壤土)  
 8層:5Y3/2(オリーブ黒色粘壤土)  
 9層:5Y2/2(オリーブ黒色粘壤土)

第53図 町屋8地区遺構図3・町屋9地区遺構図1(1/60・1/100)

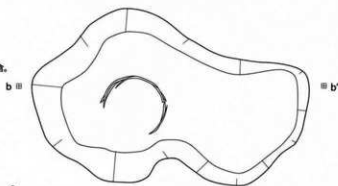
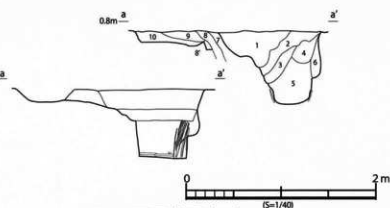
SE2013平面図・断面図(1/40)



SE2013 土層註

- 1層: 10YR4/1 (暗灰色粘壤土) 締良, C粒・ブロック極少量。
- 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒極少量, 木質少量。
- 3層: 10YR4/1 (暗灰色粘壤土) 締良, C粒極少量, 木質少量。
- 4層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘壤土) 締良, 木質極少量。
- 5層: 2.5Y4/1 (灰色砂混雑土) 締良, 木質。
- 6層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, 白色粘土ブロック。
- 7層: 2.5Y7/3 (淡黄色粘壤土) + 2.5Y6/2 (灰黄色砂) Cブロック極少量。
- 8層: 2.5Y6/2 (黄黄色砂) 締良, 上層土ブロック状に混。
- 9層: 2.5Y6/3 (灰い黄色砂) 締良。
- 10層: 2.5Y5/2 (暗灰黄色砂壤土) 締良, 白色粘土ブロック混。

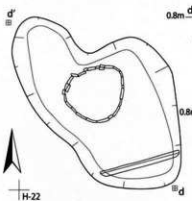
SK2148平面図・断面図(1/40)



SE2009 土層註

- 1層: 10YR4/4 (褐色砂) Cブロック極少量。
- 2層: 10YR4/6 (褐色砂) 大小礫多量。
- 3層: 7.5YR5/8 (明褐色砂) 黒色粘土ブロック混。
- 4層: 5YR5/8 (明赤褐色砂)
- 5層: 2.5Y4/4 (オリーブ褐色砂)
- 6層: 5Y4/4 (暗オリーブ色砂)
- 7層: 10YR4/4 (褐色砂) 黄色粘土ブロック極少量混。
- 8層: 5YR4/8 (赤褐色砂) 層化。
- 9層: 2.5Y4/4 (オリーブ褐色砂) 円礫混。
- 10層: 2.5YR4/8 (赤褐色砂)
- 11層: 10YR4/6 (褐色砂)
- 12層: 10YR4/6 (褐色砂) 円礫混。
- 13層: 10YR5/6 (黄褐色砂)

SE2007平面図・断面図(1/40)

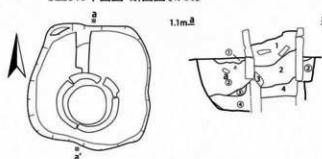


SE2007 土層註

- 1層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色粘壤土) 締良, C粒極少量, 白色粘土ブロック混。
- 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒極少量。
- 3層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色粘壤土) 締良, C粒極少量。
- 4層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒・ブロック少量, 白色粘土ブロック混。
- 5層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒極少量, 白色粘土ブロック少量混。
- 6層: 2.5Y4/1 (黄灰色粘壤土) 締良, C粒・ブロック極少量混。
- 7層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘壤土) 締良, 木質少量。
- 8層: 5Y4/1 (灰砂) 締良, C粒極少量, 白色粘土ブロック少量混。
- 9層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色粘壤土) 締良, C粒極少量, 白・灰色粘土ブロック混。
- 10層: 5Y4/1 (灰色粘壤土) 締良, C粒極少量。

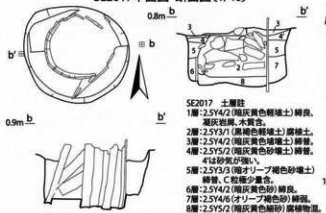
第54図 町屋9地区遺構図2 (1/40)

SE2019平面図・断面図(1/60)



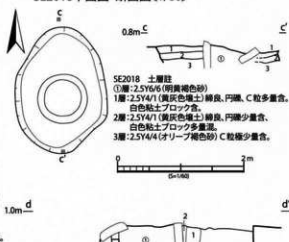
- SE2019 土層註  
 ①層:2.5Y3/1(黒褐色埴土)埴良、C粒、凝灰岩質少量、黒色粘土ブロック少量。  
 ②層:5Y3/1(オリーブ黒色埴土)埴良、円礫少量、C粒、凝灰岩質少量。  
 ③層:5Y6/1(灰色砂埴土)埴良、C粒極少量、木質少量。  
 ④層:5Y4/1(灰色埴土少量層)埴良、C粒極少量、白色粘土ブロック層。  
 1層:10YR4/2(灰黄色埴土)埴良、円礫、凝灰岩質、C粒、粘土粒少量。  
 2層:10YR4/2(灰黄色砂埴土)埴骨、円礫少量、Cブロック多量。  
 3層:2.5Y4/1(黄灰色砂埴土)埴骨、木質少量。  
 4層:2.5Y4/2(黄灰色砂埴土)埴骨、木質、Cブロック少量。  
 下方に円礫埋まる。

SE2017平面図・断面図(1/40)



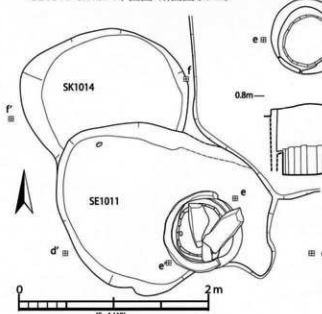
- SE2017 土層註  
 1層:2.5Y4/2(黄灰色軽埴土)埴良、凝灰岩質、木質。  
 2層:2.5Y3/1(黒褐色埴土)腐植土。  
 3層:2.5Y4/2(黄灰色埴土)埴骨。  
 4層:2.5Y2/2(黄灰色砂埴土)埴骨、C粒砂が混入。  
 5層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色埴土)埴骨、C粒極少量。  
 6層:2.5Y4/2(黄灰色砂)埴良。  
 7層:2.5Y4/6(オリーブ褐色砂)埴骨。  
 8層:2.5Y5/2(黄灰色細砂)腐植層。

SE2018平面図・断面図(1/60)



- SE2018 土層註  
 ①層:2.5Y6/6(明黄褐色砂)白色粘土ブロック層。  
 1層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)埴良、円礫、C粒多量。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)埴良、円礫少量、白色粘土ブロック多量。  
 3層:2.5Y4/4(オリーブ褐色砂)C粒極少量。

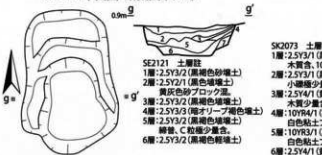
SE1011・SK1014平面図・断面図(1/40)



- SE1011 土層註  
 1層:7.5Y4/1(灰色砂)+5Y2/1(黒色粘土)埴良。  
 2層:7.5Y4/1(灰色砂埴土)灰白粘土ブロック層。  
 3層:7.5Y3/1(オリーブ黒色砂埴土)埴骨、5Y6/1(灰色粘土)、5Y2/1(黒色粘土)ブロック層。  
 4層:2.5Y4/2(黄灰色砂)埴骨。  
 ①層:10YR7/6(明黄褐色砂)円礫。  
 ②層:瓦礫で埋まる。

- SK1014 土層註  
 1層:2.5Y4/2(黄灰色砂埴土)埴骨、小円礫少量、Cブロック多量。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)埴良、粘土ブロック多量。  
 3層:2.5Y4/2(黄灰色砂)埴良、Cブロック少量、粘土ブロック層。

SK2121平面図・断面図(1/60)



- SK2121 土層註  
 1層:2.5Y3/2(黒褐色砂埴土)埴骨。  
 2層:2.5Y2/1(黒色埴土)黄灰色砂ブロック層。  
 3層:2.5Y3/2(黒褐色埴土)埴骨、木質。  
 4層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色埴土)埴骨、木質少量、白色粘土ブロック少量。  
 5層:2.5Y2/2(黒褐色埴土)埴骨、C粒極少量。  
 6層:2.5Y3/2(黒褐色埴土)埴骨、C粒極少量。

- SK2073 土層註  
 1層:2.5Y3/1(黒褐色埴土)埴良、C粒極少量、木質、10YR5/8(黄褐色砂)混入。  
 2層:2.5Y3/1(黒褐色埴土)埴良、C粒、小円礫少量、白色粘土ブロック少量。  
 3層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)埴良、C粒、木質少量、白色粘土ブロック少量。  
 4層:10YR4/1(黄灰色埴土)埴良、白色粘土ブロック多量。  
 5層:10YR3/1(黒褐色埴土)埴骨、白色粘土ブロック少量。  
 6層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)埴良、白-黒色粘土ブロック少量。

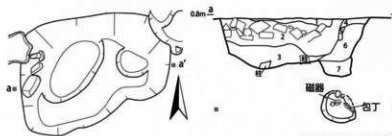
SK2073平面図・断面図(1/60)



- 7層:2.5Y3/1(黒褐色埴土)埴骨、木質、凝灰岩質。  
 8層:2.5Y3/1(黒褐色埴土)腐植土、埴骨。  
 9層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)埴良、2.5Y6/4(灰色砂)、白色粘土ブロック少量。  
 10層:2.5Y3/1(黒褐色埴土)埴良、2.5Y6/4(灰色砂)、白色粘土ブロック少量。  
 11層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)埴良、C粒極少量、白色粘土ブロック層。  
 12層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)埴良、C粒極少量、木質、白色粘土ブロック少量。  
 13層:2.5Y3/2(黒褐色埴土)埴骨、C粒極少量。  
 14層:2.5Y5/1(黄灰色砂埴土)埴良、C粒極少量。  
 15層:5Y4/1(灰色埴土少量層)埴骨、C粒、木質極少量、白色粘土ブロック少量。

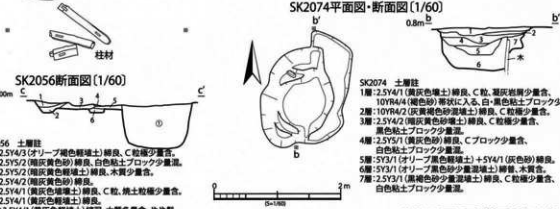


SK2075 平面図・断面図 (1/60)



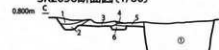
- SK2075 土層註  
 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)練良。  
 5Y5/4(オリーブ色砂)、白色粘土ブロック少量。  
 2層:5Y4/1(灰黄色壤土)練良、礫多量。  
 白色粘土ブロック多量。  
 3層:2.5Y3/1(黄褐色壤土)練良、凝灰岩、木少量。  
 4層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)練良、C粒極少量。  
 5Y5/4(オリーブ色砂)白色粘土ブロック多量。  
 5層:10YR4/1(黄灰色壤土)練良、白色粘土ブロック多量。  
 黒色粘土ブロック少量。  
 6層:2.5Y3/1(黄褐色砂少量混土)練良、木質。  
 白色粘土ブロック多量、黒色粘土ブロック少量。  
 7層:2.5Y4/1(黄灰色砂少量混土)練良、F礫少量。

SK2074 平面図・断面図 (1/60)



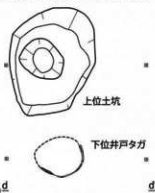
- SK2074 土層註  
 1層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、C粒、凝灰岩極少量。  
 10YR4/4(褐色砂)形状に入る、白(黄色)粘土ブロック少量。  
 2層:10YR4/2(灰黄褐色砂混土)練良、C粒極少量。  
 3層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂混土)練良、C粒極少量。  
 黄色粘土ブロック少量。  
 4層:2.5Y5/1(黄灰色)練良、Cブロック少量。  
 白色粘土ブロック少量。  
 5層:5Y3/1(オリーブ黒色壤土)+5Y4/1(灰赤)練良。  
 6層:5Y3/1(オリーブ黒色砂少量混土)練良、木質。  
 7層:2.5Y3/1(黄褐色砂少量混土)練良、C粒極少量。  
 白色粘土ブロック少量。

SK2056 断面図 (1/60)

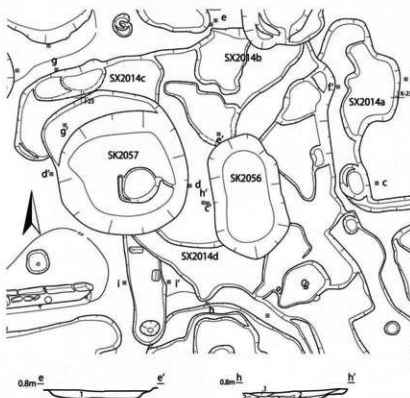


- SK2056 土層註  
 1層:2.5Y4/3(オリーブ褐色壤土)練良、C粒極少量。  
 2層:2.5Y5/2(暗灰黄色砂)練良、白色粘土ブロック少量。  
 3層:2.5Y5/2(暗灰黄色壤土)練良、木質少量。  
 4層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂)練良。  
 5層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、C粒、粘土粒極少量。  
 6層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良。  
 ①層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、木質多量、ヤ、ヤ、ヤ。

SK2057 平面図・断面図 (1/60)



- SK2057 土層註  
 1層:2.5Y4/1(黄灰色砂混土)腐植土、練良、C粒少量。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、凝灰岩極少量、ヤ、ヤ。  
 3層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)練良、C粒、木質、凝灰岩少量。  
 4層:2.5Y5/2(暗灰黄色細砂)練良、C粒極少量、木質。  
 5層:5Y5/1(灰色細砂)練良、腐植土少量。  
 6層:2.5Y4/2(暗灰黄色細砂)練良、木質少量。  
 7層:2.5Y5/1(黄灰色細砂)練良、木質多量。  
 8層:10YR5/3(にじみ、黄褐色細砂)  
 9層:2.5Y4/2(暗灰黄色細砂)練良。  
 10層:10YR4/1(黄灰色砂土)練良。  
 11層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、腐植物。



- SK2014(e) 土層註  
 1層:2.5Y5/2(暗灰黄色壤土)練良、C粒極少量。  
 0.8m

- SK2014(f) 土層註  
 1層:2.5Y5/3(黄褐色砂)練良、腐植物、C粒極少量。  
 白色粘土ブロック極少量。  
 2層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)+10YR5/6(明褐色砂)練良。  
 白色粘土ブロック少量。

- SK2014(g) 土層註  
 1層:2.5Y5/2(暗灰黄色壤土)練良、腐植物、C粒少量。  
 2層:2.5Y3/2(黄褐色壤土)練良、C粒極少量。  
 3層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂)練良、C粒極少量。

- SK2014(h) 土層註  
 1層:2.5Y5/2(暗灰黄色壤土)練良、C粒極少量。  
 2層:2.5Y6/3(にじみ、黄色砂)練良、C粒、腐植土。  
 F礫極少量、2.5Y4/2(暗灰黄色粘土)ブロック。  
 3層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、C粒極少量。  
 4層:3層+2.5Y5/4(黄褐色砂)C粒極少量。  
 5層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、C粒、F礫極少量。

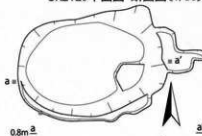
- SD2018 土層註  
 1層:2.5Y5/3(黄褐色砂)練良、C粒極少量。  
 白色粘土ブロック極少量。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、C粒、凝灰岩極少量。

第56図 町屋9地区遺構図4 (1/60)



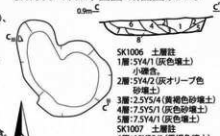
第57図 町屋9地区遺構図5 (1/60)

SK2129平面図・断面図(1/60)



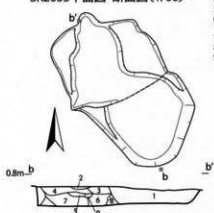
- SK2129 土層註  
 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)+2.5Y5/4(黄褐色砂)、Cブロック少量、白色粘土ブロック少量。  
 2層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)練良、C粒少量、円礫稀少量、白色粘土ブロック少量。  
 3層:2.5Y4/2(暗灰黄色土少量混砂)練良、C粒、白色粘土ブロック混。  
 4層:2.5Y3/2(黒褐色砂壤土)練良、C粒少量、白色粘土ブロック混。  
 5層:5Y4/1(灰色砂壤土)練良、C粒少量、円礫少量、白色粘土ブロック少量。  
 6層:2.5Y4/1(黄灰色砂壤土)練良、Cブロック含、円礫、凝灰岩屑少量。  
 7層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)練良、C粒稀少量。

SK1006・1007平面図・断面図(1/60)



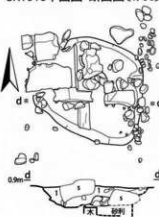
- SK1006 土層註  
 1層:5Y4/1(灰色壤土)小礫含。  
 2層:5Y4/2(灰オリーブ色砂壤土)砂壤土。  
 3層:2.5Y5/4(黄褐色砂壤土)。  
 4層:7.5Y5/1(灰色砂壤土)。  
 5層:7.5Y4/1(灰色壤土)。  
 SK1007 土層註  
 6層:10YR3/1(黒褐色壤土)小礫含。  
 7層:7.5Y4/1(灰色シルト質壤土)。  
 8層:7.5Y3/1(オリーブ黒色砂壤土)。

SK2033平面図・断面図(1/60)



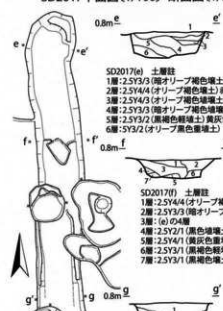
- SK2033 土層註  
 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)練良、Cブロック含、白色粘土ブロック混。  
 2層:2.5Y5/2(暗灰黄色壤土)練良、Cブロック少量含。  
 3層:2.5Y6/2(灰黄色砂壤土)練良、Cブロック少量含、粘土ブロック少量。  
 4層:2.5Y5/2(暗灰黄色砂壤土)練良、C粒、木質碎少量含。  
 5層:5Y5/1(灰色砂)練良。  
 6層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)練良、Cブロック、木質碎少量含。  
 7層:5Y3/1(オリーブ黒色砂)練良、Cブロック、木質含。  
 8層:10YR6/2(灰黄褐色重壤土)。  
 9層:8層土のブロック。

SK1016平面図・断面図(1/60)



- SK1016 土層註  
 1層:2.5Y4/1(暗灰黄色壤土)練良、円礫、凝灰岩屑含。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)練良、凝灰岩屑少量含。

SD2017平面図(1/100)・断面図(1/60)

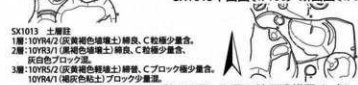


- SD2017(e) 土層註  
 1層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色壤土)赤褐色粒含。  
 2層:2.5Y4/4(オリーブ褐色壤土)赤褐色粒含。  
 3層:2.5Y4/3(オリーブ褐色壤土)。  
 4層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色壤土)赤褐色粒含。  
 5層:2.5Y3/2(黒褐色軽壤土)黄灰色砂ブロック混。  
 6層:5Y3/2(オリーブ黒色壤土)。

- SD2017(f) 土層註  
 1層:2.5Y4/4(オリーブ褐色砂壤土)。  
 2層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色軽土)赤褐色ブロック含。  
 3層:(e)の4層。  
 4層:2.5Y2/1(黒色壤土)。  
 5層:2.5Y4/1(黄灰色量土)。  
 6層:2.5Y3/1(黒褐色軽土)。  
 7層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)。

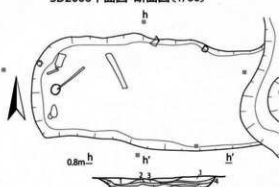
- SD2017 土層註  
 1層:10YR4/1(暗灰色砂少量混壤土)練良、C粒稀少、白色粘土ブロック混。  
 1層:砂が少ない。  
 2層:10YR3/2(黒褐色軽土)練良、白色粘土ブロック混。

SX1013平面図(1/60)



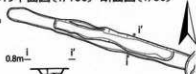
- SX1013 土層註  
 1層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)練良、C粒稀少量含。  
 2層:10YR3/1(黄褐色壤土)練良、C粒稀少量含、灰白色ブロック混。  
 3層:10YR5/2(灰黄褐色軽土)練良、Cブロック稀少量含。  
 10YR4/1(褐色粘土)ブロック少量混。

SD2006平面図・断面図(1/60)



- SD2006 土層註  
 1層:7.5YR5/6(明褐色砂土)。  
 2層:2.5Y4/3(オリーブ褐色軽土)Cブロック含。  
 3層:2.5Y5/6(黄褐色砂)。  
 4層:7.5YR5/6(明褐色砂)硬化。  
 5層:10YR1.7/1(灰色重土)。  
 6層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)黄灰色粘土ブロック混。  
 7層:2.5Y3/3(暗オリーブ褐色壤土)。  
 8層:5Y2/2(オリーブ黒色土)。  
 9層:5Y4/3(暗オリーブ色砂)暗褐色腐植土混。

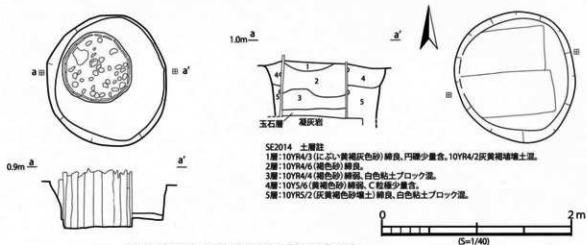
SD2019平面図(1/100)・断面図(1/60)



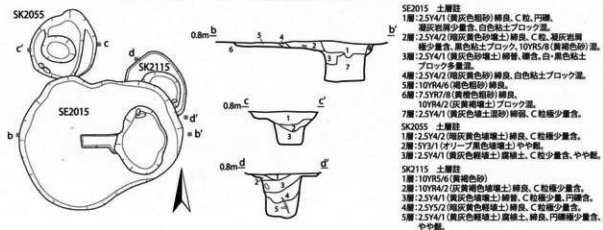
- SD2019 土層註  
 1層:10YR2/1(黒色軽土)練良、C粒少量含。  
 2層:10YR1.7/1(黒色軽土)腐植土、C粒少量含。

第58図 町屋9地区遺構図6(1/60・1/100)

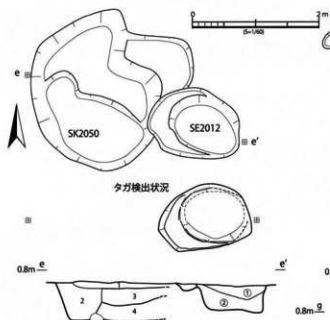
SE2014平面図・断面図(1/40)



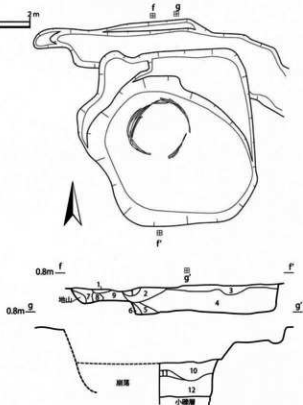
SE2015・SK2055・2115平面図・断面図(1/60)



SE2012・SK2050平面図・断面図(1/40)



SE2010平面図・断面図(1/40)



第59図 町屋10地区遺構図1(1/40・1/60)

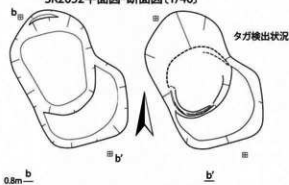
SE2010 土層註

- 1層:10YR4/2(灰黄褐色壤土)線良、C粒極少量含。
- 2層:10YR4/1(褐灰色砂壤土)線良、褐色砂ブロック混、黄褐色砂状に入る。
- 3層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)線良、C粒・ブロック極少量含、白色粘土ブロック混。
- 4層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)線良、円礫少量含、白色粘土ブロック混。
- 5層:5Y3/1(オリーブ黒色砂混壤土)線良、C粒極少量含。
- 6層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂壤土)線良、褐色砂混。
- 7層:2.5Y5/1(黄灰色砂壤土)線良、Cブロック極少量含。
- 8層:2.5Y5/2(暗灰黄色砂壤土)線良、C粒極少量含。
- 9層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)線や中良、C粒極少量含。
- 10層:2.5Y4/1(黄灰色壤土少量混砂)線良、C粒極少量含、白色粘土ブロック混。
- 11層:2.5Y6/2(灰黄色壤土)粘質。
- 12層:2.5Y5/1(黄灰色壤土混砂)線良、凝灰岩屑極少量含、粘質。

SE2016平面図・断面図(1/40)



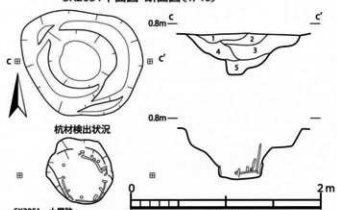
SK2052平面図・断面図(1/40)



SK2052 土層註

- 1層:2.5Y4/2(暗灰黄色壤土)線良、白・黒色粘土ブロック混。
- 2層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)線質、頁岩、木質含。
- 3層:2.5Y5/1(黄灰色壤土)線良、粘土ブロック少量混。
- 4層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)線良、C粒極少量含。
- 5層:2.5Y4/1(黄灰色砂壤土)線良、C粒極少量含。

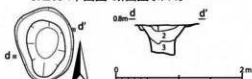
SK2051平面図・断面図(1/40)



SK2051 土層註

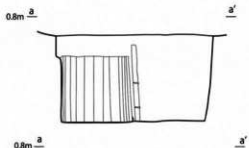
- 1層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)線良、C粒少量含。
- 2層:2.5Y3/2(黒褐色壤土)線質、C粒極少量含。
- 3層:5Y4/1(灰色砂状壤土)線良、Cブロック少量含、白色粘土ブロック混。
- 4層:2.5Y4/1(黄灰色砂)線良、C粒極少量含。
- 5層:2.5Y4/1(黄灰色砂混壤土)木質含、やや粘。

SK2054平面図・断面図(1/60)



SK2054 土層註

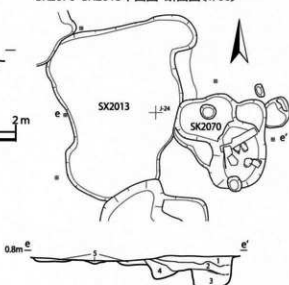
- 1層:2.5Y4/1(黄灰色砂混壤土)線良、C粒少量含、白色粘土ブロック混。
- 2層:2.5Y4/1(黄灰色砂混壤土)線良、C粒少量含、白色粘土ブロック混。
- 3層:2.5Y5/1(黒褐色砂壤土)線良、C粒少量含、やや粘。



SE2016 土層註

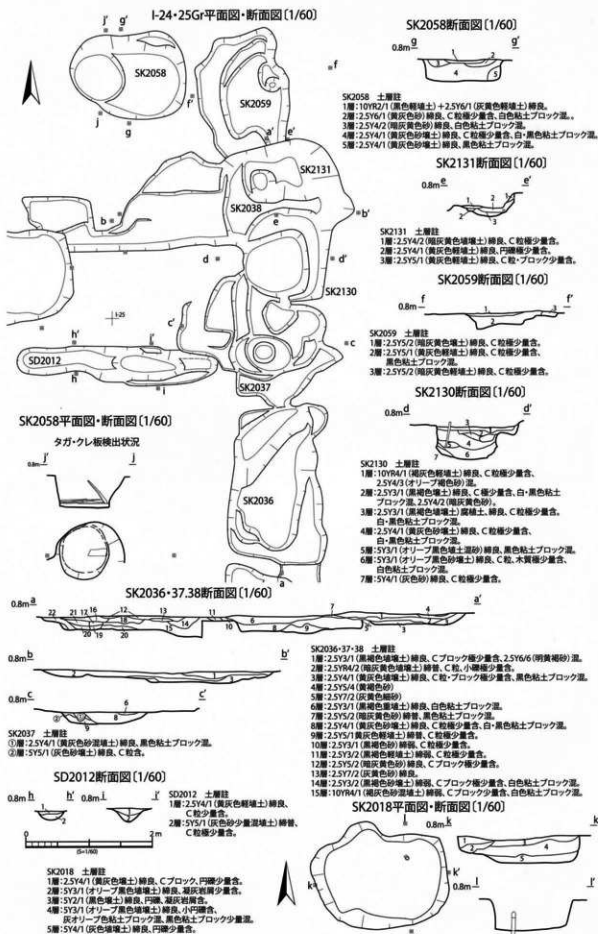
- 1層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)線良、C粒、円礫少量含、黒色粘土ブロック混。
  - 2層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)線良、Cブロック、凝灰岩屑少量含、白色粘土ブロック混。
  - 3層:2.5Y4/1(黄灰色砂)線良、Cブロック、円礫少量含、白色粘土ブロック混。
  - 4層:2.5Y4/2(暗灰黄色砂)線良、C粒極少量含。
  - 5層:5Y4/1(灰色細砂)線良、木質含。
- ①層:2.5Y6/4(灰色混砂)線良。  
②層:10YR4/1(暗灰褐色壤土)線良、Cブロック、円礫、木質含。  
③層:玉石層。

SK2070・SX2013平面図・断面図(1/60)



SK2070 土層註

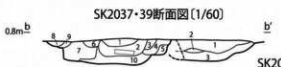
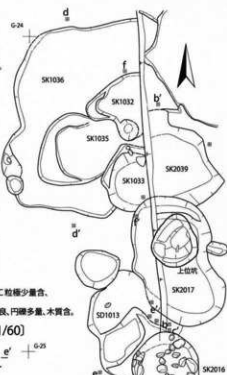
- 1層:10YR3/2(黒褐色壤土)線良、C粒・ブロック少量含、白色粘土ブロック混。
- 2層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)線良、C粒極少量含、白色粘土ブロック少量混。
- 3層:2.5Y4/1(黄灰色壤土)線良、C粒・ブロック少量含、白色粘土ブロック極少量混。
- 4層:2.5Y3/1(黒褐色壤土)線良、C粒・ブロック少量含、白色粘土ブロック少量混。
- 5層:2.5Y5/2(暗灰黄色砂壤土)C粒極少量含。



第61図 町屋10地区遺構図3 (1/60)



G-24・25Gr平面図・断面図(1/60)



SK2016断面図(1/60)

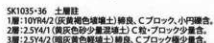
SK2016 土層註

- 1層:10YR5/6(黄褐色砂)  
 2層:5Y3/1(黒褐色壤土)締良、C粒極少量。  
 黒色粘土ブロック。  
 3層:2.5Y5/2(暗灰黄色軽壤土)締良、円礫多量、木質含。

SD1013断面図(1/60)



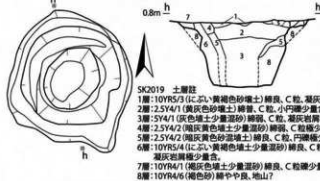
SK1035・36断面図(1/60)



SK1018平面図・断面図(1/60)



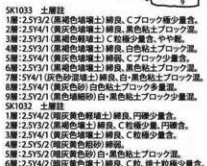
SK2019平面図・断面図(1/60)



SK1039平面図・断面図(1/60)



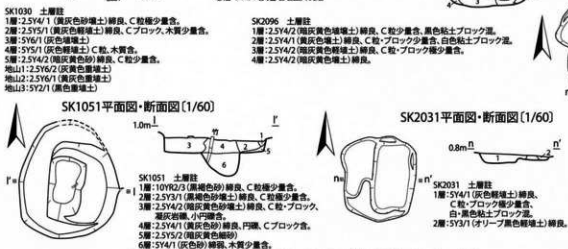
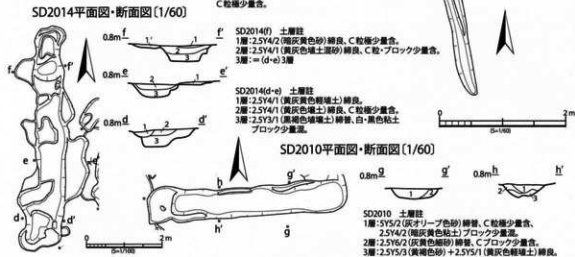
SK1032・33断面図(1/60)



SK2035平面図・断面図(1/60)



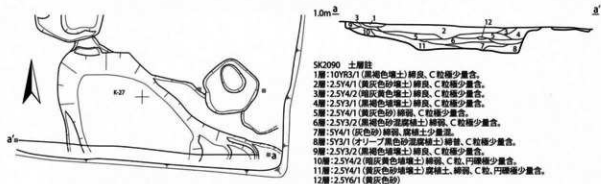
第 62 図 町屋 10 地区遺構 4 ・ 町屋 11 地区遺構 1 ( 1 / 60 )



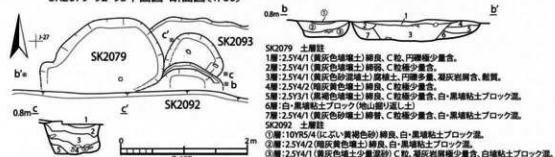
第 63 図 町屋 11 地区遺構図 2 ・ 町屋 12 地区遺構図 1 ( 1 / 60 )



SK2090平面図・断面図 [1/60]

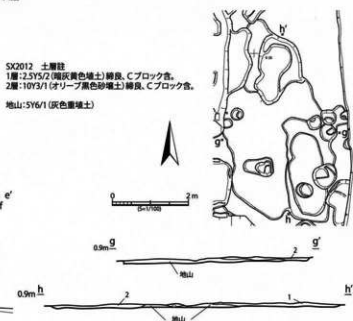


SK2079・92・93平面図・断面図 [1/60]

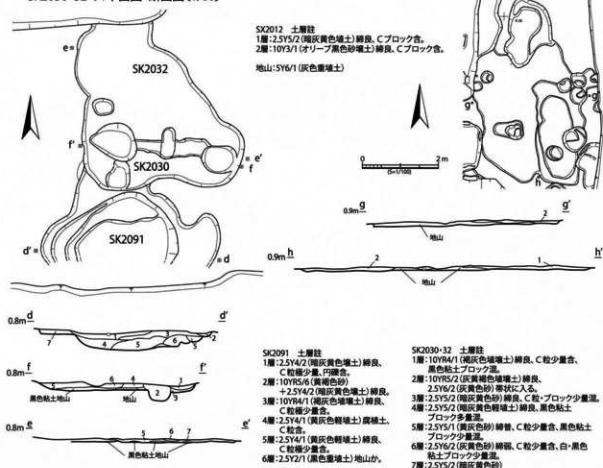


- SK2093 土層註  
 1層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)締良、C粒極少量含。  
 2層:2.5Y4/1(黄灰色埴土)締良、C粒少量含、白色粘土ブロック少量混。  
 3層:2.5Y4/1(黄灰色砂少量混埴土)締良、礫、木製品含、黒色粘土ブロック混。  
 4層:2.5Y4/2(暗灰黄色粘埴土)腐植土、締良、木片、円礫少量含。  
 5層:2.5Y3/1(黒褐色粘埴土)腐植土、締良。

SK2012平面図(1/100)・断面図(1/60)

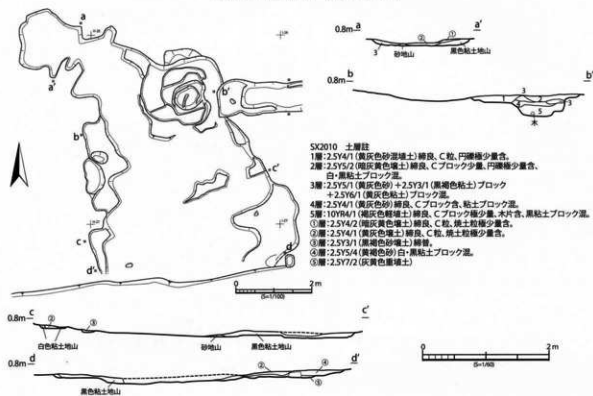


SK2030・32・91平面図・断面図 [1/60]

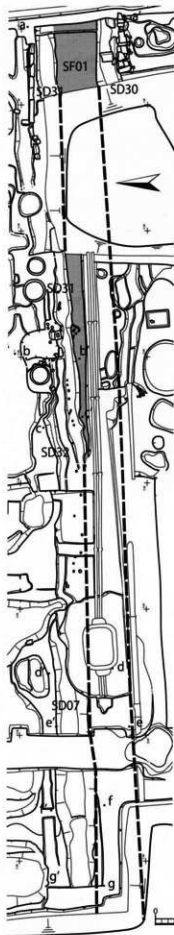


第 64 図 町屋 12 地区遺構図 2 ( 1 / 60 ・ 1 / 100 )

SX2010平面図(100)・断面図(1/60)



第 65 図 町屋 12 地区遺構図 3 (1 / 60 ・ 1 / 100)



SF01 (道路遺構) 断面図 (1/60)



SF01 土層註

- 1層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 締良, 円礫小含。
- 2層: 2.5Y4/2 (暗灰色壤土) 締弱, C 粒極少量含。
- 3層: 10YR4/2 (灰黄褐色砂壤土) 締弱, 円礫含。
- 4層: 2.5Y4/2 (暗灰色壤土) 締良, C 粒・極小礫含。
- 5層: 2.5Y4/1 (黄灰色壤土) 締小円礫含。
- 6層: 2.5Y6/1 (黄灰色砂) 締弱, C 粒極少量含。
- 7層: 2.5Y5/2 (暗灰色砂) 締弱。
- 8層: 2.5Y4/3 (オリーブ褐色砂) 締良。
- 9層: 2.5Y5/1 (黄灰色砂混壤土) 締良。
- 10層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂混壤土) 締良, C 粒極少量含。
- 11層: 10YR4/2 (灰黄褐色砂壤土) 締弱, 円礫含。
- 12層: 10YR6/2 (灰黄褐色砂) 締良, 突き固め。
- 13層: 10YR6/3 (暗灰色壤土) 締良, 上部に褐色砂。
- 14層: 2.5Y4/3 (オリーブ褐色砂) 締弱, C 粒含, 円礫極少量含。
- 15層: 10YR3/1 (黄灰色砂) 締弱, C 粒少量含。
- 16層: 2.5Y7/1 (灰白色砂) 締弱, C 粒極少量含。
- 17層: 2.5Y6/1 (黄灰色砂) 締良, 突き固め。
- 18層: 2.5Y5/2 (暗灰色粘砂) 締弱。
- 19層: 2.5Y4/2 (暗灰色壤土) 少量混砂) 締弱。
- 20層: 2.5Y5/2 (暗灰色壤土) 少量混砂) 締弱。
- 21層: 2.5Y7/2 (灰黄色砂) 締弱。

- 路盤1: 7.5YR5/6 (明褐色砂) 円礫少量含。
- 路盤2: 10YR5/2 (灰褐色砂)
- 路盤3: 7.5YR5/6 (明褐色砂)

SD31・32断面図 (1/60)



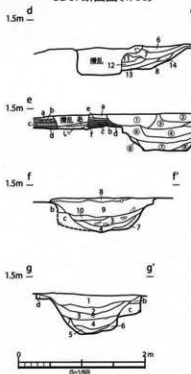
SD31 土層註

- ①層: 10YR5/2 (灰黄褐色砂壤土) 円礫少量含。
- ②層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土)

SD32 土層註

- 1層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 円礫少量含。

SD07断面図 (1/60)



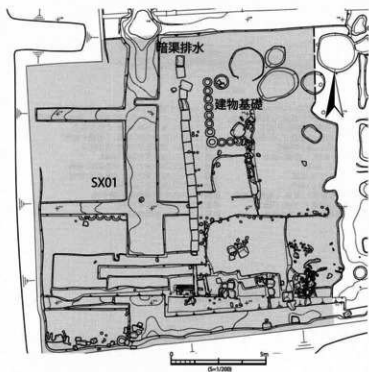
SD07(e) 土層註

- ①層: 10YR4/2 (灰黄褐色砂壤土) 小礫含。=1
- ②層: 2.5Y4/3 (オリーブ褐色砂壤土) 小礫含。
- ③層: 10YR3/1 (黒褐色壤土) Cブロック含。=2か。
- ④層: 2.5Y4/1 (黄灰色壤土) =3
- ⑤層: 10YR4/3 (灰・黄褐色シルト質壤土) Cブロック含。
- ⑥層: 10YR3/2 (黒褐色壤土) =4
- ⑦層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂壤土) =5
- ⑧層: ②層+2.5Y4/3 (オリーブ褐色砂壤土)
- ⑨層: 2.5Y4/2 (暗灰色シルト質壤土)
- a層: 2.5Y4/4 (オリーブ褐色) 小円礫混, 路盤3 2か。
- c層: 10YR5/6 (黄褐色) 突き固め, 路盤2 2か。
- d層: 10Y5/1 (灰白色) 突き固め, 路盤1 1か。
- e層: 2.5Y4/4 (黄褐色砂) 締弱
- f層: 7.5Y3/1 (オリーブ黒色土) 突き固め。
- h層: 2.5Y3/2 (黒褐色砂壤土)
- i層: 5Y3/1 (オリーブ黒色土)

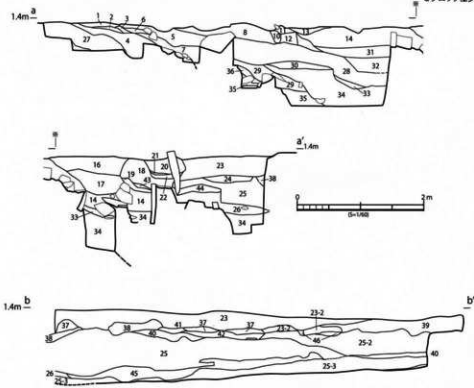
SD07(d-f-g) 土層註

- 1層: 10YR4/2 (灰黄褐色壤土) 小礫含。
- 2層: 2.5Y4/1 (黄灰色シルト質壤土)
- 3層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂) Cブロック含。
- 4層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂壤土)
- 5層: 10YR3/1 (黒褐色砂壤土)
- 6層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂) 少量混砂混。
- 7層: 5Y4/1 (灰色シルト質壤土)
- 8層: 10YR3/2 (黒褐色砂) 締弱。
- 9層: 2.5Y4/2 (暗灰色壤土) Cブロック含。
- 10層: 2.5Y4/3 (オリーブ褐色シルト質壤土)
- 11層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂) 締弱。
- 12層: 10YR3/1 (黄灰色砂) 締弱。
- 13層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂) 締弱。
- 14層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂) 締弱。
- a層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂) 締弱。
- b層: 2.5Y4/4 (黄褐色)
- c層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂) 締弱。

第 66 図 道路地区遺構図 1 (1/60・1/150)



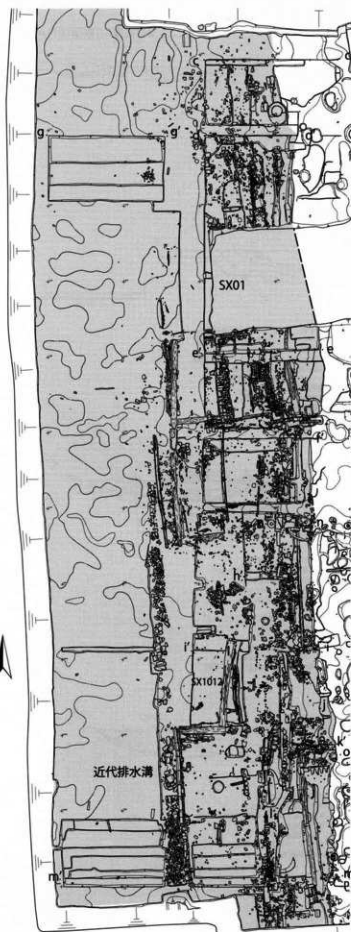
SX01平面図(1/200)・断面図(1/60)



- 37層: 2.SY6/2 (灰青色) 23層と連在。
- 38層: 2.SY6/6 (明黄褐色砂) + 2.SY5/1 (黄灰色軽壤土) ブロック遺在層、ブロック下に埋まる。
- 39層: 2.SY5/4 (黄褐色壤土) 締良。
- 40層: 5Y5/1 (灰色壤土) + 腐植土層、締良、凝灰岩層、C粒少量含。
- 41層: 10YR4/2 (灰黄褐色軽壤土) 締良、凝灰岩層、C粒少量含。
- 42層: 2.SY5/1 (黄灰色砂少量シルト) 締良、凝灰岩層少量含、C粒極少量含。
- 43層: 2.SY4/2 (暗灰黄色壤土) 締良、C粒、木質少量含。
- 44層: 2.SY4/1 (黄灰色砂少量湿壤土) 締良、C粒、円礫極少量含、凝灰岩層、木質少量含。
- 45層: 2.SY4/1 (黄灰色壤土) + 腐植土混層、C粒含。
- 46層: 10YR6/4 (にぶい黄褐色砂)
- 11層: 2.SY3/1 (黒褐色壤土)
- 23-2層: 下層と混層。
- 25-2層: やや砂多、円礫少量含。

- SX01(a) 土層群
- 1層: 10YR4/2 (灰黄褐色砂)
- 2層: 2.SY4/2 (暗灰黄色砂壤土)
- 3層: 2.SY5/3 (黄褐色砂土) 凝灰岩の薄片含。
- 4層: 5Y4/1 (灰色壤土) Cブロック含。
- 5層: 10YR4/4 (褐色砂土)
- 6層: 2.SY4/1 (黄灰色砂壤土)
- 7層: 2.SY4/1 (黄灰色壤土) Cブロック含。
- 8層: 10YR3/2 (黒褐色シルト質壤土) Cブロック含。
- 9層: 5Y5/1 (灰色砂土)
- 10層: 10YR3/2 (黒褐色壤土) C粒ブロック含。
- 11層: 10YR3/1 (黒褐色土)
- 12層: 10YR4/2 (灰黄褐色シルト質壤土) C粒ブロック含。
- 13層: 10YR3/1 (黒褐色砂壤土)
- 14層: 10YR5/4 (にぶい黄褐色土) 混。
- 15層: 2.SY3/1 (黒褐色壤土)
- 16層: 2.SY4/3 (オリーブ褐色砂壤土) C粒ブロック含。
- 17層: 2.SY4/1 (黄灰色壤土)
- 18層: 5Y4/1 (灰色シルト質壤土)
- 19層: 10YR3/2 (黒褐色壤土) 腐植土層。
- 20層: 7.SYR2/2 (黒褐色壤土) 腐植土層。
- 21層: 10YR3/2 (黒褐色壤土) 腐植土層。
- 22層: 2.SY3/1 (黒褐色壤土)
- 23層: 16層と。
- 24層: 5Y4/1 (灰色シルト質壤土)
- 25層: 2.SY5/1 (灰色壤土)
- 26層: 2.SY3/1 (黒褐色壤土) 5Y5/1 (灰色砂土) 混。円礫、木質含、腐植土層。
- 27層: 2.SY5/4 (黄褐色砂土) 地山。
- 28層: 2.SY4/1 (黄灰色軽壤土) Cブロック含。
- 29層: 5Y4/1 (灰色砂土)
- 30層: 2.SY3/1 (黒褐色軽壤土)
- 31層: 10YR3/1 (黒褐色軽壤土)
- 32層: 10YR2/1 (赤色軽土) Cブロック含。
- 33層: 2.SY3/1 (黒褐色腐植土) 木質含、円礫少量含、やや粘。
- 34層: 10YR3/1 (黒褐色腐植土) 締良、円礫、木質含。
- 35層: 10YR4/1 (褐色軽壤土) 締良、粘性強、木質極少量含。
- 36層: 10YR5/1 (褐色砂泥壤土) 締良、粘性強、Cブロック極少量含。

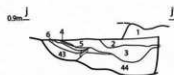
第 67 図 泥川地区遺構図 1 (1/60・1/200)



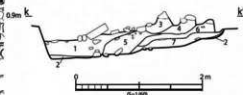
SX01(泥川)断面図(1/60)



- SX01(h) 土層註  
 1層:2.5Y3/1(黒褐色壤土) 締良質、円礫小、凝灰岩屑含。  
 2層:10YR3/1(黒褐色壤土) 締良、円礫含。  
 3層:2.5Y3/2(黒褐色壤土) 締やや弱、円礫、木質、瓦片含。  
 4層:2.5Y4/1(黒灰色壤土) 締良、C粒、凝灰岩屑少量含。  
 5層:2.5Y3/1(黒褐色壤土) 円礫、凝灰岩屑、木質含。  
 6層:5Y3/1(オリーブ黒腐植土) 凝灰岩屑、円礫含。  
 7層:5Y2/1(黒色腐植土) 木質少量、円礫含。  
 8層:2.5Y3/1(黒褐色壤土) 締良、円礫、凝灰岩屑、Cブロック極少量含。  
 9層:2.5Y3/1(黒褐色壤土) 締良、Cブロック、円礫含。  
 10層:2.5Y4/1(黒灰色砂壤土) 締良、円礫小含。  
 11層:2.5Y3/1(黒褐色壤土) 締良、円礫、木質少量含。



- SX01(i) 土層註  
 1層:10YR2/1(黒灰色腐植土) 締替、円礫少量含。  
 2層:2.5Y4/1(黒灰色壤土) 木質含、円礫、凝灰岩屑極少量含、砂礫状に富。  
 3層:2.5Y3/1(黒褐色壤土) 締良、木質含、円礫極少量含。  
 4層:10YR3/1(黒褐色壤土) 締替、木質少量含。  
 5層:2.5Y4/1(黒灰色砂混腐植土) 締替、木質少量含。  
 6層:2.5Y3/2(黒褐色腐植土) 締替、腐植層物多量含。



- SX101(a) 土層註  
 1層:2.5Y3/1(黒褐色壤土) 締良、円礫小含、Cブロック極少量含。  
 2層:2.5Y4/1(黒灰色腐植土) 木質多量含、円礫含、斬瓦。  
 3層:2.5Y4/1(黒灰色砂混腐植土) 締弱、C粒少量、円礫小極少量含。  
 4層:2.5Y4/2(暗灰色黄色砂) 締良、円礫小、C粒、ブロック少量含。  
 5層:2.5YR3/1(黒褐色砂壤土) 締良、上位円礫多。  
 下位凝灰岩屑含、Cブロック、粘土少量含。  
 6層:2.5Y3/2(黒褐色壤土) 締良、木質多量含、Cブロック含。  
 7層:5Y5/1(灰色粗砂) 木質少量、円礫凝灰岩屑多量含。

第 68 図 泥川地区遺構図 2 (1/60・1/200)

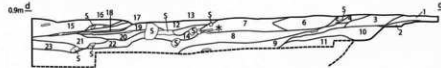
SX01(泥川)断面図(1/60)



SX01(c) 土層註

- 1層: 2.5Y4/1 (黄灰色壤土)Cブロック含。
- 2層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色粘壤土)C軽ブロック含。
- 3層: 5Y3/1 (オリーブ黒色粘壤土)
- 4層: 2.5Y3/1 (黒褐色シルト質壤土)
- 5層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土)
- 6層: 2.5Y2/1 (黒色シルト質壤土)Cブロック含。
- 7層: 10YR2/1 (黒色粘壤土)Cブロック含。
- 8層: 7.5YR3/1 (黒褐色粘壤土)腐植土層。
- 9層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土)
- 10層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土)小礫、円礫含。
- 11層: 7.5YR2/1 (黒色粘壤土)Cブロック含。
- 12層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂壤土)

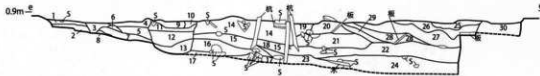
- 13層: 7.5YR3/1 (黒褐色粘壤土)
- 14層: 7.5YR2/1 (黒色粘壤土)
- 15層: 10YR2/1 (黒色粘土)小礫、Cブロック含。
- 16層: 13層+凝灰岩層、小礫含。
- 17層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘壤土)Cブロック含。
- 18層: 2.5Y2/1 (黒褐色粘壤土)腐植土層。
- 19層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土)砂混。
- 20層: 7.5YR2/1 (黒色粘壤土)腐植土層。



SX01(d) 土層註

- 1層: 5Y4/1 (灰色粘壤土)Cブロック含。
- 2層: 2.5Y2/2 (灰黄色砂壤土)
- 3層: 5Gy3/1 (暗オリーブ灰色壤土)Cブロック含。
- 4層: 10YR3/1 (黒褐色粘土)小円礫含。
- 5層: 2.5Y3/2 (黒褐色粘土)Cブロック含。
- 6層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘壤土)小円礫、Cブロック含。
- 7層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土)小円礫、礫、Cブロック含。
- 8層: 7.5YR3/1 (黒褐色粘壤土)腐植土層、Cブロック含。
- 9層: 7.5YR3/1 (黒褐色粘壤土)腐植土層、Cブロック含。
- 10層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土)+2.5Y4/2 (暗灰黄色砂)混。
- 11層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土)+2.5Y4/2 (暗灰黄色砂)混。
- 12層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土)小円礫含。

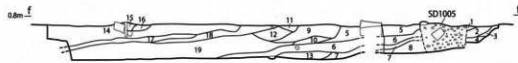
- 13層: 10YR2/1 (黒色粘土) 黒褐色砂混、小円礫多量含。
- 14層: 7.5YR3/1 (黒褐色粘壤土) 黒褐色砂混、腐植土層。
- 15層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘壤土) Cブロック含。
- 16層: 10YR3/1 (黒褐色粘壤土) Cブロック、小円礫、礫含。
- 17層: 10YR1/1 (黒色粘土) 木片、礫多量含。
- 18層: 5Y3/1 (オリーブ灰色砂壤土) 凝灰岩屑含。
- 19層: 7.5YR2/1 (黒色粘壤土) 18層砂混。
- 20層: 2.5Y2/1 (黒色粘土) Cブロック含。
- 21層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土) 腐植土層。
- 22層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土) 腐植土層、Cブロック含。
- 23層: 2.5Y3/2 (黒褐色粘土) 腐植土層、Cブロック含。



SX01(e) 土層註

- 1層: 10Y4/1 (灰色砂壤土)
- 2層: 7.5Y4/1 (灰色砂壤土)
- 3層: 5Y4/1 (灰色壤土)
- 4層: 5Y4/1 (灰色壤土)Cブロック含。
- 5層: 2.5Y3/1 (黒褐色シルト質壤土)Cブロック含。
- 6層: 2.5Y3/2 (黒褐色粘壤土) 腐植土層。
- 7層: 5Y3/1 (オリーブ黒色砂壤土) 腐植土混。
- 8層: 2.5Y2/1 (黒色粘壤土) 腐植土混、山粒土混。
- 9層: 10YR3/1 (黒褐色シルト質壤土)
- 10層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色壤土)+9層土混。
- 11層: 2.5Y3/2 (黒褐色粘土)
- 12層: 2.5Y3/1 (黒褐色シルト質壤土)小円礫含。

- 13層: 5Y3/1 (オリーブ黒色シルト質壤土)
- 14層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土) (ブロック、礫多量含)。
- 15層: 10YR3/1 (黒褐色シルト質壤土) Cブロック含。
- 16層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土) 腐植土層。
- 17層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土) 腐植土層。
- 18層: 2.5Y3/2 (黒褐色粘壤土)
- 19層: 10YR3/2 (黒褐色シルト質壤土)Cブロック含。
- 20層: 10YR3/1 (黒褐色シルト質壤土)Cブロック含。
- 21層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土)Cブロック含。
- 22層: 2.5Y2/1 (黒褐色粘土) 腐植土層。
- 23層: 5Y3/1 (オリーブ黒色粘土) 腐植土層。
- 24層: 5Y2/1 (灰色粘土) 腐植土層が下層まで続く。



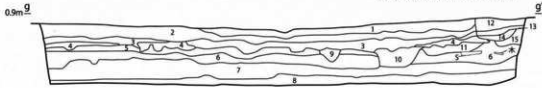
SX01(f) 土層註

- 1層: 7.5YR3/1 (黒褐色シルト質壤土) 腐植土層。
- 2層: 10YR4/1 (暗灰色粘壤土)+2.5Y4/3 (オリーブ褐色砂)混。
- 3層: 5Y4/1 (灰色砂壤土)
- 4層: 2.5Y4/1 (暗灰黄色砂)
- 5層: 10YR3/1 (黒褐色粘土)Cブロック含。
- 6層: 10YR3/2 (黒褐色シルト質壤土)
- 7層: 10YR2/2 (黒褐色シルト質壤土)
- 8層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土)
- 9層: 10YR2/1 (黒色粘土) 礫含。
- 10層: 10YR3/1 (黒褐色粘土) オリーブ褐色砂混。
- 11層: 7.5YR2/1 (黒色粘壤土)
- 12層: 7.5YR2/1 (黒色シルト質壤土)

- 13層: 2.5Y2/1 (黒色砂壤土) 6層土混。
- 14層: 7.5YR3/1 (黒褐色粘土) 腐植土層。
- 15層: 10YR3/1 (黒褐色粘土) 礫混、黄褐色砂斑状土混。
- 16層: 7.5YR2/1 (黒色粘壤土)
- 17層: 7.5YR1/1 (黒色粘土)
- 18層: 7.5YR2/2 (黒褐色シルト質壤土) 礫含。
- 19層: 2.5Y3/1 (黒褐色粘土)

第 69 図 泥川地区道構図 3 (1 / 60)

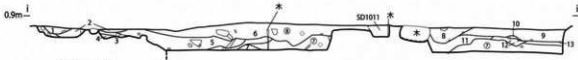
SX01 (泥川) 断面図 (1/60)



SX01(g) 土層註

- 1層: 2.5Y4/1 (黒褐色堆土) Cブロック含、+2.5Y4/3オリーブ褐色砂泥。
- 2層: 2.5Y3/1 (黒褐色シルト質堆土) Cブロック含。
- 3層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 4層土層。
- 4層: 5Y4/1 (灰色砂堆土)
- 5層: 2.5YR3/2 (黒褐色堆土) 腐植土層。
- 6層: 2.5Y3/2 (黒褐色堆土) 腐植土層。
- 7層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色堆土) 腐植土層。
- 8層: 2.5Y5/2 (暗灰黄色堆土) 腐植土層。
- 9層: 10YR3/2 (黒褐色堆土) 腐植土層。
- 10層: 10YR2/2 (黒褐色堆土)
- 11層: 10YR3/2 (黒褐色堆土) 円礫、礫含。

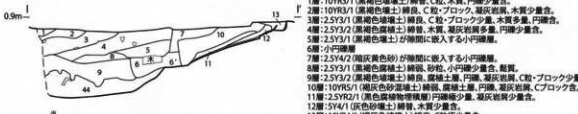
- 12層: 10YR3/1 (黒褐色堆土)
- 13層: 2.5Y4/1 (黄灰色堆土)
- 14層: 2.5Y3/1 (黒褐色シルト質堆土)
- 15層: 10YR2/1 (黒褐色堆土) 腐植土層。



SX01(i) 土層註

- 1層: 2.5Y4/1 (黄灰色堆土) Cブロック含。
- 2層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色堆土) Cブロック含。
- 3層: 5Y3/1 (オリーブ黒色堆土)
- 4層: 2.5Y3/1 (黒褐色シルト質堆土)
- 5層: 10YR3/1 (黒褐色堆土)
- 6層: 2.5Y2/1 (黒色シルト質堆土) Cブロック含。
- 7層: 10YR2/1 (黒色堆土) Cブロック含。
- 8層: 7.5YR3/1 (黒褐色堆土) 腐植土層。
- 9層: 10YR3/2 (黒褐色堆土)
- 10層: 10YR3/1 (黒褐色堆土) 小円礫、礫含。
- 11層: 7.5YR2/1 (黒褐色堆土) Cブロック含。

- 12層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂堆土)
- 13層: 7.5YR3/1 (黒褐色堆土)
- 14層: 7.5YR2/1 (黒褐色堆土)
- 15層: 10YR2/1 (黒色堆土) 小円礫、礫含。
- 16層: 13層+潮灰質層、小円礫。
- 17層: 7.5YR3/1 (黒褐色堆土) Cブロック含。
- 18層: 7.5YR2/1 (黒褐色堆土) 腐植土層。
- 19層: 10YR3/1 (黒褐色堆土) 砂。
- 20層: 7.5YR2/1 (黒褐色堆土) 腐植土層。

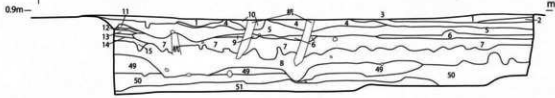


SX01(j) 土層註

- 1層: 10YR3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、C粒、木質、円礫少量含。
- 2層: 10YR3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、C粒、ブロック、潮灰質層、木質少量含。
- 3層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、C粒、ブロック少量、木質多量、円礫含。
- 4層: 2.5Y3/2 (黒褐色堆土) 餅屑、木質、潮灰質層多量、円礫少量含。
- 5層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) が隙間に散入する小円礫層。
- 6層: 小円礫層
- 7層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色砂) が隙間に散入する小円礫層。
- 8層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、砂粒、小円礫少量含、乾質。
- 9層: 2.5Y3/2 (黒褐色堆土) 餅屑、腐植土層、円礫、潮灰質層、C粒、ブロック少量含。
- 10層: 10YR5/1 (暗灰色砂堆土) 餅屑、腐植土層、円礫、潮灰質層、Cブロック含。
- 11層: 2.5YR2/1 (黒色腐植物堆積層) 円礫少量、潮灰質層少量含。
- 12層: 5Y4/1 (灰色砂堆土) 餅屑、木質少量含。
- 13層: 10YR4/1 (暗灰色堆土) 餅屑、C粒極少量含。

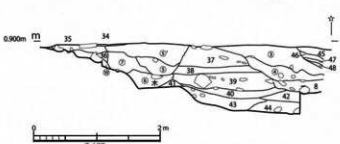
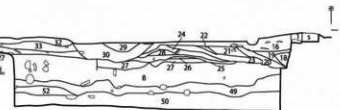
SX01(i) 土層註

- 1層: 10YR3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、C粒、木質、円礫少量含。
- 2層: 10YR3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、C粒、ブロック、潮灰質層、木質少量含。
- 3層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、C粒、ブロック少量、木質多量、円礫含。
- 4層: 2.5Y3/2 (黒褐色堆土) 餅屑、木質、潮灰質層多量、円礫少量含。
- 5層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) が隙間に散入する小円礫層。
- 6層: 小円礫層
- 7層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色砂) が隙間に散入する小円礫層。
- 8層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、砂粒、小円礫少量含、乾質。
- 9層: 2.5Y3/2 (黒褐色堆土) 餅屑、腐植土層、円礫、潮灰質層、C粒、ブロック少量含。
- 10層: 10YR5/1 (暗灰色砂堆土) 餅屑、腐植土層、円礫、潮灰質層、Cブロック含。
- 11層: 2.5YR2/1 (黒色腐植物堆積層) 円礫少量、潮灰質層少量含。
- 12層: 5Y4/1 (灰色砂堆土) 餅屑、木質少量含。
- 13層: 10YR4/1 (暗灰色堆土) 餅屑、C粒極少量含。

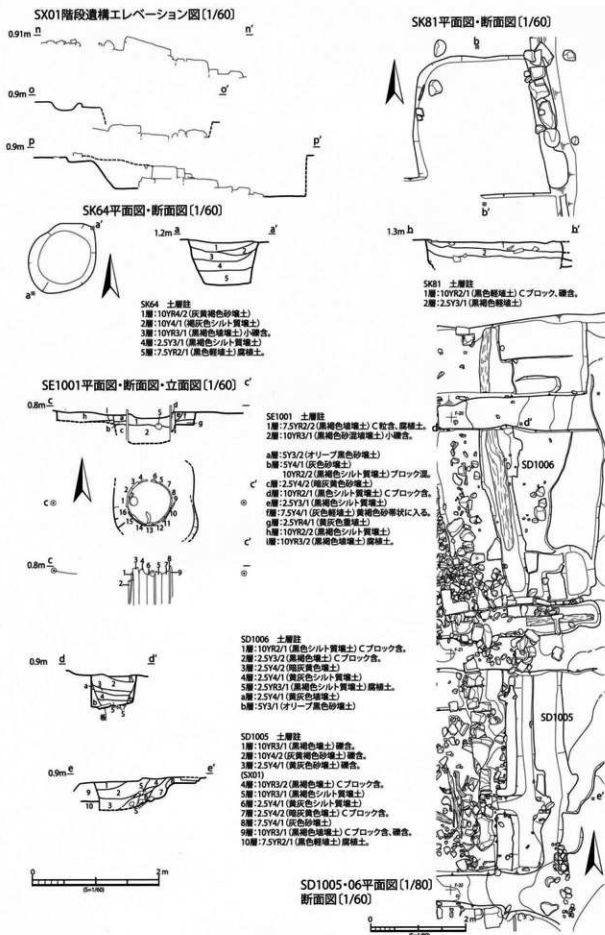


SX01(m) 土層註

- 1層: 5Y4/1 (灰色砂)
- 2層: 5Y4/1 (灰色堆土) 餅屑、C粒極少量含。
- 3層: 5Y3/1 (オリーブ黒色堆土) 餅屑、C粒極少量、木質少量含、やや乾。
- 4層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、C粒、ブロック、木質少量含。
- 5層: 2.5Y4/1 (黄灰色堆土) 餅屑やや乾、C粒、ブロック、木質少量含。
- 6層: 2.5Y2/1 (黒色シルト質堆土) C粒、ブロック少量、木質含。
- 7層: 5Y5/1 (灰色砂少量混濁腐植土) 餅屑やや乾、C粒極少量含。
- 8層: 5Y2/2 (オリーブ黒色堆土) 餅屑、木質含、赤山粘土ブロック混。
- 9層: 2.5Y4/1 (黄灰色堆土) 餅屑、木質少量含。
- 10層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 餅屑やや乾、C粒極少量含。
- 11層: 5Y6/1 (灰色砂) 餅屑、C粒、木質極少量含。
- 12層: 2.5Y4/1 (黄灰色堆土) 餅屑、腐植物、木質極少量含。
- 13層: 2.5Y4/1 (黄灰色堆土) 餅屑、木質含、赤山粘土ブロック混。
- 14層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 餅屑、腐植土層。
- 15層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂堆土) 餅屑、C粒、木質少量含。
- 16層: 2.5Y4/1 (黄灰色砂堆土) 餅屑、木質多量、木質極少量含。
- 17層: 2.5Y3/2 (黒褐色堆土) あまり土層化していない。
- 18層: 2.5Y2/1 (黒褐色堆土) 餅屑、円礫少量含。
- 19層: 2.5Y4/2 (暗灰黄色堆土) 餅屑、やや砂質感あり。
- 20層: 2.5Y3/2 (黒褐色堆土) 餅屑、腐植物混、C粒極少量含。
- 21層: 2.5Y3/1 (黒褐色堆土) 木質、潮灰質層多量含、乾質。
- 22層: 2.5Y2/1 (黒褐色堆土) 木質多量含、乾質。

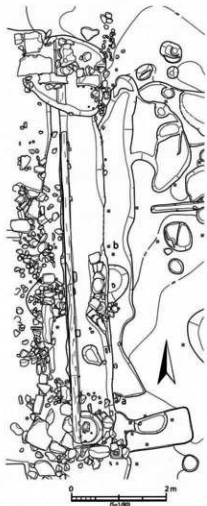


第70図 泥川地区遺構図4 (1/60)



第71図 泥川地区遺構図5 (1/60・1/80)

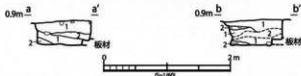




SX010m 土層註(続き)

- 23層: 2.5Y3/1 (黒褐色硬粘土) 腐植土層、ほぼ土礫化。
- 24層: 5Y4/1 (灰色砂壤土) 締固、木質、円礫、凝灰岩層多量含。
- 25層: 2.5Y2/1 (黒色壤土) 腐植土層、腐りきらない木多量含。
- 26層: 5Y3/1 (オリーブ灰色砂) 締固、木質含、円礫極少量含。
- 27層: N1.5/1 (黒色腐植土) 腐質、凝灰岩層極少量含。
- 28層: 2.5Y3/1 (黒褐色硬粘土) 締固。
- 29層: 2.5Y4/1 (黄灰色壤土) 腐質、遺物多含。
- 30層: 2.5Y3/2 (黒褐色腐植土) 腐質、遺物多含。
- 31層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂壤土) + 腐植土、円礫少量含。
- 32層: 2.5Y3/1 (黒褐色壤土) 締固、木質、円礫少量含。
- 33層: 5Y3/1 (オリーブ褐色砂) 締固、円礫少量、凝灰岩層含。
- 34層: 2.5Y4/1 (黄灰色壤土) 締固、円礫極少量含。
- 35層: 10YR5/6 (黄褐色壤土) 締固、円礫、凝灰岩層含。
- 36層: 2.5Y4/2 (黄灰色硬粘土) 締固、C 粒、円礫含。
- 37層: 2.5Y3/1 (黒褐色硬粘土) 締固、C 粒極少量、円礫、凝灰岩層含。
- 38層: 5Y3/1 (オリーブ灰色砂壤土) 締固、C 粒極少量、円礫、凝灰岩層含。

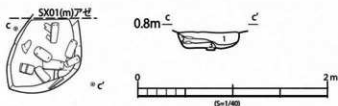
SD1012平面図(1/80)・断面図(1/60)



SD1012 土層註

- 1層: 小円礫層 + 2.5Y3/1 (黒褐色硬粘土) 腐質が隙間に嵌入。
- 2層: 小円礫層 + 凝灰岩層 + 2.5Y3/2 (黒褐色硬粘土) 腐質が隙間に嵌入。

SK1038平面図・断面図(1/40)



SK1038 土層註

- 1層: 2.5Y2/1 (黒色硬粘土) 締固、木質、凝灰岩層含。
- 2層: 2.5Y3/1 (黒褐色硬粘土) 腐植土、締固、円礫極少量含。
- 3層: 2.5Y5/4 (黄褐色締固土) 腐植土、締固、粘性強。

- 39層: 5Y4/1 (灰色粗砂) + 2.5Y3/2 (黒褐色腐植土) 帯・ブロック状で混在  
締固、円礫、凝灰岩層含。
- 40層: 5Y3/1 (オリーブ灰色砂混腐植土) 締固、粘性なくシルト部あり。
- 41層: 5Y6/1 (灰色砂) 締固、木質少量含。
- 42層: 5Y3/1 (オリーブ灰色腐植土混砂) 締固、C 粒、円礫少量含。
- 43層: 5Y4/1 (灰色粗砂) 締固、木質含、円礫極少量含。
- 44層: 2.5Y3/1 (黒褐色硬粘土) 締固、腐りきらない木少量含、  
大円礫極少量含、やや粘。
- 45層: 2.5Y3/1 (黒褐色壤土) 締固、木質、円礫少量含。
- 46層: 2.5Y4/1 (黄灰色硬粘土) + 2.5Y6/2 (灰黄色砂) 帯状に混、木質含。
- 47層: 2.5Y3/1 (黒褐色砂) 締固やや粘。
- 48層: 2.5Y6/2 (灰黄色砂) 締固、小円礫含。
- 49層: 5Y4/1 (灰色腐植土) 腐植土層、締固、C 粒少量、木質含。
- 50層: 5Y3/1 (オリーブ灰色硬粘土) 締固、木質、C 粒少量、円礫極少量含、  
2.5Y4/2 (黄灰色硬粘土) 帯状に混在→無遺物層。
- 51層: 2.5Y3/1 (黒褐色硬粘土) 腐植土層、締固、C 粒極少量含→無遺物層。
- 52層: 5Y3/1 (オリーブ灰色腐植土) 締固、C 粒、円礫、凝灰岩層極少量含、やや粘。

第 72 図 泥川地区遺構図 6 (1/40・1/60・1/80)

## 第3章 遺物

### 第1節 出土遺物について

多種多様の遺物が大量に出土しており、標準的なテンパコ数で総数407箱を数える。その内訳は、造成土内(包含層)128箱、遺構出土195箱、泥川(堀)出土84箱である。今回の整理期間で扱える量ではないことから、限定された資料のみの報告とならざるを得なかった。造成土内資料はほぼ除外し、遺構出土資料及び泥川出土資料を対象とし、実測に耐えうる資料を中心に抽出したものである。

また、町屋敷地内の遺物出土量は、泥川に面した地区とそれ以外では明らかに雲泥の差がみられる。それは、前述の通り、泥川に面した区画は、区画内に廃棄土坑を作らずに捨てたためである。泥川を全掘していない以上、出土遺物から各町屋の比較を行っても、限定的な評価となってしまうことは否めない。よって、以下に述べる遺物報告は、大川遺跡のある一面を示したのみであることを断っておきたい。なお、個別遺物の特徴は、観察表に詳述してあるので、そちらを参照して頂くこととした。以下は、特徴的なものや全体傾向についてのみ述べることにする。

### 第2節 土器・陶磁器類

出土遺物の大部分を占めるのが陶磁器・土器類である。今回、遺構と同様に「誓願寺地区」・「町屋地区」・「道路地区」・「泥川地区」に分けて報告する。産地別には、有田や波佐見などの肥前をはじめとする九州、瀬戸・美濃、京・信楽、萩、越前、越中瀬戸、再興九谷諸窯の製品がみられ、それに瓦質土器や土師器皿が加わる。全国的にみても日本海側の城下町共通の様相だそうである。時期は、町屋1～6地区が所在するA区は、18～19世紀に主体があるようで、少量の17世紀代の製品が確認される状況である。町屋7～12地区が所在するB・C区では、17世紀代製品がやや増加する傾向があるが、19世紀以降の製品も目立つ。誓願寺地区を除き、最も多く陶磁器の出土したのは町屋3地区である。また、一つの遺構の中に各時期の遺物が混在する土坑が多く、時期がまとまった資料は見出し難い傾向にあった。17世紀前半代の製品の中では、越中瀬戸の存在が目立つようで、町屋5地区からまとまって出土している。また、利常が入城する1640年より前の年代を示すものも確実に定量出土しており、町屋の形成時期を探る上で重要な資料である。ただし、それらは16世紀末頃までと限定的であり、安土・桃山時代の小松城(村上・丹羽在城時代)に、城下町形成を求めるものではない。むしろその頃の陶磁器類は皆無であり、やはり城下町の整備は利常入城が契機となったと考えておきたい。

以下、特異な製品をみると、第一に外面体部以外の頸部と底部付近に刷毛目を施した徳利(195・307・554・672)が上げられる。各地区において比較的多く確認される製品だが、現時点では産地及び磁器を特定するには至らなかった。(176)は、おそらく萩焼の鉢であり、あまり見たことのない製品だそう。生産に関わるものとして、サヤ鉢が出土している。サヤ鉢は、生産地からそのまま付いてくる場合もあるので、直接上絵付け工房などに関連付けられるものではない。しかし、小松城三の丸堀跡での調査で、上絵付け窯の窯壁などが出土しているなど、周辺に工房があったことも想定される。

また、陶器碗の中には、灰や融着物が付着した資料が存在している。それらは、内厚で体部外面下半に飛び龜文を施したものに多く、2次被熱を受けた火災品も考えられるが、増埴としての使用も想定される。

一方で、時期は明治以降に下がるが、外底面に「綿谷製」と銘の入った磁器が出土している。これら

の製品は、泥川埋没後に設置されたゴミ捨て場SX1012を中心とした範囲から限定的にみられるものである。資料の中には、金彩や絵付け前の赤や白のベース色だけ施された状態のものが含まれていた。SX1012が含まれる町屋10かその付近において、絵付け作業などを行っていた可能性が考えられる。近代以降、分業化が進んだ九谷焼産業の実態を示す重要な考古資料といえよう。

なお、今回報告にあたって、観察表には通常あるべき時期や産地の欄を設けなかった。それは陶磁器類の検討中に、ご指導頂いた先生方が共通して持たれた「違和感」に起因している。本報告における陶磁器の多くが、典型的な各産地のものに比較すると「違和感」の拭えないものであるとのことである。肥前など各産地の質の悪いものか、地元を含む地方窯の模倣品か、短い検討時間では結論が出せない大きな課題である。さらに、「本物」が全く存在しないわけではない点も判断を難しくしている。よって、本報告では産地や時期の判断は保留し、ある程度判断がつくものだけを特記欄に記すこととした。よって、今後の検討が進展することによって、遺跡の評価が変わる可能性がある。

### 第3節 瓦

瓦は、破片で約3,000点以上出土しているが、ほとんどが近世後期以降の軸葉瓦である。近世前期のいぶし瓦は少なく、町屋の成立期は瓦葺建物ではなかったと判断される。

軒丸瓦(1~3)は、いぶし瓦、軸葉瓦とも珠文と巴文の組み合わせである。軒棧瓦には、寺院の「記」を施したものがあり、八幡窯製品の中にもみられる。また、4・12には「八」の刻印がみられ、八幡窯産であることがわかる。その他、17・21・22・23・28で線刻及びび刻印が確認される。特に、17には「天保」の年号が記されている。22のいぶし瓦片の刻印が「上」であるならば、日末産となる。袖瓦(18・19)のうち、18は袖部上位が欠けているが、特殊な装飾が施されたものである。丸瓦(27~29)は、27以外は軸葉瓦である。28には「ハタ」?の刻字があり、八幡産の可能性がある。29は内面に叩きのような痕跡を残すもので、軸葉の調子も八幡産など地元産とは異なる印象である。

### 第4節 土人形等

土人形・独楽・泥面子・面・箱庭道具など一式が出土している。紙幅の都合上、なるべく重複を避けて図化したため、少ない印象を受けるが、数はまだある。頭部を欠く人形が多い。図化していないが、磁器製の人形(鶏)も存在している。10は、石膏のような純白の素地に、頭髮・眉・目を黒、着物・唇を赤、帯を緑で彩色したものである。透明軸は掛かっていない。

### 第5節 石製品

図化した硯の内、3のみが凝灰岩製で、他は全て粘板岩製である。特に、裏面に覆手がある2は、高島硯の可能性が高い。1・6・7も同系統の粘板岩製といえる。4は、2より黄色味が強く、比重の軽い石材である。5は、2に比べ灰味が強く、比重の重い石材である。特筆される点は、1・4・6・7にみられるように、陸が薄皮一枚のようになる程使い込まれたものが多く存在することである。町人居住区である特徴であろうか。

他の石製品で特に目立つものは、行火(バンドコ)で多数出土している。スカシ窓のあるもの(12)とないもの(16)の両者がある。その蓋にも、スカシ窓のある(8・20)・なし(18)の両者が存在している。組み合わせは不明である。石材は全て凝灰岩製で、笏谷石製など他産地のものは存在せず、地元産であると考えられる。23は、石塔状を呈しており、凝灰岩製である。ミニチュア品か、4面にホゾを切ったような状態であることから、石塔部品の一部である可能性が考えられる。

また、時間の関係上、最低限のものを掲載したのみである。砥石が掲載されていないのは、間に合わなかったためであり、出土していないわけではないことを断っておく。

## 第6節 木製品

漆器、曲物・樽・桶、櫛、箸、柄杓、編物、下駄、建築部材（柱・井戸枠など）多種多用の製品が出土しており、総数は1,000点以上である。地下水位が高いことが、多くの木製品が依存した要因である。保存処理を行ったものは、僅か21点であり、その殆どが水漬けて保管されている。優品ですら全て処理を行うのは、期間・経費の面で現実的に無理である点をご了承ください。

漆器は、椀・皿・蓋・合子・鉢などがあり（装身具を除く）、総数で222点出土している。その内分けは、椀136点、皿37点、蓋18点、合子3点、鉢1点、不明25点である。椀が最も多く約61%を占めている。鉢である3は、体部下位に孔が開けられており、液体容器の体をなさない。18・31は合子で、大小で同形状のものが存在している。28は、板片であるが、観察から折敷のような配膳具の一部ではないかと考えられる。椀5点（2・19・22・30・32）と蓋1点（27）は樹種鑑定を実施している。2・19はブナ属であり、高級なケヤキの代用品として使用された部材であり、普及品であろう。他に乾燥に弱いトチノキ（22）や油分の多いハンノキ属ハンノキ亜属（30）といった種類もみられる。27・32は、前述のケヤキ製である。特に27は、金による文様が内面に描かれており、高級品といえよう。

曲物・樽・結桶は、底板からは判断し難いため、一括りにしている。栓のあるものは樽、側板のあるものを曲物とし、他は全て底板と報告した。総数265点の内、曲物10点、くれ板5点、底板250点であり、底板としたものが96%を占める。その中でも、2は栓が付いたままであり、樽と判断できる。37は、楕円形の比較的大型の曲物である。内部に乳白色の付着物が残存している。41は、小型の曲物であり、内部に残る固形物が漆である。よって、漆容器として使用した可能性が高い。両者とも、側板はアスナロ、底板はヒノキ科の材が使用されており、殺菌性や耐湿性の高さを持つ材が選択されている。

櫛は、15本出土しており、その内2本（46・47）は篋状木製品とした。42～43は、塗漆であるが、43のみ厚い塗膜に覆われた製品である。45は、便宜上ここでの報告に含めたが、おそらく亀甲製とみられる。46・47は、その形状から篋状木製品としたが、先端が櫛歯状となっていることから、堅櫛ではないかと考える。さらに、それらは櫛（42）と同じ、乾燥後は堅くなるイスノキを材料としており、装身具である可能性が高いと考える。

箸は、50本出土しており、16本を図化した。片方を尖らせる片口、両側を尖らせる両口、どちらも尖らせない寸胴がある。その中でも片口が主体を占めている。

杓子は大（65）・小（64）がある。大は組み合わせ式で、合がブナ属、柄が硬く腐りにくいクリ材であった。偶然の可能性もあるが、円礫が1点中に入った状態で出土した。小は、一木でブナ属の材で作られている。編物（68）は、土ごと取り上げたものであり、材はイネ科タケ亜科である。

下駄は、一木（連歯・剣形）、構造（露卯・陰卯）がある。総数337点の内、差し歯型の構造下駄が231点（69%）、一木（連歯）18点（5%）、一木（剣形）88点（26%）であり、主体は構造下駄である。江戸時代の町屋では、歯の差し替えが可能な構造下駄が重宝されたのであろう。その中でも、露卯下駄に主体があり、金沢城近接の武家屋敷跡、金沢市広坂遺跡（1丁目）と同じ傾向である。露卯型でも、歯の差込口の孔数や、角型と丸型、眼の位置、裏面の細工などで細分可能である。特に後ろの眼の位置では、歯の後ろに開くものが主流であるが、前に開けるもの（71・73・91）が少量ではあるが存在している。特に、73と91は同じ焼印が押されている。使用材は、露卯下駄で103（新しい）は、本体・歯とも殺菌力・耐水性の高いアスナロである。74（古い）は、本体に軽く加工しやすい材であるハリギリを使用し、歯にのみ耐久性の高いカツラを使用している。一木連歯下駄では、同じくハリギリを使用した83と、光沢のあるサワグルミを使用した97がある。

下駄は、使用を経て廃棄されたものが殆どであり、歯には大小摩耗の痕跡がある。また、泥川からの出土量が多く187点（55%）もあり、多くが川（堀）へ廃棄されたことがわかる。未成品や未使用品の希薄さから、工房や商店の存在は想定しにくい。本体より歯の数が多いことから、歯入れ屋

が付近に存在した可能性はあろう。特に、泥川埋没後の遺構であるが、S K 1013・1038（町屋11・12区域背面）から複数個体まとまって出土している。

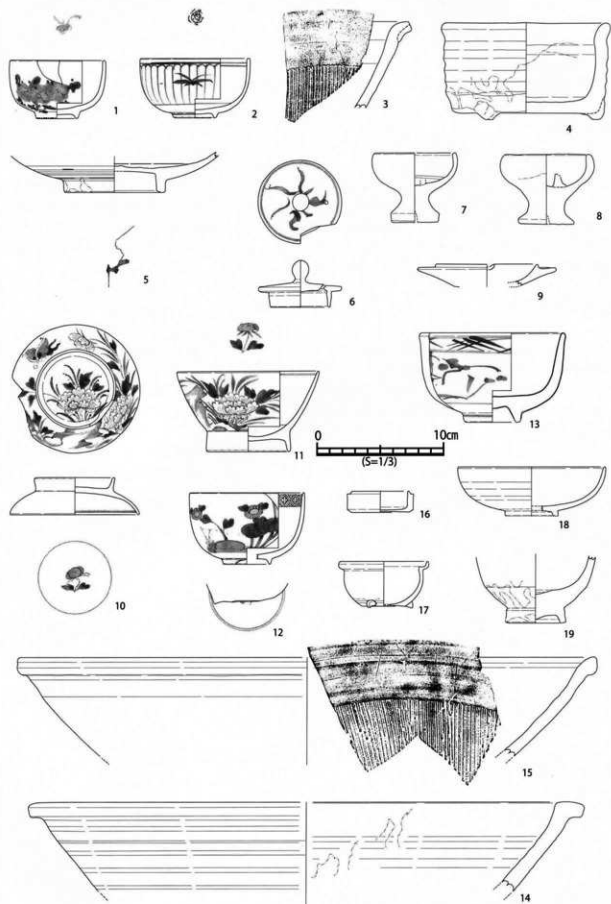
S E 2 0 1 4の結構式井戸枠については、樹種鑑定を行っている。20枚のくれ板の内、1枚だけ杉材を使用し、他はアスナロであるという興味深い結果が得られた。偶然なのか必然なのか、1例のみでは判断できないが、類例を増やして検討すべき課題である。

## 第7節 銭貨

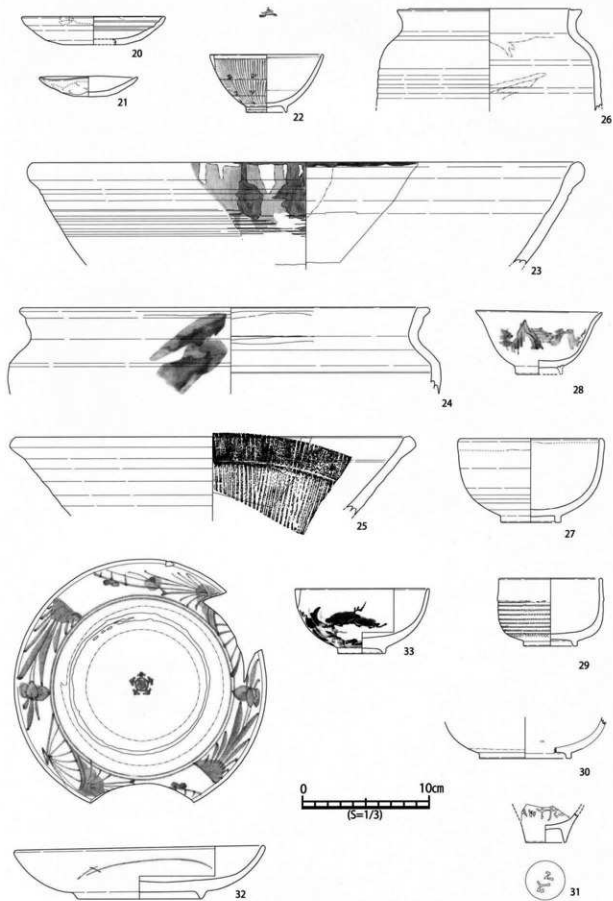
全33枚の内、27枚までが寛永通寶である。その内、1のみが四文銭である。他の江戸時代の銭貨は、5の天保通寶、28の文久永寶がある。中世の輸入銭は2枚出土しており、12は明銭の洪武通寶、23は北宋銭の紹聖元寶であり初鑄年代が1094年と最も古い。これらは、江戸時代の町屋群の北東に所在した、鎌倉～室町時代前半の集落遺跡から流れてきた可能性がある。また、泥川からは一銭や半銭といった明治時代になってから発行された硬化も出土しており、半銭に刻まれた1886年頃までは、完全に埋められていなかったのかもしれない。

## 第8節 金属製品

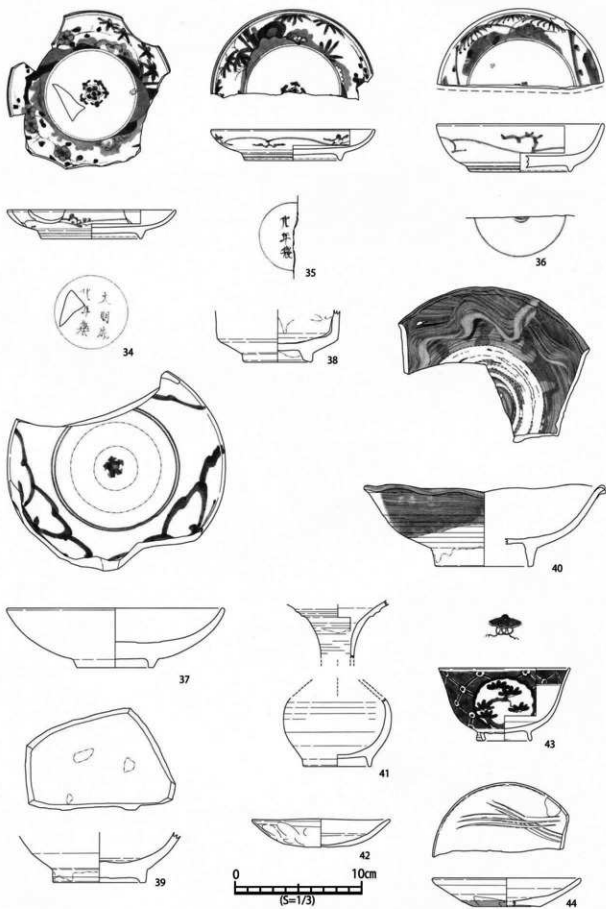
煙管、簪、家具・建具の引手・飾り金具、皿、包丁、十能、火箸、鉄鍋、鉄釜、網、灯心立て、釘、用途不明品などが出土しているが、出土量はあまり多くはなく50点程度である。特に、武家と関係が深い刀装具関係品が出土していない点が町屋の特徴といえようか。煙管は、湾曲のない1が19世紀代、湾曲の大きい2が18世紀代と考えられる。5の簪は、双足で耳かき付である。包丁は、5点（11～15）出土しており、13は、刺身包丁のように刃が長身のものである。11・14・15は、柄の木材が残っていた。同じような環境に埋まっていたにもかかわらず、ブナ属の柄である14は腐り、殺菌力・耐湿性の高いアスナロの柄である15はほぼ原形を留めるといった、材による違いが観察できた。おそらく15の方が高級品なのであろう。



第73图 土器·陶磁器实测图 誓願寺地区(1)

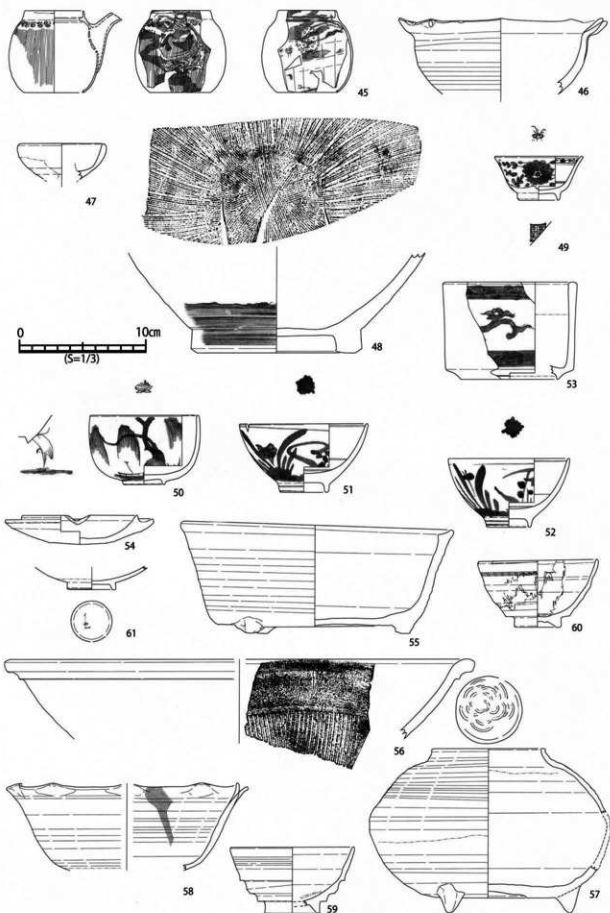


第74图 土器・陶磁器実測図 智願寺地区(2)

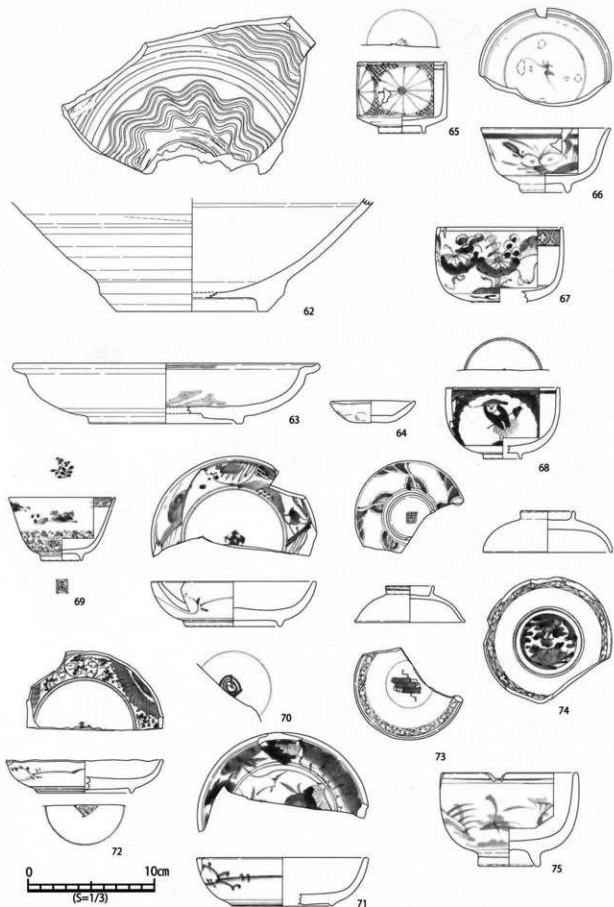


第75图 土器·陶磁器实测图 智願寺地区(3)

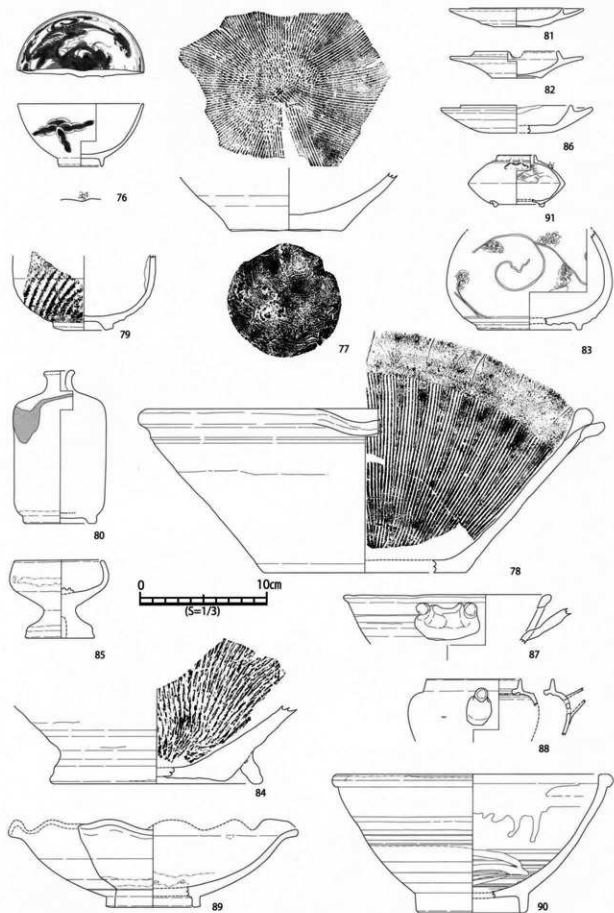




第76图 土器·陶磁器实测图 智願寺地区(4)



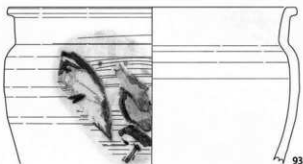
第77图 土器·陶磁器实测图 誓願寺地区(5)



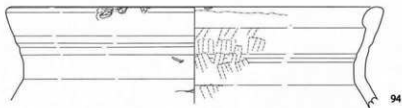
第78图 土器·陶磁器实测图 智願寺地区(6)



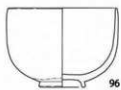
92



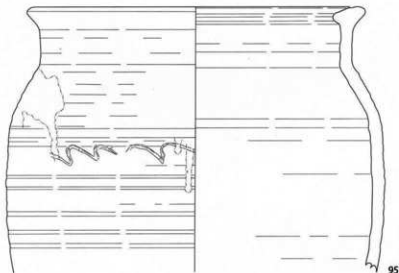
93



94



96



95



97



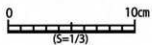
98



99



100



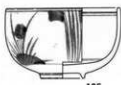
101



102



103



105



106

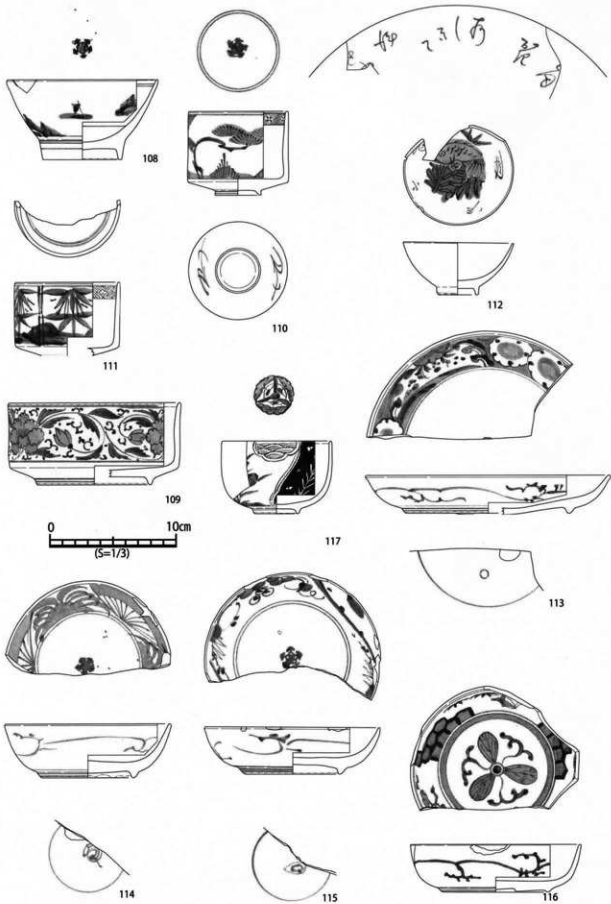


107

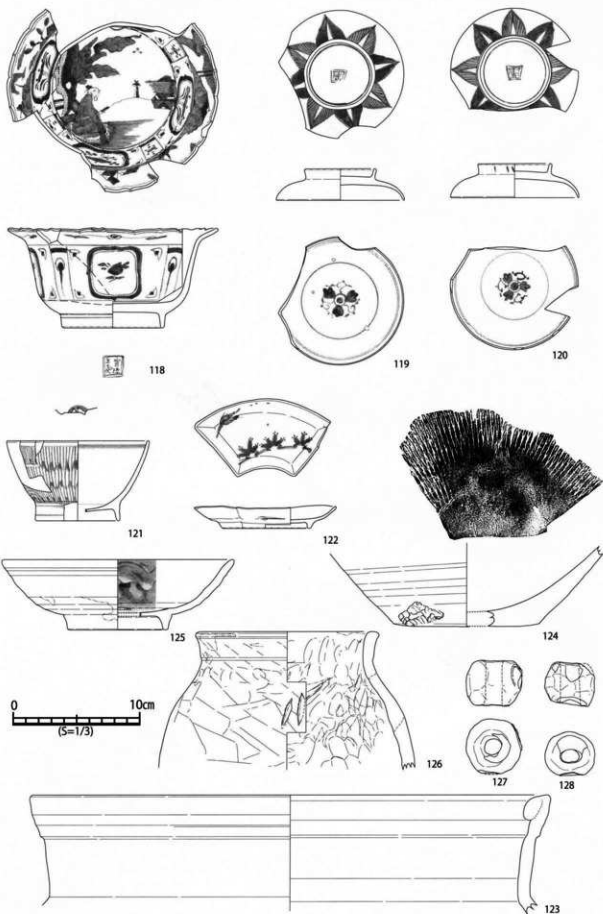


104

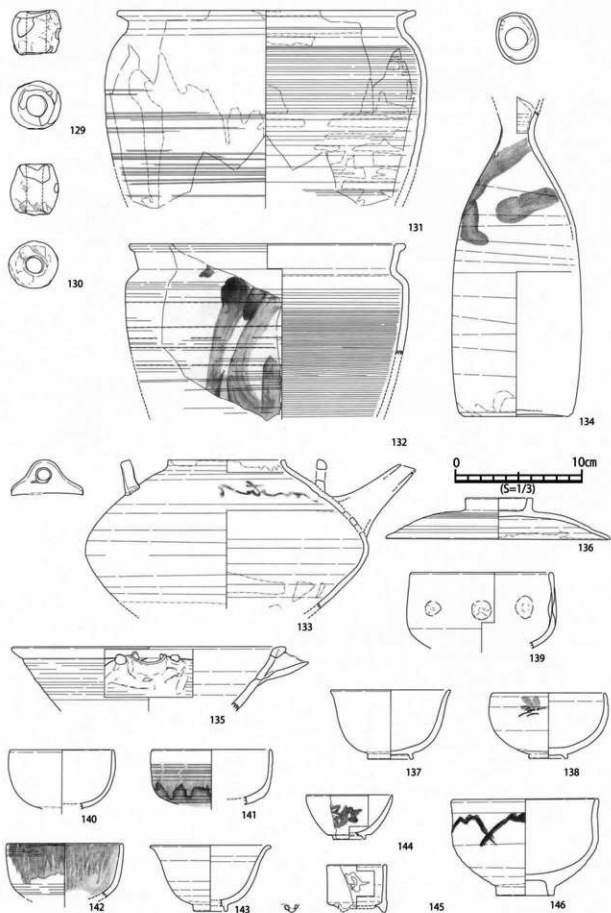
第79图 土器·陶磁器实测图 智願寺地区(7)



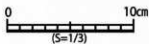
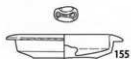
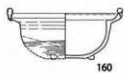
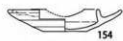
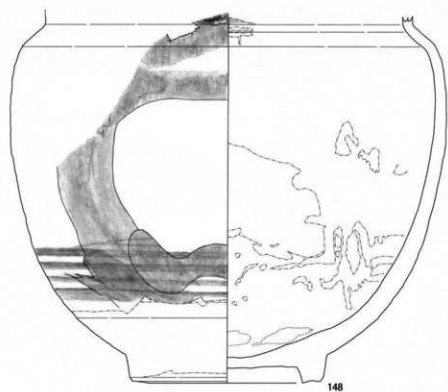
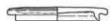
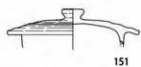
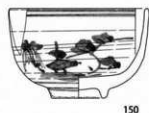
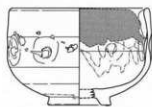
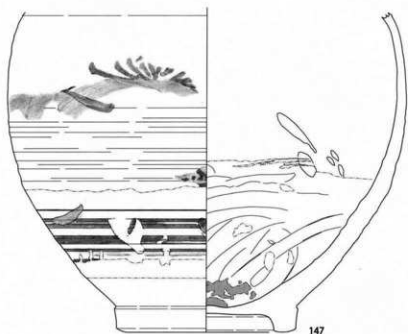
第80图 土器·陶磁器实测图 智願寺地区(8)



第81图 土器·陶磁器実測図 智願寺地区(9)

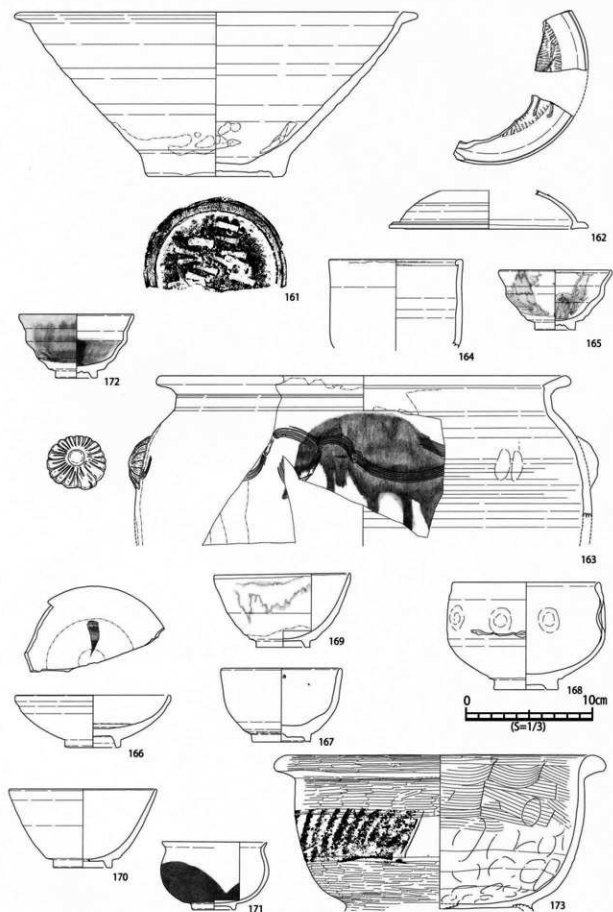


第82图 土器·陶磁器実測図 誓願寺地区(10)

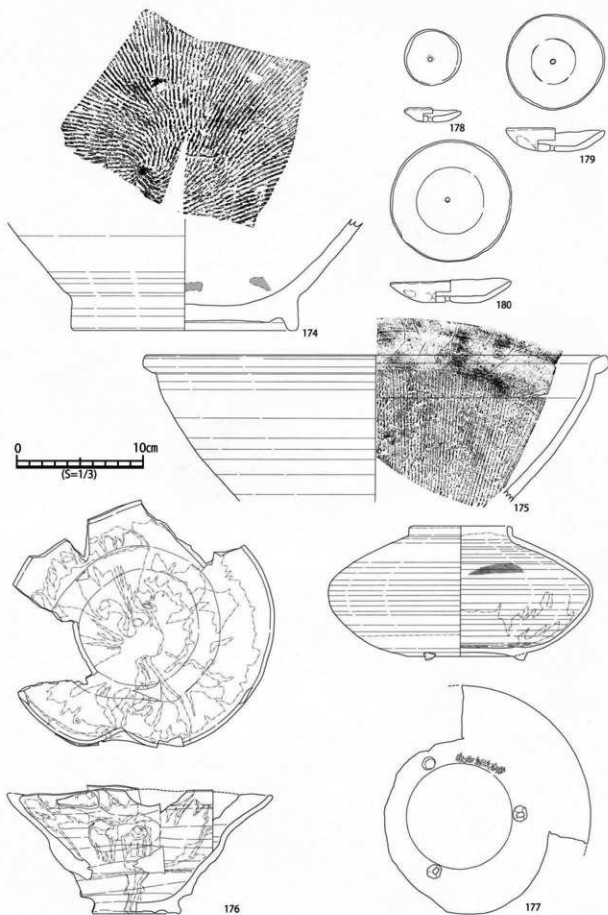


第83图 土器・陶磁器実測図 誓願寺地区(11)

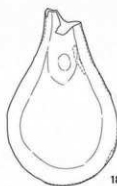
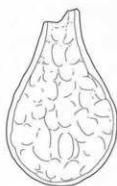




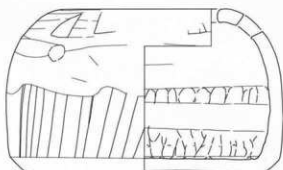
第84图 土器·陶磁器実測図 誓願寺地区(12)



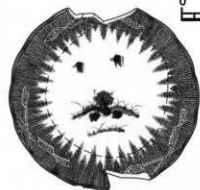
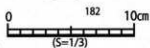
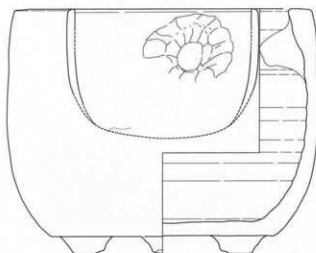
第85图 土器·陶磁器实测图 智願寺地区(13)



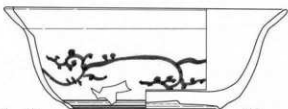
181



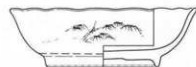
183



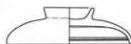
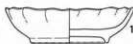
188



185



184

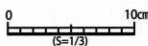
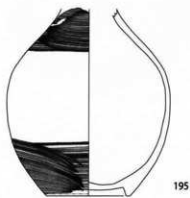
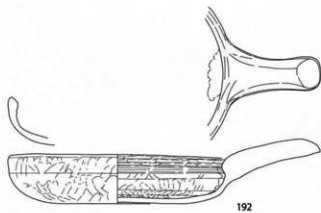
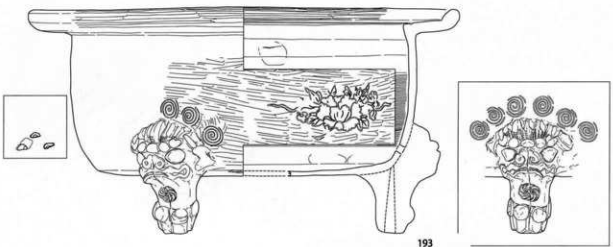
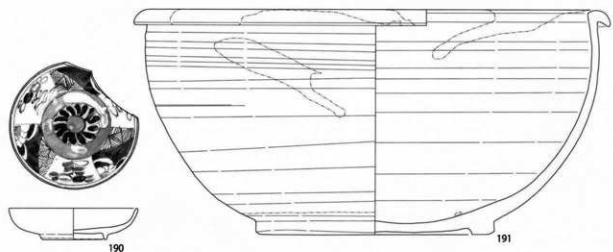


186

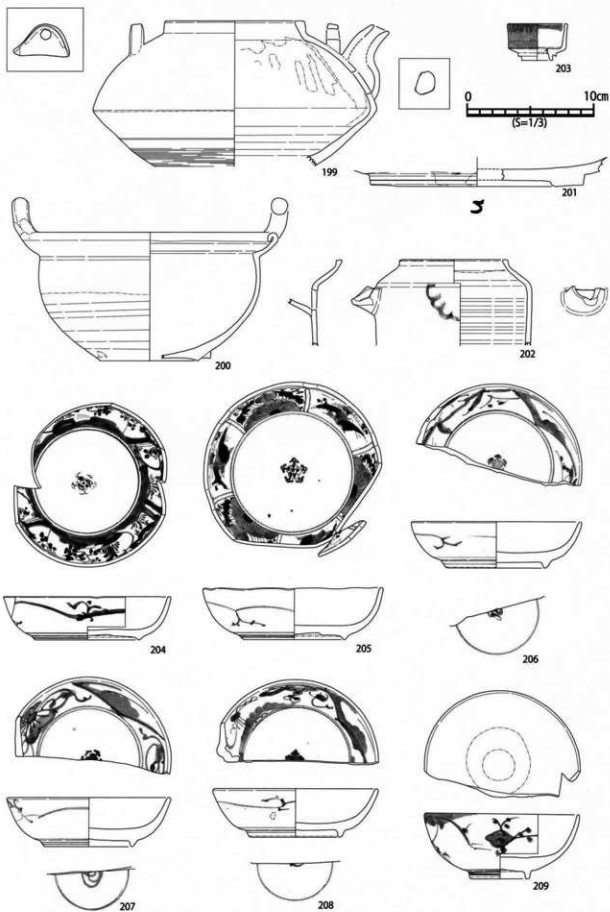


187

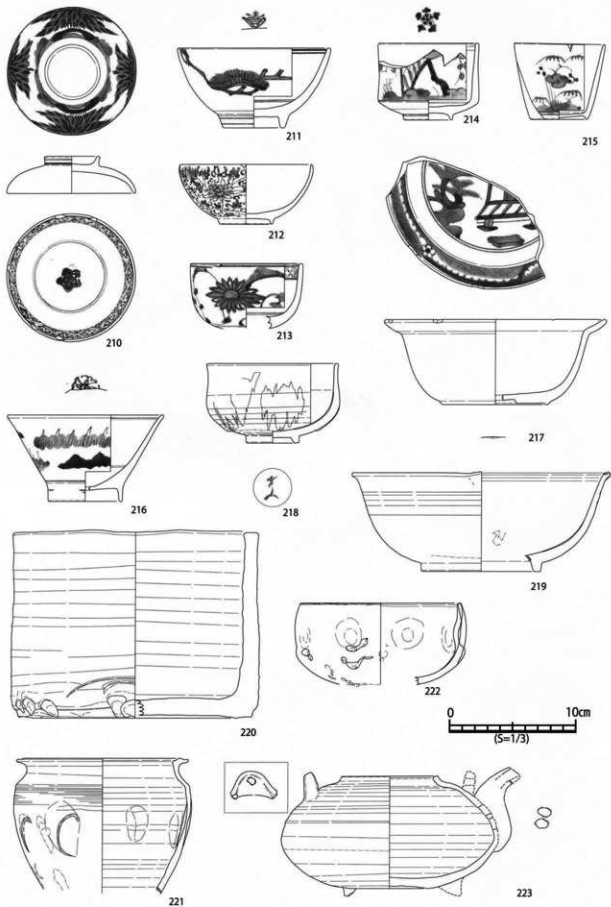
第86图 土器・陶磁器実測図 智願寺地区(14)



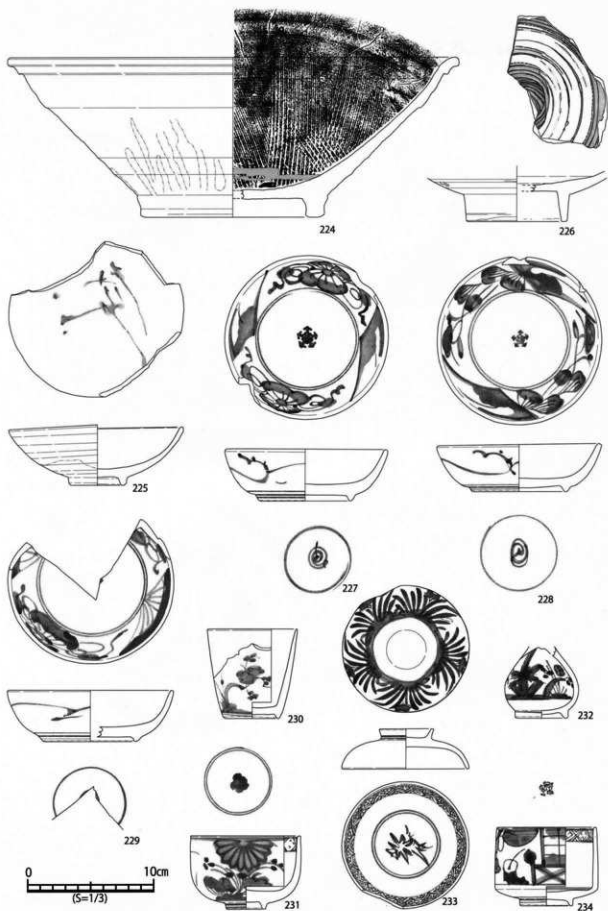
第87图 土器·陶磁器実測図 誓願寺地区(15)



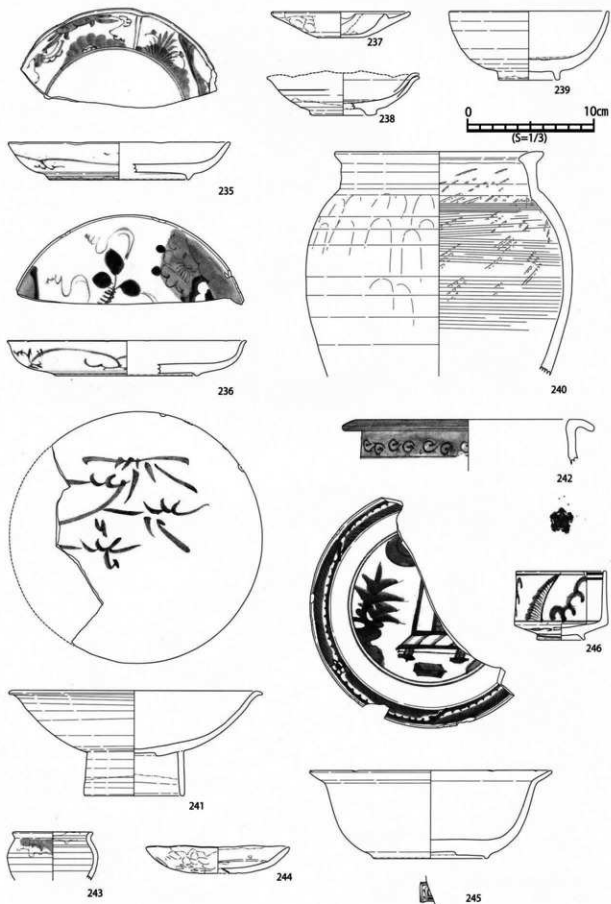
第88图 土器·陶磁器実測図 智願寺地区(16)



第89图 土器·陶磁器实测图 智願寺地区(17)

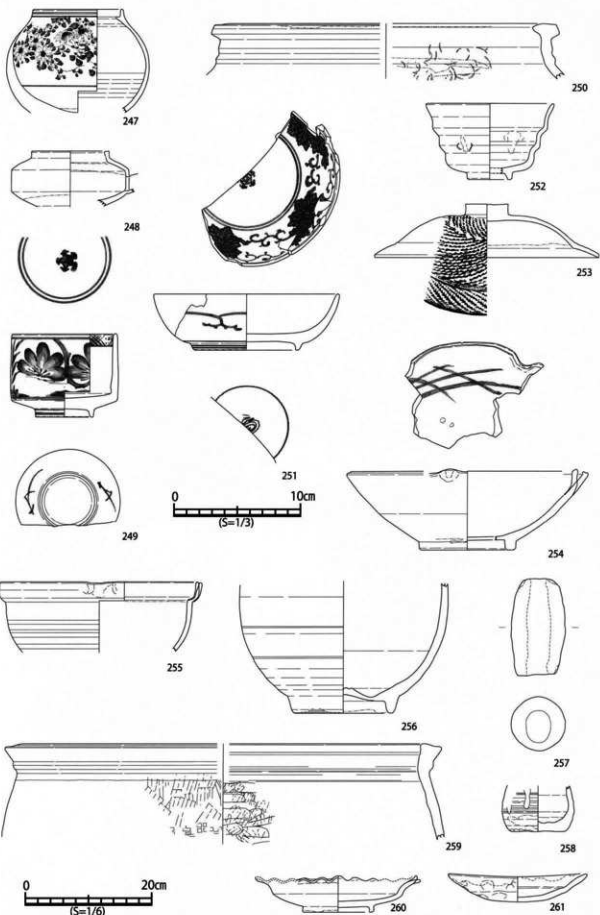


第90图 土器・陶磁器実測図 智願寺地区(18)

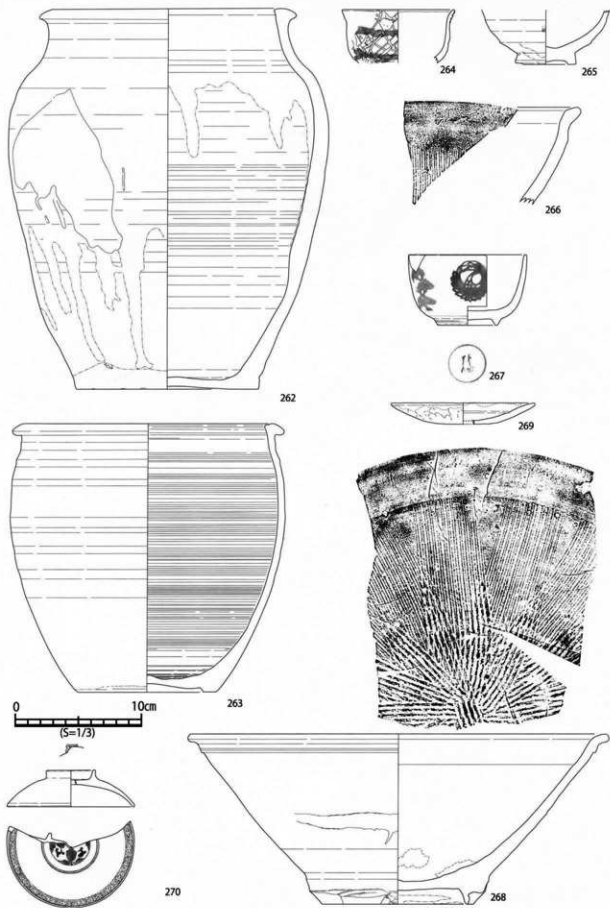


第91图 土器·陶磁器実測図 智願寺地区(19)

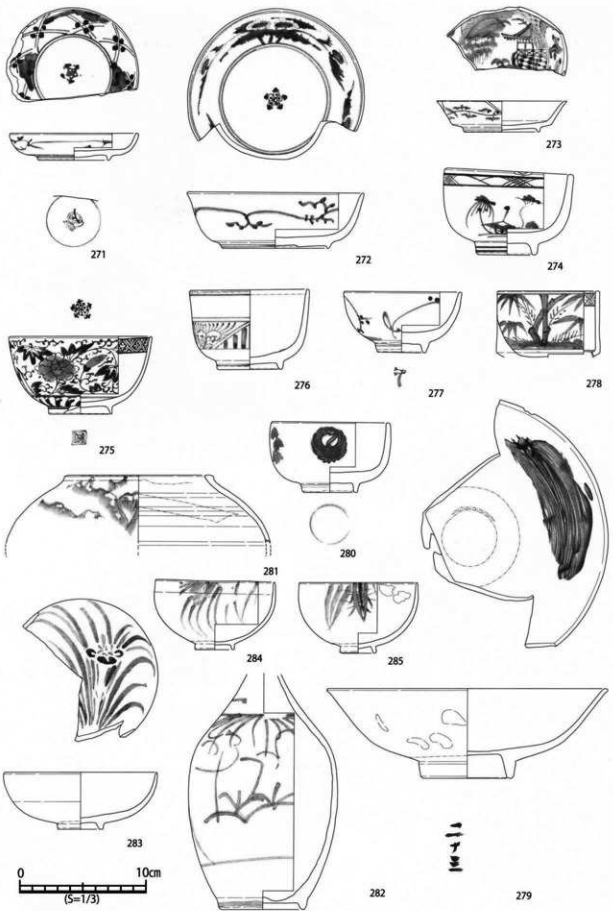




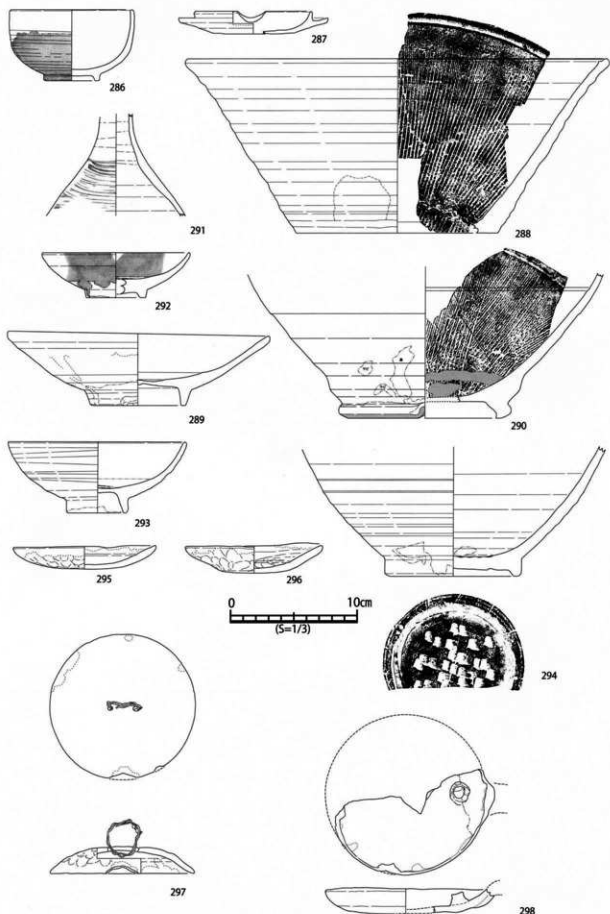
第92图 土器·陶磁器実測図 誓願寺地区(20)



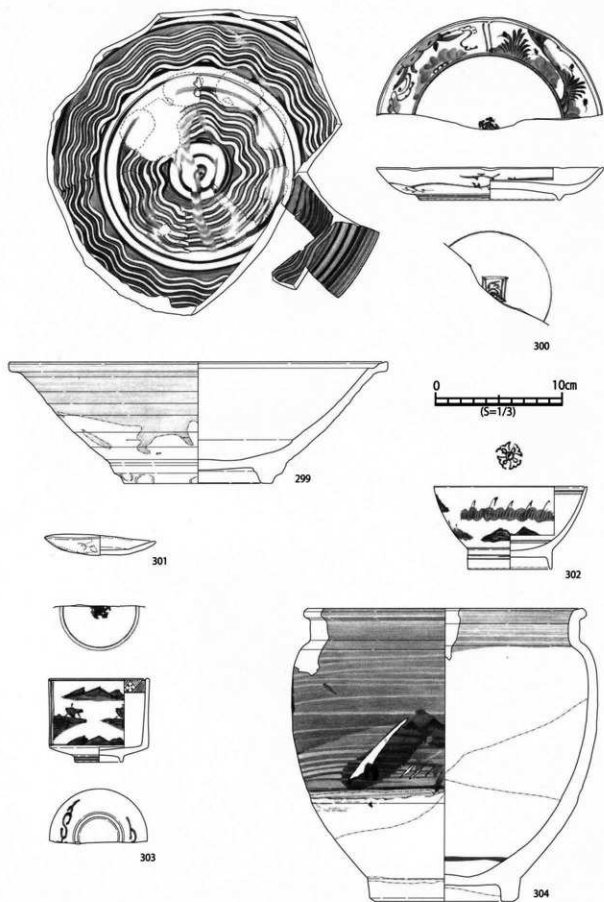
第93图 土器・陶磁器実測图 誓願寺地区(21)・町屋1地区(1)



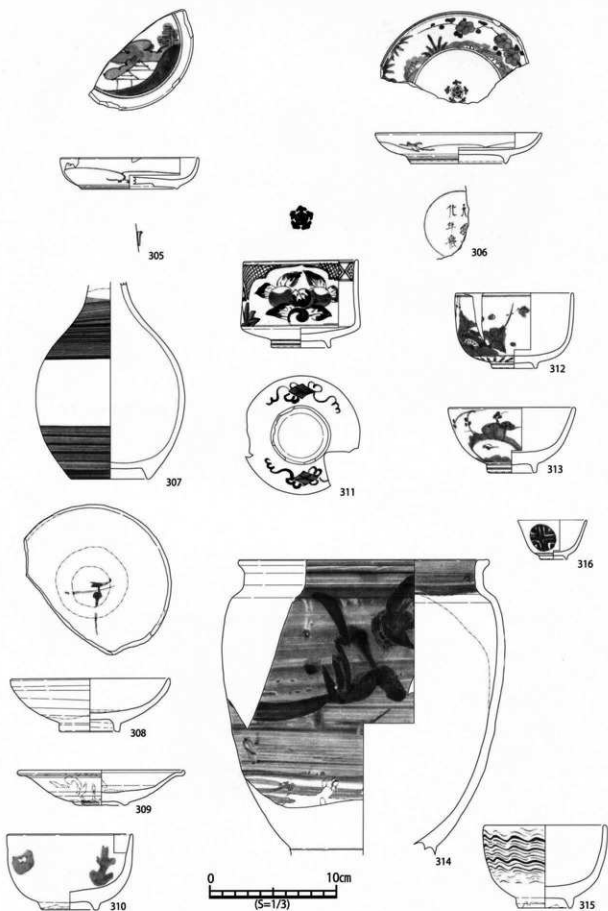
第94図 土器・陶磁器実測図 町屋1地区(2)



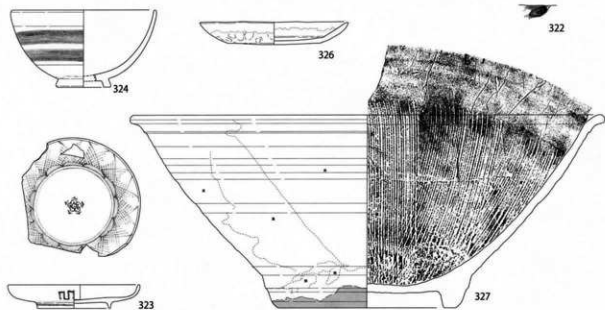
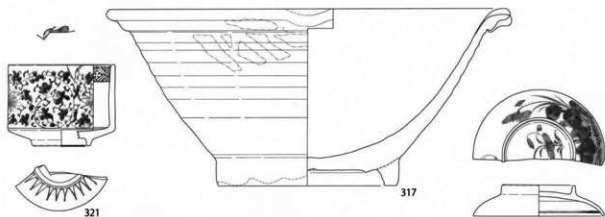
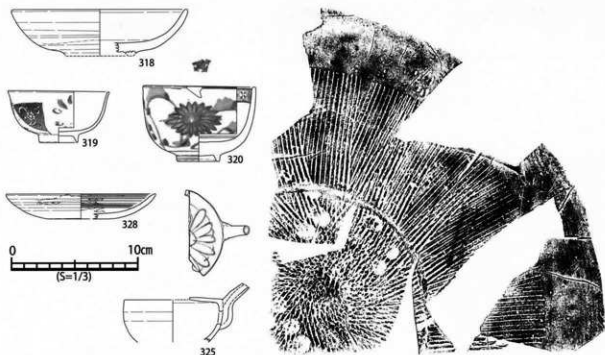
第95图 土器・陶磁器実測図 町屋1地区(3)



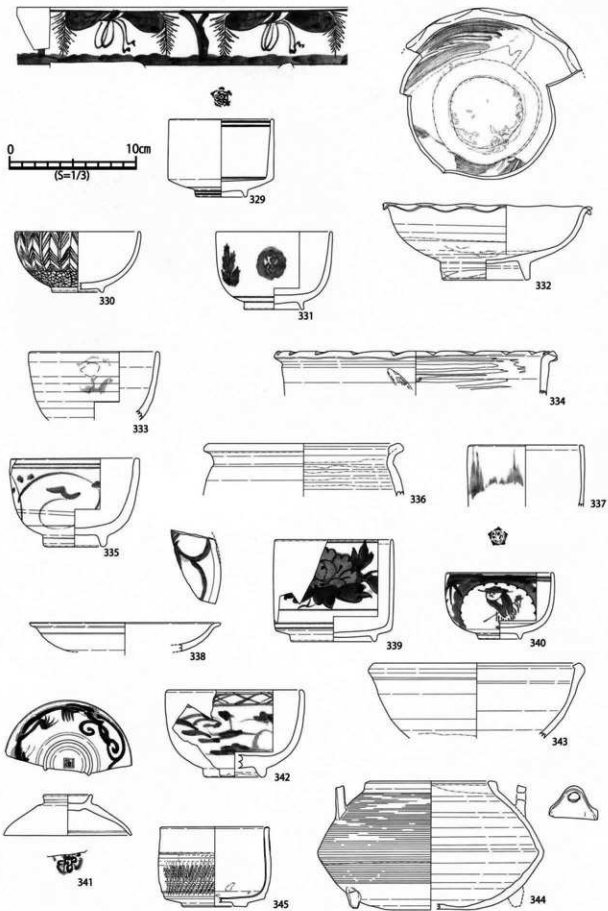
第96图 土器・陶磁器実測图 町屋1地区(4)・町屋2地区(1)



第97图 土器・陶磁器実測図 町屋2地区(2)

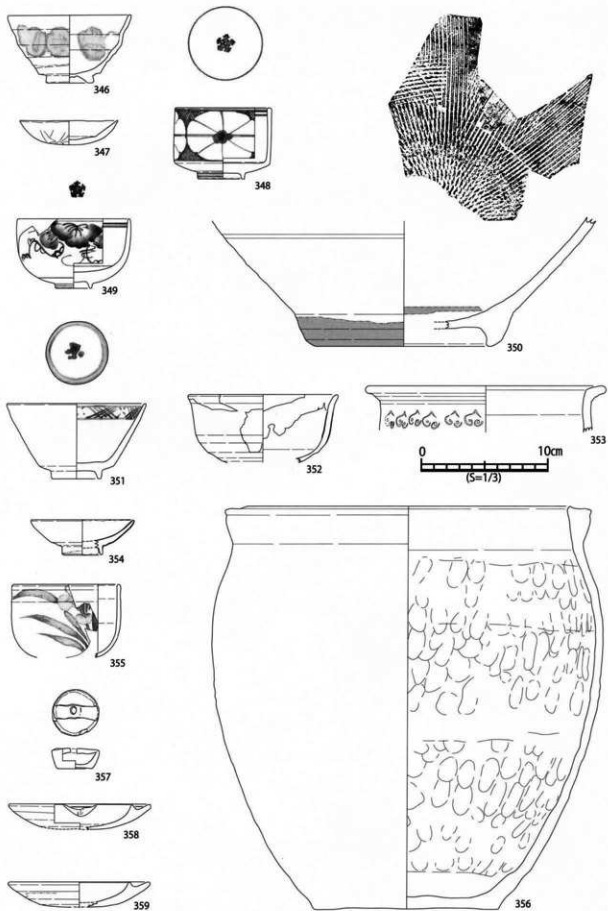


第98图 土器・陶磁器実測図 町屋2地区(3)

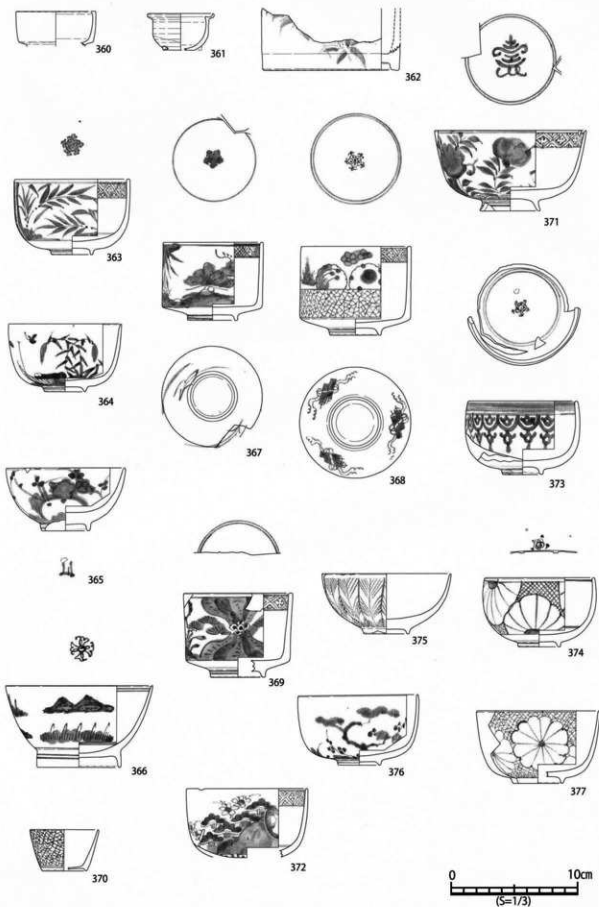


第99图 土器・陶磁器実測図 町屋2地区(4)・町屋3地区(1)

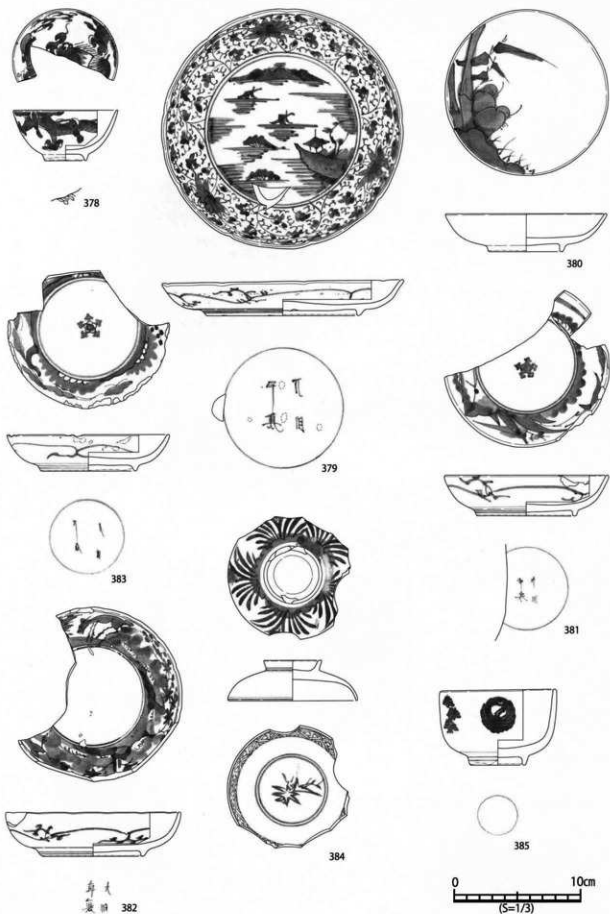




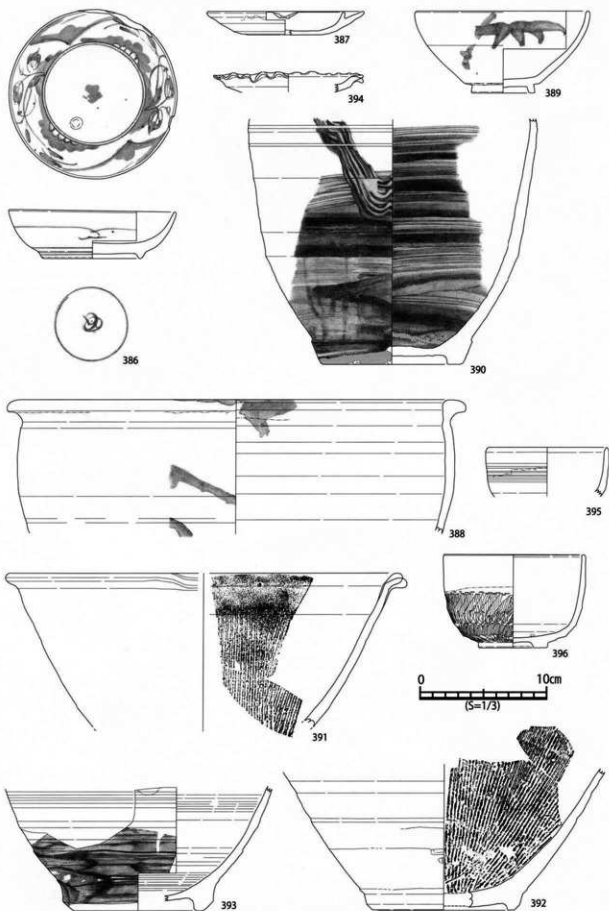
第100图 土器·陶磁器実測図 町屋3地区(2)



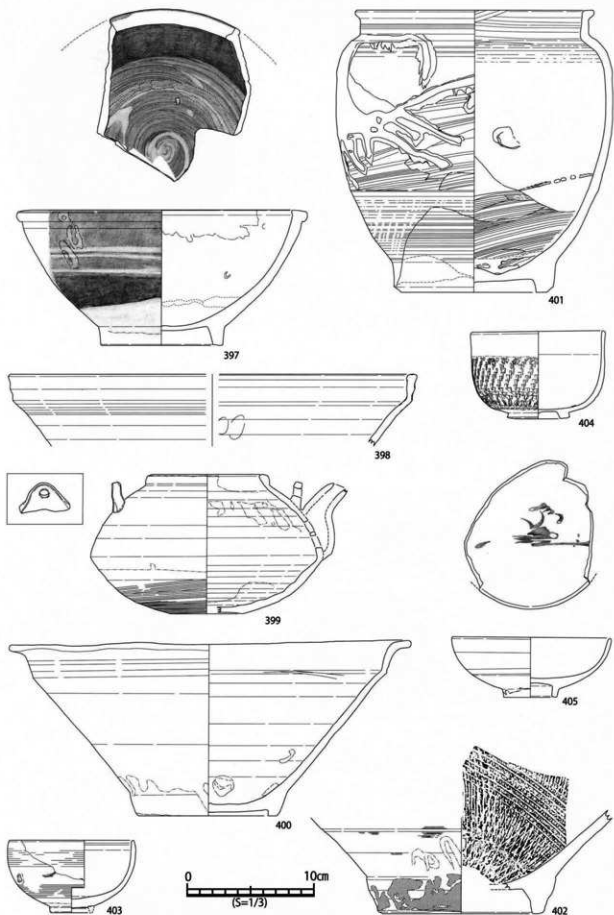
第101图 土器·陶磁器实测图 町屋3地区(3)



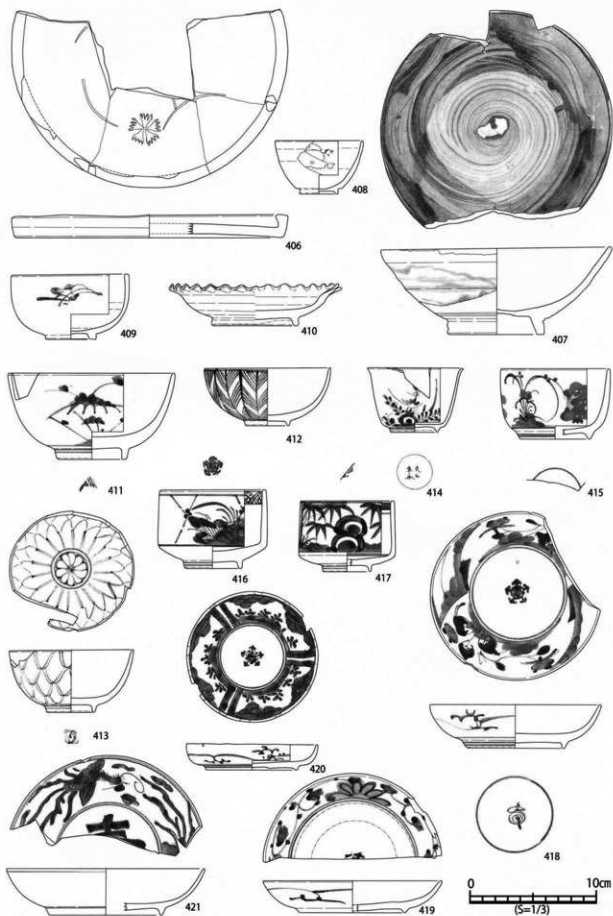
第102图 土器·陶磁器实测图 町屋3地区(4)



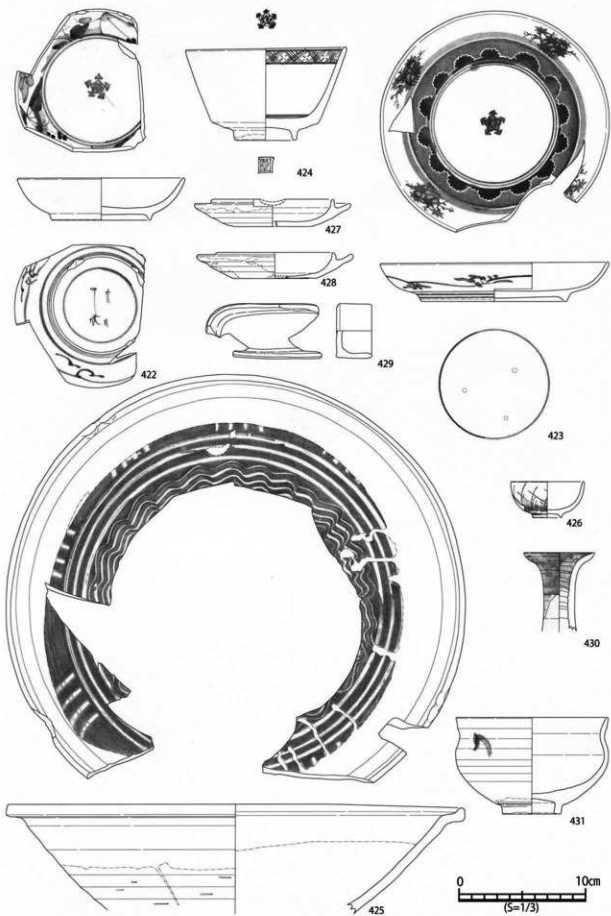
第103图 土器·陶磁器実測図 町屋3地区(5)



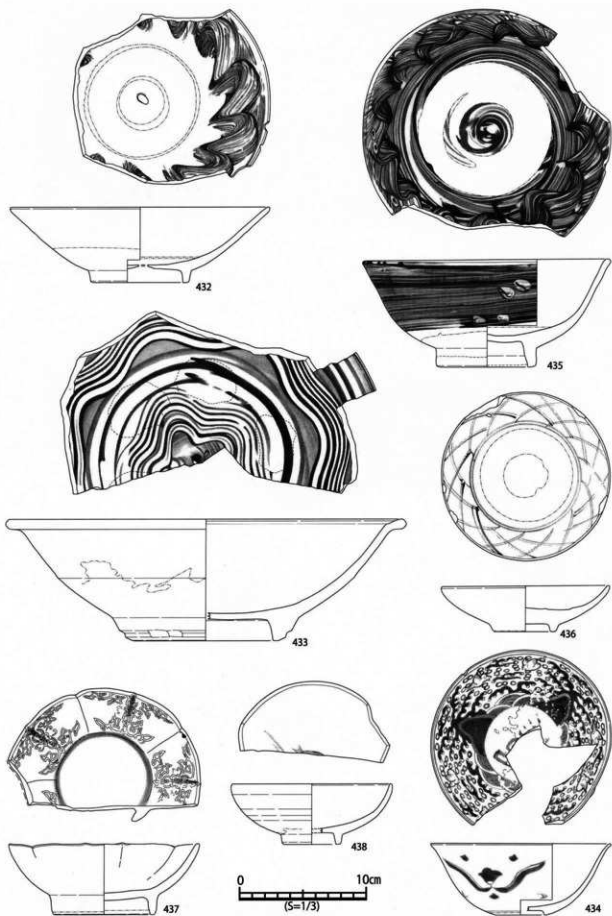
第104图 土器・陶磁器実測图 町屋3地区(6)



第105图 土器·陶磁器実測图 町屋3地区(7)

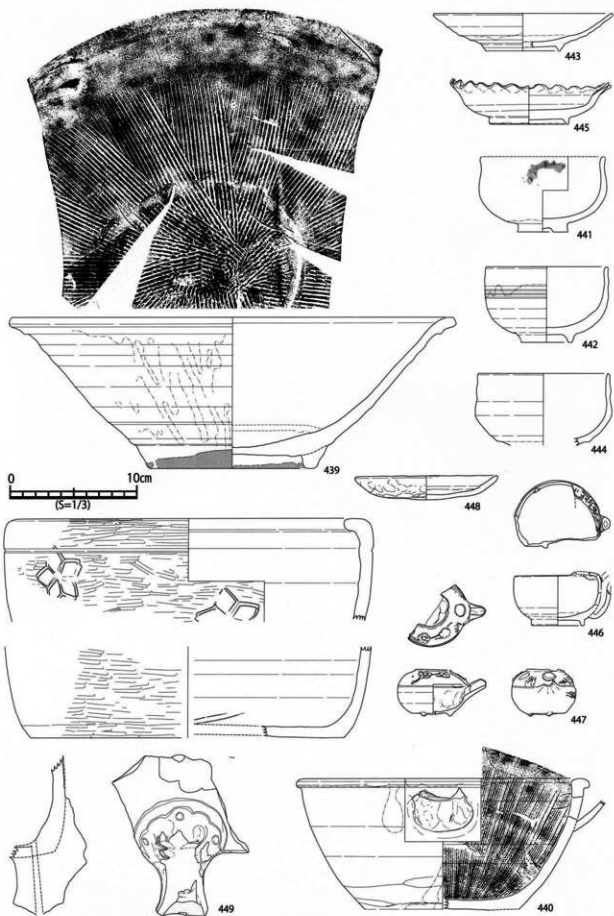


第106图 土器・陶磁器実測图 町屋3地区(B)

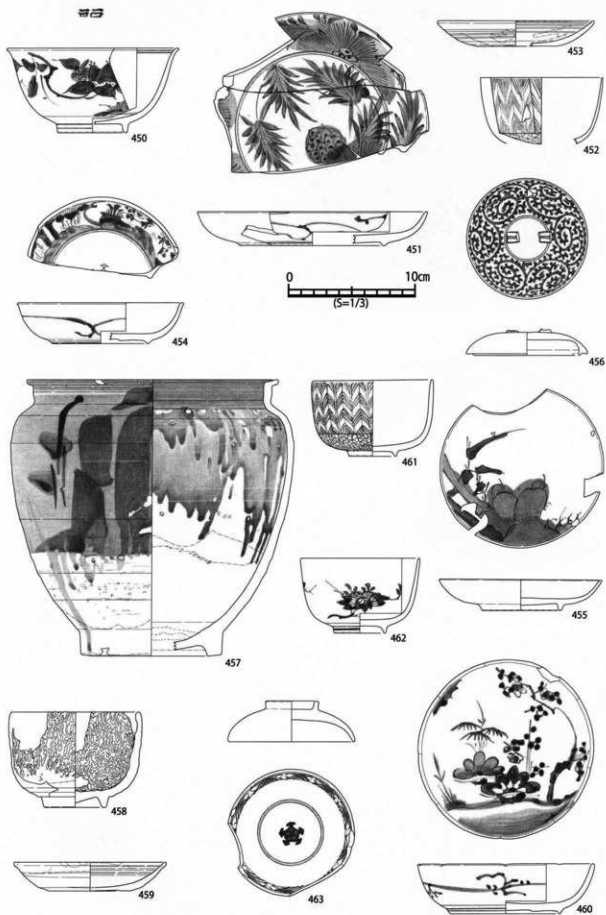


第107图 土器·陶磁器实测图 町屋3地区(9)

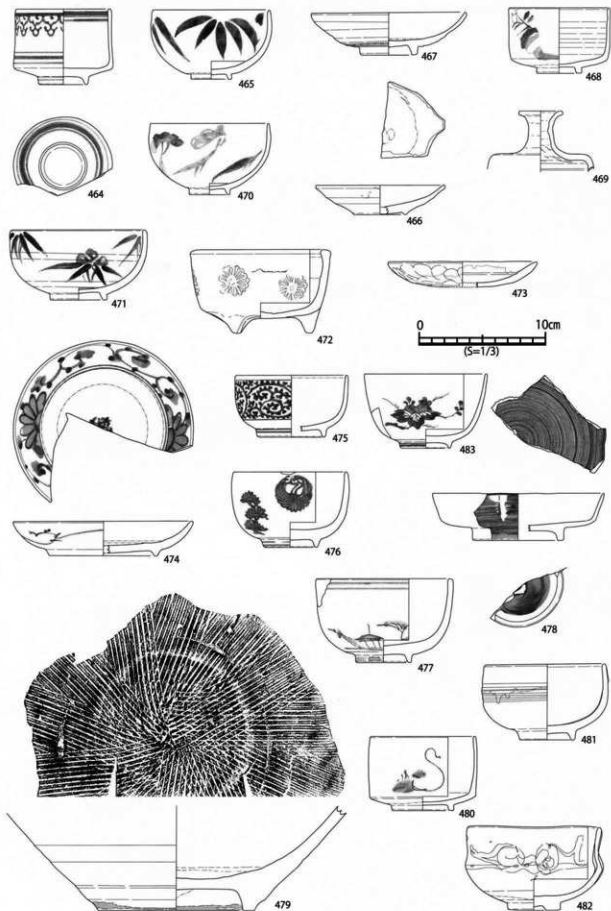




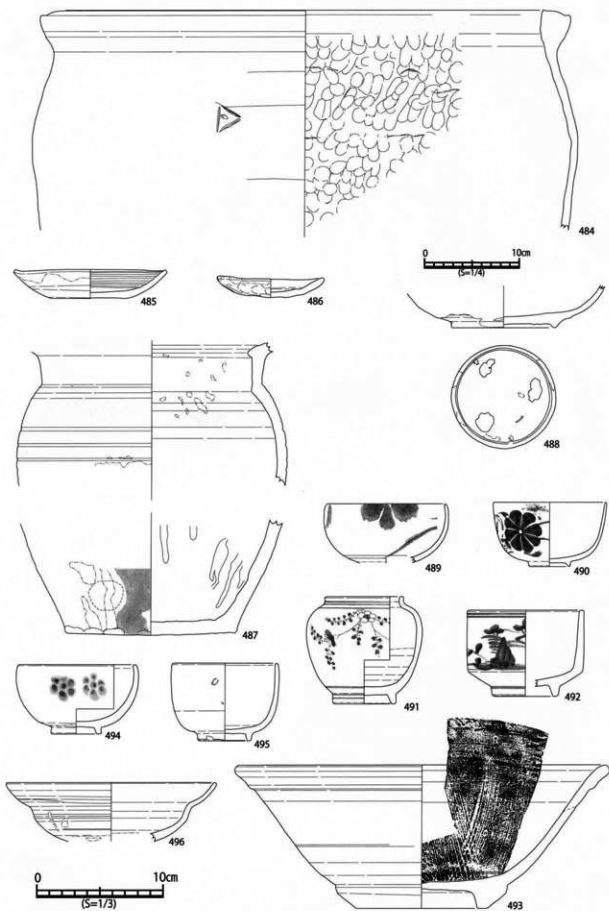
第108图 土器・陶磁器実測图 町屋3地区(10)



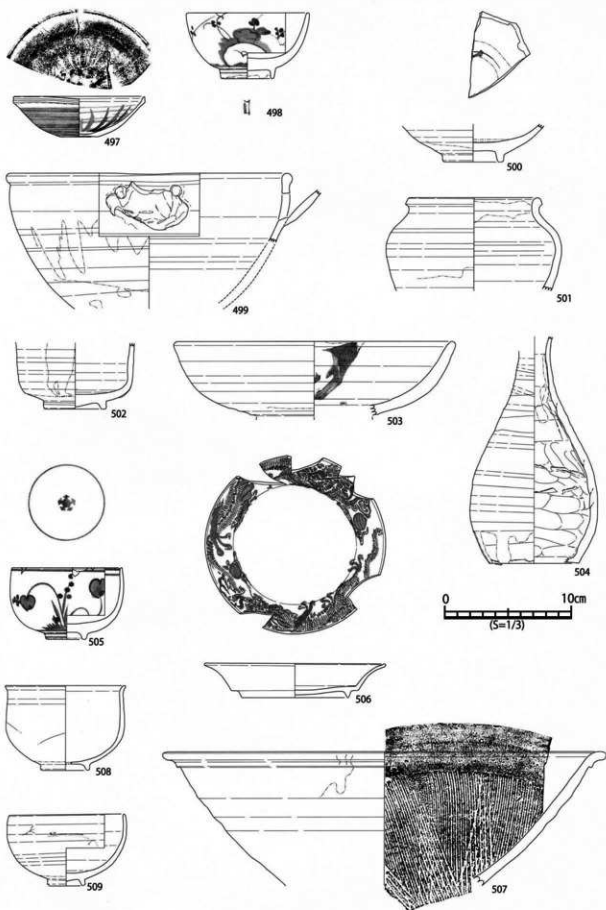
第109图 土器·陶磁器实测图 町屋3地区(11)·町屋4地区(1)



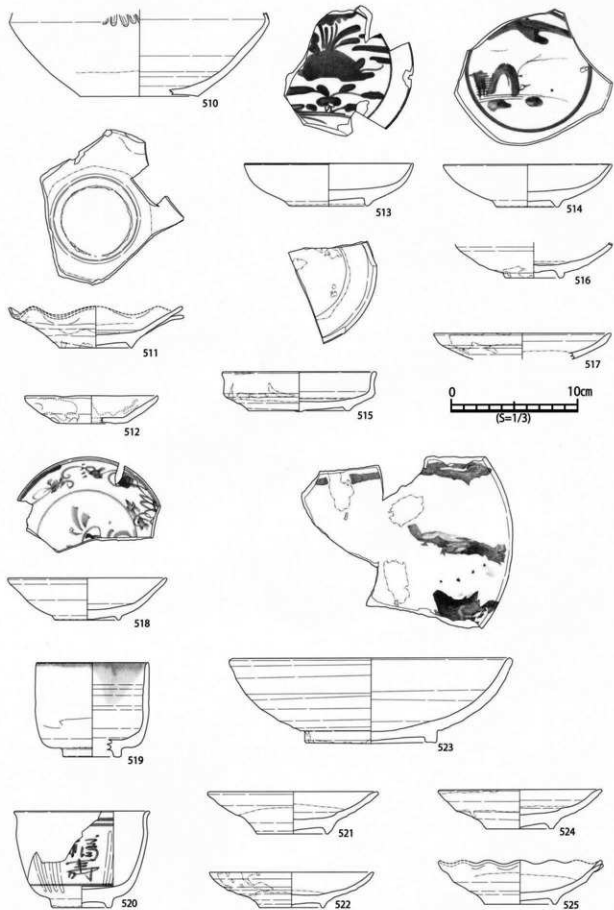
第110图 土器·陶磁器实测图 町屋4地区(2)



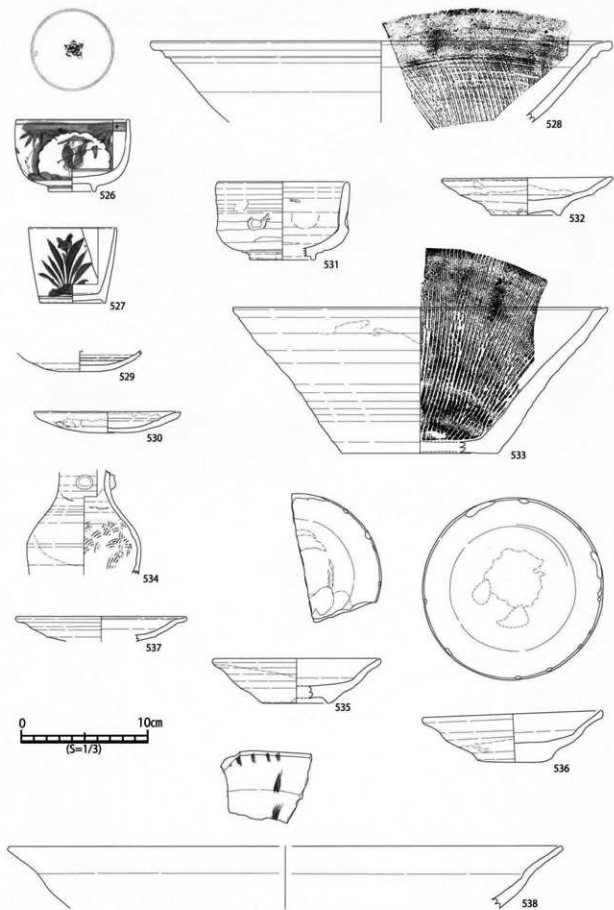
第111图 土器·陶磁器実測图 町屋4地区(3)



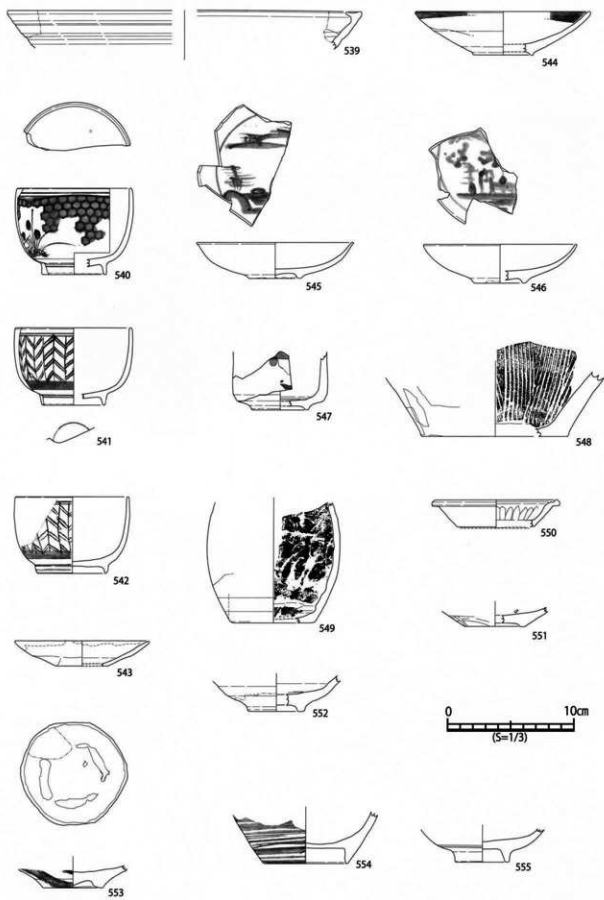
第112图 土器·陶磁器实测图 町屋4地区(4)·町屋5地区(1)



第113图 土器·陶磁器实测图 町屋S地区(2)

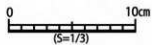
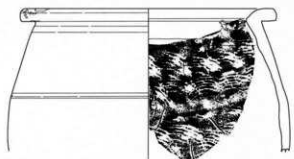


第114图 土器・陶磁器実測図 町屋5地区(3)・町屋6地区(1)



第115图 土器·陶磁器实测图 叮屋7地区(1)

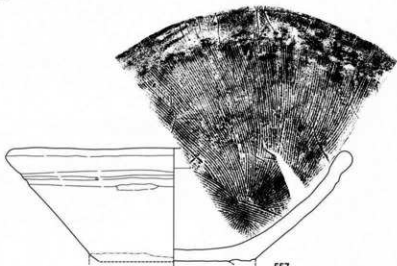




561



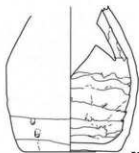
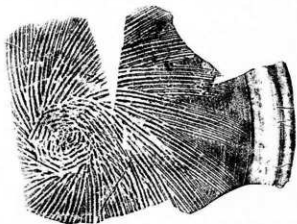
556



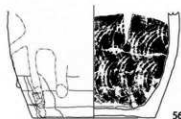
557



558



560

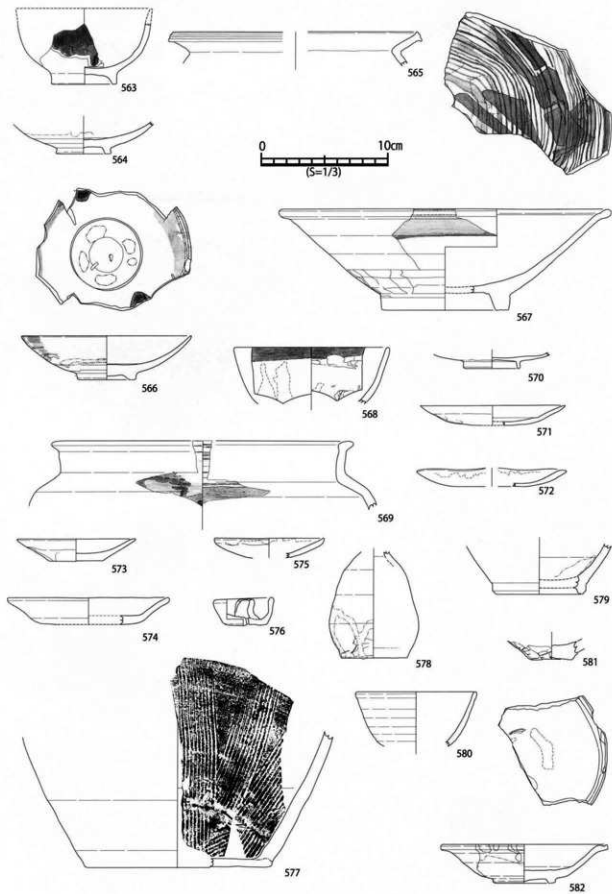


562

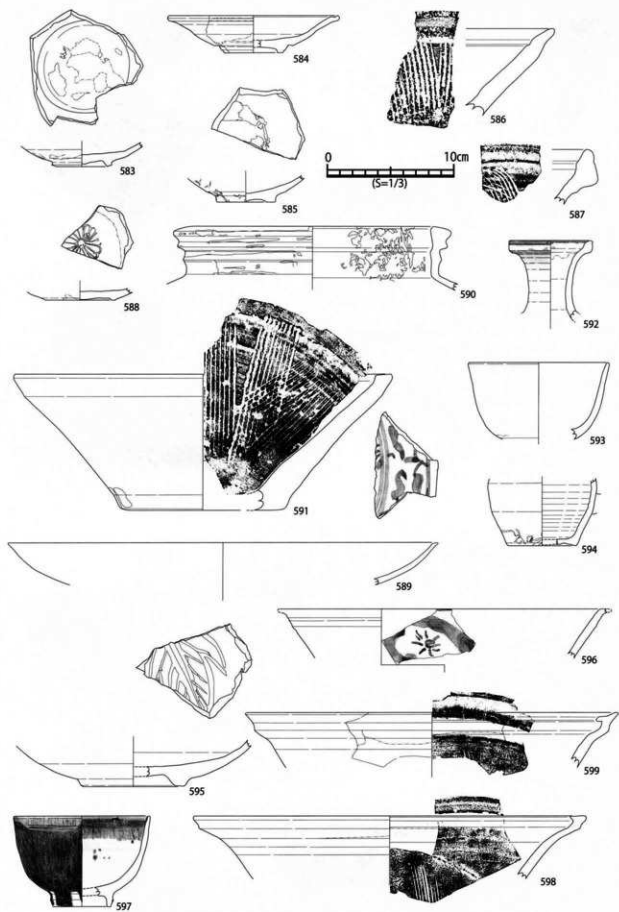


559

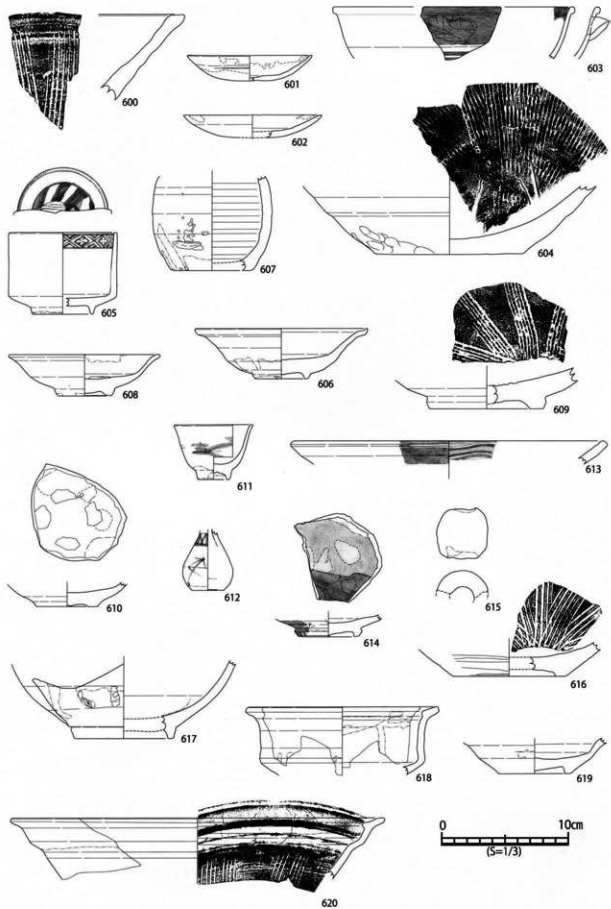
第116图 土器·陶磁器実測图 町屋7地区(2)



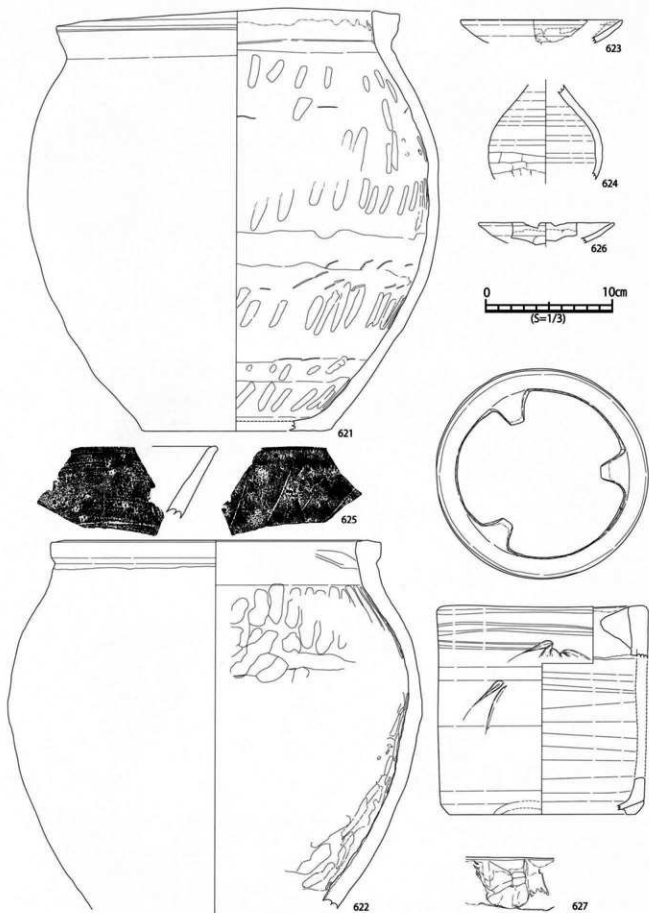
第117图 土器・陶磁器实测图 町屋7地区(3)・町屋8地区(1)



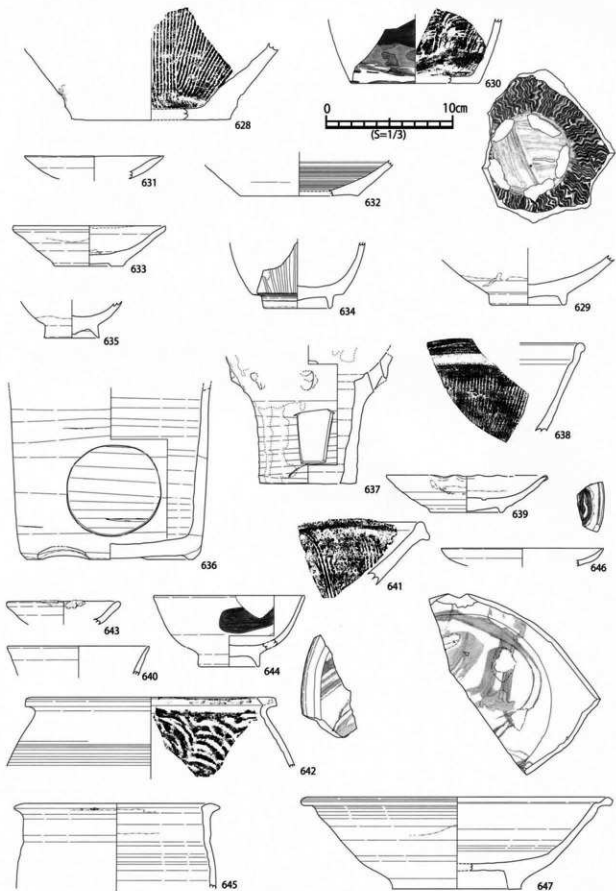
第118图 土器・陶磁器实测图 町屋8地区(2)・町屋9地区(1)



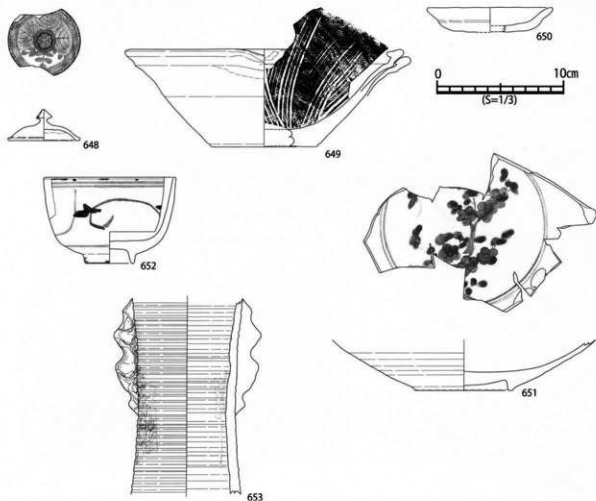
第119图 土器·陶磁器实测图 町屋9地区(2)



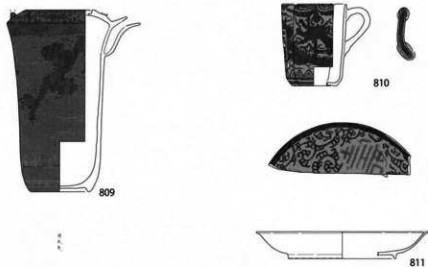
第120图 陶磁器実測図 町屋9地区(3)



第121图 土器・陶磁器実測図 町屋9地区(4)・町屋10地区(1)



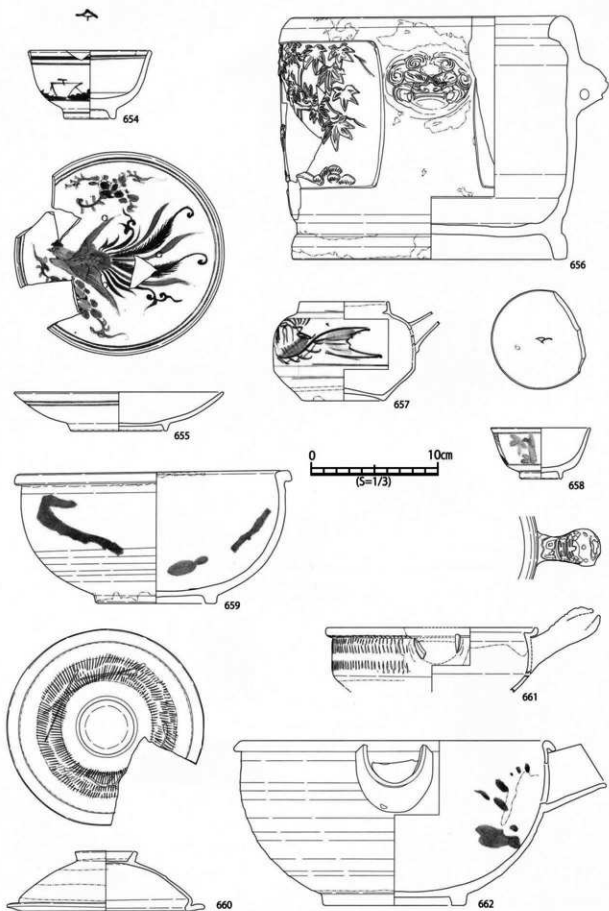
包含層出土 「綿谷製」



※紙綴の都合上、包含層出土陶磁器をここに掲載

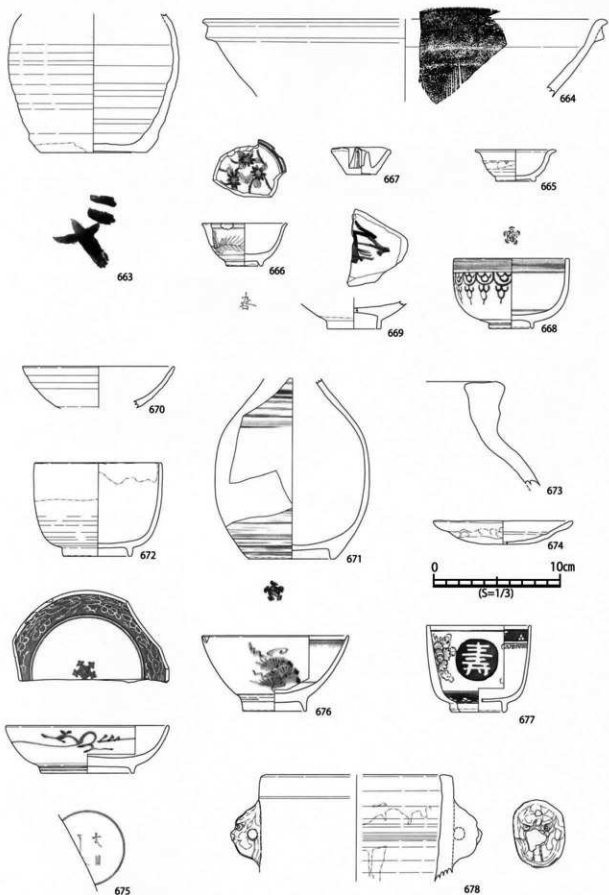
第122図 土器・陶磁器実測図

町屋10地区(2)・町屋11地区(1)・包含層

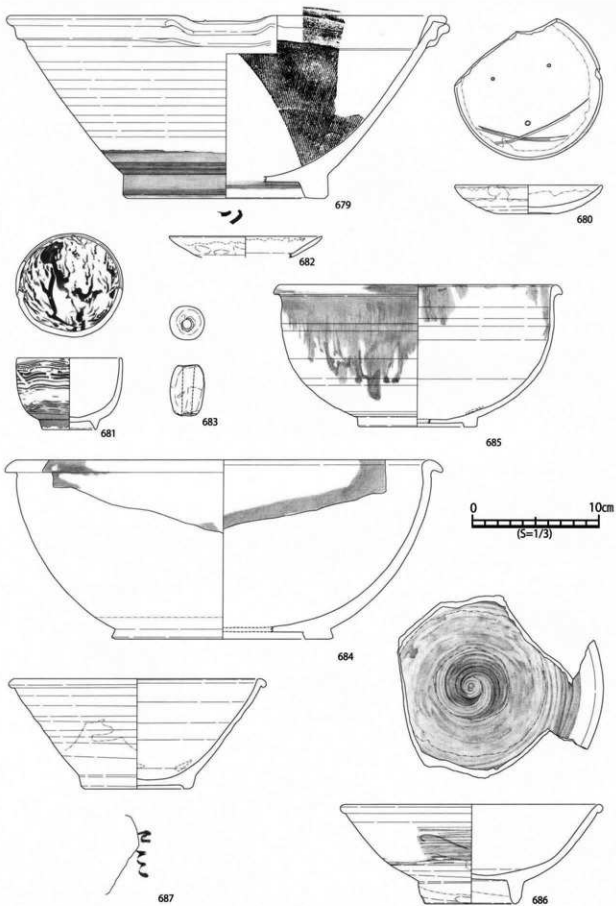


第123图 土器・陶磁器実測図 町屋11地区(2)

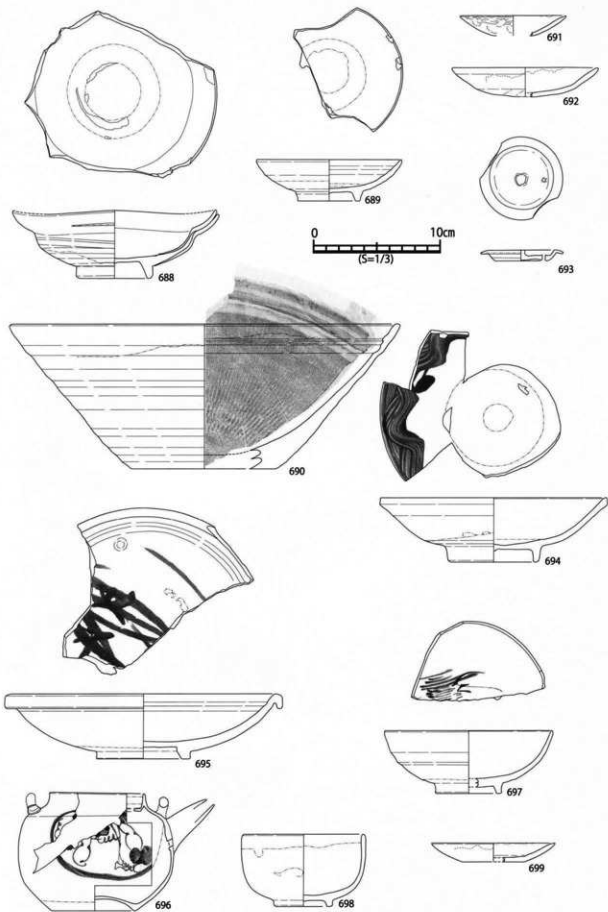




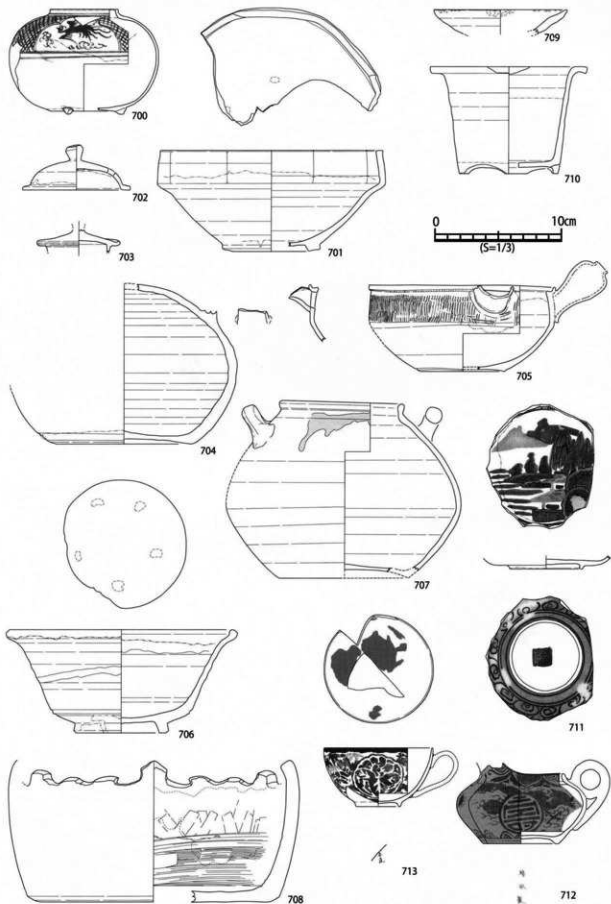
第124图 土器・陶磁器実測図 町屋11地区(3)・町屋12地区(1)・道路地区(1)・泥川地区(1)



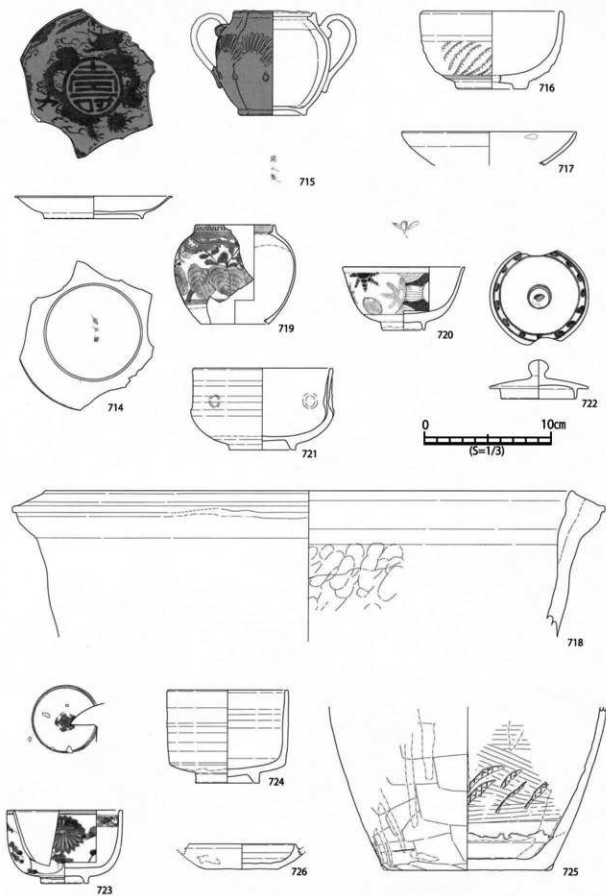
第125图 土器・陶磁器実測図 泥川地区(2)



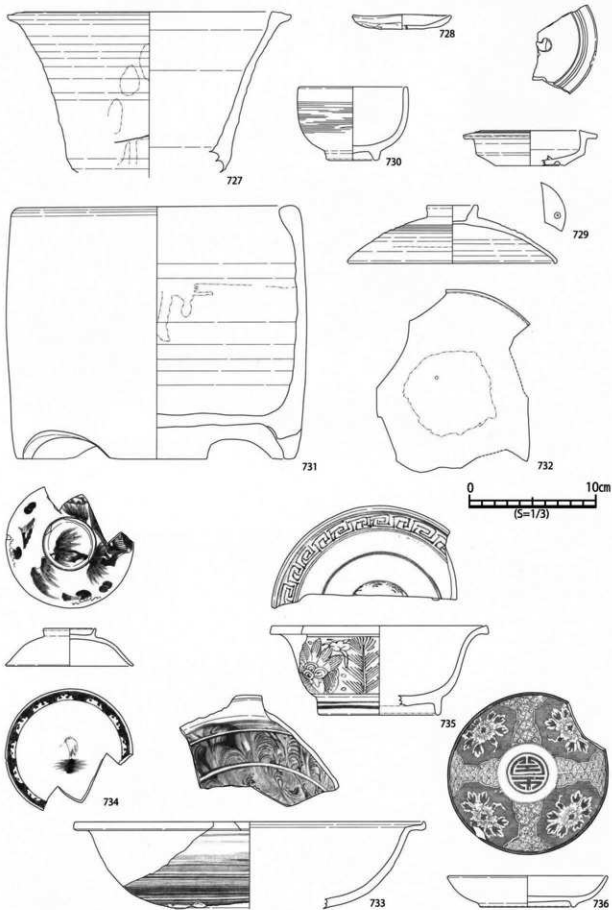
第126图 土器・陶磁器実測図 泥川地区(3)



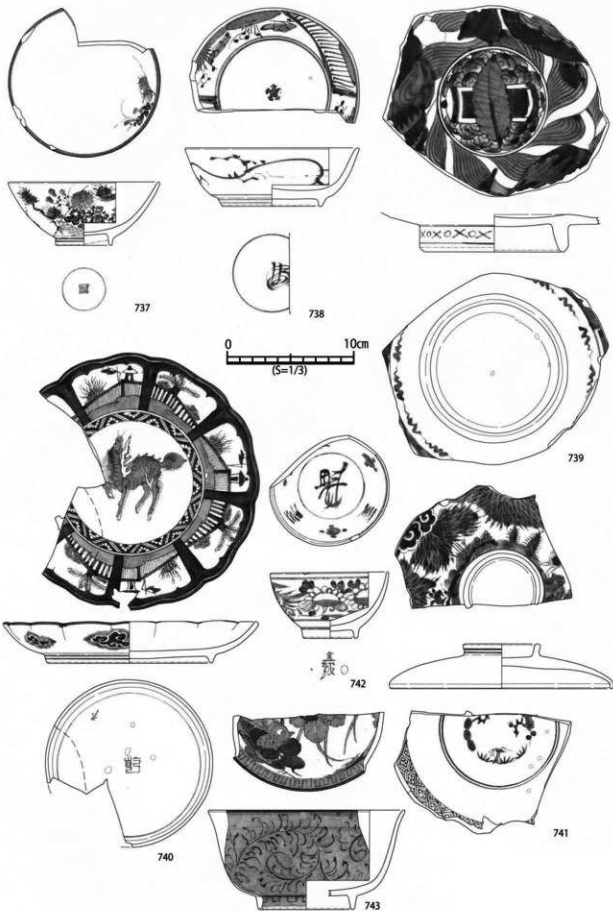
第127图 土器·陶磁器実測図 泥川地区(4)



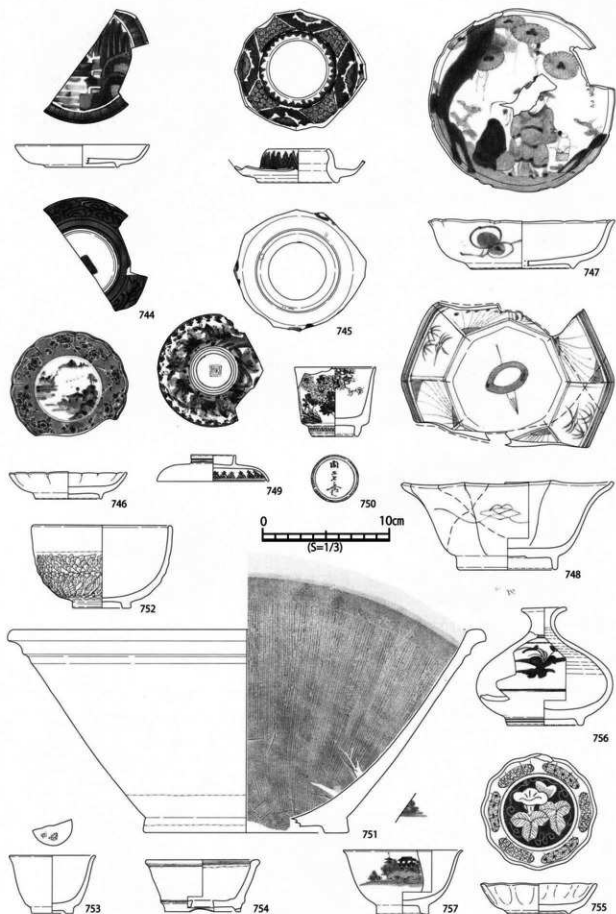
第128图 土器·陶磁器实测图 泥川地区(5)



第129图 土器·陶磁器実測図 泥川地区(6)

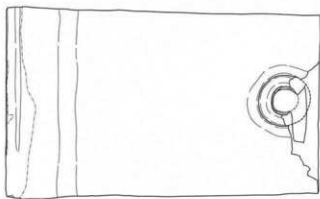


第130图 土器·陶磁器実測図 泥川地区(7)



第131图 土器·陶磁器夹测图 泥川地区(B)

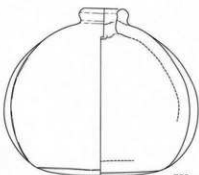
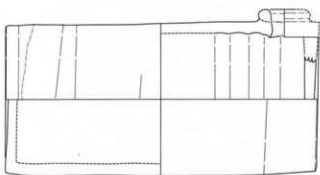
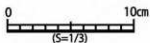




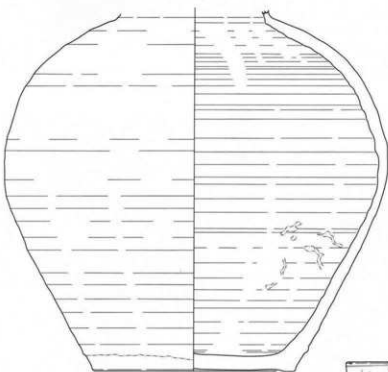
763



764



758



760



762

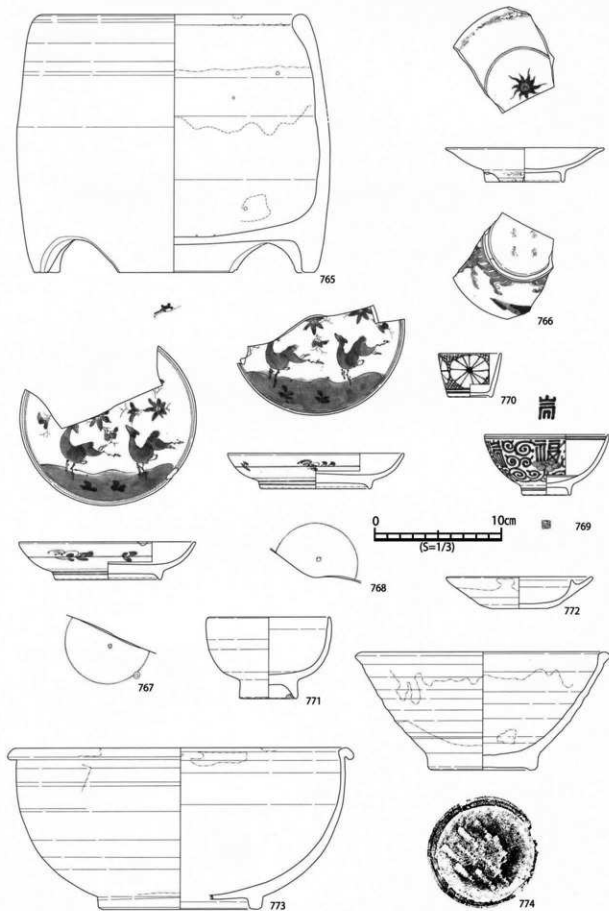


761

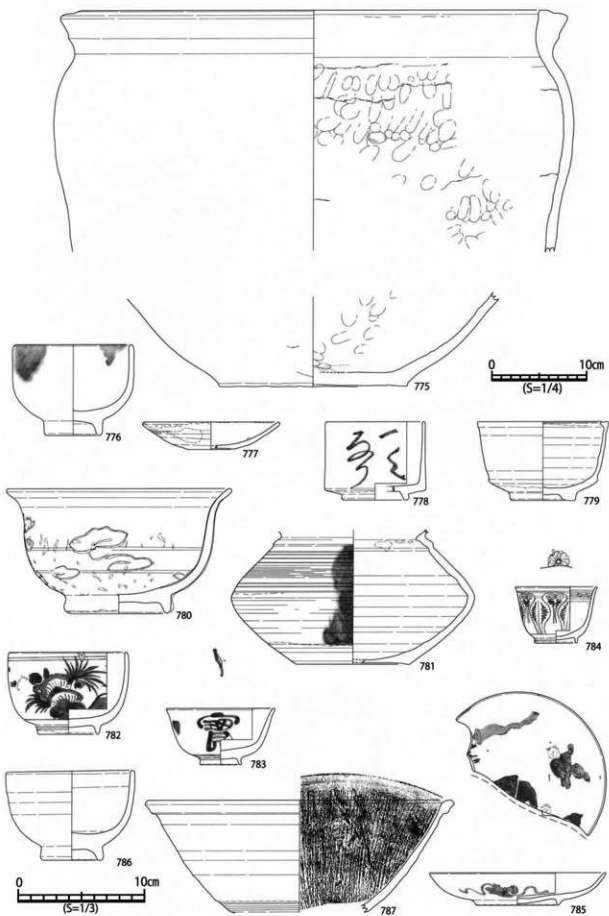
759

759

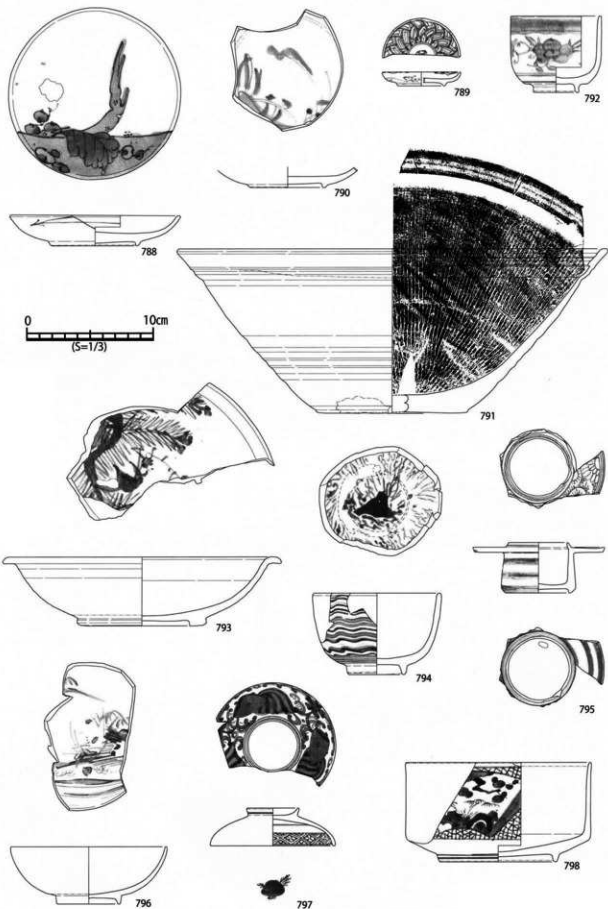
第132图 土器·陶磁器実測图 泥川地区(9)



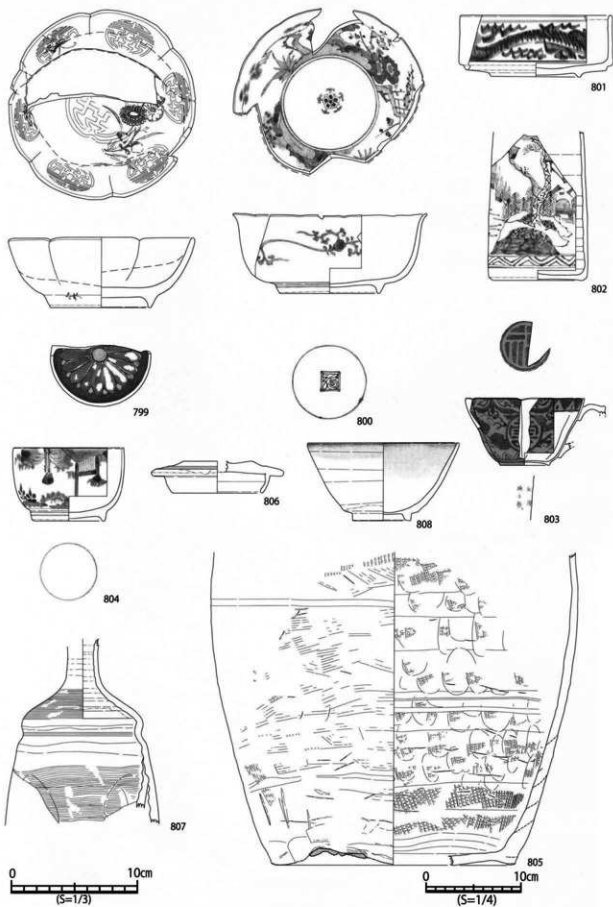
第133图 土器·陶磁器实测图 泥川地区(10)



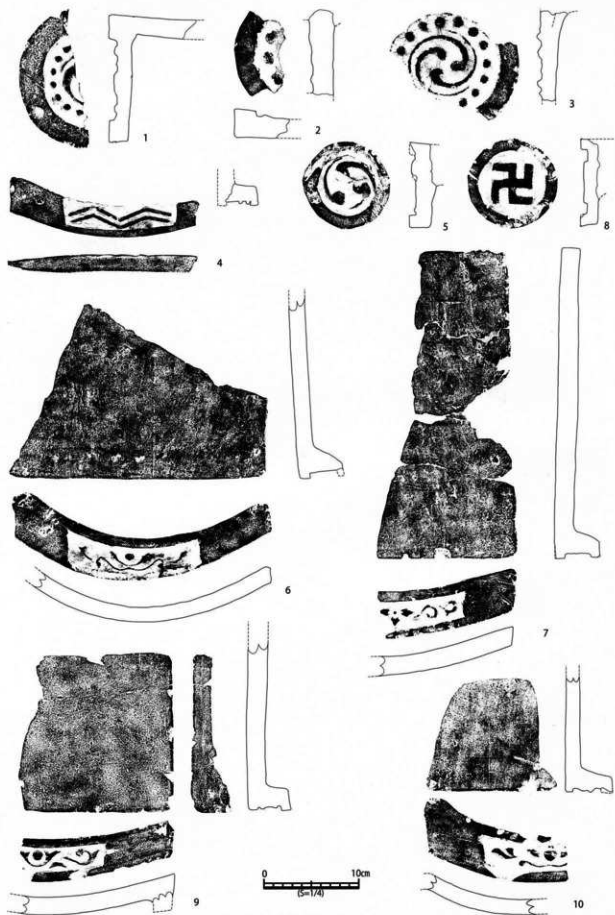
第134图 土器・陶磁器実測図 泥川地区(11)



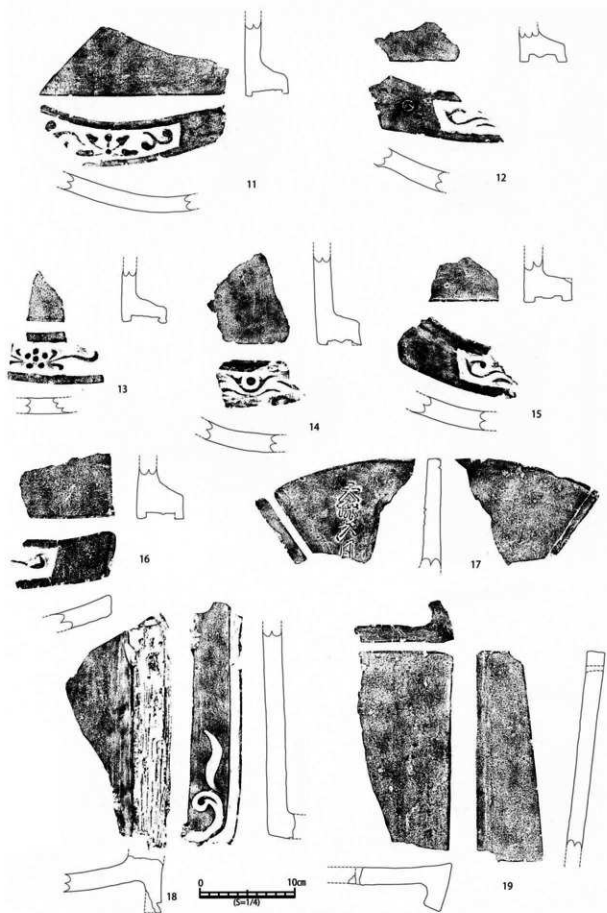
第135图 土器·陶磁器实测图 泥川地区(12)



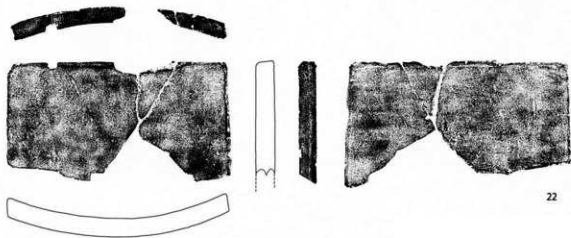
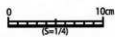
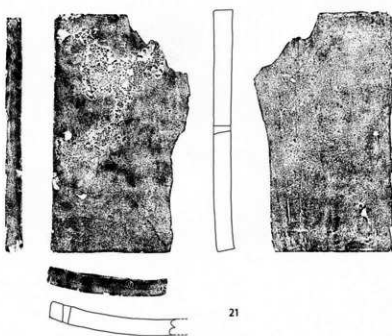
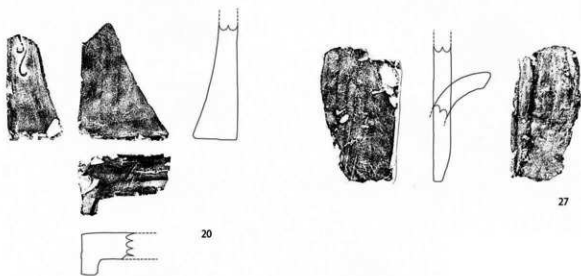
第136图 土器·陶磁器实测图 泥川地区(13)



第 137 图 瓦実測図 (1)

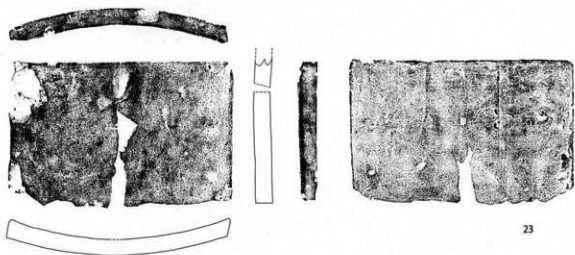


第138图 瓦实测图(2)

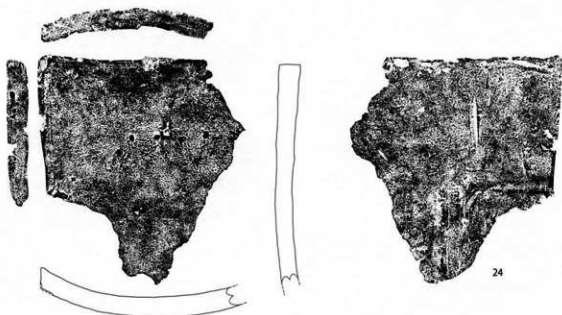


第139图 瓦実測図(3)

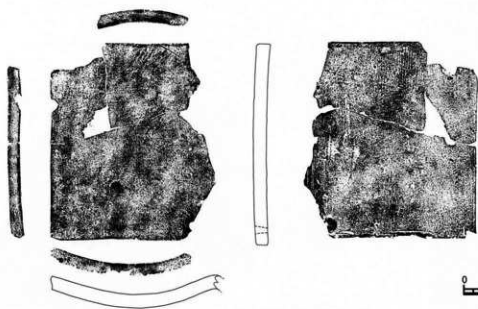




23



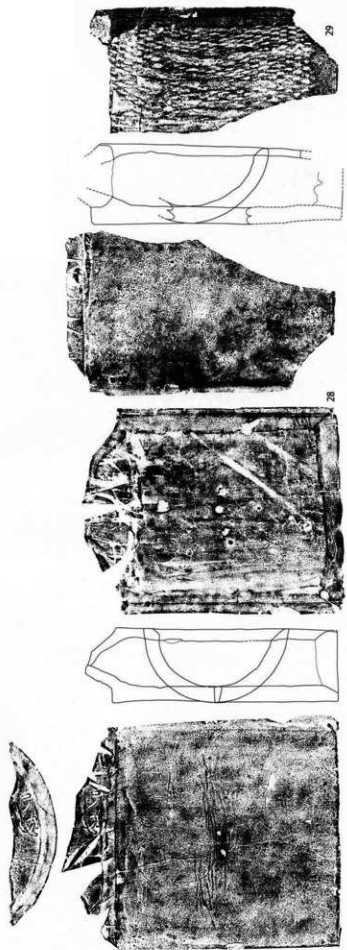
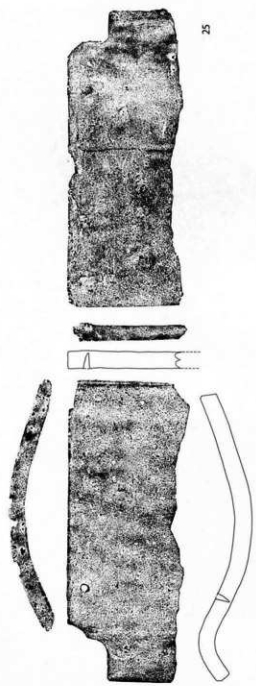
24



26



第140图 瓦実測图(4)



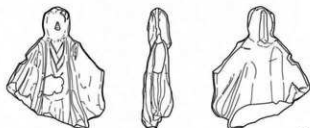
第141图 瓦类图(5)



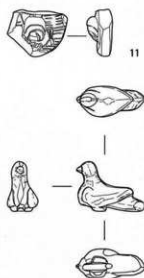
第142图 土人形等実測图(1)



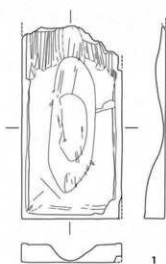
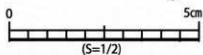
10



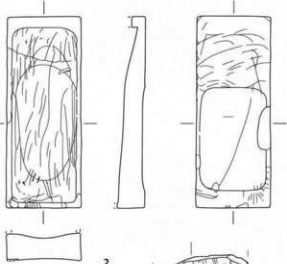
12



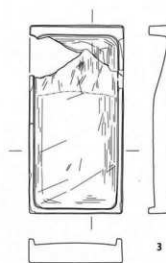
13



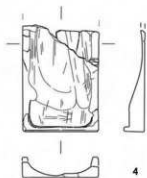
1



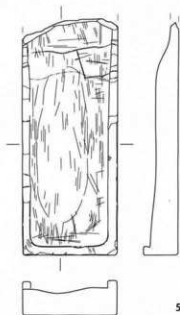
2



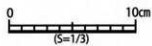
3



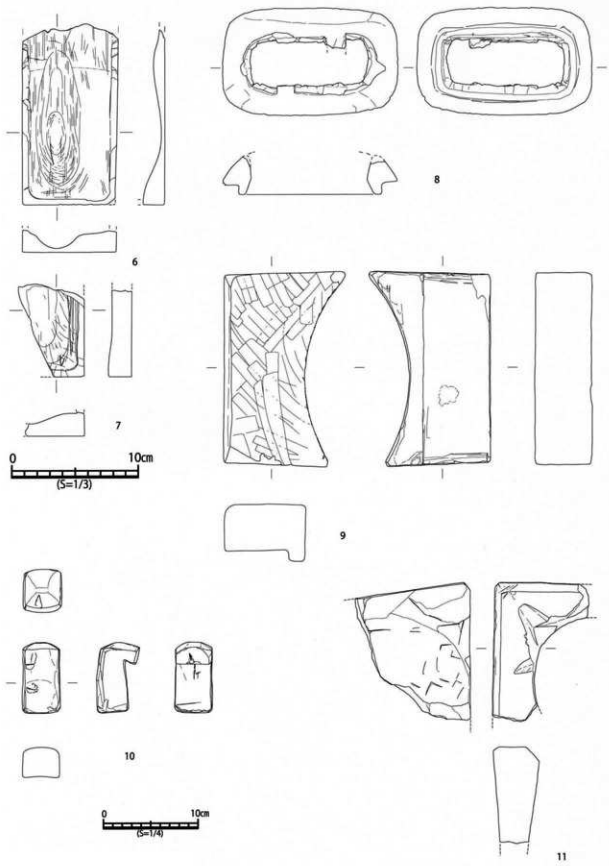
4



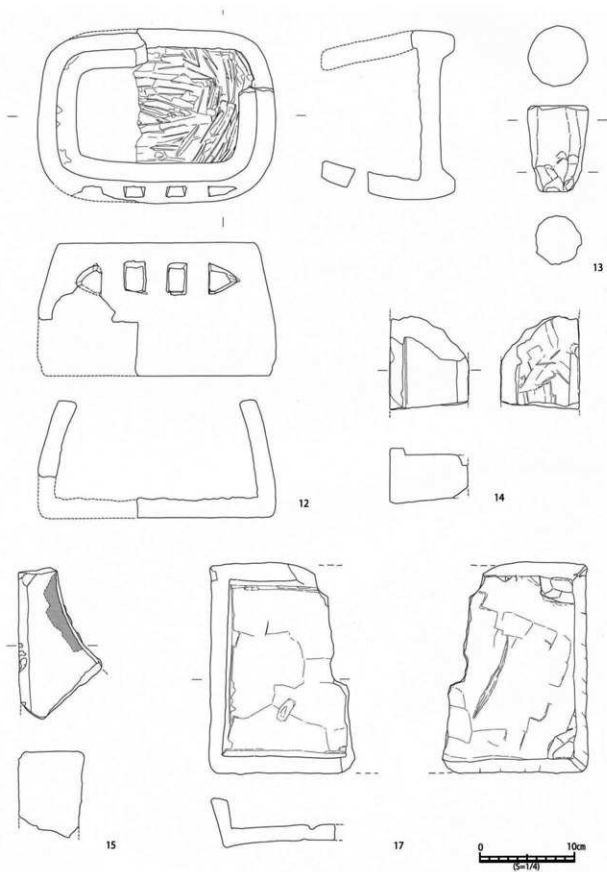
5



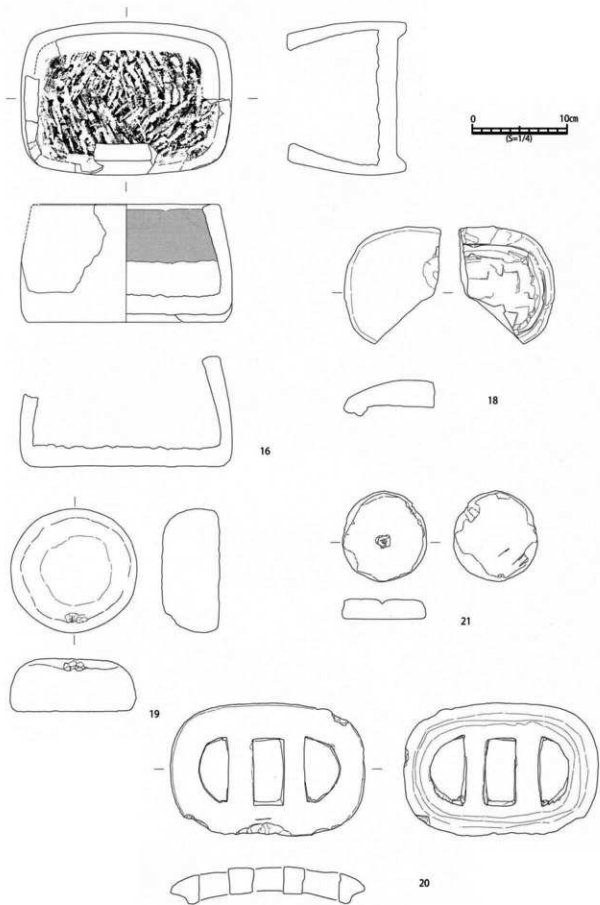
第143图 土人形等実測図(2)・石製品実測図(1)



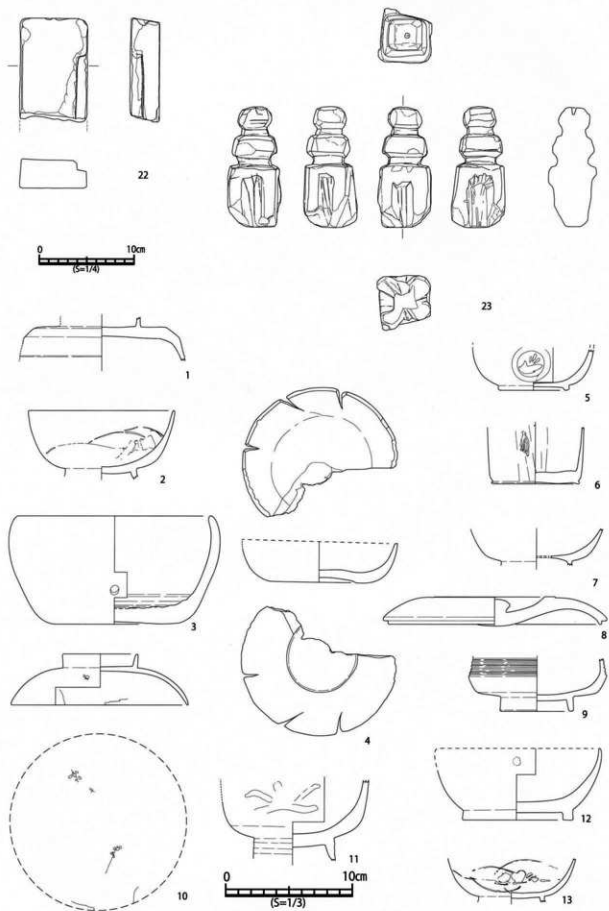
第144図 石製品実測図(2)



第145図 石製品実測図(3)

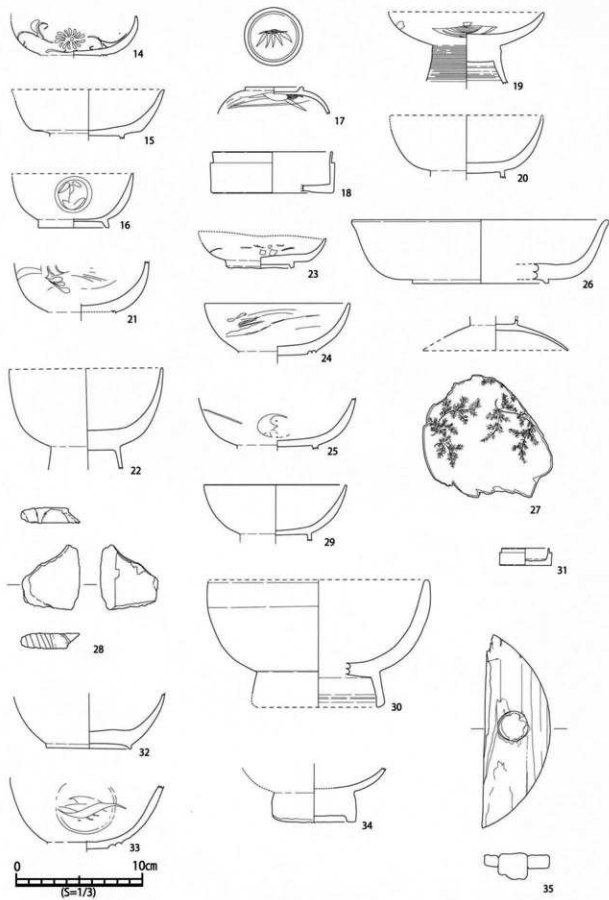


第 146 図 石製品実測図 (4)

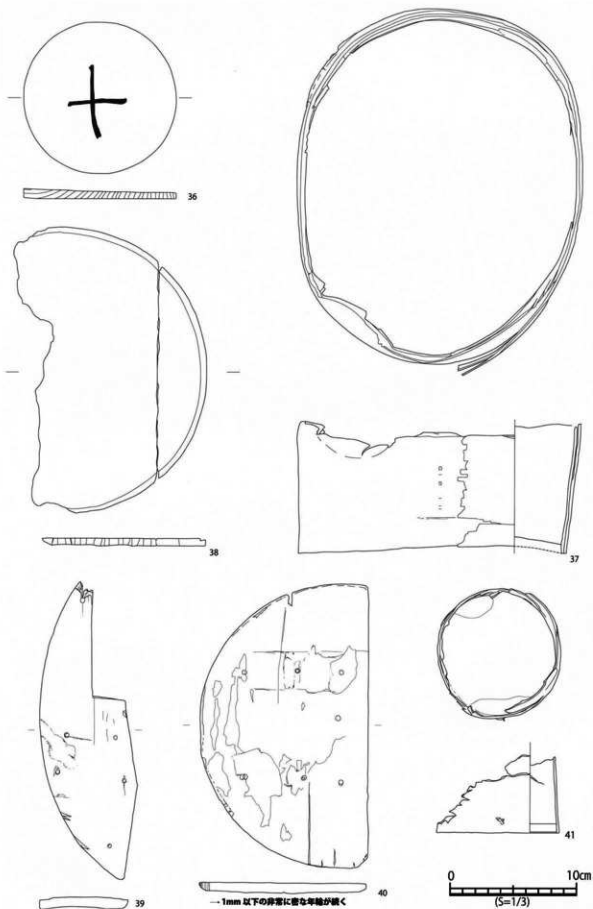


第147図 石製品実測図(5)・木製品実測図(1)

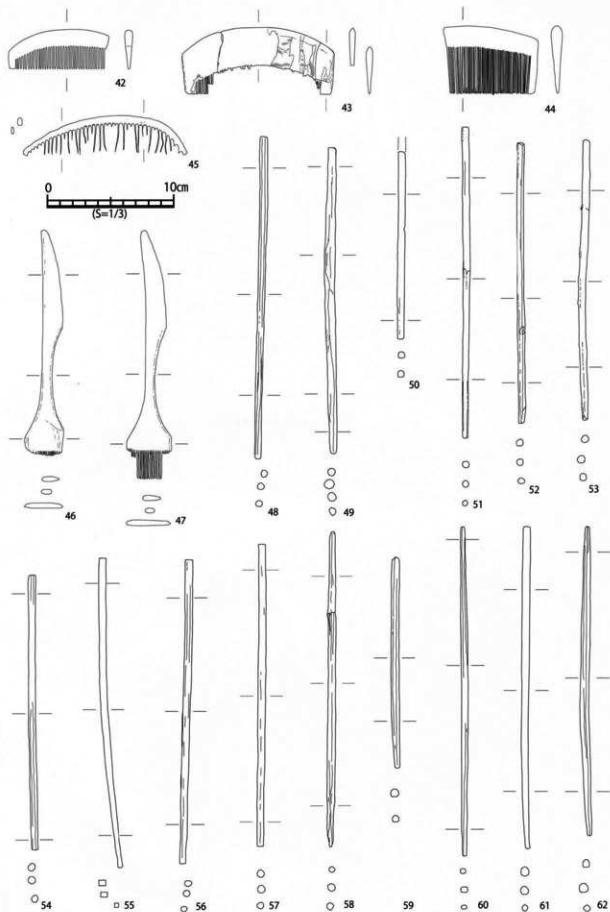




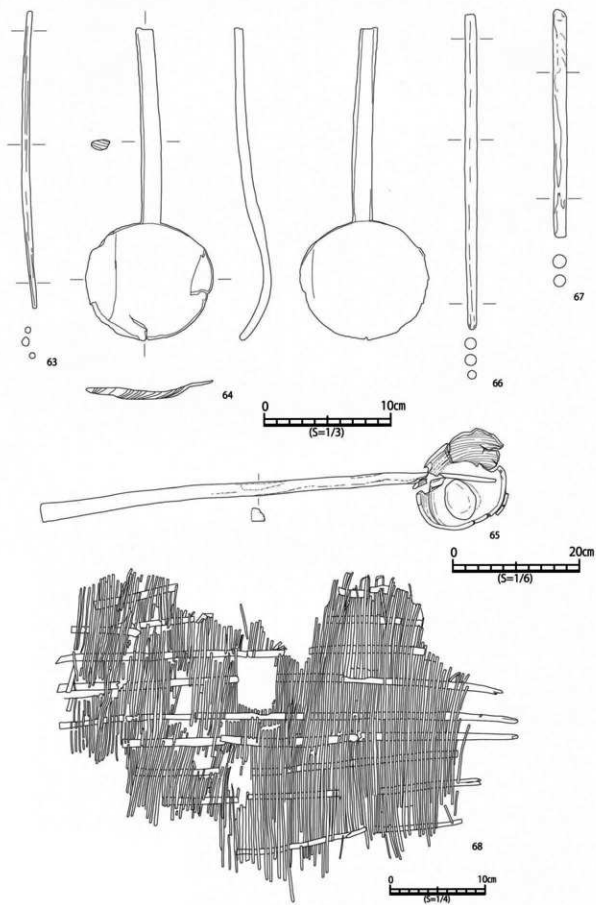
第 148 图 木製品実測図 (2)



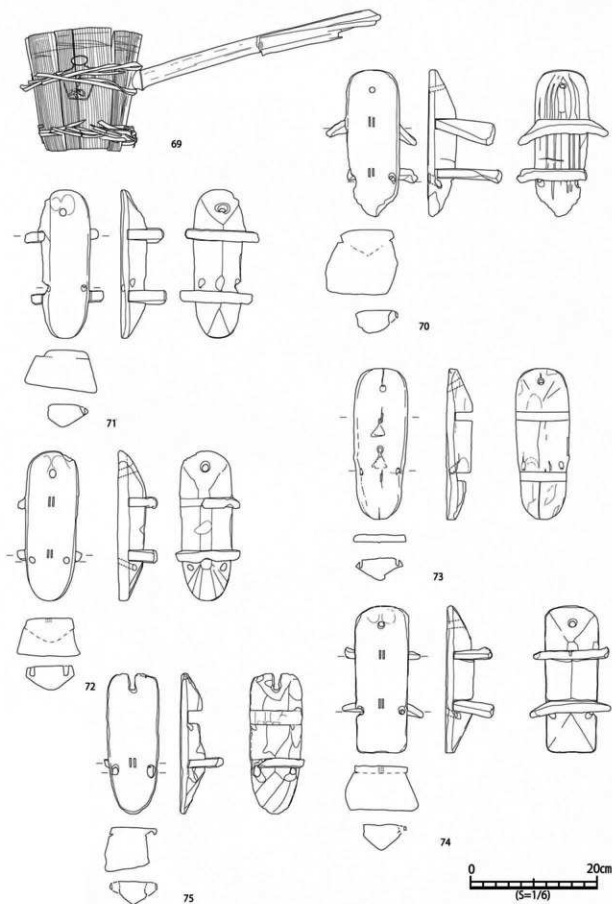
第 149 図 木製品実測図 (3)



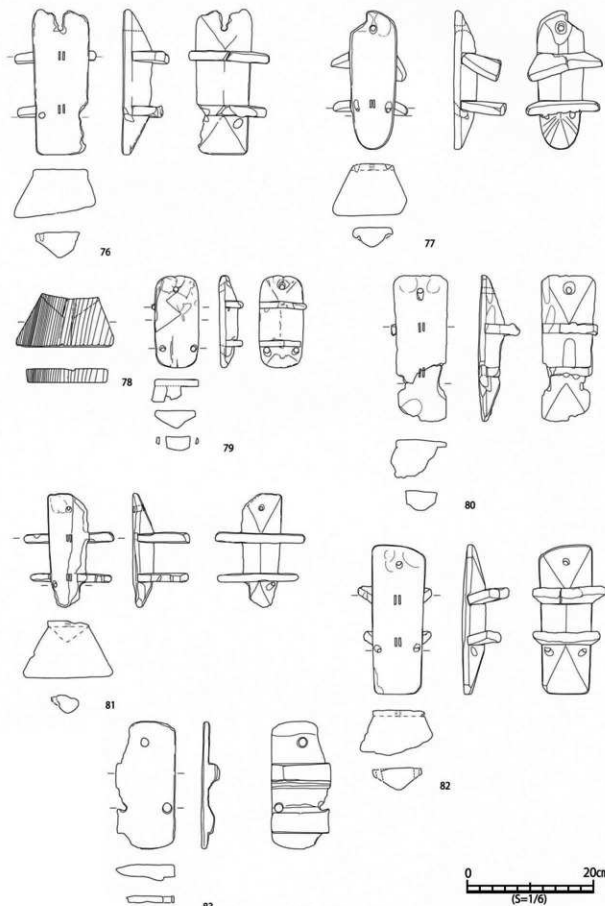
第150图 木製品実測图(4)



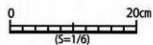
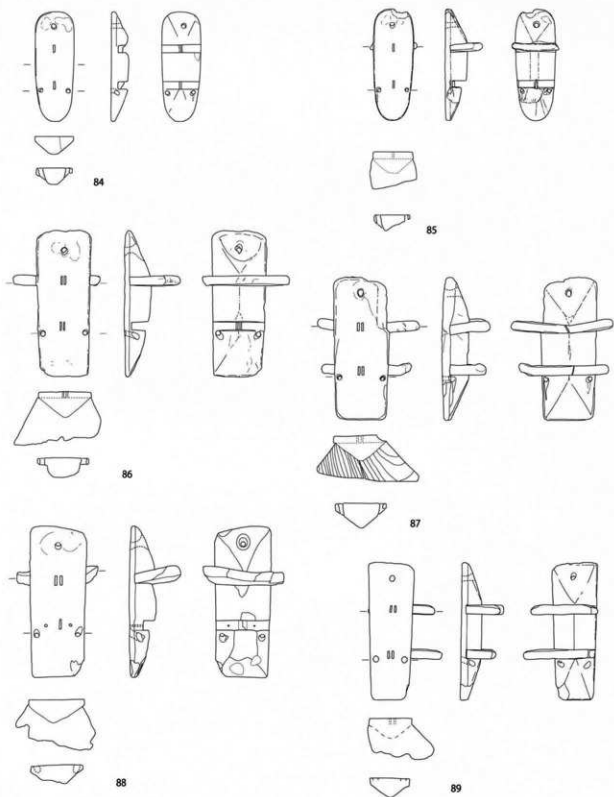
第 151 図 木製品実測図 (5)



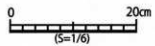
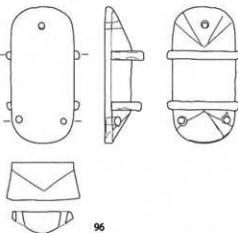
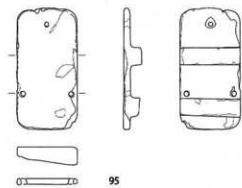
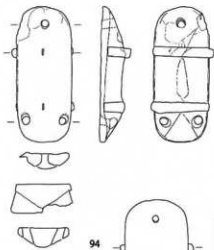
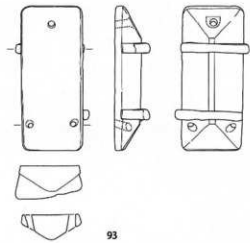
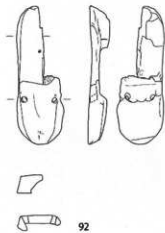
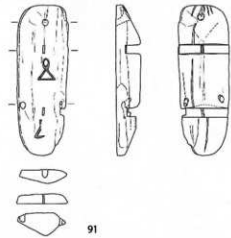
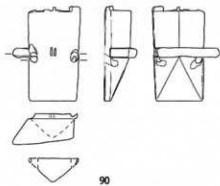
第152図 木製品実測図(6)



第153図 木製品実測図(7)

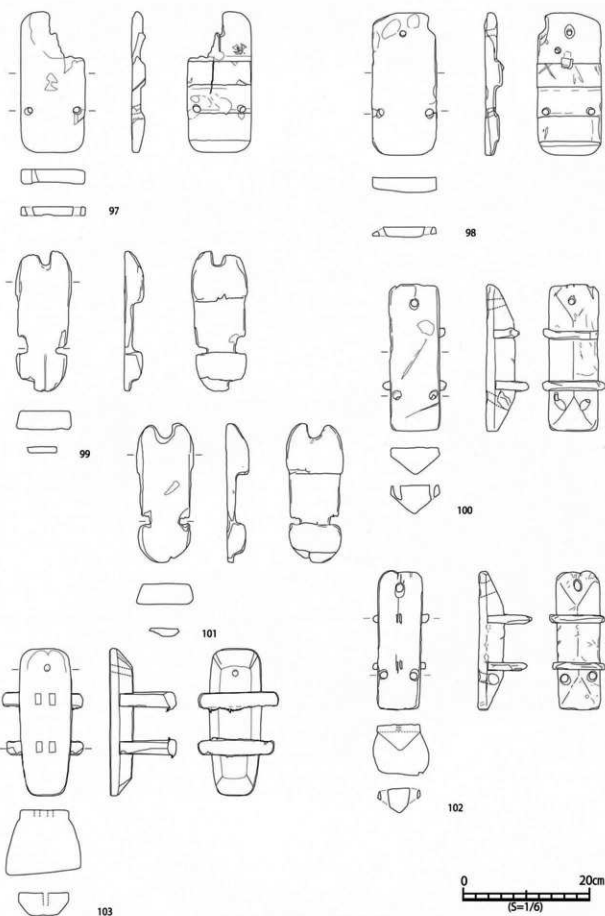


第 154 図 木製品実測図 (8)

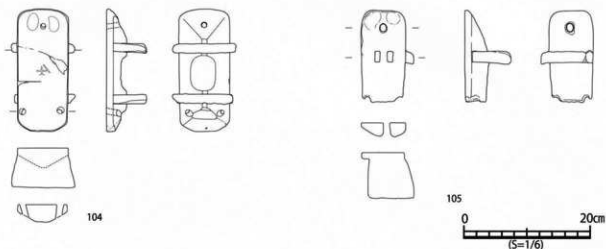


第 155 図 木製品実測図 (9)





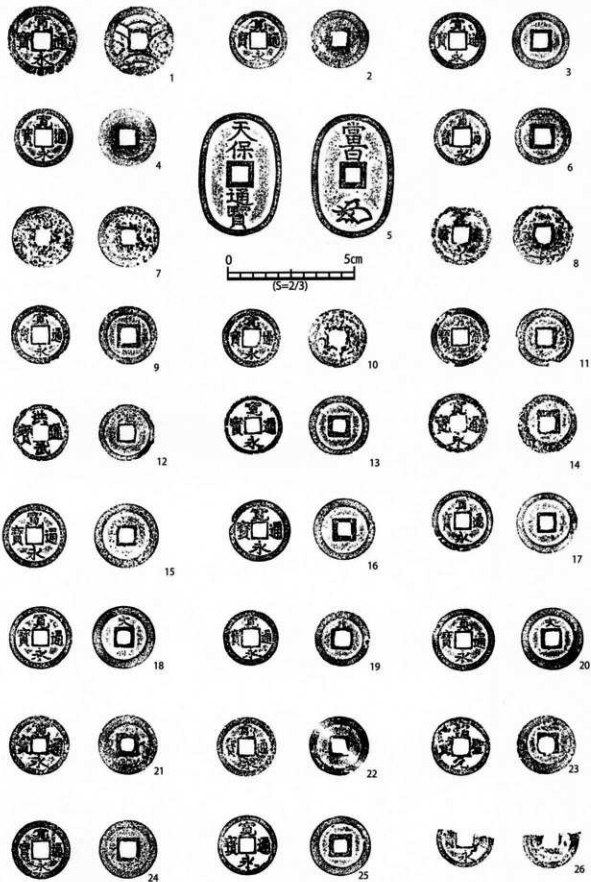
第 156 図 木製品実測図 (10)



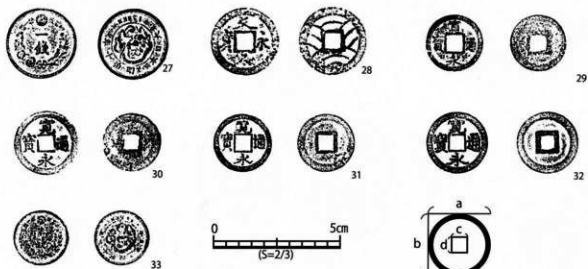
第 157 図 木製品実測図 (11)

第 2 表 木製品樹種同定表

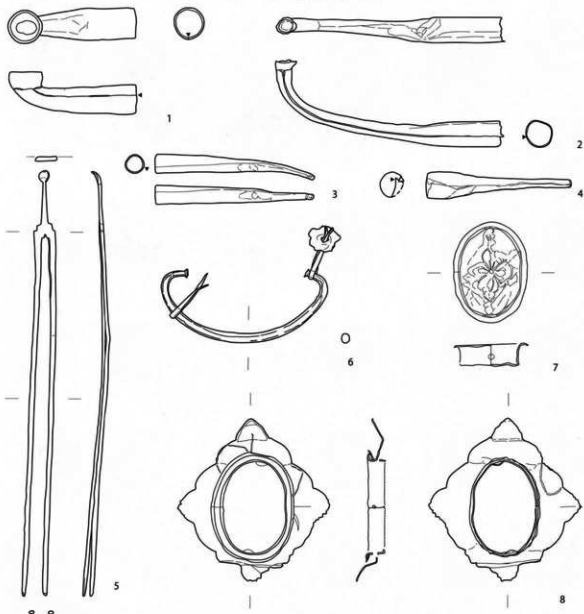
SE2014 井戸枠			N o. 遺物名	樹種	出土遺構	報告 No.
N o.	遺物名	樹種				
1	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	1 足駄 1	本体 アスナロ	SX01 落込み	103
2	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	2 足駄 2	本体 ハリギリ	SK42 下層	74
3	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ		歯 カツラ		
4	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	3 下駄 1	ハリギリ	SK09 下層	83
5	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	4 下駄 2	サワグルミ	SK1013	97
6	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	5 櫛	イスノキ	SK25	42
7	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	6 ヘラ状木製品 1	イスノキ	包含層 1(E-20Gr)	47
8	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	7 ヘラ状木製品 2	イスノキ	SX01	46
9	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	8 柄付き杓 (大)	柄 クリ	SD2006 No.4	65
10	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ		合 ブナ属		
11	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	9 柄付き杓 (小)	ブナ属	SK06	64
12	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	10 編物	縦材 イネ科タケ亜科	SD2005No.7	68
13	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ		横材 イネ科タケ亜科		
14	井戸枠 (結桶式) 板材	杉	11 曲物 1	側板 アスナロ	SK22C	37
15	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ		底板 ヒノキ科		
16	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ	12 曲物 2	側板 アスナロ	SX01 上層	41
17	井戸枠 (結桶式) 板材	アスナロ		底板 ヒノキ科		
13	漆器碗 1	ブナ属	13 漆器碗 1	ブナ属	SK30B アゼ内上層	2
14	漆器碗 2	ブナ属	14 漆器碗 2	ブナ属	SX14 下層 2	19
15	漆器碗 3	トチノキ	15 漆器碗 3	トチノキ	SK61 下層	22
16	漆器碗 4	ハンノキ属ハンノキ亜属	16 漆器碗 4	ハンノキ属ハンノキ亜属	SK1013	30
17	漆器碗 5	ケヤキ	17 漆器碗 5	ケヤキ	SK1013	32
18	漆器蓋	ケヤキ	18 漆器蓋	ケヤキ	SE1001 井戸内	27
19	包丁 1	ブナ属	19 包丁 1	ブナ属	SK2075 C 区	14
20	包丁 2	アスナロ	20 包丁 2	アスナロ	SX01B 下層	15



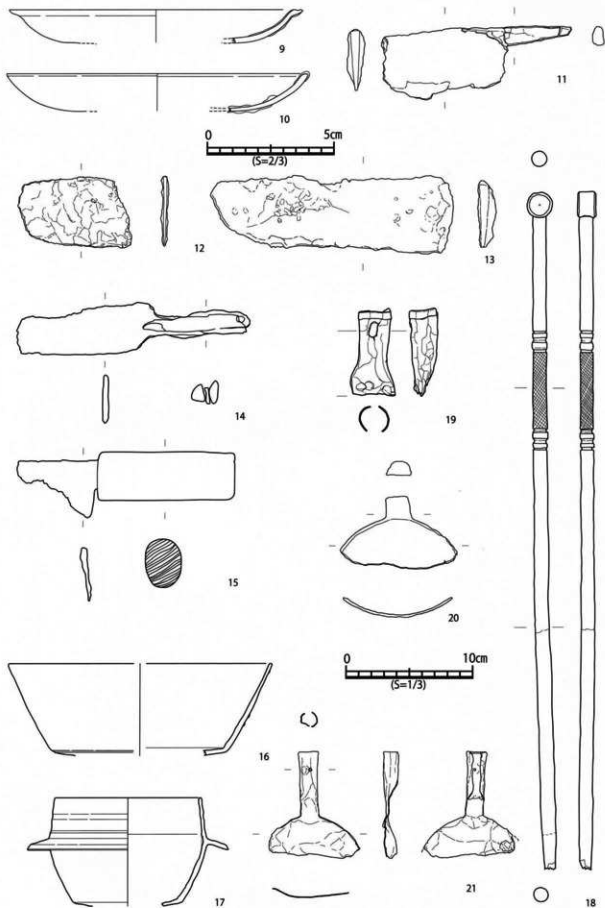
第158圖 魏貨拓本圖(1)



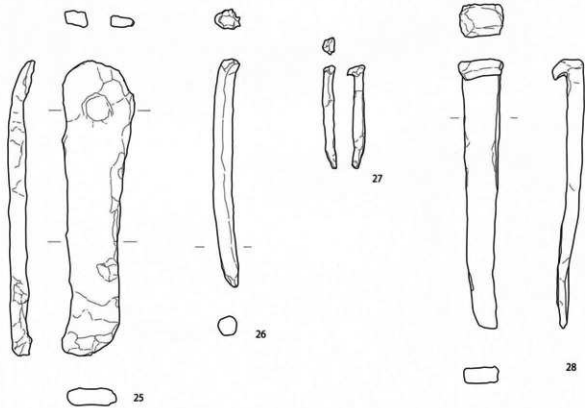
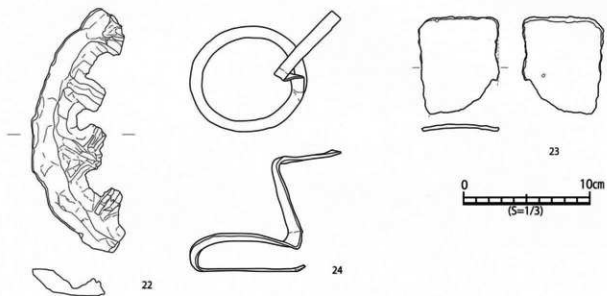
第159圖 錢貨拓本圖(2)



第160圖 金屬製品実測図(1)



第161図 金属製品実測図(2)



第 162 图 金属製品実測図 (3)

图 3 表 土器・陶磁器類観察表

图 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸差 / 裝飾等	土色	発掘 NO.	特記事項
1	SK04	磁器 碗	碗	7.3	4.65	3.1	3.9		透明釉・染付	白	24-83	
2	SK04	磁器 碗	碗	8.6	4.7	3.15	4.1		透明釉・染付	白	25-34	
3	SK04	陶器 罐鉢	罐鉢	35.0	(6.9)				鉄釉	赤	a-31	全面施釉、九州?
4	SK04	陶器 三足鉢	三足鉢	12.7	7.65	11.8	6.3		鉄釉	赤	a-32	越前
5	SK04	陶器 鉢・皿	鉢・皿	(3.2)	7.8				鉄釉	灰白	a-33	黒瀬(底部)
6	SK04	陶器 急須蓋	急須蓋	4.6	3.75	1.2	1.2		灰釉・鉄絵	灰白	a-35	孔×1
7	SK04	陶器 茶碗	茶碗	6.4	5.5	3.5	2.6		浅黄釉	浅黄釉	a-36	底部に孔×1
8	SK04	陶器 茶碗	茶碗	6.6	5.55	4.3	2.5		鉄釉	淡黄	a-37	底部に孔×1
9	SK04	陶器 灯明受皿	灯明受皿	11.0	(1.7)				鉄釉?	浅黄釉	a-38	油障敷
73	10SK10	磁器 蓋	蓋	10.1	2.95		1.8	天井径6.2	透明釉・染付	白	24-84	11と対、19世紀前半~
11	SK10	磁器 碗(小広東)	碗(小広東)	11.1	6.4	6.4	5.15		透明釉・染付	白	24-85	SK22と接合、19世紀前半~
12	SK10	磁器 碗	碗	9.0	5.7	3.9			染付	白	24-86	
13	SK10	磁器 鉢	鉢	11.2	7.1	4.0	5.05		透明釉・染付	黄灰	24-87	陶器染付、九州?
14	SK10	陶器 鉢	鉢	44.0	(7.1)				灰釉・ウツノ釉かけ流し	黄灰	24-87	
15	SK10	陶器 罐鉢	罐鉢	45.5	(7.85)				白磁釉?	灰白	a-42	
16	SK10	磁器 合子	合子	4.4	1.65	4.6	1.5		白磁釉?	灰白	a-44	全面施釉、九州?
17	SK10	陶器 土甌(特小)	土甌(特小)	6.9	3.55	6.2			鉄釉	灰白	a-45	三足
18	SK10	陶器 碗	碗	11.7	3.9	4.0			鉄釉	白	a-46	京・信楽か
19	SK10	陶器 碗	碗	(5.3)	4.8				灰釉・白泥	にぶい・黄	a-47	
20	SK10	陶器 灯明皿	灯明皿	11.2	(2.3)				鉄繪	浅黄釉	a-48	油障敷、再興九州?
21	SK10	土器 土師煎皿	土師煎皿	7.8	1.65		1.3		赤土	浅黄釉	R-12	右側、油障敷
22	SK23	磁器 碗(小広東)	碗(小広東)	9.0	4.6	3.1	3.85		透明釉・染付	白	25-38	九州?
23	SK23	陶器 罐鉢	罐鉢	42.9	(8.15)				鉄釉・黒繪	にぶい・黄	a-50	SK08・SK01と接合、全面施釉、九州?
24	SK23	陶器 葉	葉	32.2	(6.9)				鉄釉・ウツノ釉	灰赤	a-51	肥前
25	SK23	陶器 罐鉢	罐鉢	31.2	(6.75)				黄灰	黄灰	a-52	全面施釉
26	SK23	陶器 壺	壺	14.6	(7.7)				鬼飯塚布	黄灰	a-53	越前か
27	SK23	陶器 碗	碗	11.0	6.65	4.6	5.6		鉄釉・灰釉	浅黄釉	a-54	瀬戸・美濃?
28	SK23	磁器 鉢	鉢	10.0	5.05	3.8	3.9		透明釉・染付	白	a-55	貫入
29	SK23	陶器 罐茶碗	罐茶碗	8.2	5.4	4.3	4.4		鉄釉・鉄繪	灰白	a-56	SK22と接合、衛士瀬戸か福岡
30	SK23	陶器 鉢	鉢	(3.3)	7.2				鉄釉	黄灰	a-57	衛士目張、再興九州
31	SK23	磁器 皿	皿	(3.1)	3.2				鉄釉・ウツノ釉?(文字)	灰白	a-58	油障敷?、衛士に黒瀬母多黒瀬
32	SK30	磁器 皿	皿	19.7	4.25	9.9	2.7		透明釉・染付	白	24-132	肥ノ目輪割老、再興九州?
33	SK30	磁器 碗	碗	10.5	5.2	3.6	3.95		透明釉・染付	灰白	24-136	罐鉢形
34	SK30	磁器 皿	皿	13.2	2.3	7.9	1.4		透明釉・染付	灰白	24-133	「大明文化年表」載、再興九州
35	SK30	磁器 皿	皿	12.9	2.5	7.6	1.6		染付	灰白	24-134	「大明文化年表」載、SK22と接合
36	SK30	磁器 皿	皿	13.2	3.8	8.0			染付	灰白	24-135	「大明文化年表」載
37	SK30	磁器 皿	皿	17.0	4.8	6.0	2.7		染付	灰白	25-42	肥ノ目輪割、渡佐良?
38	SK30	陶器 火入れ?	火入れ?	(4.2)	5.5				鉄釉・黒繪	にぶい・黄	a-139	

単位: cm

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 裝飾等	胎土色	発掘 NO.	特記事項
39	SK30	陶器 鉢	鉢		(4.0)	7.4			灰白	淡黄	a-140	底面彫刻、胎土白濁
40	SK30	陶器 鉢	鉢	19.2	6.45	7.8			灰毛目	黄灰	a-141	蛇 / 目輪刻ぎ、肥土?
41	SK30	陶器 花瓶	花瓶		(10.1)	5.4			鉄輪	にぶい黄褐色	a-144	
75	42	SK30	土器 土師器皿	11.9	2.2	2.0			用指・ヨコナ子	黄褐色	R-4	
43	SK41	磁器 碗	碗	10.4	5.8	4.3	4.85		透明釉・染付	灰白	24-142	九州以外
44	SK41	陶器 灯明皿	灯明皿	11.6	6.5	5.2			縹	白	24-143	再興九谷、19世紀
45	SK41	陶器 魚形	魚形	4.6	2.2	(4.7)			縹・赤帯	白・赤帯	a-166	布目箱(内面)、高台撤か
46	SK41	陶器 鉢	鉢	16.8	(6.05)				灰輪	灰白	a-167	輪花、再興九谷?
47	SK41	陶器 束盥	束盥	6.6	(2.85)				黄輪?	黄褐色	a-168	
48	SK41	陶器 挿鉢	挿鉢		(7.9)	12.4			鉄輪・筋塗	灰白	a-169	再興九谷、19世紀
49	SK42	磁器 清盥	清盥	6.9	3.5	3.1	2.7		透明釉・染付	白	24-143	再興九谷、色紙の文様
50	SK42	磁器 碗	碗	8.5	5.5	3.1	4.75		透明釉・染付	白	24-144	
51	SK42	磁器 碗(小広口)	碗(小広口)	10.2	5.4	3.7	3.95		透明釉・染付	灰白	24-145	
52	SK42	磁器 碗(小広口)	碗(小広口)	9.6	5.5	3.4	3.95		透明釉・染付	灰白	24-146	
76	53	SK42	磁器 香炉	10.0	7.7	7.6			透明釉・染付	白	25-45	
54	SK42	陶器 灯明受皿	灯明受皿	11.6	2.3	1.8			縹輪?	黄褐色	a-170	
55	SK42	陶器 三足鉢	三足鉢	21.55	8.8	13.0			鉄輪	黄灰	a-171	越前、18世紀
56	SK42	陶器 挿鉢	挿鉢	(37.0)	(6.4)				鉄輪	縹	a-172	全部施輪、九州?
57	SK42	陶器 土瓶	土瓶	9.0	13.3	9.4	10.7		灰輪	にぶい赤褐色	a-174	脚3足
58	SK42	陶器 鉢	鉢	(19.2)	(6.9)				青磁輪、鉄輪流し	黄灰	a-175	輪花
59	SK42	陶器 碗	碗	9.8	5.3	4.4			灰輪	にぶい縹	a-176	萩原焼銀?
60	SK42	陶器 碗	碗	9.4	5.4	3.8	4.4		灰輪	灰白	a-177	萩原、19世紀
61	SK42	陶器 碗	碗	(1.85)	3.8				灰輪	灰白	a-178	京焼?、「イセ」唐書(高台内)
62	SK42	陶器 鉢	鉢	(8.0)	11.9				灰輪・白磁ケズリ	にぶい赤褐色	a-173	肥前産
63	SK42	陶器 鉢	鉢	23.4	(4.8)	12.0			鉄輪	黄灰	a-179	越前、19世紀中頃
64	SK42	土器 土師器皿	土師器皿	6.8	1.8	1.2				R-2	R-2	粗い胎土
65	SK03	磁器 碗(筒形)	碗(筒形)	6.8	5.65	3.7	4.6		透明釉・染付	白	24-73	肥前、18世紀末
66	SK03	磁器 碗	碗	10.2	5.15	3.6	3.8		透明釉・染付	白	24-74	瀬戸、19世紀~
67	SK03	磁器 碗	碗	9.9	(6.0)				透明釉・染付	白	24-75	
68	SK03	磁器 碗	碗	8.8	5.7	2.9			透明釉・染付	白	24-76	
69	SK03	磁器 碗	碗	8.4	5.05	3.1	4.2		透明釉・染付	白	24-77	俵掛ぎ、18世紀末~
70	SK03	磁器 皿	皿	12.9	3.6	7.5	2.1		透明釉・染付	灰白	24-78	
71	SK03	磁器 皿	皿	13.3	3.85	7.8			透明釉・染付	白	24-79	飯 / 目凹形高台
72	SK03	磁器 皿	皿	12.2	2.65	7.5			透明釉・染付	灰白	24-80	輪花
73	SK03	磁器 盥	盥	8.6	2.9		1.85	天井挿 3.6	透明釉・染付	白	24-81	
74	SK03	磁器 盥	盥	5.05	3.3		1.85	天井挿 4.2	透明釉・染付	白	24-82	
75	SK03	磁器 碗	碗	10.6	7.4	4.8	5.4		染付	灰白	24-115	陶師染付、九州?
76	SK03	磁器 碗	碗	9.8	5.0	3.4	4.0		透明釉・染付	白	25-33	瀬戸・幕末
77	SK03	陶器 挿鉢	挿鉢	(4.4)	8.9				縹輪	赤褐色	a-7	肥前産?



図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 裝飾等	胎土色	來源 NO.	特記事項
76	SK03	陶器	擂鉢	34.8	12.9	16			鉄釉	灰	a-8	履箱?
79	SK03	陶器	碗		(5.9)	4.8			灰ひび割	灰白	a-9	煤仔着 (全面)
80	SK03	陶器	鉢形	2.9	11.8	5.45	11.2		灰釉+黒鉄釉	比赤・黄緑	a-10	
81	SK03	陶器	灯明受皿	10.7	1.5	3.7	1.05		灰釉	白	a-11	信楽
82	SK03	陶器	灯明受皿	10.6	2.1	4.0	1.85		灰釉	灰白	a-12	信楽九谷
83	SK03	陶器	蓋?		(7.7)	8.1			鉄釉	浅黄緑	a-13	胎土は単陶九谷か
84	SK03	陶器	擂鉢		(5.9)	16.3			鉄釉	褐灰	a-14	肥前宮・砂目・鉄仔露体
85	SK03	陶器	茶碗	7.1	6.2	5.5	2.7		灰釉 (ごく一部に付着)	浅黄緑	a-15	
86	SK03	土器	灯明受皿	11.9	2.0	4.4			赤漆塗 (内面)	浅黄緑	a-16	素焼き
87	SK03	陶器	鉢	16.4	(3.9)				赤漆塗	浅黄緑	a-18	
88	SK03	陶器	急須	7.35	(4.9)				灰釉・鉄釉	褐灰	a-19	
89	SK03	陶器	鉢	6.1	6.9	7.5			鉄釉・鉄釉	褐灰	a-21	輪花
90	SK03	陶器	鉢	21.4	11	8.4			刷毛目	褐灰	a-22	九州?
91	SK03	陶器	急須?	2.8	4.1	3.8			灰釉	灰黄褐	a-30	型押し
92	SK03	陶器	壺	16.0	(10.9)				鉄釉	褐灰	a-23	
93	SK03	陶器	甕	21.9	(12.45)				鉄釉・白釉・緑釉	赤灰	a-24	
94	SK03	陶器	甕	29	(7.4)				鉄釉	赤灰	a-25	肥前
95	SK03	陶器	甕	26.7	(2.1)				鉄釉	赤赤	a-26	肥前
96	SK03	陶器	甕	8.6	6.3	3.7	5.3		鉄釉	赤赤	a-27	京・信楽か、19世紀
97	SK03	陶器	碗		(3.3)	4.2			灰釉	灰白	a-28	京陸奥産
98	SK03	陶器	碗	10.8	(4.95)				鉄釉	灰白	a-29	萩焼、19世紀
99	SK03	土器	土師器皿	7.8	1.3	4.9	0.8		灰釉	浅黄緑	a-14	
100	SK03	土器	土師器皿	7.9	1.7	1.05				浅黄緑	a-15	灯明、油燭燻
101	SK22	磁器	碗	8.6	5.6	3.4	4.4		透明釉・染付	白	24-88	
102	SK22	磁器	碗	8.75	5.65	3.3	4.45		透明釉・染付	灰白	24-89	
103	SK22	磁器	碗	8.9	5.45	3.2	4.45		透明釉・染付	灰白	24-90	
104	SK22	磁器	碗	8.4	5.05	3.2	4.4		透明釉・染付	白	24-91	SK10・SK23・SK01と集合
105	SK22	磁器	碗	8.8	5.6	3.5	4.5		透明釉・染付	白	24-92	
106	SK22	磁器	碗	7.7	6.0	4.4	5.05		透明釉・染付	白	24-93	
107	SK22	磁器	碗	11.6	5.85	4.2	4.25		透明釉・染付	白	24-94	
108	SK22	磁器	碗 (広東)	11.8	6.4	5.9	4.95		透明釉・染付	灰白	24-95	
109	SK22	磁器	蓋物	13.5	6.5	8.9			透明釉・染付	灰白	24-96	肥前、18世紀~
110	SK22	磁器	碗 (筒形)	8.4	(5.9)				透明釉・染付	灰白	24-97	
111	SK22	磁器	碗 (筒形)	7.8	6.65	3.5	5.35		透明釉・染付	灰白	24-97	
112	SK22	磁器	碗	8.6	4.2	3.0	3.0		透明釉・色染	白	24-98	目出駒、肥前、18世紀末
113	SK22	磁器	皿	19.2	3.1	12.9			透明釉・染付	白	24-100	(ハ)煎
114	SK22	磁器	皿	13.0	4.3	7.3	2.9		透明釉・染付	白	24-101	
115	SK22	磁器	皿	13.7	3.7	7.4	2.4		透明釉・染付	灰白	24-102	
116	SK22	磁器	皿	13.4	3.8	8.4	2.9		透明釉・染付	白	24-103	肥前凹形高台

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸葉・裝飾等	衛生色	発掘 NO.	特記事項
80	117 SK22	磁器 碗	碗	8.6	5.75	3.3	5.0		透明釉・包染	白	a-25-35	
	118 SK22	磁器 鉢	鉢	16.2	7.9	7.8	5.9		透明釉・包付	白	24-104	輪花・虎斑焼、再興九谷(群形分)
	119 SK22	磁器 蓋	蓋	10.1	2.5		1.25	天井径 5.6	透明釉・包付	白	24-105	
	120 SK22	磁器 蓋	蓋	10.1	2.7		1.5	天井径 5.7	透明釉・包付	白	24-106	
	121 SK22	磁器 碗(広東)	碗	11.1	6.35	6.4			透明釉・包付	白	25-36	
	122 SK22	磁器 向付	向付		1.8		0.9	長 10.75・幅 5.55	透明釉・包付	白	25-37	
81	123 SK22	陶器 甕	甕	41.0	(8.8)				鉄釉	灰赤	a-62	肥前、18～19世紀
	124 SK22	陶器 楕鉢	楕鉢	18.2	(5.8)	11.4			鉄釉	赤褐	a-63	肥前大、肥前直、17世紀後半
	125 SK22	陶器 鉢	鉢	18.2	5.6	7.6			刷毛目	赤	a-65	肥ノ目輪割草
	126 SK22	陶器 蓋	蓋	14.0	(10.9)					黄緑	a-67	粘土層積み上層煎卵殻
	127 SK22	陶器 鉢	鉢	4.97・口径 1.45	3.69			幅 4.46・口径 1.45		灰白	a-68	重量 60.2g
	128 SK22	陶器 鉢	鉢	4.97・口径 1.56	3.32			幅 4.97・口径 1.56		灰白	a-69	重量 43.6g
	129 SK22	陶器 鉢	鉢	4.388・口径 1.65	3.46			幅 4.388・口径 1.65		灰白	a-70	重量 50.9g
	130 SK22	陶器 鉢	鉢		4.13			幅 3.92・口径 1.56		灰白	a-71	重量 40.3g
	131 SK22	陶器 甕	甕	23.6	(15.7)			頸径 21.7・最大胴径 25.5	灰釉流し	黄灰	a-72	
	132 SK22	陶器 甕	甕	21.9	(14.0)			頸径 20.4・最大胴径 22.4	ウノノ輪・鉄釉	灰	a-73	肥前
	133 SK22	陶器 土甕	土甕	9.3	(12.6)			最大胴径 22.3	鉄釉	淡黄	a-74	黒帯、包付蓋
	134 SK22	陶器 徳利	徳利	(25.4)	(8.2)			頸径 2.6・最大胴径 10.3	灰釉・鉄釉流し	黄灰	a-75	保付蓋・回転ヘラケズリ、再興九谷
	135 SK22	陶器 鉢	鉢	21.7	(5.1)				灰釉	黄灰	a-76	
	136 SK22	陶器 蓋	蓋	17.5	3.3	1.8		天井径 5.4	灰釉	黄灰	a-77	
82	137 SK22	陶器 陶片焼	陶片焼	9.4	5.5	3.4	4.85		灰白	灰白	a-78	瀬戸
	138 SK22	陶器 碗	碗	8.8	5.2	3.0	4.35		灰白・鉄粒	褐灰	a-79	
	139 SK22	陶器 骨付茶碗	骨付茶碗	10.95	(6.1)				鉄釉	褐灰	a-80	瀬戸美濃か再興九谷
	140 SK22	磁器 碗	碗	8.0	(4.7)				青磁釉	灰白	a-81	
	141 SK22	陶器 唐錦茶碗	唐錦茶碗	9.2	(4.35)				灰釉・鉄釉	灰白	a-82	瀬戸か? 19世紀
	142 SK22	陶器 碗	碗	9.3	(4.3)				灰白・鉄釉	灰白	a-83	再興九谷
	143 SK22	陶器 陶片焼	陶片焼	9.6	5.25				灰白	白	a-84	瀬戸か
	144 SK22	磁器 酒盃	酒盃	6.7	3.5	2.6			透明釉・鉄粒?	白	a-85	
	145 SK22	陶器 香炉	香炉	4.8	3.8	4.7			鉄釉・ウツノ輪	灰白	a-86	脚付(虫?) 細工
	146 SK22	陶器 碗	碗	11.4	7.65	4.4	6.0		灰釉・鉄粒	白	a-90	SK30と接合
	147 SK22	陶器 甕	甕	(25.3)	14.1			最大胴径 30.8	鉄釉・白釉・緑釉	灰赤	a-87	SK10と接合、肥前
	148 SK22	陶器 甕	甕	(29.0)	14.8			頸径 14.5・最大胴径 34.4	鉄釉・白釉・緑釉	赤褐	a-88	肥前
	149 SK22	陶器 骨付茶碗	骨付茶碗	10.8	7.7	5.0			鉄釉・灰白釉?	灰白	a-91	保付蓋=被火取品?、瀬戸
	150 SK22	陶器 碗	碗	10.9	7.1	4.3	5.5		透明釉・包付	灰白	a-92	陶師印、九州?
83	151 SK22	陶器 土甕蓋	土甕蓋		(2.9)				灰釉	にぶい、青	a-93	陶師印
	152 SK22	陶器 急須蓋	急須蓋	5.5	(2.3)				灰釉	褐灰	a-94	つまみ穴
	153 SK22	磁器 蓋	蓋	6.5	(1.1)				白磁釉	灰白	a-95	つまみ風?
	154 SK22	磁器 灯明受皿	灯明受皿	9.0	1.75	1.5			灰釉	灰白	a-96	
	155 SK22	陶器 土甕蓋	土甕蓋	9.3	1.85	5.0			灰釉	白	a-97	

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸差 / 裝飾等	胎土色	実測 NO.	特記事項
156	SK22	陶器	土瓶蓋	6.8	1.6	5.0			灰楢	灰白	a-98	
157	SK22	磁器	水盥		3.5			横 5.9・縦(4.3)	白磁釉	灰白	a-99	附り出し(梅花)?
83	158	SK22	陶器	灯罩受皿		2.7	4.1		緑釉?	浅黄楢	a-100	
159	SK22	陶器	土瓶(特小)	7.0	3.3	3.0			灰楢	浅黄楢	a-101	3尾・ト子シノ楢
160	SK22	陶器	土瓶(特小)	8.5	4.1	3.2	3.3		灰楢	灰白	a-102	ト子シノ楢・楳仔着
161	SK22	陶器	鉢	31.8	13.0	10.6	11.9		灰楢	灰白	a-89	目楳・削り高台・楳楳
162	SK22	陶器	行平楳蓋	15.6	3.1				飛び楳・ウノ楳線掛付	褐灰	a-103	
163	SK22	陶器	楳	32.1	(13.5)				灰楢・楳楳掛	にふい楳	a-104	御前花楳6条・菊花16弁型押し品貼り付
164	SK22	陶器	火入れ	10.5	(7.0)				灰楢	赤灰	a-107	肥前
165	SK22	陶器	碗	8.8	4.75	3.2	4.0		灰楢	灰白	a-108	肥前、19世紀
166	SK22	陶器	碗	12.2	4.15	4.2	2.6		灰白	灰白	a-109	肥前、19世紀
167	SK22	陶器	碗	9.2	5.85	4.6	4.5		灰楢	灰白	a-110	肥前、19世紀
84	168	SK22	陶器	楳仔茶楳	11.5	8.5	5.0	7.25	灰楢・長石楢?	灰白	a-111	瀬戸・美濃か?
169	SK22	陶器	碗	10.7	5.9	4.2	5.1		灰楢	浅黄楢	a-112	萩焼?
170	SK22	陶器	碗	11.6	6.2	4.6			灰楢	浅黄楢	a-113	
171	SK22	陶器	碗	8.2	5.4	3.3	4.9	頸径 7.3	灰白	灰白	a-114	京・信楽、19世紀中頃
172	SK22	陶器	碗	8.9	5.1	3.2	4.15		灰楢・緑楢	灰白	a-115	萩焼、19世紀
173	SK22	瓦器	鉢	26.2	(12.4)				押し型彫刻文	暗灰	e-6	ヘタミガキ、ハケ目
174	SK22	陶器	楳鉢		(8.8)	17.5			灰楢	明赤釉	a-64	全面施釉、肥前IV
175	SK22	陶器	酒鉢	36.6	(11.6)				灰楢	青	a-66	SK37と楳合、全面施釉
176	SK22	陶器	鉢	21.1	10.2	6.9			灰白	灰白	a-105	萩焼
85	177	SK22	陶器	土瓶	8.2	10.7	8.4	7.4	灰楢	灰白	a-106	楳仔着、3尾、朝印文字「口」口火丸貼、?
178	SK22	土器	土瓶蓋皿	4.5	0.9	2.45	0.45		浅黄楢	e-28	小、中央に孔、SK22の漆同種あり	
179	SK22	土器	土瓶蓋皿	7.8	1.8	3.05	1.0		楳仔	灰白	e-29	中、中央に孔、SK22の漆同種あり
180	SK22	土器	土瓶蓋皿	9.6	1.65	4.5	1.3		楳仔	灰白	e-30	大、中央に孔、SK22の漆同種あり
181	SK22	土器	子守瓶り?		14.1			最大幅 8.75		浅黄楢	e-8	楳仔着、布目楳、型合わせ楳、重量 71.9g
182	SK22	瓦器	便伊	23.4	19.5	17.5	17.0	最大幅 24.6	表面黒塗	浅黄楢	e-26	3尾?・内面楳仔着
183	SK22	土器	行火	11.5	12.95	19.1	21.85	最大幅 21.9	ヘラケズリ	浅黄楢	e-27	透かし4箇所か?
184	SD02	磁器	鉢	14.6	4.7	8.6	3.4		透明釉・染付・内面一部青磁釉	白	24-38	備後・肥前、19世紀~
86	185	SD02	磁器	鉢	32.2	8.0	12.0	6.6	染付	白	24-39	肥前、19世紀
186	SD02	磁器	蓋	9.6	2.9			1.5天井径 3.9	染付	白	24-40	肥前、19世紀
187	SD02	磁器	蓋	9.7	2.9			1.55天井径 3.9	染付	白	24-41	肥前、19世紀
188	SD02	磁器	碗	10.6	5.5	3.7	4.1		透明釉・色絵	白	24-42	内面九谷
189	SD02	磁器	皿	10.0	2.8	6.2	1.6		透明釉・色絵	白	24-43	備後、内面九谷?
190	SD02	磁器	皿	10.1	2.5	5.0	1.75		透明釉・色絵	白	24-44	
191	SD02	陶器	鉢	37.7	17.9	18.8	16.8		灰楢・楳楳掛しかけ	黄灰	a-217	再興九谷(若影分)、19世紀
87	192	SD02	瓦器	信筒	16.95	3.9	10.5	3.4	把手高 7.9・把手高 5.1	灰楢	e-20	ヘタミガキ
193	SD02	瓦器	三足楳 (火鉢)	34.1	17.9			身部高 13.4	灰楢	灰白	e-32	ヘタミガキ、獅子頭の彫刻、型物、漆楳楳

図	No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 装飾等	胎土色	発掘 NO.	特記事項
	194	SD03	磁器 碗 (筒形)	8.2	6.95	3.7	5.7			透明釉・染付	白	24-45	肥前? 18 世紀末～19 世紀前半?
	195	SD03	磁器 徳利		(14.9)	6.6				刷毛目	灰黄褐	25-25	
87	196	SD04	磁器 碗	10.2	5.5	4.0	4.4			透明釉・染付	灰白	25-26	瀬戸、19 世紀
	197	SD04	陶器 梨園	6.0	5.1	3.6				彩色釉?	浅黄橙	a-220	
	198	SD04	陶器 行半鍋	13.1	7.1	6.5	6.75			相色(外)、灰釉(内)、飛砂施	灰黄橙	a-221	
	199	SD04	陶器 土瓶	11.1	(11.6)					灰釉	土色・白	a-219	保付者・脚 3 足
	200	SD04	陶器 土瓶	20.2	12.9	7.8				灰釉	白	a-222	保付者(底部?)
	201	SD04	陶器 大皿?		(1.25)	17.0				灰釉	白	a-223	再興九谷?
	202	SD04	陶器 汁次	8.6	(6.8)					灰釉・鉄絵	灰白	a-218	保付者・脚 3 足
	203	SD05	磁器 小窓杯?	4.8	2.9	2.45	1.9			灰釉・青磁絵	灰白	a-224	内面口縁部より下蓋跡
88	204	SD06	磁器 皿	13.3	3.5	8.1	2.7			透明釉・染付	灰白	24-46	蛇/目形高台
	205	SD06	磁器 皿	13.9	4.2	7.9	2.9			透明釉・染付	白	24-49	蛇/目形高台・輪花
	206	SD06	磁器 皿	13.2	3.7	7.6	2.4			透明釉・染付	白	24-50	
	207	SD06	磁器 皿	12.7	3.9	7.0	2.4			透明釉・染付	灰白	24-51	
	208	SD06	磁器 皿	12.7	3.85	7.0	2.7			透明釉・染付	灰白	24-52	
	209	SD06	磁器 碗	12.2	5.2	4.6	3.4			透明釉・染付	灰白	24-55	蛇/目輪割ぎ
	210	SD06	磁器 碗	10.0	3.0		1.75	天井径 4.3		透明釉・染付	白	24-60	
	211	SD06	磁器 碗 (広卓)	11.9	6.35	4.9	4.85			透明釉・染付	白	24-61	肥前、18 世紀前半
	212	SD06	磁器 碗	10.4	4.75	4.0	3.9			透明釉・染付	白	24-64	肥前、18 世紀前半
	213	SD06	磁器 碗	8.6	(5.15)					透明釉・染付	白	24-65	SD07・SD13 と被合
	214	SD06	磁器 碗 (筒形)	7.7	5.1	3.7	5.0			透明釉・染付	白	24-67	
	215	SD06	磁器 小杯	7.1	6.0	4.3	5.6			透明釉・染付	白	24-68	SX13C と被合
	216	SD06	磁器 碗 (広卓)	12.2	6.85	5.8				透明釉・染付	白	24-69	
89	217	SD06	磁器 鉢	17.3	6.8	8.35				灰輪十数施	白	24-70	肥前、18 世紀後半～19 世紀
	218	SD06	陶器 碗	10.4	6.35	4.2	5.4			灰輪十数施	灰白	a-225	唐唐(底部)、瀬戸胎土異なる
	219	SD06	陶器 鉢	20.5	7.9	9.5				黄灰	黄灰	a-226	輪花?、再興九谷、19 世紀
	220	SD06	陶器 中平	19.4	14.9	18.5	13.3			灰赤	灰赤	a-232	赤切腹
	221	SD06	陶器 小壺	13.6	(10.7)					灰赤	灰赤	a-234	SX12・SD13 と被合
	222	SD06	陶器 砂流茶碗	12.4	(6.45)					灰輪・長石施?	灰白	a-239	瀬戸か?
	223	SD06	陶器 土瓶	7.5	10.2	6.1	8.0			灰輪	赤褐	a-246	
	224	SD06	陶器 指鉢	35.0	12.7	13.4				灰輪	土色・白	a-245	全面灰輪、九州?、SX12 と被合、砂目
	225	SD06	陶器 碗	13.8	4.8	4.6	3.2			灰輪・鉄絵	白	a-247	京磁模倣
	226	SD06	陶器 鉢		(3.45)	7.9				刷毛目	黄灰	a-249	肥前
	227	SX12	磁器 皿	12.6	4.1	7.0	2.75			透明釉・染付	灰白	24-6	
90	228	SX12	磁器 皿	12.7	3.8	7.3	2.65			透明釉・染付	灰白	24-7	
	229	SX12	磁器 皿	12.9	4.1	7.2				透明釉・染付	灰白	24-8	
	230	SX12	磁器 猪口	7.0	7.1	4.3	6.2			透明釉・染付	白	24-9	
	231	SX12	磁器 碗	8.6	5.8	2.9	4.3			透明釉・染付	灰白	24-10	再興九谷?
	232	SX12	磁器 瓶		(5.7)	3.9				透明釉・染付	白	24-11	



図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 裝飾等	釉土色	発掘 NO.	特記事項
272	SD13	磁器 皿	磁器 皿	13.8	4.5	8.3	3.55		透明釉・染付	白	24-54	蛇/目形高台
273	SD13	磁器 皿	磁器 皿	10.2	2.45	6.0	1.9		透明釉・染付	白	24-57	
274	SD13	磁器 碗	磁器 碗	9.7	6.7	4.4	4.8		透明釉・染付	白	24-58	陶器染付・九州?
275	SD13	磁器 碗	磁器 碗	11.2	6.2	5.0	5.2		透明釉・染付	白	24-59	
276	SD13	磁器 蓋物	磁器 蓋物	9.35	6.35	5.05	5.35		透明釉・染付	灰白	24-62	口尻
277	SD13	磁器 碗	磁器 碗 (筒形)	9.15	4.85	3.9	3.2		透明釉・染付	灰白	24-63	漆仔着、敢佐見、18世紀中頃
94	279	SD13	磁器 鉢	21.9	7.1	7.0	4.95		鉄釉・刷毛目	褐灰	25-30	蛇/目輪割ぎ・肥前
280	SD13	磁器 碗	磁器 碗	9.1	5.5	4.1	4.0		透明釉・鉄絵	灰白	25-31	コンニャク印明文
281	SD13	陶器 土瓶?	陶器 土瓶?	11.8	(6.4)			最大口径 11.8	灰白	灰白	※-233	京味模倣
282	SD13	陶器 徳利	陶器 徳利	(18.05)	6.6				ウノノ輪・鉄絵	にぶい・青	※-235	SX12 と接合
283	SD13	磁器 碗	磁器 碗	12.0	4.55	3.6	3.6		灰釉・色絵	灰白	※-236	京味模倣
284	SD13	磁器 碗	磁器 碗	9.5	5.6	3.2	4.8		灰釉・色絵	白	※-237	京味模倣
285	SD13	磁器 碗	磁器 碗	9.4	5.6	2.9	4.8		灰釉・色絵	灰白	※-238	京味模倣
286	SD13	陶器 漆油茶碗	陶器 漆油茶碗	9.6	5.65	4.4	4.75		灰釉+鉄釉	灰白	※-240	瀬戸模倣
287	SD13	陶器 灯明受皿	陶器 灯明受皿	11.8	(1.8)	3.0			鉄釉	灰白	※-241	油煙漬
288	SD13	陶器 屠鉢	陶器 屠鉢	33.2	(13.8)	15.8			鐵	青	※-242	SX12 と接合、屬前 II - 3 期?
289	SD13	陶器 鉢	陶器 鉢	20.8	5.7	8.5	3.7		灰釉	赤褐色	※-243	肥前?
290	SD13	陶器 罐鉢	陶器 罐鉢	(11.35)	12.1				鉄釉	赤褐色	※-244	全皿施釉、SD03 と接合、砂目、九州?
95	292	SD13	陶器 皿	11.6	3.6	4.7			鉄釉	赤褐色	※-248	総り真
293	SD13	陶器 碗	陶器 碗	14.1	5.6	4.9	3.6		灰釉	灰白	※-250	蛇/目輪割ぎ・砂目、九州
294	SD13	陶器 鉢	陶器 鉢	(10.3)	10.8				灰釉・硝輪	にぶい・青	※-251	蛇/目輪割ぎ・砂目、九州
295	SD13	陶器 鉢	陶器 鉢	11.1	1.8		1.5		灰釉	灰白	※-252	底面施釉
296	SD13	土器 土師器皿	土器 土師器皿	10.9	2.15		1.8		焼成層	浅黄褐色	R-16	灯明、油煙漬
297	SD13	土器 土師器皿	土器 土師器皿	11.4	2.15		1.9		焼成層	浅黄褐色	R-17	灯明、油煙漬
298	SD13	土器 土師器皿	土器 土師器皿	12.7	1.9				焼成層	浅黄褐色	R-33	油煙漬、針金の持ち手
299	SD13	陶器 平鉢	陶器 平鉢	28.8	9.65	11.7	7.75		鉄釉・白濁ケズリ	明赤褐色	25-84	把手部欠損・油煙漬 (一部)
300	P38	磁器 皿	磁器 皿	17.8	2.6	11.0	1.0		透明釉・染付	白	24-163	輪花
96	301	SK72	土器 土師器皿	8.8	1.7	1.15			透明釉・染付	にぶい・青	R-1	灯明、油煙漬
302	SK55	磁器 碗 (広東)	磁器 碗 (広東)	12.0	6.6	6.6	5.15		透明釉・染付	白	24-147	
303	SK55	磁器 碗 (筒形)	磁器 碗 (筒形)	7.9	6.6	3.7	5.7		透明釉・染付	白	24-148	肥前
304	SK55	陶器 甕	陶器 甕	21.65	23.3	10.9	21.2		ウノノ輪 (刷毛模倣)・鉄絵	赤灰	25-83	肥前
305	SK55	磁器 皿	磁器 皿	10.3	2.5	7.6			透明釉・染付	白	24-149	蛇/目形高台・黒漆付着? (割れ口)
306	SK55	磁器 皿	磁器 皿	13.1	2.45	7.5	1.4		透明釉・染付	灰白	24-150	口直あり、「大明文化年表」系
97	307	SK55	陶器 徳利	(15.7)	6.2				刷毛目	にぶい・青	25-49	
308	SK55	陶器 碗	陶器 碗	12.6	4.25	4.8	2.75		鉄釉	白	※-187	唐津か京・信楽、18世紀代、蛇目輪割ぎ
309	SK55	陶器 折縁皿	陶器 折縁皿	13.0	2.8	4.3	1.75		白土・灰釉	灰白	※-188	砂目・肥前、1610~1630年
310	SK85	陶器 碗	陶器 碗	10.0	6.0	4.4	4.6		透明釉・染付	黄灰	※-202	陶器染付、コンニャク印明文、九州?

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 装飾等	胎土色	発掘NO.	特記事項
97	311 SX02	磁器 碗	碗	8.9	7.0	4.5	5.8		透明釉・染付	白	24-1	SK28と複合
	312 SX02	磁器 碗	碗	9.2	6.0	3.4	5.0		透明釉・染付	白	24-2	
	313 SX02	磁器 碗	碗	9.9	5.2	3.4	3.6		透明釉・染付	灰白	24-3	
	314 SX02	陶器 椀	椀	18.6 (23.5)					ウツノ目 (銅毛塗)・鉄絵	にぶい赤褐色	25-6	肥前 (唐津)・18世紀前半
	315 SX02	陶器 碗	碗	9.4	6.6	4.2	4.85		刷毛目	白	25-7	
	316 SX02 上層	陶器 酒盃	酒盃	5.4	3.1	2.0	2.55		鉄絵	黄灰	a-286	全面施釉・九州?
	317 SX02 上層	陶器 酒盃	酒盃	31.3	14.0	14	11.8		鉄絵	白	a-287	全面施釉・九州?
	318 SX02	陶器 鉢	鉢	13.9	(3.7)				灰釉	白	24-4	SK02・SK28と複合
	319 SX03	磁器 碗	碗	7.9	4.15	2.9	3.2		透明釉・色絵	灰白	a-297	SD06と複合
	320 SX03	磁器 碗	碗	8.9	6.1	3.25	4.4		透明釉・染付	白	24-5	
	321 SX13 上層	磁器 碗 (筒形)	碗 (筒形)	8.2	6.5	4.3			透明釉・染付	白	24-14	肥前・19世紀か
	322 SX13	磁器 蓋	蓋	10.25	2.5		1.6	天井径5.7	透明釉・染付	灰白	24-15	
	323 SX13 上層	磁器 皿	皿	10.3	1.9	5.7	12.5		透明釉・染付	白	25-11	
	324 SX13	陶器 碗	碗	11.3	6.15	4.1			灰釉・鉄絵	灰白	a-295	京・信濃・19世紀初頭
325 SX13	陶器 水注	水注	(4.7)				口径7.8	灰釉・鉄絵	灰白	a-297	京・信濃	
326 SX13	土器 土師器皿	土師器 皿	11.6	1.8	7.2	1.5		鉄絵	黄	R-36	丸目・油漉飯・保存者 (ほぼ全面)	
327 SD15	陶器 酒鉢	酒鉢	36.9	15.8	14	13.4		赤褐色	黄	a-253	砂目・全面施釉・九州?	
328 SD15	陶器 灯籠皿	陶器 灯籠皿	11.9	2.0	5.3	2.0		赤褐色	黄	a-254	油漉飯	
329 SX13	磁器 碗 (筒形)	碗 (筒形)	8.0	3.6	6.2	4.95		透明釉・染付	白	24-13	SD06と複合・瀬戸?・18世紀末?	
330 SK28	磁器 碗	碗	9.8	4.8	4			透明釉・染付	白	24-131	SK13と複合	
331 SK28	磁器 碗	碗	9.0	6.2	4.6	5.05		透明釉・染付	灰白	25-40	コンニャク印明文	
332 SK28	陶器 鉢	鉢	16.6	6.1	7.0	4.3		刷毛目	灰白	a-136	SK03と複合・梅花・乾目輪調意	
333 SK28	陶器 鉢	鉢	10.3	(5.4)				白土	にぶい赤褐色	a-137		
334 SK28	陶器 鉢?	鉢?	22.3	(3.5)				鉄絵 (内面)	にぶい赤褐色	a-138	梅花	
335 SK29	陶器 碗	碗	9.9	6.0	4.3	5.5		透明釉・染付	灰白	25-41	SK02と複合・陶師染付・九州?	
336 SK34	陶器 碗	碗	15.2	(4.1)				鉄絵	にぶい赤褐色	a-146	使用痕	
337 SE12	陶器 火入れ?	火入れ?	9.1	4.9				鉄絵	灰白	a-213		
338 SK15	陶器 皿	皿	15.1	(2.3)				鉄絵	にぶい赤褐色	a-49	肥前	
339 SK35	陶器 蓋物	蓋物	9.2	8.1	6.6	7.4		透明釉・染付	白	24-138	口尻	
340 SK35	磁器 碗	碗	8.3	5.3	3.3	4.3		透明釉・染付	白	24-139		
341 SK35	磁器 蓋	蓋	10.0	3.25		2.0	天井径3.7	透明釉・染付	灰白	24-140		
342 SK35	陶器 鉢	鉢	10.5	6.95	4.3			透明釉・染付	灰白	25-43	陶師染付・九州?	
343 SK35	陶器 鉢	鉢	16.3	(6.0)				灰釉	黄灰	a-147	再製九州・19世紀	
344 SK35	陶器 土甌	土甌	10.4	10.2	7.0			灰釉	明赤褐色	a-148	脚3足・灰付蓋 (内面)	
345 SK35	陶器 蓋茶桶	蓋茶桶	8.6	6.35	5.0			鉄絵	灰白	a-149	美國か再興九州?	
346 SK35	陶器 碗	碗	9.2	5.4	3.5	4.65		灰釉・鉄絵	灰白	a-150	鉄蓋・19世紀中頃	
347 SK35	土器 土師器皿	土師器 皿	7.8	1.95	1.5			灰白	黄褐色	R-25		
348 SK37	磁器 碗 (筒形)	碗 (筒形)	7.2	5.7	3.6	4.4		透明釉・染付	灰白	24-141	肥前・18世紀後半	
349 SK37	磁器 碗	碗	8.8	5.5	2.7	4.25		透明釉・染付	白	25-44		

図 No.	選構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸差 / 裝飾等	衛生色	実測 NO.	特記事項
350	SK37	陶器	指鉢		(10.2)	13.8			灰緑	白	a-151	SK14 と集合、全面黒釉、九州?
351	SK37	陶器	碗	11.0	6.0	3.8	4.7		透明釉・染付・外面青磁釉	白	a-152	
352	SK37	陶器	碗	11.8	(5.4)				灰緑・青磁	白	a-153	京焼黒釉
353	SK37	陶器	皿	18.6	(3.7)				灰緑	白	a-154	スタンプ産破文
354	SK37	陶器	皿	8.0	2.7	3.25			灰緑	白	a-155	SK14 と集合
355	SK37	陶器	碗	8.6	(5.8)				灰緑・色絵	白	a-156	京焼黒釉
356	SK37	陶器	碗	28.8	32.0	14.5	31.0	口径 27.6・最大口径 30.5	黒染塗布	白	a-157	越前
357	SK37	土器	灯台立	3.75	1.55	2.7	1.2		灰緑・黒耀少	浅黄緑	a-24	
358	SK39	陶器	灯明受皿	11.3	2.0				灰緑	浅黄緑	a-159	SK24・SD13 と集合
359	SK39	陶器	灯明受皿	11.3	2.0				浅黄緑	浅黄緑	a-160	
360	SK39	陶器	香炉	6.3	(2.8)				白磁	白	a-161	
361	SK39	陶器	土匱(特小)	5.1	2.9	2.2			灰黄	白	a-162	3足?
362	SK39	陶器	燈付		(4.9)	10.8			透明釉・色絵	緑	a-163	
363	SK24	磁器	碗	9.0	6.0	3.2	4.95		透明釉・染付	白	24-107	
364	SK24	磁器	碗	8.9	5.4	3.1	4.5		透明釉・染付	白	24-108	
365	SK24 上層	磁器	碗	9.4	5.0	3.7	3.55		透明釉・染付	灰白	24-109	SK14 と集合
366	SK24 中層	磁器	碗(広底)	11.6	6.5	6.5	5.4		透明釉・染付	白	24-110	
367	SK24 上層	磁器	碗(筒形)	7.8	6.2	3.9	5.15		透明釉・染付	灰白	24-111	
368	SK24 中層	磁器	碗(筒形)	8.7	7.05	4.0	6.0		透明釉・染付	白	24-112	
369	SK24	磁器	碗(筒形)	8.5	6.7	4.2			透明釉・染付	白	24-113	
370	SK24	磁器	猪口	5.4	3.3	3.4			透明釉・染付	白	24-114	
371	SK24	磁器	碗	11.9	6.4	4.7	4.8		透明釉・染付	白	24-116	原料、黒磁か、本物でも1770年以降
372	SK24	磁器	碗	9.6	(5.45)				透明釉・染付	白	24-117	
373	SK24	磁器	碗	8.6	5.8	3.1	4.7		透明釉・染付	灰白	24-118	
374	SK24	磁器	碗	8.7	5.5	3.2	4.5		透明釉・染付	灰白	24-119	
375	SK24	磁器	碗	10.15	4.8	3.6	3.65		透明釉・染付	灰白	24-120	
376	SK24	磁器	碗	9.5	5.6	3.3	4.8		透明釉・染付	白	24-121	
377	SK24	磁器	碗	9.7	5.8	3.9			透明釉・染付	白	24-122	
378	SK24	磁器	碗	8.1	4.0	3.2	3.15		透明釉・染付	白	24-123	SK37 と集合、中国陶磁品
379	SK24	磁器	皿	18.8	3.9	11.9	1.6		透明釉・染付	白	24-124	梅尾、ハリ支文直
380	SK24	磁器	皿	12.6	3.0	5.8	1.9		透明釉・染付	灰白	24-125	
381	SK24 下層	磁器	皿	12.8	3.2	7.8	2.3		透明釉・染付	灰白	24-126	
382	SK24	磁器	皿	13.6	3.5	7.6	2.6		透明釉・染付	灰白	24-127	輪花
383	SK24	磁器	皿	12.8	2.9	7.5	1.7		透明釉・染付	灰白	24-128	SK28 と集合
384	SK24 上層	磁器	皿	10.1	3.2			口径 4.4	透明釉・染付	白	24-130	
385	SK24	磁器	皿	8.95	6.0	4.2	4.6		透明釉・染付	灰白	25-39	SK02 と集合、コンニャク印押文
386	SK24 中層	磁器	皿	13.1	3.9	7.8	2.4		灰緑	灰白	24-129	
387	SK24 中層	陶器	灯明受皿	12.4	1.85	5.8			灰緑	浅黄緑	a-59	油煙直
388	SK24	陶器	甕	36.2	(10.7)			口径 33.8	灰緑	灰	a-60	



図 No.	選構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 装跡等	釉土色	楽源NO.	特記事項
103	389 SK24	陶器 碗	碗	13.3	6.5	5.05	5.45		透明釉・染付	灰白	a-61	瀬戸焼製?
	390 SK24	陶器 甕?	甕	(19.4)	10.7				鉄釉(柳毛目)	赤	a-116	瀬戸14と重合
	391 SK24	陶器 罐鉢	罐鉢	31.4	(12.2)				鉄釉	赤濁	a-117	全面施釉
	392 SK24	陶器 罐鉢	罐鉢		(11)	11.9			鉄釉	浅黄緑	a-118	SK13と重合
	393 SK24	陶器 鉢?	鉢		(9.9)	12.5			鉄釉(柳毛目)	灰赤	a-120	
	394 SK24	陶器 皿	皿	11.8	(1.6)				鉄釉	白	a-123	瀬戸
	395 SK24	陶器 漆塗茶碗	碗	9.4	(3.9)				鉄釉	灰白	a-124	瀬戸か西粟九谷
	396 SK24	陶器 碗	碗	11.1	7.4	5.3	6.6		鉄釉・鉄絵	灰白	a-125	トウ子風(内面)
	397 SK24	陶器 鉢	鉢	22.8	10.75	9.5	9.2		鉄釉	にぶい・青	a-121	SK22と重合
	398 SK24	陶器 鉢	鉢	31.9	(5.7)				鉄釉	灰白	a-122	
104	399 SK24	陶器 土瓶	土瓶	9.6	11.1	5.7			鉄釉	青	a-126	胎土目
	400 SK24	陶器 鉢	鉢	31.5	14.0	10.8	12.6		鉄釉	灰白	a-127	肥前?
	401 SK24	陶器 甕	甕	18.8	22.4	11.4	20.4	直径 18.0・最大脚径 21.8	ウノ釉・鉄軸流し	明緑灰	a-128	全面施釉、九州?
	402 SK24	陶器 罐鉢	罐鉢	9.9	5.75	4.4	4.7		鉄釉	赤濁	a-130	京焼焼成
	403 SK24	陶器 碗	碗	10.3	7.0	5.0	6.2		鉄釉・鉄絵	灰白	a-131	トウ子風(内面)
	404 SK24	陶器 碗	碗	12.4	4.8	4.2	3.25		鉄釉・鉄絵	灰白	a-132	京焼焼成
	405 SK24	陶器 碗	碗	21.9	1.85	21.4			押印	にぶい・青	a-11	静上糸切風
	406 SK24	土器 行燈台	土器	18.1	6.8	7.4	4.8		柳毛目	赤	a-133	SK24と重合
	407 SK25	陶器 鉢	鉢	7.0	4.25	3.0	3.8		透明釉・金彩・赤絵	白	a-134	
	408 SK25	陶器 小杯	小杯	9.3	5.2	4.0	4.5		鉄釉	灰白	a-135	
105	409 SK26	陶器 碗	碗	13.7	3.4	6.9	1.9		鉄釉	灰白	a-227	輪花30弁、瀬戸
	410 SD08	陶器 皿	皿	13.0	6.9	5.6	5.05		透明釉・染付	白	a-2416	
	411 SX14	磁器 鉢	鉢	9.9	4.6	3.3	3.75		透明釉・染付	灰白	a-2417	SD08と重合
	412 SX14	磁器 碗	碗	9.7	5.0	3.85	3.8		透明釉・染付	灰白	a-2418	
	413 SX14	磁器 碗	碗	7.5	5.1	3.7	4.45		透明釉・染付	白	a-2419	
	414 SX14	磁器 小杯	小杯	8.5	5.6	5.5			透明釉・染付	白	a-2420	
	415 SX14	磁器 碗	碗	8.2	6.3	3.25	4.9		透明釉・染付	灰白	a-2421	
	416 SX14	磁器 碗(筒形)	碗(筒形)	7.1	5.65	3.6			透明釉・染付	灰白	a-2422	
	417 SX14	磁器 碗(筒形)	碗(筒形)	13.4	3.5	7.5	2.3		透明釉・染付	白	a-2423	
	418 SX14 下層	磁器 皿	皿	14.1	2.55	8.4			透明釉・染付	白	a-2424	肥ノ目輪割定、再興九谷(若杉分)
106	419 SX14	磁器 皿	皿	10.3	2.1	7.2	1.5		透明釉・染付	白	a-2425	
	420 SX14 下層	磁器 皿	皿	15.6	3.7	9.0			透明釉・染付	白	a-2426	液臣の可能性残る
	421 SX14	磁器 皿	皿	13.1	3.35	7.75	2.25		透明釉・染付	白	a-2427	
	422 SX14 下層	磁器 皿	皿	18.0	3.1	11.3	2.2		透明釉・染付	白	a-2428	ハリ又々重(3ヶ所)
	423 SX14	磁器 皿	皿	12.55	7.3	4.5	5.5		染付・青磁釉	白	a-2429	
	424 SX14	磁器 鉢	鉢	36.9	(8.4)				鉄釉・白磁ノズリ	赤濁	a-25-12	
	425 SX14	磁器 鉢	鉢	5.7	2.85	2.0	2.25		透明釉・染付	白	a-25-18	肥前、19世紀
	426 SX14	磁器 紅門口	紅門口	12.3	2.15	6.0			鉄釉	浅黄緑	a-300	
	427 SX14	陶器 灯明皿	灯明皿									

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬/装飾等	土色	実施NO.	特記事項
106	428/SX14	陶器 灯明皿	陶器	12.4	2.05	6.5			顔料	浅黄褐色	a-301	復付着
	429/SX14	陶器 蟹型	陶器		2.85			現存幅(4.35)・現存底(9.2)	顔料	灰白	a-302	京焼
	430/SX14	陶器 徳利	陶器	5.6	(6.25)			胴径 2.4	鉄輪	灰白	a-303	
	431/SX14	陶器 鉢	陶器	12	7.7	4.6	6.1		鉄輪・鉄線	灰白	a-304	
	432/SX14	陶器 鉢	陶器	20.3	6.0	7.4	4.55		刷毛目	灰白	25-13	肥ノ目輪割ぎ、穿孔1ヶ(底面)、肥削?
107	433/SX14	陶器 鉢	陶器	31.0	9.7	11.6			刷毛目	灰白	25-14	砂目、肥削
	434/SX14	磁器 鉢	陶器	14.2	5.7	3.8			透明輪・染付	白	SK61と融合	
	435/SX14	陶器 鉢	陶器	19.2	8.6	7.0	5.9		刷毛目	灰白	25-16	肥ノ目輪割ぎ、肥削
	436/SX14	磁器 皿	陶器	13.6	3.65	4.1	1.7		透明輪・染付	灰輪	25-17	肥ノ目輪割ぎ
	437/SX14	磁器 鉢	陶器	14.9	5.7	8.1	3.9		青磁輪・鉄刻	白	25-19	漆繪芝
	438/SX14	陶器 碗	陶器	12.4	4.8	4.4			鉄輪・鉄線	灰白	a-305	京焼陶器
	439/SX14	陶器 摺鉢	陶器	34.9	12.0	13	10.3		鉄輪	灰白	a-298	即日17条、全面施輪、九州?
	440/SX14	陶器 片口摺鉢	陶器	23.2	(10.5)	(12.2)			鉄輪	褐色	a-299	即日10条
	441/SX14	陶器 碗	陶器	9.7	(6.0)	4.0			鉄輪・染付	灰白	a-306	
	442/SX14	陶器 藤箱茶碗	陶器	9.5	6.0	4.0	4.8		鉄輪・鉄輪	灰白	a-307	
108	443/SX14	陶器 皿	陶器	14.0	3.0	5.9			鉄輪	浅黄褐色	a-308	起中瀬戸
	444/SX14	陶器 皿	陶器	10.2	(5.7)				鉄輪・長石輪?	白	a-309	瀬戸?
	445/SX14	陶器 皿	陶器	12.8	3.6	6.4	2.5		鉄輪	灰白	a-310	輪花、瀬戸
	446/SX14	陶器 水注	陶器		(4.3)	4.2		胴径 6.8	鉄輪	灰白	a-311	沙羅形文・京焼
	447/SX14	陶器 水注	土器	2.8	3.7	3.3			鉄輪・二形(緑・赤)	浅黄褐色	a-312	聖物・上下貼り施、京・伏見焼
	448/SX14	土器 土師器皿	土器	11.3	1.9				指圧・ヨコナテ	浅黄褐色	a-38	油屋焼
449/SX14	瓦器 (火鉢)	瓦器	29.1	(24.8)			現存高上座(8.2)下部(7.2)	ヘラ磨き、花卉刻印	浅黄褐色	a-39	獅子顔陶器、聖物貼り付け	
109	450/SK61下層	磁器 皿	磁器	13.4	6.7	5.4			透明輪・染付	白	24-151	望料、本物でも、1770年以降
	451/SK61	磁器 皿	陶器	18.1	2.7	11.4			透明輪・染付	白	24-152	中央にハリ痕
	452/SK61	磁器 碗	陶器	9.7	(5.3)				透明輪・染付	白	24-153	
	453/SK61	陶器 灯明皿	陶器	12.4	2.0	6.3			鉄輪	浅黄褐色	a-189	
	454/SR84	磁器 皿	陶器	12.9	3.25	7.5			透明輪・染付	灰白	25-54	肥ノ目回型高台
	455/SK73	磁器 皿	陶器	12.8	2.5	6.2	1.45		透明輪・染付	灰白	24-158	
	456/SK73	磁器 角重蓋	陶器	9.8	1.8	8.3	1.25		透明輪・染付	灰白	24-159	
	457/SK79	陶器 甕	陶器	19.8	22.0	9.0	6.25		鉄輪・ワノ輪	浅黄褐色	25-53	肥削
	458/SK74	磁器 鉢	陶器	10.2	7.6	4.9			鉄輪(気泡無し?)	灰白	25-52	油屋石?
	459/SK74	陶器 灯明皿	陶器	12.0	2.3	6.4			鉄輪(磨面)	浅黄褐色	a-198	油屋焼
110	460/SX15	磁器 皿	陶器	13.8	4.0	8.65	2.9		透明輪・染付	白	24-30	肥ノ目高台
	461/SX15	磁器 皿	陶器	9.3	6.1	3.6	5.3		透明輪・染付	白	24-31	
	462/SX15	磁器 皿	陶器	9.3	6.0	4.0	4.9		透明輪・染付	灰白	24-32	
	463/SX15	磁器 蓋	陶器	9.9	3.2			1.75天井径 4.2	透明輪・染付・青磁輪	灰白	24-33	
464/SX15	磁器 碗(筒形)	陶器	7.3	6.0	3.5	4.7		透明輪・染付染付	白	25-20		
465/SX15	磁器 碗	陶器	9.2	5.5	3.1	4.7		鉄輪・色絵(緑・赤)	灰白	a-313	京焼模倣	

図 No.	濃縮	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬/裝飾等	胎土色	取調 NO.	特記事項
466	SX15	陶器 皿	陶器 皿	10.2	2.8	4.2			灰釉	浅黄釉	a-314	越中瀬戸
467	SX15	陶器 皿	陶器 皿	12.1	3.4	4.4	2.2		灰釉	にぶい・濁	a-315	蛇/目輪刺ぎ
468	SX15	磁器 碗	陶器 碗	7.8	5.2	3.5	4.5		灰釉・鉄絵・色絵(白・青)	灰白	a-316	灰土
469	SX15	陶器 徳利	陶器 徳利	3.5	(4.8)				鉄釉	灰白	a-317	胎土黒黒母や今日立つ
470	SX15	磁器 碗	陶器 碗	9.5	5.65	3.3	4.95		灰釉・色絵(緑・青・赤)	灰白	a-318	京焼?
471	SX15	磁器 碗	陶器 碗	10.9	5.6	4.5	4.7		灰釉・色絵(緑・青・赤)	浅黄釉	a-319	京焼味者
472	SX15	瓦器 火入れ	瓦器 火入れ	11.15	6.6	8.95			にぶい・濁	にぶい・濁	a-40	京焼味者なし、3足?
473	SX16	土器 土師器皿	土器 土師器皿	11.8	2.0				浅黄釉	浅黄釉	a-41	灯向・油煙皿
474	SX16	磁器 皿	陶器 皿	14.1	2.75	8.6			透明釉・染付	白	24-34	蛇/目輪刺ぎ
475	SX16	磁器 碗	陶器 碗	8.6	4.9	5.1			透明釉・染付	白	24-36	SX17と接合
476	SX16	磁器 碗	陶器 碗	8.8	6.0	4.0	4.55		透明釉・染付	灰白	25-21	コニヤツ印同文
477	SX16	陶器 皿	陶器 皿	10.4	6.65	4.3	5.4		透明釉・染付	灰	25-22	陶師伝付、九州?、18世紀?
478	SX16	陶器 皿	陶器 皿	13.5	3.8	7.0			透明釉・染付	灰黄	25-23	現川窯様取か?
479	SX16	陶器 猪俵	陶器 猪俵	(8.3)	12.4				鉄釉	赤	a-320	全面施釉、九州?
480	SX16	陶器 碗	陶器 碗	8.4	5.9	5.0	5.2		灰釉・色絵(青・黒)	白	a-323	京・信楽、18世紀中頃
481	SX16	陶器 腰掛茶碗	陶器 腰掛茶碗	9.7	6.1	4.4	4.85		鉄釉・灰釉	灰白	a-324	瀬戸か河内九谷
482	SX16	陶器 香付茶碗	陶器 香付茶碗	10.7	6.7	4.2	5.5		鉄釉・灰釉	灰白	a-325	瀬戸?
483	SX16	磁器 碗	陶器 碗	9.5	5.9	3.7	4.9		透明釉・染付	白	24-35	
484	SX16	陶器 碗	陶器 碗	55.8	(23.2)		頸径 53.1		鬼板塗布	黄灰	a-321	和印、瀬前
485	SX16	陶器 灯明皿	陶器 灯明皿	12.2	3.3	5.6	1.85		鉄釉?	浅黄釉	a-322	油煙皿
486	SX16	土器 土師器皿	土器 土師器皿	8.5	1.7		1.05		透明釉・染付	浅黄釉	a-42	油煙皿
487	SX43	陶器 葉	陶器 葉	(20.25)	13.4			頸径 17.4・最大口径 21.4	鉄釉	灰赤	a-180	SK24・SX14と接合、肥前
488	SX50	陶器 鉢	陶器 鉢	(3.4)	8.2				鉄釉	灰白	a-186	底に刺目
489	SX48	陶器 碗	陶器 碗	9.4	(4.7)				灰釉・色絵(赤・緑)	白	a-182	京・信楽か
490	SX49	陶器 碗	陶器 碗	8.9	5.1	3.1	4.5		色絵	白	25-46	漆繪芝
491	SX49	磁器 小壺	陶器 小壺	5.9	8.55	4.7	7.1		透明釉・染付	白	25-47	
492	SX49	磁器 碗(筒形)	陶器 碗(筒形)	8.9	6.9	4.8			透明釉・染付	黄灰	25-48	陶師伝付、九州?
493	SX49	陶器 猪俵	陶器 猪俵	29.6	11.4	10.4	9.4		鉄釉	にぶい・赤釉	a-183	梅目18条、全面施釉、九州?
494	SX49	陶器 碗	陶器 碗	9.3	5.5	4.0	4.5		透明釉・染付	灰白	a-184	梅注文、河内九谷(若杉か)
495	SX49	陶器 碗	陶器 碗	8.3	6.2	4.3	5.3		鉄釉	灰白	a-185	復付猪俵
496	SX32	陶器 鉢	陶器 鉢	16.6	(4.7)				灰釉	青	a-257	
497	SD32	陶器 御膳鉢	陶器 御膳鉢	10.4	3.2	3.0	2.95		鉄釉	灰濁	a-258	備前
498	SX17	磁器 碗	陶器 碗	9.6	5.2	3.9	3.2		透明釉・染付	灰白	24-37	波佐良窯取か
499	SX17	陶器 片口鉢	陶器 片口鉢	22.6	(10.8)				透明釉・染付	浅黄釉	a-326	河内九谷、19世紀
500	SE14	陶器 皿	陶器 皿	(3.0)	4.8				灰釉・鉄絵?	灰白	a-214	蛇/目輪刺ぎ
501	SE15	陶器 香	陶器 香	10.2	(7.4)				鉄釉・煎釉	にぶい・黄釉	a-215	蛇/目輪刺ぎ
502	SE16	陶器 碗(筒形)	陶器 碗(筒形)	22.2	(5.3)	4.9			鉄釉	灰白	a-216	越中瀬戸?
503	SK136	陶器 大皿	陶器 大皿	22.2	(5.8)				白土・灰釉、鉄絵	浅黄釉	a-207	越中瀬戸?
504	SK136	陶器 徳利	陶器 徳利	(8.18)	7.1				鉄釉	赤灰	a-208	肥前(唐瀬)、17世紀中頃

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸葉・裝飾等	土色	発掘NO.	特記事項
505	SK65	磁器 碗		8.6	5.7	3.0	4.5		透明釉・染付	白	24-157	
506	SK65	磁器 皿		14.1	2.7	8.4	2.1		白磁釉・陽刻	白	25-51	瀬戸型打ち品か？
507	SK65	陶器 罐鉢		35.0	(10.6)				灰釉	白	a-193	全面施釉、九州？
508	SK65	陶器 碗		9.4	6.7	3.7			灰釉・鉄繪？	白	a-195	京・信楽模倣？、本物の可能性有る
509	SK65	陶器 碗		9.2	5.7	3.0	4.6		灰釉・鉄絵	白	a-196	再興九谷？
510	SK65	陶器 土器		(6.6)	9.3				鉄釉	灰白	a-194	菊文
511	SK65	陶器 皿		13.8	3.3	5.8	2.3		鉄釉	灰白	a-197	輪花、越中瀬戸
512	SK65	土器 土師器皿		10.4	2.25	5.7			紺灰	灰白	a-222	灯明、油煙皿
513	SK130	磁器 皿		13.2	3.4	6.0	2.15		紺灰・ヨコナテ	白	24-160	口耳
514	SK132	磁器 皿		13.2	3.4	4.9	2.2		透明釉・染付	白	24-161	肥前、17世紀
515	SK132	陶器 高付		12.2	3.2	8.0	2.35		透明釉・染付	白	a-204	見込み輪郭迄、越中瀬戸、17世紀前半
516	SK138	陶器 皿		(2.8)	4.4				鉄釉	黄灰	a-209	蛇/目輪郭迄
517	SK153	陶器 皿		14.0	(2.1)				灰釉	灰白	a-210	越中瀬戸、17世紀前半
518	SD38	磁器 皿		12.9	2.85	5.0	2.55		透明釉・染付	灰白	24-72	
519	SD36	陶器 碗 (筒形)		8.8	7.5	4.6			鉄釉	灰	a-260	SD50・SK153と接合、越中瀬戸
520	SX30 上層	磁器 碗		10.5	7.7	4.6	6.2		染付	灰白	25-24	
521	SX30	陶器 皿		13.3	3.35	5.6	2.2		灰釉	黄灰	a-332	越中瀬戸、17世紀前半
522	SX30	陶器 皿		12.9	2.8	5.2	1.8		灰釉	淡黄	a-333	越中瀬戸、17世紀前半
523	SX30	陶器 大皿		22.4	6.8	10.5	5.8		白土・鉄繪(内面)	黄灰	a-334	附土目直、越中瀬戸？
524	SX30	陶器 皿		12.8	3.1	5.4	2.0		灰釉	淡青	a-335	SK153と接合、越中瀬戸、17世紀前半
525	SX30	陶器 皿		12.8	3.5	5.6	2.6		灰釉	白	a-336	SD36と接合、越中瀬戸、17世紀前半
526	SD37	磁器 碗		8.8	5.75	3.5	4.6		透明釉・染付	灰白	24-71	目跡
527	SK135	磁器 拵口		5.8	6.0	5.0	5.4		透明釉・染付	灰白	24-162	
528	SK135	陶器 罐鉢		36.5	(6.45)				鉄釉	灰白	a-205	全面施釉、九州？
529	SK135	陶器 灯明皿		(1.45)					赤漆(内面)	黄灰	a-206	
530	SK135	土器 土師器皿		11.6	1.7		1.3		紺灰・ヨコナテ	黄灰	a-203	灯明・油煙皿
531	SK111	陶器 骨背茶碗		10.5	6.2	5.3			鉄釉	黄灰	a-203	再興九谷、19世紀
532	SD35	陶器 皿		13.3	3.0	5.4	1.75		灰釉	黄灰	a-259	越中瀬戸、17世紀前半
533	SX18	陶器 罐鉢		29.5	11.6	12.3			灰釉	黄灰	a-327	即日9米、越明、17世紀？
534	SX19	陶器 瓶		(8.3)				頸径4・最大口径0.1	黄釉	黄灰	a-328	貼り付付内底、内面叩き肌
535	SX19	陶器 皿		13.1	3.55	5.5			赤	赤	a-329	砂目
536	SX19	陶器 皿		14.05	3.85	5.9	1.5		灰釉	黄	a-330	糸目肌
537	SX19	陶器 折縁皿		11.6	(2.0)				灰釉	灰白	a-331	
538	SD31	陶器 大皿		47.0					灰釉・鉄絵	灰白	a-327	輪郭跡、17世紀初頭
539	SK2063	陶器 罐鉢？		27.8	(3.0)				口取輪	赤	C-25	肥前？、17世紀前半？
540	SE2001	磁器 碗		8.9	6.8	5.0			透明釉・染付	白	24-199	
541	SE2001	磁器 碗		9.1	6.1	4.9			透明釉・染付	白	24-200	
542	SE2001	磁器 碗		8.6	6.1	5.3	5.1		透明釉・染付	白	C-37	再興九谷(赤杉分)
543	SE2001	土器 土師器皿		10.5	(2.0)	4.1	1.8		ヨコナテ・体部ケズリ	黄	C-36	灯明・油煙皿

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸差/裝飾等	胎土色	分類NO.	特記事項
544	SK2089	陶器	皿	13.8	3.5	4.7	2.6		口取輪・灰輪	灰	C-17	肥前、16世紀末?
545	SK2049	磁器	皿	12.3	2.85	4.2	2.1		透明輪・染付	灰白	24-197	肥前、17世紀前半
546	SK2049	磁器	皿	12.0	3.1	4.0			透明輪・染付	灰白	24-198	肥前、17世紀前半
547	SK2049	陶器	袋物		(4.6)	4.5			灰輪	赤褐色	C-52	肥前、16世紀末～17世紀初
548	SK2046	陶器	指輪		(5.0)	11.7				赤褐色	C-51	節目8条、越前
549	SK2049	陶器	瓶		(9.6)	6.5			灰輪	赤褐色	C-53	肥前(朝鮮唐津)、17世紀前半
550	SK2068	陶器	折衝皿	9.7	(2.2)	5.5	1.6		灰輪	灰	C-22	肥前、16世紀末～17世紀初
551	SK2008	陶器	皿		(1.8)	4.8			灰輪	赤褐色	C-7	胎土目、肥前、17世紀初頭
552	SK2009	陶器	碗		(2.8)				灰輪	赤褐色	C-8	砂目、漆掻き、肥前、17世紀?
553	SK2004	陶器	碗		(1.8)	4.8			灰輪	赤褐色	C-9	砂目、肥前、17世紀
554	SK2001	陶器	徳利		(4.1)	6.7			灰輪	灰	C-3	緑色灰色
555	SK2001	陶器	徳利		(2.7)	4.2			透明輪・染付	灰白	C-4	陶師染付、九州?
556	SK2001	陶器	鉢鉢	20.6	3.25	13.0			透明輪・染付	灰白	24-196	
557	SK2001	陶器	鉢鉢	26.1	8.9	11.8	8.0		透明輪・染付	灰	C-2	越前、19世紀
558	SK2041	磁器	皿	13.5	3.8	4.6	2.7		鬼紋唐布	白	25-98	漆掻き
559	SK2041	陶器	指鉢	30.0	11.4	11.0	9.3		口取輪	灰白	C-63	
560	SK2041	陶器	瓶		(11.5)	7.5			灰輪	灰白	C-64	肥前(朝鮮唐津)、17世紀前半
561	SK2041	陶器	小甕	19.6	(11.3)				灰輪	赤褐色	C-65	肥前、17世紀前半?
562	SK2041	陶器	瓶		(8.4)	9.6			灰輪	灰白	C-66	肥前(朝鮮唐津)、17世紀前半
563	SK2041	陶器	碗	10.6	6.05	5.0	4.7		灰輪・縁輪	白	C-67	
564	SK2041	陶器	皿		(2.7)	4.3			灰輪・縁輪	灰白	C-68	肥前、内/山原、17世紀後3/4半期
565	SK2041	陶器	甕	19.2	(2.7)				灰輪・縁輪	灰白	C-69	赤生後期前半
566	SK2041	陶器	鉢	13.35	3.5	4.4	2.25		灰輪・縁輪	灰白	C-70	肥前、内/山原、17世紀後3/4半期
567	SK2041	陶器	鉢	25.8	(8.0)	10.0	6.15		縁毛目	赤褐色	C-71	肥前、17世紀末～18世紀前半
568	SK2003	陶器	碗	12.1	(4.5)				灰輪・灰輪	灰白	C-10	2次被熱、灰次灰品?
569	SK2021	陶器	皿	23.0	(5.4)				灰輪・灰輪・ウノフ輪	赤褐色	C-56	
570	SK2021	陶器	皿		(1.3)	4.3			灰輪	白	C-57	京・信濃
571	SK2021	土器	土師器皿	11.5	(1.55)		1.2		指圧・ヨコナ子	浅黄褐色	C-58	
572	SK1009	土器	土師器皿	(11.8)	1.45	(5.8)			指圧・ヨコナ子	灰白	b-31	灯明・油燭燻
573	SK2023	土器	土師器皿	9.2	1.75	4.3	1.1		ヨコナ子・体部分ズリ	灰	C-55	鹿沼灰子
574	SK2060	土器	土師器皿	12.7	(2.1)	5.0	1.4		ヨコナ子	浅黄褐色	C-24	灯明・油燭燻
575	SK1001	土器	土師器皿	8.7	(1.6)				指圧・ヨコナ子	浅黄褐色	b-25	灯明・油燭燻
576	P1001	土器	香罏	4.75	2.1	3.35			指圧・ナ子	灰白×1	b-52	灰白×1
577	SE2002	陶器	指鉢		(10.8)	14.6			灰輪	黄灰	C-35	越前、節目10条
578	SE2008-1	陶器	徳利		(8.4)	5.2			灰輪	赤褐色	C-38	肥前、17世紀
579	SE2009	陶器	甕(徳成?)		(4.0)	6.9			灰輪・筋輪	浅黄褐色	C-39	
580	SK2120	陶器	碗	9.4	(4.4)				灰輪	灰白	C-86	瀬戸
581	SK2120	土器	甕		(1.5)	3.2			灰輪	灰白	C-87	弥生
582	SK2108	陶器	皿	13.0	3.1	4.5	2.05		灰輪	赤褐色	C-82	肥前(唐津)、17世紀前半

図	No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸差 / 裝飾等	胎土色	素面NO.	特記事項
	583	SK2108	陶器 皿	陶器 皿	13.2	(1.9)	4.0			灰輪	にぶい體	C-83	砂目
	584	SK2109	陶器 皿	陶器 皿	13.2	(2.9)	4.65	1.9		灰輪	にぶい體	C-84	肥前(新津)、17世紀前半
	585	SK2109	陶器 碗	陶器 碗		(2.1)	4.5			灰輪	淡黄	C-85	
	586	SK2107	陶器 指鉢	陶器 指鉢		(6.9)						C-79	中世?、内外彫刻=火鉢の使用?
	587	SK2107	陶器 指鉢	陶器 指鉢		(4.35)					灰白	C-80	中世?胎土黒紫得目立つ
	588	SK2107	陶器 皿	陶器 皿	35.6	(3.8)	5.5			灰輪、帯瓦刻印	灰白	C-81	瀬戸・美濃、17世紀初頭、瀬織芝
	589	SK2004 a	陶器 壺?	陶器 壺?	19.1	(5.0)				透明輪・染付	白	C-45	
118	590	SK2004	陶器 指鉢	陶器 指鉢	29.7	(10.8)	12.0	9.5		灰輪	灰白	C-43	
	592	SD2005	陶器 瓶	陶器 瓶	6.3	(6.2)				ウノノ輪?	灰白	C-44	越前?、摩耗大、跡目9条
	593	SD2005	陶器 碗	陶器 碗	11.0	(6.1)				灰輪	灰白	C-96	肥前(新津唐津)、17世紀中頃
	594	SD2005	陶器 瓶	陶器 瓶		(5.35)	5.4			灰輪	灰白	C-97	
	595	SD2005	陶器 皿	陶器 皿		(3.7)	8.0			灰輪・陰刻	白	C-99	肥前(新津唐津)、17世紀中頃
	596	SD2005	陶器 平鉢?	陶器 平鉢?	(26.0)	(3.9)				白土・二形	槽	C-100	東文
	597	SD2008	陶器 碗	陶器 碗	10.6	(7.2)	4.6	6.75		口灰輪	灰白	C-94	再興九谷、19世紀
	598	SK2148	陶器 指鉢	陶器 指鉢	29.0	(4.4)				口灰輪	槽	C-89	九州?
	599	SE2007	陶器 指鉢	陶器 指鉢	30.7	(5.0)				口灰輪	にぶい體	C-32	肥前、17世紀前半
	600	SE2007	陶器 指鉢	陶器 指鉢		(6.8)				口灰輪	にぶい體	C-33	越前
	601	SE2007	土器 土師器皿	土器 土師器皿	9.9	(2.0)		1.8		指庄・ヨコナ子	灰白	C-34	灯明、油漕儀
	602	SE2019	土器 土師器皿	土器 土師器皿	10.8	2.0		1.3		指庄・ヨコナ子	淡黄槽	C-30	灯明、油漕儀
	603	SE2017	陶器 片口鉢	陶器 片口鉢	18.8	(4.2)				灰輪・刷毛目	灰白	C-26	刷毛目は口縁より下
	604	SE2017	陶器 指鉢	陶器 指鉢	18.8	(4.2)				赤	C-27	摩耗大、肥前、17世紀	
	605	SE1011	磁器 碗(筒形)	磁器 碗(筒形)	8.4	6.5	4.6			透明輪・染付・青磁輪	灰白	24-186	
	606	SK2073 a	陶器 折縁皿	陶器 折縁皿	13.5	4.0	4.7	2.5		灰輪	灰白	C-19	肥前、17世紀前半
	607	SK2073 a	陶器 瓶	陶器 瓶		(7.5)	6.2			灰輪・灰輪	灰白	C-20	肥前?
	608	SK2075	陶器 皿	陶器 皿	11.9	3.3	4.2	1.9		灰輪	灰白	C-11	油塚成=灯明使用
	609	SK2074	陶器 指鉢	陶器 指鉢		(3.2)	9.0			灰輪	灰白	C-23	須原型、跡目6条
119	610	SK2056	陶器 皿	陶器 皿		(1.9)	4.9			灰輪・灰輪	赤褐色	C-50	砂目粗4箇所
	611	SK2057	磁器 小杯	磁器 小杯	6.2	4.35	2.45	3.1		透明輪・染付	白	25-99	再興九谷(碧影か)、19世紀
	612	SK2057	磁器 瓶	磁器 瓶		(4.85)	2.5			透明輪・染付	白	25-100	
	613	SK2127	陶器 鉢	陶器 鉢	24.5	(1.8)				磨毛目	にぶい黄槽	C-88	肥前?
	614	SK2129	陶器 皿	陶器 皿		(1.7)	4.2			灰・灰輪	にぶい體	C-77	
	615	SK2129	陶器 鉢	陶器 鉢		(2.7)	8.9		幅4.05		にぶい黄槽	C-78	
	616	SK2072 A	陶器 指鉢	陶器 指鉢		(6.2)	7.8				にぶい體	C-18	跡目6条
	617	SK2076	陶器 鉢	陶器 鉢		(5.4)					にぶい體	C-12	砂目粗
	618	SK2149 b	陶器 香炉	陶器 香炉	14.6	(5.4)				灰輪	灰白	C-90	トナノ重
	619	SK2149	陶器 皿	陶器 皿	29.0	(4.9)				口灰輪	にぶい黄槽	C-92	SK2100と被合、九州?
120	621	SK2149	陶器 鉢	陶器 鉢	27.0	(33.4)	14.5	32.6		黄板塗布	灰白	C-1	越前

図	No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸葉・裝飾等	土色	采掘NO.	特記事項
	622	SK2149	陶器 甕	甕	24.0 (29.8)					鬼飯津布	灰白	C-93	越前、内田朽足、瀬付着
	623	SK2160	陶器 甕	甕	12.6 (1.8)					灰軸	にふい赤褐色	C-73	
	624	SK2160	陶器 埴輪	埴輪		(7.55)				鉄軸	にふい赤褐色	C-74	
120	625	SK2097	陶器 鉢	鉢		(5.7)				自然釉	灰白	C-15	加賀、中世
	626	SK2097 b	土器 土師器皿	土師器皿	10.8 (1.6)					体部磨り・ヨコナ子	褐色	C-16	石明、塚原い、油煙取付着
	627	SK1014	陶器 埴輪	埴輪	16.8 (6.1)	12.6				白泥	浅黄褐色	b-46	
	628	SD2018	陶器 埴輪	埴輪		(6.1)	12.6			にふい赤褐色	C-95	C-95	越前
	629	SD2006	陶器 鉢	鉢		(3.9)	5.6			細毛目	にふい赤褐色	C-98	
	630	SK2014 d	陶器 甕	甕		(5.1)	10.0			刷毛目	灰白	C-40	内田町き
	631	SK2014 c	土器 土師器皿	土師器皿	10.9 (1.8)					刷毛・鉄軸	白	C-41	
	632	SK2011 c	陶器 土師小皿	土師小皿	(2.2)	9.4				ヨコナ子	灰白	C-42	外郎塚付着
	633	SK1013	陶器 皿	皿	12.0 (2.5)	5.4	2.3			赤軸	赤褐色	b-1	砂目
	634	SK2162	磁器 碗	碗		(5.2)	5.2			透明軸・染付	灰白	C-75	
	635	SK2162	陶器 碗	碗		(2.9)	4.2			鉄軸	灰白	C-76	天目?
	636	SK1019	陶器 埴輪	埴輪		(13.6)	13.1			茶軸	浅黄褐色	b-48	19世紀?
	637	SK1019	陶器 埴輪	埴輪		(10.1)	7.6			口鉄軸	浅黄褐色	b-49	19世紀?
121	638	SE2014	陶器 埴輪	埴輪		(7.0)				口鉄軸	褐色	C-28	九州?
	639	SE2016 b	陶器 皿	皿	12.5 (3.0)	5.8	1.8			鉄軸	にふい赤褐色	C-29	輪花、越中瀬戸
	640	SK2054	磁器 碗	碗	11.1 (2.3)					鉄軸	灰白	C-48	
	641	SK2055	陶器 埴輪	埴輪		(5.0)				灰軸	にふい赤褐色	C-46	
	642	SK2055	陶器 甕	甕	18.7 (5.6)					鉄軸	褐色	C-47	肥前?
	643	SK2131	土器 土師器皿	土師器皿	8.6 (1.8)					浅黄褐色	浅黄褐色	C-72	灯明、油煙着
	644	SK2058 B	陶器 碗	碗	11.8 (5.6)	4.7	3.9			灰軸・鉄軸	白	C-49	
	645	SK2018	陶器 甕	甕	14.8 (6.8)					鉄軸・灰軸	にふい赤褐色	C-59	肥前?
	646	SK2039	磁器 皿	皿	12.8 (1.4)					透明軸・染付	灰白	C-54	
	647	SK2017A+B	陶器 鉢	鉢	23.8 (7.3)	10.2	5.3			灰軸	赤褐色	C-60	肥前、17世紀前半
	648	SK2016	磁器 蓋	蓋	5.6 (2.5)	0.9				色絵	灰白	25-97	再興九谷(吉田勝か)、19世紀
	649	SK1018	陶器 埴輪	埴輪	22.0 (7.5)	8.3				口鉄軸	にふい赤褐色	b-47	糸切坂、九州?
	650	SK2071	土器 土師器皿	土師器皿	9.8 (2.0)	1.45				浅黄褐色	白	C-21	
122	651	SD1013	磁器 皿	皿		(4.0)	7.7			透明軸・染付	白	24-185	肥前?
	652	SK2019	陶器 碗	碗	10.2 (6.8)	3.7	5.1			透明軸・染付	灰	C-61	陶形飛付、九州?
	653	SK2019	陶器 山形器	山形器		(15.5)				灰軸・鉄軸・ウノノ軸	灰白	C-62	大聖岳
	654	SK1039	磁器 碗	碗	9.4 (5.4)	3.9	3.8			透明軸・染付	白	24-183	瀬戸、19世紀後半
	655	SK1039	陶器 皿	皿	16.5 (3.1)	7.5	2.5			色絵	灰白	24-187	再興九谷、19世紀
	656	SK1039	陶器 火鉢	火鉢	21.0 (14.3)	21.7	16.5			外周漆塗り	浅黄褐色	25-88	聖厚し
	657	SK1039	陶器 土甕	土甕	6.9 (7.9)	6.1	6.9			鉄軸・鉄軸?白泥?	明灰黄	25-89	
123	658	SK1039	磁器 碗	碗	7.8 (4.0)	3.65	3.2			透明軸・染付色絵	白	25-90	再興九谷?
	659	SK1039	陶器 鉢	鉢	21.45 (10.4)	9.85	9.4			白土+灰陶直し	にふい赤褐色	b-39	再興九谷、19世紀
	660	SK1039	陶器 行平蓋	行平蓋	15.7 (4.8)	3.8				鉄軸・ウノノ軸?・飛び蓋	黄灰	b-40	再興九谷?

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	軸葉 / 裝飾等	土色	採掘 NO.	特記事項
125	661 SK1039	陶器	片平蓋	16.8 (0.8)					灰輪・環口縁	黄灰	b-41	柄型押し、再興九谷?
	662 SK1039	陶器	片口鉢	24.0 (1.3)	11.0	22			灰輪+灰輪流し	黄灰	b-42	再興九谷(若杉分)、19世紀
	663 SK1039	陶器	瓶		11.0	8.4			灰輪	灰白	b-43	底部磨書「二十」
	664 SK2010	陶器	酒鉢	31.6 (6.2)					灰輪	黄灰	C-5	瀬戸
	665 SK2010	陶器	小杯	6.3	2.5	3.1	2.05			灰白	25-92	再興九谷「九谷」蔵
	666 SK1054	土器	小杯	6.5	3.4	2.7	2.4		赤絵	灰白	b-38	保存倉
	667 SK1054	土器	茶碗	4.7	2.2	2.4	1.5			白	25-91	
	668 SK1050	磁器	碗	8.9	5.6	3.4	4.5		透明輪・染付	白	C-13	京焼模倣
	669 SK2079	陶器	碗		(2.2)	4.2			灰輪・鉄絵	灰白	a-256	瀬戸
	670 SD30	陶器	碗	12.0 (3.3)					灰輪	灰白	a-228	
	671 SD07	陶器	碗	9.8	7.4	5.4	6.4		灰北紐・灰輪	黄灰	a-227	
	672 SD07	陶器	徳利		(14.3)	6.8			刷毛目	灰黄	a-229	越前
673 SD07	陶器	壺		(8.25)					黄灰	R-19	灯明	
674 SD07	土器	土師器皿	11.0	1.85					黄灰	R-19	灯明	
675 SK64	磁器	皿	12.7	3.8	7.3	2.5		透明輪・染付	白	24-155		
676 SK64	磁器	碗(広底)	11.5	6.0	4.9	4.6		透明輪・染付	白	24-156		
677 SK64	磁器	碗	8.1	6.9	4.2			透明輪・赤絵	白	25-50	近代?	
678 SK81	陶器	火鉢?	15.6 (8.5)					灰輪	淡黄	a-200	型押し把手、融通し孔	
679 SK81	陶器	燗鉢	34.6 (14.5)	15.6				灰輪・磨輪	黄灰	a-199	底部磨書、再興九谷、19世紀	
680 SK81	陶器	灯明皿	11.75	2.25	4.7	1.75		灰輪	黄灰	a-201	油煙皿、再興九谷、19世紀	
681 SE1001	土器	碗	8.1	5.7	4.2	4.2		刷毛目	にぶい赤絵	25-85		
682 SE1001	土器	土師器皿	12.1 (1.7)						黄灰	b-50	灯明・油煙皿	
683 SD1001	陶器	鉢		4.18				指圧・ヨコナ子	黄灰	b-51	重書 27度	
684 SD1001	陶器	鉢	34.6	14.2	17.1				灰白	b-2	再興九谷(若杉分)、19世紀	
685 SD1001	陶器	鉢	21.8	11.3	9.0			灰輪・鉄輪流し	灰白	b-3	再興九谷(若杉分)、19世紀	
686 SD1001	陶器	鉢	20.8	7.9	8.1	5.5		灰輪	明国灰	b-4	蛇目輪刺ぎ、肥前?	
687 SD1001	陶器	鉢	20.4	8.8	8.9	8		刷毛目	灰	b-5	底部磨書、胎土目、九州?	
688 SD1001	陶器	鉢	16.2	5.4	6.1	6.85		灰輪	褐灰	b-6	蛇目輪刺ぎ、輪花	
689 SD1001	陶器	皿	11.5	3.3	4.9	2.3		灰輪	灰白	b-7	蛇目輪刺ぎ	
690 SD1001	陶器	燗鉢	33.0	11.5	11.4			口鉄輪	明赤褐	b-8	摩耗大、九州?	
691 SD1001	土器	土師器皿	8.4 (1.65)					指圧・ヨコナ子	黄灰	b-9	灯明・油煙皿	
692 SD1001	土器	土師器皿	11.6 (2.3)					指圧・ヨコナ子	黄灰	b-10	灯明・油煙皿	
693 SD1001	陶器	土瓶蓋	6.55 (0.85)					灰輪	にぶい赤絵	b-11	孔×1	
694 SD1002	陶器	鉢	17.8	5.15	6.7	4.25		刷毛目・鉄輪	にぶい赤絵	25-79	肥前?	
695 SD1002	陶器	鉢	20.9	5.2	7.3	3.8		鉄輪・灰輪	黄灰	25-80	内面目録	
696 SD1002	陶器	土瓶	7.4	9.4	6.65	8.2		白土・透形輪・染付	にぶい赤絵	25-81		
697 SD1002	陶器	碗	13.2	5.0	5.0	5.0		灰輪+鉄絵	白	b-12	肥前京焼風陶器	
698 SD1002	陶器	碗	9.4	5.8	4.3	4.85		灰輪+磨輪	黄灰	b-13	再興九谷、19世紀	
699 SD1002	土器	土師器皿	8.9	1.5	5.0			指圧・ヨコナ子	灰白	b-14	灯明・油煙皿	



図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 装飾等	胎土色	発源 NO.	特記事項
700	SD10003	陶器 土瓶	陶器 鉢	5.2	8.35	5.2			灰釉・赤絵	淡黄	25-82	京橋陶廠
701	SD10003	陶器 鉢	陶器 鉢	17.6	8.0	7.8			灰釉・筋部内面釉	淡黄釉	b-15	胎土目
702	SD10003	陶器 蓋	陶器 蓋	8.6	3.6		1.7		灰釉	淡黄釉	b-16	乳文1
703	SD10005	陶器 蓋	陶器 蓋	6.6	(1.75)				灰釉	灰白	b-17	再興九谷、19世紀
704	SD1011	陶器 灰皿	陶器 灰皿	(13.15)	10.7				灰釉	黄灰	b-18	把手付き
705	SD1011	陶器 行平鉢	陶器 鉢	14.7	8.8	6.6			灰釉・飛び釉	淡黄釉	b-19	再興九谷、19世紀
706	SD1011	陶器 鉢	陶器 鉢	17.5	8.2	7.2	7		灰釉・青磁釉	灰白	b-20	胎土目
707	SD1011	陶器 土瓶	陶器 土瓶	9.9	14.1	10.2	12.85		灰釉・黒釉流し	淡黄釉	b-21	再興九谷、19世紀
708	SD1011	陶器 火鉢	陶器 火鉢	(9.3)	18.2				にぶい黄釉	にぶい黄釉	b-22	内面面付着
709	SD1011	土器 土師器皿	土器 土師器皿	10.4	(1.9)				ヨコナデ	淡黄釉	b-23	名明、油煙痕
710	SD1011	陶器 榎木鉢	陶器 榎木鉢	12.3	8.5	7.8	7.6		灰釉	灰白	b-24	再興九谷、19世紀
711	SK1012	磁器 皿	磁器 皿	(1.05)	5.8				色絵	灰白	25-74	再興九谷(吉田屋か)、19世紀
712	SK1012	磁器 ボット	磁器 ボット	(6.4)	5.95	4.9			色絵	白	25-75	再興九谷、細谷製
713	SK1012	磁器 カップ	磁器 カップ	8.5	4.7	3.4	4.2		色絵	白	25-76	再興九谷、細谷製
714	SK1012	磁器 皿	磁器 皿	12.2	1.8	7.8	1.2		色絵	白	25-77	再興九谷、細谷製
715	SK1012	磁器 ボット	磁器 ボット	6.3	8.3	5.3	7.6		赤彩	白	25-78	再興九谷、細谷製
716	SK1037	陶器 鉢	陶器 鉢	10.4	6.2	5.4			黒釉?・飛び釉	褐斑	b-34	再興九谷、細谷製
717	SK1037	土器 土師器皿	土器 土師器皿	13.7	(2.7)				ヨコナデ	灰白	b-35	名明・油煙痕(一部)
718	SK1037	陶器 粟	陶器 粟	41.7	(11.6)				灰	灰	b-33	趣向、19世紀前半
719	SK1038	磁器 小壺	磁器 小壺	6.1	7.9	4.3			色絵	白	25-86	再興九谷(吉田屋か)、19世紀
720	SK1038	磁器 碗	磁器 碗	9.6	4.6	3.2	3.7		透明釉・赤絵	白	25-87	再興九谷?
721	SK1038	陶器 善骨茶碗	陶器 善骨茶碗	10.8	6.5	5.3	5.4		黒釉塗りのみ(徳成していない)	淡黄釉	b-36	再興九谷?
722	SK1038	陶器 蓋	陶器 蓋	7.8	3.1				白土・染付	褐灰	b-37	陶師保存
723	SK63	磁器 碗	陶器 碗	9.0	5.8	3.7	4.6		透明釉・染付	白	24-154	
724	SK63	陶器 碗(筒形)	陶器 碗(筒形)	9.6	7.4	5.1	6.3		透明釉	灰白	a-190	
725	SK63	陶器 灯明受皿	陶器 灯明受皿	(13.0)	13.4				灰赤	灰赤	a-191	内面平行線タタキ、配面?
726	SK63	陶器 碗	陶器 碗	2.0	5.6	1.5			灰赤	淡黄釉	a-192	油煙痕
727	SK1005	陶器 水鉢	陶器 水鉢	22.4	(12.8)				灰赤	淡黄	b-26	胎土は越前
728	SK1005	土器 土師器皿	土器 土師器皿	7.9	1.2	5.3			黄板塗布?	淡黄釉	b-27	灯前不使用
729	SK1005	陶器 碗	陶器 碗	8.7	5.9	4.2	4.7		卍・ヨコナデ	にぶい黄	b-30	裏付のみ裏筋
730	SK1005	陶器 蓋	陶器 蓋	10.6	2.8				灰釉	灰白	b-28	貫通しない孔あり
731	SK1013	陶器 火鉢	陶器 火鉢	22.05	20.1	21.8	16.4		灰釉	淡黄釉	b-44	再興九谷?
732	SK1013	陶器 土瓶蓋	陶器 土瓶蓋	16.4	4.6		3.1	天井径4	灰白	灰白	b-45	再興九谷?
733	SK1034	陶器 蓋	陶器 蓋	10.0	3.0		2.15	天井径4	透明釉・染付	白	24-184	肥前、19世紀
734	SK1055	陶器 鉢	陶器 鉢	27.5	(6.85)				透明釉・染付(刷り絵)	にぶい黄釉	25-63	肥前?
735	SK1055	磁器 最上層	磁器 最上層	6.9	7.1	7.2			透明釉・染付	白	25-62	近代?
736	SK1055	磁器 鉢	磁器 鉢	12.5	2.5	7.4	1.6		透明釉・染付	灰白	25-63	19世紀~
737	SK1055	磁器 鉢	磁器 鉢	11.8	5.05	4.3	4.0		透明釉・染付	白	25-64	19世紀~
738	SK1055	磁器 皿	磁器 皿	13.6	4.65	7.8	3.2		透明釉・染付	灰白	24-164	波臣見くらわんか皿か模倣?

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 裝飾等	胎土色	測頭 NO.	特記事項	
739	SX01 上層	磁器	大皿	(3.1)	11.0				透明釉・染付	灰白	24-188		
740	SX01 上層	磁器	皿	19.75	3.3	12.9	2.3		透明釉・染付	白	24-189		
130	741	SX01 上層	磁器	蓋	17.4	3.55	1.8		透明釉・染付	灰白	24-190		
742	SX01 上層	磁器	鉢	9.3	5.3	4.1	4.2		赤絵	灰白	24-191	再興九谷 (春日山園), 19 世紀前半	
743	SX01 上層	磁器	鉢	15.4	7.9	7.5			色絵	灰白	24-194	再興九谷 (吉田屋か), 19 世紀	
744	SX01 上層	磁器	皿	10.5	1.8	5.8			色絵	灰白	24-193	再興九谷 (吉田屋か), 19 世紀	
745	SX01 上層	磁器	天目台	2.7	6.1				色絵	灰白	24-195	再興九谷 (吉田屋か), 19 世紀	
746	SX01 上層	磁器	小皿	9.1	2.15	5.05	1.15		透明釉・染付	白	25-65		
747	SX01 上層	磁器	鉢	14.5	3.9	7.95			透明釉・染付	灰白	25-66	再興九谷?	
748	SX01 上層	磁器	鉢	16.4	7.0	7.55	5.8		透明釉・染付	白	25-67	再興九谷 (若杉分)	
749	SX01 上層	磁器	蓋	8.7	2.1	1.1			透明釉・染付	白	25-68		
750	SX01 上層	磁器	口口	6.4	5.5	3.5	4.05		色絵	白	25-69	再興九谷?	
131	751	SX01 上層	陶器	楕球	36.9	16.1	16.0		鉄釉・黒釉	淡黄	a-262	再興九谷 (若杉分), 19 世紀	
752	SX01 上層	陶器	碗	11.2	6.6	4.7	5.75		灰釉・黒釉・飛び釉	灰白	a-268		
753	SX01 上層	磁器	小杯	6.6	4.6	3.2	3.8		白磁	灰白	a-271		
754	SX01 上層	陶器	柳太鉢	8.8	4.1	6.0	3.2		鉄釉+ウツノ輪	黄灰	a-272	再興九谷?	
755	SX01 中層	磁器	繁油壺	3.3	9.4	5.9	8.0		透明釉・染付	灰白	24-167	肥前?	
756	SX01 中層	磁器	皿	9.2	2.45	4.8	1.65		透明釉・染付	白	24-166	再興九谷 (若杉分), 19 世紀	
757	SX01 中層	磁器	碗	9.4	5.1	4.0	4.0		透明釉・染付	白	24-168		
758	SX01 上層	陶器	湯たしんぼ?	13.2		(12.15)	縦幅 24.9・横幅 15.3		黄釉+ウツノ輪	淡橙	a-264	中比掾 (木片) 有り	
759	SX01 上層	陶器	壺	(28.6)	15.8				鉄釉	浅黄橙	a-284	底面黒書	
760	SX01 中層	磁器	口口	7.0	5.2	3.3	4.95		透明釉・染付	白	24-175		
132	761	SX01 中層	磁器	急須蓋	5.0	1.3	0.4		色絵	灰白	24-178	孔×1・再興九谷 (吉田屋か), 19 世紀	
762	SX01 中層	磁器	鉢	14.8	5.5	7.4	4.75		透明釉・染付	灰白	24-165	徳寺屋蓋	
763	SX01 中層	磁器	小杯	6.7	5.2	3.2			透明釉・染付	白	24-172		
764	SX01 中層	磁器	小杯	6.2	4.6	3.2	3.7		透明釉・染付	白	24-173		
765	SX01 上層	陶器	火鉢	20.7	20.4	22.1	17.6		灰釉	浅黄橙	a-285	底面黒書	
766	SX01 中層	磁器	皿	12.4	2.7	6.2	1.65		透明釉・染付	白	24-176		
767	SX01 中層	磁器	皿	13.8	3.0	8.3	2.5		透明釉・染付	白	24-179	肥前, 18 世紀	
768	SX01 中層	磁器	皿	13.9	2.8	8.7	2.4		透明釉・染付	灰白	24-180	肥前, 18 世紀	
769	SX01 中層	磁器	碗	9.7	4.8	3.7	3.85		透明釉・染付	白	25-70		
770	SX01 中層	磁器	口口	4.8	3.45	3.4	3.1		透明釉・染付	白	25-71	肥前, 18 世紀	
771	SX01 中層	陶器	碗	9.8	6.5	4.6	4.6		灰釉	灰白	a-266	泉本漆台	
772	SX01 中層	陶器	灯明受皿	11.2	2.5	4.4	2.55		灰釉	浅黄橙	a-269	俵付書	
773	SX01 中層	陶器	鉢	27.4	12.8	12.9			灰釉	淡黄	a-273	再興九谷 (若杉分), 19 世紀	
774	SX01 中層	陶器	鉢	19.2	9.4	8.3	8.2		灰釉	淡黄	a-275	底面黒書	
775	SX01 中層	陶器	大壺	53.5	(34.8)	19.4			灰釉	淡黄	a-263	越前	
134	776	SX01 中層	陶器	碗	9.1	7.2	4.2	5.2		灰釉 (黄緑・緑)	灰白	a-277	俵付のみ黒胎
777	SX01 中層	陶器	灯明皿	10.9	2.2	3.6			灰釉	淡黄	a-278	油屋飯	

図 No.	遺構	素材	器種	口径	器高	底径	見込高	他	釉薬 / 装飾等	胎土色	発掘 NO.	特記事項
778	SX01 中層	磁器	碗 (筒形)	7.8	6.3	5.4			灰釉・鉄釉 (文字)	灰白	a-279	
779	SX01 中層	陶器	火入	10.4	6.25	5.2	5.2		灰釉	灰白	a-280	肥前, 17 世紀後半
780	SX01 中層	陶器	鉢	17.8	9.9	8.2	8.4		灰釉・文様印刷	灰白	a-282	釉は青くガラス質)
781	SX01 下層	陶器	土鍋?	(10.55)	8.9	8.9			灰釉	黄灰	a-283	
134	782	SX01 下層	磁器	碗	9.2	6.5	4.6	5.3	透明釉・染付	白	24-169	
	783	SX01 下層	磁器	碗	8.4	4.5	3.2	3.4	透明釉・染付	灰白	24-171	瀬戸, 19 世紀
	784	SX01 下層	磁器	小杯	6.4	4.5	3.2	4.0	透明釉・染付	灰白	24-174	瀬戸産か
	785	SX02 下層	磁器	皿	13.9	2.6	6.5	2.05	透明釉・染付	白	24-192	形白いか、文様刷しい?, 漆掻ぎ
	786	SX03 下層	陶器	碗	10.2	7.1	5.0	4.9	灰釉	黄黄緑	a-287	瀬戸のみ置物
	787	SX04 下層	陶器	楕鉢	24.0	(8.9)			灰釉	黄黄緑	a-281	肥目細密、再興九谷 (若杉か)
	788	SX01 最下層	磁器	皿	13.25	2.4	6.6	1.3	透明釉・染付	白	25-72	肥前?
	789	SX01 中層	磁器	皿	(1.35)	5.9			透明釉・染付	灰白	24-181	肥前, 17 世紀前半
	790	SX02 中層	磁器	皿	6.2	1.1	3.7		透明釉・染付	白	24-177	肥前
	791	SX03 中層	陶器	楕鉢	33.8	13.05	11.8		口取釉	赤褐	a-265	九州?
	792	SX01 中層	磁器	碗	7.1	6.1	3.6	4.9	透明釉・染付	灰白	24-170	瀬戸, 19 世紀~
135	793	SX01 中層	陶器	鉢	21.0	5.5	8.6	4.7	灰釉・鉄絵	黄黄緑	25-1	瀬戸?
	794	SX01 中層	陶器	鉢	10.0	6.5	4.35	5.2	灰釉・色絵	にぶい赤緑	25-2	
	795	SX01 中層	磁器	茶碗?	4.7	4.0	5.35	3.25	赤絵	灰白	25-3	
	796	SX01 中層	磁器	碗	12.2	4.6	5.0	3.75	赤絵	灰白	25-4	京焼模倣?
	797	SX01 中層	磁器	蓋	9.6	3.0	2.1		透明釉・染付	白	25-5	肥前, 19 世紀
	798	SX01 中層	磁器	蓋物	14.4	7.9	9.0	7.1	透明釉・染付	白	25-58	肥前, 18 世紀~
	799	SX01 中層	磁器	鉢	14.4	5.6	8.0	4.0	青磁・透かし彫り・赤絵	白	25-56	徳島藩?
	800	SX01 中層	磁器	鉢	15.2	6.2	7.9	5.4	透明釉・染付	白	25-57	再興九谷 (若杉か), 19 世紀
	801	SX01 中層	磁器	段皿	11.85	4.9	7.1	4.15	透明釉・染付	白	25-59	備前~?
	802	SX01 中層	磁器	徳利	(11.8)	7.1			透明釉・染付	白	25-60	再興九谷 (若杉か), 19 世紀
136	803	SX01 中層	磁器	カップ	9.3	5.35	3.9	4.9	赤十金形	白	25-61	再興九谷、楕谷製
	804	SX01 中層	磁器	碗	8.6	5.8	5.45	5.1	赤十金形	白	25-73	
	805	SX01 中層	陶器	蓋	6.9	(2.5)			鉄釉	褐灰	a-270	つまみ欠
	806	SX01 中層	陶器	碗	12.0	6.2	4.6	5.5	灰釉	黄灰	a-276	
	807	SX01 中層	陶器	徳利	(14.8)				灰釉	黄灰	a-274	備前阿毛徳利模倣か
	808	SX01 中層	陶器	大甕	(33.1)	25.7			鉄釉・内面平行襷タタキ	黄灰	a-261	肥前
	809	包含層	磁器	水筒	5.4	14.45	4.8	8.95	赤十金形?	白	25-94	再興九谷、楕谷製
122	810	包含層	磁器	小カップ	5.0	6.5	3.5	(4.7)	赤十金形?	白	25-95	再興九谷、楕谷製
	811	包含層	磁器	皿	13.55	2.15	8.4		赤十金形?	白	25-96	再興九谷、楕谷製

第4表 瓦観察表

単位：cm

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	表面処理	全長	幅	厚	高	他	特記事項
137	1	SK03 a アゼ	E・F-02・03	17	軒丸瓦	黒釉					径 (5.9)	瓦頭部分粘土 1 層
	2	SX14 I W	G-06	13	軒丸瓦	燻			2.0		径 (5.7)	瓦頭部分粘土 2 層、 2 次被熱
	3	SX14 C 区	F-06	14	軒丸瓦	赤錆軸					径 (12.2)	瓦頭部分粘土 2 層、 2 次被熱
	4	SK04 A 区	E-02	20	軒棧瓦	赤錆軸	(2.0)	(19.7)				刻印「八」、八幡産
	5	SK41 アゼ上	D-08	24	軒棧瓦	赤錆軸			2.2		径 9.0	
	6	SK03 a アゼ上	E・F-02・03	18	軒棧瓦	赤錆軸	18.8	(27.0)	1.7	4.6		
	7	SK55 アゼ N	F・G-04・05	21	軒棧瓦	燻	32.9	(14.5)	2.1	4.7		
	8	SK1054B	F-25	3	軒棧瓦	赤錆軸			1.9		径 9.4	八幡産？
	9	SK64/SX01 上	E-09/D-09	25	軒棧瓦	赤錆軸	(17.0)	(16.1)	2.0	4.5		右端部用
	10	SK1037	E-26	1	軒棧瓦	赤錆軸	(17.2)	(11.9)	1.6	4.9		
138	11	SX01 上	D-10	5	軒棧瓦	赤錆軸	(5.5)	(19.5)	1.7	4.5		やや光沢あり
	12	SX01 上	D-10	6	軒棧瓦	赤錆軸	(3.1)	(13.2)	2.0	4.9		刻印「八」、 八幡産
	13	SX01 中	D-11	7	軒棧瓦	赤錆軸	(5.4)	(10.6)	1.7	4.8		平瓦部凸面無釉、 2 次被熱
	14	SX01 中	D-11	8	軒棧瓦	赤錆軸	(9.4)	(7.6)	1.9	4.7		
	15	SX01 中	FD-11	9	軒棧瓦	赤錆軸	(4.9)	(13.7)	2.0	5.1		
	16	SX01 中	E-11	10	軒棧瓦	赤錆軸	(6.7)	(9.9)	2.1	4.9		2 次被熱
	17	SE11A	H-03	16	面戸瓦	赤錆軸	10.9	15.7	1.8			刻印「天保之月？」
	18	SD02-7	D-02	15	特殊瓦	赤錆軸	(10.3)	(21.4)	1.95	(5.6)		右端部用？
	19	SK12	I-05	19	袖瓦	赤錆軸	(22.3)	(10.0)	1.8	5.1		右端部用
	20	SK37	F-06	23	特殊瓦	燻	(9.8)	(12.0)	2.1	5.9		軒先？
139	21	SX13b	F-05	12	平瓦	赤錆軸	25.6	(14.2)	1.9			刻印「り」、 2 次被熱、施軸雑
	22	SK157-2・5・6	I-09	26	平瓦	燻	(11.9)	23.2	2.0			刻印「上」
140	23	SX01 中	C-11	3	平瓦	赤錆軸	(15.3)	23.0	1.8			刻印「吉」
	24	SX01 中	E-11	11	平瓦	赤錆軸	(23.0)	(21.0)	2.1			凹面下端、 凸面無釉
141	25	SX01 上	C-11	1	棧瓦	赤錆軸	(12.7)	30.2	1.9			
140	26	SX01 上	D-10	4	棧瓦	赤錆軸	21.3	(17.6)	1.4			
139	27	SK37A	F-06	22	丸瓦	燻	(14.3)	(4.8)	(1.9)			布目
141	28	SX01 上	C-11	2	丸瓦	赤錆軸	26.6	15.3	1.8	7.9		布目、 刻印「ハタ？」
	29	SK1037-3	E-26	2	丸瓦	赤錆軸	(26.4)	10.5	1.8	8.5		内側叩き？ 2 次被熱

第5表 土人形等観察表

単位：cm

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種類	重量 (g)	法量	備考
1	SK30	D-07		G5	独索	16.5	直径 3.78	型押し
							孔径 0.45 厚 1.1	
2	SK42	D-04		G3	弧面	30.8	最大長 5.97	型押し、両側面に孔
							最大幅 4.02 厚 2.6	
142	3	SK03	E・F-02・03	G13	狛犬？	132.2	残存高 11.0	型合わせ、中空、招き猫？
							残存幅 11.4 残存長 6.62	
4	SK22	D-07		G7	女性	47.0	最大幅 3.58	型合わせ、中実、底部に φ 0.48cm の穴
							最大厚 2.76 残存長 5.68	
5	Sk22	D-08		G9	塔	37.3	最大幅 3.16	型合わせ、中実、底部に φ 0.35cm の穴
							最大厚 3.09	

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種類	重量 (g)	法量	備考
143	6	SK22	D-08	G35	男性	49.5	残存長 6.96 最大幅 4.4 最大厚 2.54	型合わせ、中実、底部にφ 0.38cmの穴
	7	SD06	F・G-04	G35	狛犬	7.5	残存長 2.6 最大幅 1.25 最大厚 2.45	型合わせ、中実、底部にφ 0.25cmの穴
	8	SX13	G-04・05	A296	狛犬?	38.0	最大縦長 5.7 最大横長 5.25 残存高 2.0	型合わせ、中空
	9	SK111	F-11	G31	天神	97.2	残存長 5.16 最大幅 9.26 最大厚 2.92	型合わせ、中実
	10	SE2018	H-24	C31	女性	3.12	長 6.9 最大幅 2.9 厚 2.7	石膏流し込み? 彩色(黒・緑・赤)
	11	SK2079	J-26・27	C14	泥面子	5.8	残存長 2.5 残存幅 3.19 最大厚 1.35	型押し、鼠と米俵か?
	12	SK1005	E-17	B29	鳩	7.5	高さ 2.6 最大幅 2.6 最大厚 3.7	型合わせ、底部に穴
	13	SK1012	F-22	B32	女性	27.5	残存長 6.52 最大幅 5.26 最大厚 1.63	型合わせ、中実、2次のな比熱

第6表 石製品(硯)観察表

単位: cm

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	長	幅	厚さ	重量 (g)	特記事項
143	1	SK03 b アゼ内下層	E・F-02・03	4	硯	(15.35)	7.95	1.55	333.4	上端欠損
	2	SD02A 下層	D-02	6	硯	15.0	7.43	1.92	306.3	
	3	SD02A 下層	D-02	7	硯	15.2	5.95	2.2	341.8	
	4	SX12C 上層	G・H-03	3	硯	(8.5)	6.0	1.6	(83.0)	上部欠損
	5	SD08 アゼ内	F-06	1	硯	(18.8)	7.55	3.8	(652.3)	上端欠損
144	6	SK24B 中層	E-06	2	硯	(14.4)	7.55	(1.87)	297.8	上端欠損
	7	SK2001	G-15	5	硯	(7.4)	(5.2)	1.9	100.6	上部欠損

第7表 石製品観察表

単位: cm

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	長	幅	厚	高	重量 (g)	特記事項
144	8	SK30C アゼ下層	D-07	7	行火(蓋)	18.4	11.3		(4.0)	(476.0)	煤付着、凝灰岩
	9	SK21	C-03	13	臈部材	20.6	12.75	4.9~6.0		1509.3	煤付着、凝灰岩
	10	SK03D 中層フシヨク 2	F-03	1	不明部材	7.4	4.0		3.3~4.1	129.0	煤付着、凝灰岩
	11	SK03D 中層フシヨク	E・F-02・03	2	不明部材	(14.6)	(10.0)		(3.1~4.8)	(1017.2)	窟? 煤付着 凝灰岩
145	12	SX12d II N	G-03	32	行火	25.0	18.4		14.1	(2239.8)	スカシ4箇所、 煤付着、凝灰岩
	13	SD13 V S	H-03	34	石塔(ホソ)	9.1	6.3	下径 4.2		(380.1)	凝灰岩
	14	SE11	H-03	42	不明部材	(9.9)	8.3	5.8		(456.0)	凝灰岩
	15	SX13E	G・H-04	26	臈部材	(16.0)	(8.7)	(9.1)		(963.7)	煤付着、凝灰岩
146	SX14 III N 下	F-06	30	行火	22.3	16.2		12.6	(1913.5)	煤付着、凝灰岩	
145	SX16 アゼ	F-07	28	鉢	(15.4)	22.4		6.6	(1139.4)	凝灰岩	
146	18	SD32b アゼ	H-08	38	行火(蓋)	(10.0)	(12.4)		3.8	(217.6)	煤付着、凝灰岩
	19	SE16	H・I-10.11	43	石塔部材	径 13.3		6.1		1133.4	凝灰岩

図 No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	長	幅	厚	高	重量 (g)	特記事項
146	20 SK112b	F-10	8	行火 (蓋)	20.5	14.1		3.9	679.6	煤付着、凝灰岩
	21 SK153	G-10	18	円盤	9.6	8.85	2.1		181.4	凝灰岩
147	22 SK96	G-11	3	不明部材	(10.9)	7.1	3.1		(310.1)	凝灰岩
	23 SK96	G-11	12	石塔部材		5.7		12.8	302.0	凝灰岩

第8表 木製品 (漆器) 観察表

単位: cm

図 No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	口径	底径	器高	見込高	特記事項
147	1 SK10B 中層アゼ内	B・C・7・8	24	蓋		6.3	(3.5)		3/4 片、外内黒
	2 SK30B アゼ内上層	D-07	1	椀	11.6		(5.45)	4.5	外黒、内赤、外面紋様赤
	3 SK30B	D-07	11	鉢?	15.2	10.8	8.6	(7.39)	外内黒、孔×1
	4 SK30A	D-07	19	皿	12.3		3.2	(2.25)	1/2 片、外内黒、見込に紋様赤
	5 SK03B 中層	E・F-02・03	5	椀		5.6	(3.2)		外黒内赤、外面金紋
	6 SK03D 中層フシヨク	F-03	9	筒型容器		7.0	(4.45)		1/3 片、外内黒、外面紋様赤
	7 SK03D 中層フシヨク	F-03	10	皿		5.9	(2.9)		外内黒、漆ハガレ
	8 SK03 中層	E・F-02・03	18	蓋	16.8		2.3		外内黒、つまみ中央赤
	9 SK03C 中層フシヨク	F-03	21	椀		5.8	(4.2)		外内黒、外面口口捲き縁加飾
	10 SK22B 中層	D-07	13	蓋	14.0	6.0	4.05	2.7	1/2 片、外内赤、外内紋様黒
	11 SX12dS 下層	G-04	12	椀(高台)		(6.5)	(6.4)		外黒、内赤、外面紋様赤
12 SK06	D・E-03	14	椀	12.85	8.7	5.7	(4.25)	2/3 片、外赤、底黒、内漆ハガレ、孔×1?	
13 SK47	D-07	2	浅椀			(3.45)		外黒、内赤、外面紋様赤	
14 SK47	D-07	4	浅椀		(5.2)	(3.2)		外黒、内赤、外面草花紋赤	
15 SD13F 下層	H-03	20	椀	12.0	5.6	3.9	(3.25)	2/3 片、外内黒	
16 SK24 上層	E-06	7-1	椀	9.6	5.6	4.3	(3.62)	外黒、内赤、外面金紋	
17 SK24 上層	E-06	7-2	蓋		4.6	(3.1)		外黒、内赤、内外面金紋	
18 SK24A 上層	E-06	22	合子	9.4	9.6	3.3		1/3 片、外内黒	
19 SX14 下層 2	G-06	15	椀(足高)	(12.2)		(5.6)	(1.7)	外黒、内赤、外面扇紋赤	
20 SX14 皿 N 下層	F-06	25	椀	(12.0)	6.1	(4.7)	(3.29)	外黒、内赤	
21 SK61 下層	E-06	16	椀		5.3	(4.1)		外黒、内赤、外面紋様赤	
22 SK61 下層	E-06	17	椀(高台)	12.1		(8.0)	(4.85)	外黒、内赤	
23 SX15N	G-07	3	皿	(10.1)	5.3	(2.35)	(1.2)	外黒、内赤、外面紋様赤	
24 SX15S	G-07	8	浅椀	11.4	(6.1)	(3.9)	3.4	2/3 片、外黒、内赤、外面紋様赤	
25 SX16b	F-08	23	浅椀		(6.4)	(4.0)		外黒、内赤、外面紋様赤	
26 SE14 最下層	F-09	6	大皿	20.2	10.8	5.0		1/8 片、外内黒	
27 SE1001 井戸内	E・F-16	3	蓋	12.5	(3.5)	(2.7)	(1.62)	3/4 片、外内赤、内面金紋	
28 SE1001 井戸内	E・F-16	4	折敷?					最大長 5.1・最大幅 4.6、椀目、外内黒	
29 SD1001	E-19	7	椀	11.3	(5.7)	(4.5)	3.65	2/3 片、外黒、内赤	
30 SK1013	E・F-25	2・5	大型椀	17.2	10.5	10.1		外内黒	
31 SK1013	E・F-25	9	合子	3.8	4.1	1.35	0.95	外黒、内赤	
32 SK1013	E・F-25	6	椀		6.7	(4.4)		3/4 片、外内赤	
33 SX01 黒層	F-25	1	椀		(6.2)	(4.5)		外黒、内赤、外面紋様赤	
34 SX01b	F-26	8	椀(高台)		6.6	(4.25)		2/3 片、外内黒、厚底	

第9表 木製品 (曲物等) 観察表

単位: cm

図 No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	径	長	高	深	厚	孔径	特記事項
148	35 SK30A	D-07	2	樽上板?		(15.4)	椀部 2.1		1.1	2.3	凸部あり、板目、椀付
149	36 SK22A	D-07	6	曲物(底板)	12.0				0.6		「×」番書、椀目
	37 SK22C	C・D-6~8	1	曲物	長径 28.2 短径 22.4		10.2~ 10.4	9.7			楕円形、底板椀目?、内部に罫?あり
	38 SX14 皿 S 上層	F-06	4	曲物(底板)	(22.5)				0.4~ 0.6		漆付着、椀目、上面端ホソ
	39 SK24 B 区下層	E-06	3	底板?		(23.7)			0.8		板目、目釘痕 6箇所
	40 SK24 アゼ内上層	E-06	5	底板	(22.5)				0.85		桶か?、漆付着、椀目、目釘痕 7箇所

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	径	長	高	深	厚	孔径	特記事項
149	41	SX01 上層	E-26	1	曲物	長径 10.4 短径 9.7		(6.2)	(5.5)	0.67		漆が固まりで付着=容器、 底板柁目か?

第 10 表 木製品 (櫛等) 観察表

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	長	幅	厚	歯数	特記事項
150	42	SK25	E-06	1	櫛	(8.0)	3.2	0.65	(37)	2/3 片
	43	SX15N	G-07	3	櫛	12.1	5.3	0.55	復元 (78)	漆塗り、黒塗り赤絵
	44	SX16a	F-07	2	櫛	(8.6)	5.4	0.9	(62)	1/2 片
	45	SX01 上層	E-26	3	櫛	12.9	3.1	0.35	復元 (39)	籠甲製
	46	SX01	E-26	1	籠状木製品?	(17.8)	(3.08)	0.4	(17)	漆塗り (光沢なし)
	47	包含層 1 下	E-20	2	籠状木製品?	(19.8)	3.5	0.45	復元 (24)	漆塗り (光沢なし)

第 11 表 木製品 (箸) 観察表

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	長	幅	厚	特記事項
150	48	SK30D	D-07	3	寸胴	25.6	0.6	0.55	長、角
	49	SK30D	D-07	4	片口	24.3	0.85	0.7	短、角、やや太い
	50	SX14 W	G-06	13	—	(14.8)	0.55	0.55	破片、角
	51	SX14 II EW アゼ	FG-06	9	片口	24.6	0.5	0.5	略丸
	52	SX14 II EW アゼ	FG-06	10	片口	22.2	0.6	0.55	角
	53	SX14 II EW アゼ	FG-06	11	片口	22.2	0.6	0.6	先端やや欠
	54	SX14 II NS アゼ	G-06	12	寸胴	21.8	0.6	0.6	略丸
	55	SK49	E-08	5	片口	24.5	0.6	0.45	正角
	56	SK49	E-08	6	片口	24.1	0.6	0.5	略丸
	57	SK49	E-08	7	寸胴	23.9	0.6	0.6	略丸
	58	SX18 I	I-11	8	両口	25.0	0.65	0.6	角
	59	SX01b	F-26	1	—	(16.8)	0.6	0.6	破片、角
	60	SX01 落込み	F-24	2	両口	26.1	0.55	0.4	角
	61	SX01 落込み	F-24	3	片口	25.5	0.6	0.7	略丸
	62	SX01 落込み	F-24	4	両口	24.5	0.7	0.7	角
151	63	SX01 落込み	F-24	5	両口	23.5	0.7	0.7	角

第 12 表 木製品 (杓子等) 観察表

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	長	幅	厚	高	特記事項
151	64	SK06	D・E-03	1	杓子	(24.8)	杓部 10.2 柄部 1.6	杓部 0.8 柄部 0.8		追柁目、一本作り
	65	SD200 No.4	C・H-21	2	杓子	75.5	杓部 16.1 柄部 0.5 ~ 2.9	杓部 0.6 柄部 2.1		別作り、杓内部に円礫
152	69	SX01 上層	E-25	-	手桶	(56.4)	桶上端 18.6 桶下端 11.6		全高 22.5 桶高 19.5	焼印、柄は竹材

第 13 表 木製品 (不明品) 観察表

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	長	幅	厚	特記事項
151	66	SE14 最下層	F-09	1	片口?	25.0	0.9	0.9	箸にしては太い
	67	SE14 最下層	F-09	2		(18.1)	1.05	1.05	漆付着、樹皮付

第 14 表 木製品 (編物) 観察表

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	法量	特記事項
151	68	SD2005No.7	C・H-20	3	編物	横 (48.7) 縦 (35.4)	土ごと取り上げ

第15表 木製品(下駄) 観察表

単位: cm

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	最大 全高	台 長	幅	厚	歯幅	特記事項
152	70	SK10B 下層アゼ	B・C-7・8	5	露卯	(11.7)	23.3	8.4	4.5	(14.0)	丸型、摩耗小、後孔歯後、 2孔歯連結
	71	SK10B 下層アゼ	B・C-7・8	6	陰卯	(7.2)	23.5	8.1	4.25	(11.7)	丸型、摩耗中、後孔歯前、?
	72	SK10B 下層アゼ	B・C-7・8	7	露卯	(6.3)	23.75	8.3	4.5	(10.2)	丸型、摩耗大、後孔歯後、 2孔歯連結、指部分陥没
	73	SK10B 中層アゼ	B・C-7・8	25	露卯		23.9	8.4	4.0		丸型、歯なし、後孔歯前、 1孔歯連結、焼印
	74	SK42 下層	D-04	11	露卯	7.6	23.3	8.45	4.3	12.8	角型、摩耗大、後孔歯後、 2孔歯連結、指部分陥没
153	75	SK03b アゼ中層	E・F-02・ 03	9	露卯?	(6.75)	22.2	8.3	3.95	(7.2)	丸型、摩耗大、後孔歯後、 2孔歯連結
	76	SK22D アゼ下層	C・D-6 ~ 8	10	露卯	(7.3)	23.0	8.9	4.6	(12.7)	角型、摩耗中、後孔歯後、 2孔歯連結
	77	SK22D 下層	C・D-6 ~ 8	13	露卯?	8.2	22.0	7.5	3.7	11.7	丸型、摩耗中、後孔歯後、 2孔歯連結、指部分陥没
	78	SK22B	D-07	23	陰卯	8.5				15.4	歯厚 2.2、特大歯、榫目、摩耗中
	79	SD02B	D-02	24	露卯	3.75	14.6	7.0	2.9	(7.4)	丸型、摩耗大、後孔歯後、 釘連結、表赤漆、裏黒漆、榫目
	80	SD06	H-04	8	露卯	(6.45)	23.2	8.55	3.9	(7.7)	角型、摩耗大、後孔歯後、 2孔歯連結、指部分陥没
	81	SX12d II S	G-04	12	露卯	9.0	18.1	6.4	13.3	14.2	角型?、摩耗小、後孔歯後、 2孔歯連結、指部分陥没
	82	SX12d II S	G-04	14	露卯	7.4	23.7	8.45	3.7	11.65	角型、摩耗中、後孔歯後、 2孔歯連結、指部分陥没
	83	SK09 下層	C-05	15	連歯	(2.8)	(20.25)	9.4	1.15	(9.1)	丸型?、摩耗大、後孔歯前
	84	SD13 V S	H-03	19	露卯		17.4	6.1	2.8		丸型、歯なし、後孔歯後、 1孔歯連結、指部分陥没、榫目
154	85	SD13 V S	H-03	20	露卯	5.8	17.7	6.3	3.49	7.4	丸型、摩耗大、後孔歯後、1孔歯 連結、指部分陥没、榫目、84と対
	86	SK24 アゼ上層	E-06	18	露卯	8.8	23.7	8.68	4.25	(13.8)	角型、摩耗大、後孔歯後、 2孔歯連結、指部分陥没、榫目
	87	SK26	E-06	17	露卯	7.3	22.6	8.8	4.3	16.0	丸型、摩耗中、後孔歯後、 2孔歯連結、榫目
	88	SX14 I b	G-06	1	露卯	8.1	24.0	8.9	4.3	12.8	角型、摩耗大、後孔歯後、 2孔歯連結、指部分陥没、 後歯目釘補修
	89	SX14 I b	G-06	3	露卯	(6.6)	21.85	7.2	13.25	(10.5)	角型、摩耗大、後孔歯後、 2孔歯連結
	90	SX15N	G-07	4	露卯	(5.15)	15.1	10.3	4.2	(9.9)	角型、摩耗大、後孔歯後、 2孔歯連結
155	91	SE14 最下層	F-09	21	露卯	4.0	23.9	(8.0)	3.9		丸型、歯なし、後孔歯前、1孔歯 連結、指部分陥没、榫目、焼印
	92	SE14 最下層	F-09	22	例り	3.2	21.9	7.5			丸型、摩耗大、板目
	93	SX01 上層	C-11	2	陰卯	(5.6)	22.9	9.7	4.21	(10.8)	角型、摩耗大、後孔歯後、釘連結
	94	SX01 中層	C-11	16	露卯	(4.6)	21.5	8.75	3.75	9.62	丸型、摩耗大、後孔歯後、 1孔歯連結、指部分陥没、榫目、 歯に小石目立つ
	95	SX1012	E-24	4	連歯	(2.9)	19.2	9.5	1.0		丸型、摩耗大、後孔歯前、榫目、 左側片減り
	96	SK1038-3	E-26	5	陰卯	6.0	21.6	10.0	4.2	11.4	丸型、摩耗大、後孔歯後、釘連結、 榫目、表面薄く漆塗布



図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	最大全高	台長	幅	厚	歯幅	特記事項
156	97	SK1013	E・F-25	6	連歯	2.0	(22.2)	(10.0)	1.4		丸型、摩耗大、後孔歯前、柁目、裏面黒書?
	98	SK1013	E・F-25	9	連歯	2.9	22.5	10.0	1.6		丸型、摩耗大、後孔歯前、指部分陥没、板目
	99	SK1039b	F・G-25・26	3	朝り	(3.0)	(22.2)	(8.8)			丸型、摩耗大、後孔歯前、板目
	100	SK1039b	F・G-25・26	7	陰卯	6.8	23.3	8.87	4.57	10.0	角型、摩耗大、後孔歯後、釘連結、柁目
	101	SK1039b	F・G-25・26	8	朝り	(3.6)	(22.0)	(9.0)			丸型、摩耗大、後孔歯前、板目
	102	SK1039b	F・G-25・26	11	露卯	8.2	22.0	6.8	3.9	8.7	角型、摩耗中、後孔歯後、2孔歯連結、板目
	103	SX01 落込み	F-24	1	露卯	(10.5)	23.3	8.25	3.8	(12.65)	角型?、摩耗小、後孔なし(鼻緒の固定法不明)、2孔歯連結
157	104	SX01 上	E-26	10	陰卯	6.3	19.4	8.0	3.2	9.9	丸型、摩耗中、後孔歯後、釘連結、指部分陥没、板目、記号印字
	105	SX01 トレンチ内	E-19	12	露卯	(7.3)	(14.4)	7.0	3.8	(7.1)	角型、摩耗小、後孔歯前、2孔歯連結、指部分陥没、柁目

第16表 銭貨観察表

単位: cm

図	No.	出土遺構	想定区域名	銭貨名	重量(g)	a	b	c	d	初辨年代	備考
158	1	SK04	智願寺	寛永通寶	3.85	2.80	2.78	0.83	0.83	1769年?	四文銭
	2	SK03	智願寺	寛永通寶	2.65	2.32	2.32	0.74	0.71	1639年?	
	3	SK03	智願寺	寛永通寶	2.09	2.28	2.28	0.76	0.76	1639年?	細字
	4	SK22	智願寺	寛永通寶	1.83	2.33	2.34	0.77	0.75	1639年?	細字
	5	E-02Gr	智願寺	天保通寶	18.68	4.94	3.28	1.05	1.05	1835年?	
	6	SD13	町屋1	寛永通寶	1.79	2.24	2.28	0.80	0.80	1639年?	
	7	SD13	町屋1	寛永通寶	3.09	2.45	2.45	0.76	0.76	1639年?	錆び大
	8	E-05Gr	町屋2	寛永通寶	1.24	2.36	2.41	0.78	0.75	1639年?	
	9	E-05Gr	町屋2	寛永通寶	2.30	2.35	2.33	0.76	0.75	1639年?	細字
	10	E-05Gr	町屋2	寛永通寶	2.60	2.32	2.36	0.75	0.75	1639年?	細字
	11	石列	町屋3	寛永通寶	2.21	2.35	2.34	0.71	0.71	1639年?	
	12	SE13	町屋6	弘武通寶	2.48	2.27	2.24	0.71	0.69	1368年?	明銭
	13	SK2041	町屋7	寛永通寶	3.27	2.40	2.40	0.71	0.71	1639年?	
	14	F-16Gr	町屋7	寛永通寶	2.42	2.35	2.36	0.76	0.76	1639年?	
	15	E-19Gr	町屋8	寛永通寶	3.25	2.58	2.58	0.74	0.74	1639年?	
	16	F-23Gr	町屋9	寛永通寶	2.86	2.47	2.47	0.72	0.69	1639年?	
	17	S D 07	道路	寛永通寶	1.83	2.33	2.34	0.77	0.75	1639年?	細字
	18	SK63	泥川	寛永通寶	3.43	2.52	2.52	0.73	0.73	1668年?	新寛永文字
	19	SD1001	泥川	寛永通寶	1.85	2.22	2.21	0.77	0.75	1741年?	新寛永元字?
	20	SD1001	泥川	寛永通寶	3.60	2.49	2.49	0.74	0.73	1668年?	新寛永文字
	21	SX01(E-19Gr)	泥川	寛永通寶	2.61	2.40	2.38	0.70	0.70	1639年?	
	22	SX01(E-23Gr)	泥川	寛永通寶	2.73	2.30	2.33	0.65	0.69	1639年?	
	23	SX01(E-23Gr)	泥川	紹聖元寶	3.21	2.36	2.36	0.80	0.82	1094年?	北宋銭、行書
	24	SX01上層(F-23Gr)	泥川	寛永通寶	1.85	2.33	2.33	0.77	0.77	1639年?	細字
	25	SX01上層(F-24Gr)	泥川	寛永通寶	3.55	2.41	2.39	0.70	0.70	1639年?	
	26	SX01上層(E-25Gr)	泥川	寛永通寶	0.75	-	2.26	-	0.75	1639年?	半銭、細字
	27	SX01上層(E-25Gr)	泥川	一銭	7.11	2.81	2.81	-	-	1877年?	
	28	SX01上層(E-26Gr)	泥川	文久永寶	3.85	2.70	2.74	0.90	0.87	1863年?	四文銭
	29	SX01(F-26Gr)	泥川	寛永通寶	2.26	2.26	2.27	0.81	0.81	1639年?	
	30	C-09Gr	泥川	寛永通寶	2.91	2.56	2.56	0.72	0.69	1639年?	
	31	E-20Gr	泥川	寛永通寶	1.97	2.31	2.31	0.72	0.73	1639年?	
	32	D-22Gr	泥川	寛永通寶	3.60	2.45	2.45	0.69	0.71	1639年?	
	33	E-23Gr	泥川	平銭	3.33	2.18	2.18	-	-	1886年?	

第 17 表 金属器観察表

単位: cm

図	No.	遺構	Gr	実測 No.	種別	長	幅	高さ	口径	見込高	厚	重量 (g)	特記事項
160	1	SK03D 中層フシヨク	E・F- 02・03	1	煙管 雁首	5.1	1.35	1.7	1.25		0.1	10.39	
	2	SE13	H-11	4	煙管 雁首	(9.0)	(1.0)	(3.45)			0.05	(6.32)	先端欠損
	3	SD13 アゼ上層	H-04	2	煙管 吸口	6.3	軸 0.75 口 0.2				0.75	5.00	
	4	包含層 1 層	H-04	3	煙管 吸口	5.8	軸 1.0 口 0.3				0.05	2.53	
	5	SD02B	D-02	1	斧	16.85	0.95				0.15	7.77	双足
	6	SD02B	D-02	1	金具	3.9	6.5				0.35	7.29	短径 2.6
	7	SD13e 中層フシヨク	I-03	3	引き手	4.0	2.9	0.9			0.05	5.79	孔 3
	8	SX14 I W	G-06	2	引き手	6.4	6.0	0.7			0.05	9.20	内長 4.0、 短径 3.2、 孔 2
161	9	SK03D 中層フシヨク	E・F- 02・03	5	皿			(1.3)	11.6		0.25	(18.02)	
	10	SK47 下層	D-07	4	皿			(1.5)	11.9		0.2	(64.50)	
	11	SX13a	F-05	2	包丁	(15.0)	5.0				刃 0.15 ~ 0.7 柄 0.9	(92.39)	
	12	SX14 I b	G-06	1	包丁	(9.0)	5.6				0.1 ~ 0.3	(36.81)	
	13	包含層 1 層	G-10	3	包丁	19.1	5.0				0.15 ~ 0.7	(243.88)	
	14	SK2075 C 区	J-22	1	包丁	(18.5)	柄 2.1 刃 4.05				0.15 ~ 0.3	-	
	15	SX01B 下層	E-26	1	包丁	柄 10.9 刃 (6.3)	柄 3.8 刃 (4.5)				0.1 ~ 0.45	-	柄短径 2.8
	16	SX01 下層	E-26	2	鉄鍋			(7.3)	20.7	(6.9)	0.4	(82.31)	
	17	精査	D-16	1	羽釜			(8.6)	11.6	(8.4)	0.4	(490.5)	羽部径 15.9
	18	包含層 2 層	D-07	1	火箸	(26.9)	1.0					(52.95)	断面径 0.6
	19	SK22C	C・D-6 ~ 8	5	十能 (柄部)	6.95	3.4	2.2			0.1	33.20	釘孔×3、 孔×1
20	SK24A 中層	E-06	7	十能	(5.7)	9.2	1.5			皿 0.1 ~ 0.2 把手 1.1	(40.54)		
21	SX15S	G-07	6	十能	(8.45)	7.2	1.2			0.05	(16.98)	孔×1、 軸径 1.35	
162	22	SD13E 中層	H-03	6	金網?	(9.7)	(3.65)	1.05			0.25 ~ 0.8	(57.06)	
	23	SD15A	G・H-04	2	鉄板?	(7.7)	6.4	0.55			0.25	(47.35)	
	24	SK-24A	E-06	1	灯芯立	5.9	4.8	4.8			0.1	10.53	台径 4.2
	25	SX14C	F-06	1	把手	(11.7)	2.9	0.95			0.7	(66.22)	孔×1
	26	SD02A 上層	D-02	2	釘?	(9.0)	0.7				0.75	(16.72)	頭欠損
	27	SX13F	F・G-04	3	釘	(4.1)	頭部 0.6 先端 0.15 体部 0.45				0.5	(2.26)	先端欠損
	28	SK24B	E-06	4	釘	(10.7)	頭部 1.75 体部 1.4 先端 0.7				0.6	(39.56)	先端欠損

## 第4章 自然科学的分析

大川遺跡の自然科学分析

バリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

大川遺跡（石川県小松市大川町地内）は、梯川下流の左岸に位置する小松城下町の街道沿いに並ぶ町屋跡であることが確認されている。

本報告では、近世（17世紀前半頃）の井戸跡や土坑覆土の水洗選別により得られた種実、昆虫および貝類の同定を実施し、当時の遺跡近辺の古環境や食事情に関する検討を行った。

### 1. 試料

試料は、遺構覆土（土壌 500cc:1 遺構 250cc を 2 試料分）の段階別の①フローティング法、② 2mm メッシュ篩、③ 1mm メッシュ篩により採取・分類された、種実遺体、貝類、昆虫遺体等である。以下に各試料の概要を記す。

#### (1) 種実遺体

種実遺体は、A区 SE13-1 層（76 個）・2 層（141 個）、SE14-1 層（11 個）、C区 SE01- 板上層（128 個）、SE12- 下層（5 個）、SE13- 下層（135 個）、SK-03c 区中層（フショク 2）F-03（2 個）、SK35A G-06（5 個）、SK37A F-06（4 個）、SK-74A G-07（1 個）、SX-14 II EW アゼ G-06（1 個）、B区 SK-1013（1 個）、C区 SD-2003 J-19（1 個）、SK-52 下層（18 個）、SK57 下層（23 個）より採取された 552 個からなる。これらの試料は、大きさによる細分（種子 1～6）がなされた状態にある。試料の詳細は結果（表 1）とともに表示した。

#### (2) 昆虫遺体

昆虫遺体は、C区 SE01- 板上層から採取された 1 試料である。

#### (3) 貝類

貝類は、A区 SK-03・SK-10A・SK-22・SD-03、C区 SK-52 下層 - ①・②から採取された 9 試料である。C区 SK52 下層の 2 試料のみ水浸状態であり、他の試料は乾燥した状態にある。試料の詳細は結果（表 4）とともに表示した。

### 2. 分析方法

#### (1) 種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実遺体を拾い出す。種実遺体の同定は、現生標本と石川（1994）、中山ほか（2000）等の図鑑類を参考に実施し、個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、「-」（ハイフオン）で結んで表示する。分析後は、種実遺体を分類群毎に容器に入れて保管する。水浸の状態の種実遺体には、約 70% のエタノール溶液を入れて保管する。

#### (2) 昆虫同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する。昆虫遺体の同定は、形態的特徴より実施する。分析後は、乾燥を防ぐために昆虫遺体を水入りの管瓶で保管する。なお、同定・解析は、松本浩一氏（東京農業大学）の協力を得ている。

#### (3) 貝同定

一部の試料については、一般作用接着剤を用いて接着を行う。試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、貝

類の生態性等については、奥谷（2000）を参考とする。

### 3. 結果

#### (1) 種実同定

同定結果およびデジタルノグスによる計測値を表1に示す。また、遺構別の種実出土状況を表2に示す。

全試料を通じて、裸子植物2分類群（マツ属複雑管束亜属、ヒノキ）7個、被子植物32分類群（オニグルミ、コナラ属、クワ属、スモモ、モモ、カラスザンショウ、サンショウ、イボクサ、エノコログサ属、アサ、ギシギシ属、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、ボントクタデ近似種、オオケタデ近似種、タデ属（網目・2面平滑）、ソバ、ハコベ類、マツナ属、ヒユ属、アブラナ属、エノキグサ、スズメウリ、雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、メロン類、アカネ科、エゴマ、シソ属—イヌコウジュ属、ナス、ナス科）423個、計430個の種実と、ヒノキの枝条が1個の、合計431個が同定された。

種実や枝条以外では、草本の茎?が1個、不明植物（花序片?、芽、木材片?を含む）が73個、昆虫類が24個、ミミズ類の卵殻?が17個、土粒が3個、岩片が1個、不明の物質が2個の、計121個が確認された。

#### a) 栽培種

種実遺体群のうち、栽培種は、スモモの核が1個（B区SK-1013）、モモの核が10個（C区SE01-板直上層、A区SK-03c区中層（フショク2）F-03、SK35A G-06、SK37A F-06）、アサの果実が1個（A区SE13-2層）、オオケタデ（近似種）の果実が1個（A区SE13-2層）、ソバの果実が4個（A区SE13-1層、2層）、アブラナ属の種子が159個（A区SE13-1層、2層、C区SE01-板直上層、SK57-下層）、マクワ・シロウリ型の種子が20個（A区SE13-1層、2層、C区SE01-板直上層、SK-52下層、SK57-下層）、雑草メロン型の種子が1個（A区SE13-2層）、メロン類の種子が1個（A区SE13-1層）、エゴマの果実が28個（A区SE13-1層、2層、下層）、シソ属（—イヌコウジュ属）の果実が4個（A区SE13-2層、SE14-1層、C区SE01-板直上層）、ナスの種子が6個（A区SE13-1層、C区SK-52下層、SK57-下層）の、計236個が確認された。栽培種は、種実遺体群全体の5割以上を占める。

以下に、本分析で確認された栽培種各分類群の形態的特徴等を記す。

#### ・スモモ (*Prunus salicina* Lindley) バラ科サクラ属

核（内果皮）は灰褐色、長さ13.3mm、幅10.6mm、厚さ6.8mmのレンズ状広楕円体。頂部はやや尖り、基部は切形で丸い臍点がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。内果皮は厚く硬く、表面には浅い凹みが見られる。

#### ・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核（内果皮）は灰褐色、やや扁平な広楕円体。最小個体は長さ23.1mm、残存幅18.1mm、残存厚さ13.9mm（A区SK35A G-06）。最大個体は長さ33.6mm、幅20.3mm、厚さ14.3mm（A区SK35A G-06）。頂部が尖る個体や丸みを帯びた個体などがみられる。基部は切形で、中央部に湾入した臍点がある。背面正中線上に細い縦隆条が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。縫合線に沿って割れた半分以下の破片や、縫合線上にネズミ類による食痕と考えられる円形の孔をもつ個体が見られる。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。表面が摩耗する個体もみられる。核内面は平滑で、1個の種子が入る長さ18～23mm、幅10～10.6mm程度の楕円状の窪みがある。

#### ・アサ (*Cannabis sativa* L.) クワ科アサ属

果実は灰褐色。長さ4mm、幅3mm、厚さ2mm程度の歪な広卵形で、一側面は鈍稜のある狭卵形で他方は稜をなす。出土果実は、稜に沿って割れた頂部が残る半分未満の破片（1/5片）で、残存長さ3.3mm、残存幅3.8mm。両端は切形で、頂部に径0.6mm程度の楕円形の突起がある。果皮はやや厚く、断面は櫛状。表面は粗面で葉脈状網目模様がある。







表1. 種実測定結果 (4)

試料名	税関	産地	分類群	部位	状態	個数	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	備考
C/K/S13-下層-①	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形	10	1.13	1.1	0.6	
C/K/S13-下層-②	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		2.12	1.1	0.5	
C/K/S13-下層-③	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		3.12	1.0	0.6	
C/K/S13-下層-④	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		4.11	1.0	0.7	
C/K/S13-下層-⑤	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		5.12	1.1	0.6	
C/K/S13-下層-⑥	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		6.12	1.0	0.6	
C/K/S13-下層-⑦	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		7.13	1.0	0.7	
C/K/S13-下層-⑧	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		8.13	1.1	0.8	
C/K/S13-下層-⑨	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		9.12	1.0	0.8	
C/K/S13-下層-⑩	1mm	種子②	ハコベ属	種子	完形		10.13	1.2	0.8	
C/K/S13-下層-⑪	1mm	種子②	不明植物	-	-	1	-	-	-	
C/K/S13-下層-⑫	1mm	種子③	イヌタデ近縁種	果実	完形	1	2.4	1.6	1.3	2尾残存
C/K/S13-下層-⑬	1mm	種子③	イヌタデ近縁種	果実	完形	5	12.7	1.7	1.1	
C/K/S13-下層-⑭	1mm	種子③	イヌタデ近縁種	果実	完形		3.18	1.2	1.1	
C/K/S13-下層-⑮	1mm	種子③	イヌタデ近縁種	果実	完形		3.22	1.3	1.2	
C/K/S13-下層-⑯	1mm	種子③	イヌタデ近縁種	果実	完形		4.22	1.1	1.1	
C/K/S13-下層-⑰	1mm	種子③	イヌタデ近縁種	果実	完形		5.22	1.2	1.2	
C/K/S13-下層-⑱	1mm	種子③	イヌタデ近縁種	果実	完形	2	12.3	1.2	1.1	
C/K/S13-下層-⑲	1mm	種子③	イヌタデ近縁種	果実	完形		2.22	1.1	1.0	
C/K/S13-下層-⑳	1mm	種子③	ヒユ属	果実	完形	6	11.8	1.2	0.0	
C/K/S13-下層-㉑	1mm	種子③	ヒユ属	果実	完形		2.17	1.1	0.0	
C/K/S13-下層-㉒	1mm	種子③	ヒユ属	果実	完形		3.12	1.2	0.0	
C/K/S13-下層-㉓	1mm	種子③	ヒユ属	果実	完形		4.15	1.1	0.0	
C/K/S13-下層-㉔	1mm	種子③	ヒユ属	果実	完形		5.15	1.1	0.0	
C/K/S13-下層-㉕	1mm	種子③	ヒユ属	果実	完形		6.16	1.0	0.0	
C/K/S13-下層-㉖	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	2	-	-	-	
C/K/S13-下層-㉗	1mm	種子④	マンショウ	種子	破片	1	2.0	-	-	
C/K/S13-下層-㉘	1mm	種子④	マンショウ	種子	破片	3	-	-	-	
C/K/SK-52下層-①	フロロ	種子④	イヌタデ近縁種	果実	破片	2	3.2	2.0	1.0	結合して完形1個体
C/K/SK-52下層-②	2mm	種子④	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-③	1mm	種子①	マツノ属植物管胞束属	種子	破片	1	8.0	2.1	2.2	*
C/K/SK-52下層-④	1mm	種子②	エノキグサ	種子	破片	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑤	フロロ	種子①	ナス	種子	完形	1	3.0	3.4	0.8	
C/K/SK-52下層-⑥	2mm	種子①	マクワ・シロウリ型	種子	完形	1	6.7	3.1	1.5	
C/K/SK-52下層-⑦	1mm	種子①	エノキグサ	種子	完形	2	1.3	1.2	1.1	
C/K/SK-52下層-⑧	1mm	種子①	エノキグサ	種子	完形	2	2.12	1.1	1.0	
C/K/SK-52下層-⑨	1mm	種子①	エノキグサ	種子	破片	5	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑩	1mm	種子②	不明植物	-	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑪	1mm	種子②	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑫	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑬	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑭	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑮	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑯	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑰	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑱	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑲	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-⑳	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉑	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉒	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉓	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉔	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉕	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉖	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉗	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉘	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
C/K/SK-52下層-㉙	1mm	種子③	ヒユ属?	胚殻?	-	1	-	-	-	
A/E/SK-03c 区中層 (フシオク 29F-0)			オニダルミ	核	半片	1	29.0	22.6	12.3	+
A/E/SK-03c 区中層 (フシオク 29F-03)			オニダルミ	核	半片	1	26.4	18.6	7.4	+
A/E/SK35A-G-06			オニダルミ	核	完形	1	33.6	20.3	14.3	
A/E/SK35A-G-08			オニダルミ	核	完形	1	30.1	21.3	14.7	
A/E/SK35A-G-09			オニダルミ	核	完形	1	30.2	19.4	13.6	
A/E/SK35A-G-06			オニダルミ	核	完形	1	27.7	18.9	14.3	+
A/E/SK35A-G-06			オニダルミ	核	半片	1	31.6	21.1	7.8	+
A/E/SK37A-F-06			オニダルミ	核	完形	1	27.4	19.7	19.4	+
A/E/SK37A-F-06			オニダルミ	核	完形	1	23.4	14.9	13.7	+
A/E/SK37A-F-06			オニダルミ	核	完形	0	25.5	18.0	14.1	+
A/E/SK37A-F-06			オニダルミ	核	完形	1	23.1	18.1	13.9	+
A/E/SK-74A-G-07			オニダルミ	核	完形	1	27.2	23.1	23.2	+
A/E/SK-14 B 区アザギG-06			オニダルミ	核	破片	1	28.1	24.5	12.5	+
B/E/SK-1013			スモモ	核	完形	1	13.3	10.6	6.8	
C/K/SD-2003-119			オニダルミ	核	完形	1	32.5	26.9	15.9	+

\*計測値はデジタルノギスによる

## ・オオケタデ近縁種 (Perciscaria cf. pilosa (Roxb.) Kitag.) タデ科イヌタデ属

果実は黒褐色、長さ3.9mm、幅3.4mm、厚さ1.4mmのやや偏平な広皮針体。頂部は尖り、花柱基部が残る。基部は切形で、灰褐色で別組織の萼が残る。果皮表面は平滑で、背面の正中線には低い隆条、その両側に浅い凹みがある。腹面は全体が浅く凹む。

## ・ソバ (Fagopyrum esculentum Moench) タデ科ソバ属



果皮は灰褐色。完形果実は、径4～5mmの稜が鋭く尖る三稜状広卵体で基部に萼がある。出土果皮は稜に沿って割れた1/3片未満で、残存長5.8mm、残存幅4.2mm。果皮表面は粗面で、浅く細い横筋状模様がある。

・アブラナ属 (Brassica) アブラナ科

種子は赤褐色、長さ1.5～2.4mm、幅1.5～2.2mm、厚さ1.0～1.9mmの偏球体。基部は窪み、褐色の臍がある。種皮は2種皮性で、外種皮の内表皮が肥厚・硬化する外種皮型種子である。種皮表面には縦長の網目模様がある。2個 (A区 SE13-2層-①、C区 SK57-下層-①) の種子内部には、白色の胚が残存する。

・メロン類 (Cucumis melo L.) ウリ科キュウリ属

種子は淡～黄灰褐色、偏平な狭倒皮針形。長さは5.9～7.9mm、幅は2.7～4.2mm、厚さは0.8～1.7mmと、藤下(1984)の基準による小粒の雑草メロン型(長さ6.1mm未満)が1個、中粒のマクワ・シロウリ型(長さ6.1～8.0mm)が20個確認された。種皮表面には縦長の細胞が密に配列する。

・エゴマ (Perilla frutescens (L.) Britt. var. japonica Hara) シソ科シソ属

果実は暗灰褐色、長さ1.8～2.4mm、幅1.4～2.2mm、厚さ1.3～1.8mmの倒広卵体。果実基部には径0.7mmの大きな着点部があり、舌状に突出する。果皮は柔らかく、表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

シソ属には、栽培種で軟実のエゴマと、硬実のシソのほかに、硬実の雑草型エゴマがあり、雑草型エゴマの果実の大きさは、エゴマとシソの中間型を示す(新田,2001)。

遺跡出土果実における硬実と軟実の区別は難しいが、本分析では、笠原(1982)の基準(長さ1.4～1.5mm、幅1.1～1.2mm)をシソ、長さ2.0～2.8mm、幅1.8～2.5mm(エゴマ)や中山ほか(2000)の計測値を参考に、径1.8mm以上の果皮が柔らかい果実をエゴマとしている。

・シソ属 (Perilla) -イヌコウジュ属 (Mosla) シソ科

果実は灰褐色、長さ1.3～1.4mm、幅1.2～1.3mm、厚さは0.8～1.1mmの倒広卵体。果実基部は舌状に突出し、着点部は不明瞭である。果皮はエゴマよりも硬く、表面には浅く大きく不規則な網目模様がある。

栽培種のシソ属と、野生種のイヌコウジュ属の果実は、大きさの変異が連続的である。本分析では、エゴマよりも小型で果皮が硬い果実をシソ属-イヌコウジュ属としている。

・ナス (Solanum melongena L.) ナス科ナス属

種子は灰褐色、長さ2.2～3.0mm、幅2.7～3.5mm、厚さ0.6～1.0mmの偏平で歪な腎臓形。基部はやや肥厚し、くびれた部分に臍がある。種皮表面には微細な星型状網目模様が臍から同心円状に発達する。

b) 栽培種を除く分類群

栽培種を除いた分類群は、木本は、高木になる常緑針葉樹のマツ属複雑管束亜属やヒノキ、高木になる落葉広葉樹のオニグルミ、クワ属およびカラスザンショウ、高木になる落葉または常緑広葉樹のコナラ属、低木になる落葉広葉樹のサンショウが確認された。

草本は、抽水植物(根が水に固着し、植物体の一部が水面を突き抜けて空気中に出る植物)のイボクサ、湿った場所に生育するヤナギタデ近似種、ポントクタデ近似種、スズメウリや、やや乾いた場所に生育するエノコログサ属、ギシギシ属、イヌタデ近似種、タデ属、ハコベ類、ヒユ属、エノキグサ、アカネ科、ナス科、海辺の砂地に生育するマツナ属などが確認された。

c) 遺構別種実出土状況

以下に、遺構別の種実遺体の出土状況を記す(表2)。

<A区 SE13-1層、2層>

1層からは、栽培種のソバが2個、アブラナ属が57個、マクワ・シロウリ型が5個、メロン類が1個、エゴマが7個、ナスが2個の、計74個と、木本のヒノキの種子が1個、枝条が1個の、合計76個が確認された。

表2.種実出土状況

分類群	部位(状態)	A区										B区		C区		合計
		SE13		SE14	SK03	SK35A	SK37A	SK74A	SK14	SK1013	SK003	SK01	SK13	SK52	SK57	
		1層	2層	1層	F-03	G-06	F-06	G-07	G-06	SK1013	J-10	植上層	下層	下層	下層	
栽培種																
スモモ	核	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1
モモ	核	-	-	-	1	5	3	-	-	-	1	-	-	-	-	10
アサ	果実	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
オオケタデ近似種	果実	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ソバ	果実	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
アブラナ属	種子	57	97	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	4
マクワ・シロウリ型	種子	5	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	8	20
雑草メロン型	種子	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
メロン類	種子	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
エゴマ	果実	7	10	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	28
シソ属-イヌコウジュ属	果実	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4
ナス	種子	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	6
その他の木本																
マツ属緑青亜属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	2
ヒノキ	芽葉	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
	種子	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
	炭化	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
オニグルミ	核	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	核(リス類食痕)	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	-	3
	核(ネズミ類食痕)	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
コナラ属	炭化学果	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
タデ属	核	-	-	-	-	-	-	-	-	12	1	-	-	-	-	4
カラスザンショウ	種子	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
ザンショウ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	3
その他の草本																
イボクサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
エノキグサ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
ゴシキソ属	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1
イヌタデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	-	19
ヤナギタデ近似種	果実	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2	-	-	10
ボントクダデ近似種	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	4
タデ属(雑草)	果実	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2
タデ属(2層平層)	果実	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	2
ハコベ類	種子	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	23	-	-	-	26
マツナ属	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	-	-	4
ヒス属	果胞	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	6
	果胞・種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
エノキグサ	種子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	-	-	-	23
スズナウリ	種子	-	1	1	-	-	-	-	-	-	12	31	6	-	-	53
アカネ科	核	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2
ナス科	種子	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
合計																
栽培種		74	118	1	1	5	3	-	-	1	-	5	11	2	15	236
その他の木本		2	7	-	1	-	1	1	1	-	1	15	2	1	4	36
その他の草本		-	7	3	4	2	5	4	1	1	1	45	114	10	-	159
合計		76	132	4	2	5	4	1	1	1	1	65	127	13	19	431

注)表中の数字は、土壌500ccに含まれる種実の個数を示す

2層からは、栽培種のアサが1個、オオケタデ近似種が1個、ソバが2個、アブラナ属が97個、マクワ・シロウリ型が5個、雑草メロン型が1個、エゴマが10個の、計118個と、木本のヒノキが4個、コナラ属の炭化した子葉が1個、カラスザンショウが2個、草本のヤナギタデ近似種が3個、タデ属が1個、ハコベ類が2個、エノキグサが1個の、合計132個が確認された。

< A区 SE14-1層 >

栽培種のシソ属(イヌコウジュ属)が1個と、草本のエノキグサが1個、ナス科が2個の、計4個が確認された。

< A区 SK-03c区中層(フシヨク2) F-03 >

栽培種のモモが1個と、木本のオニグルミが1個の、計2個が確認された。

< A区 SK35A G-06 >

栽培種のモモが5個確認された。

< A区 SK37A F-06 >

栽培種のモモが3個と、リス類による食痕があるオニグルミが1個の、計4個が確認された。

< A区 SK-74A G-07 >

オニグルミが1個確認され、リス類による食痕がみられる。

< A区 SX-14 G-06 >

オニグルミが1個確認され、ネズミ類による食痕がみられる。

< B区 SK-1013 >

栽培種のスモモが1個確認された。

< C区 SD-2003 J-19 >

オニグルミが1個確認され、リス類による食痕がみられる。

< C区 SE01 板直上層 >

栽培種のスモモ、アブラナ属、マクワ・シロウリ型が各1個、シソ属（—イヌコウジュ属）が1個の、計5個と、木本のマツ属複雑管束亜属が1個、クワ属が12個、サンショウが2個、草本7分類群（ギシギシ属、ポントクタデ近似種、ハコベ類、マツナ属、エノキグサ、スズメウリ、アカネ科）25個の、合計45個が確認された。

< C区 SE13 下層 >

栽培種のエゴマが11個と、木本のクワ属が1個、サンショウが1個、草本10分類群（イボクサ、エノコログサ属、イヌタデ近似種、ヤナギタデ近似種、タデ属（綱目・2面平滑）、ハコベ類、マツナ属、ヒユ属、エノキグサ）114個の、合計127個が確認された。

< C区 SK-52 下層 >

栽培種のマクワ・シロウリ型が1個、ナスが1個と、木本の複雑管束亜属が1個、草本のヤナギタデ近似種が2個、エノキグサが8個の、合計13個が確認された。

< C区 SK57 下層 >

栽培種のアブラナ属が4個、マクワ・シロウリ型が8個、ナスが3個の計15個と、木本のクワ属が4個の、合計19個が確認された。

(2) 昆虫同定

C区 SE01-板上層より出土した昆虫遺体1点は、オオゴミムシ（*Lesticus magnus*：コウチュウ目オサムシ科）の左前翅に同定された。

(3) 貝同定

各遺構より検出された種類は、腹足綱2種類（アワビ類・アカニシ）、二枚貝綱3種類（マガキ・ヤマトシジミ・ハマグリ類）である（表3）。同定結果を表4に示す。また、以下に遺構別の出土状況を示す。

< C区 SK-52 下層 - ①・② >

ヤマトシジミの完形殻がみられる。①が右殻、②が左殻であり、これらは同一個体である。殻長32.26mm、殻高29.82mmを測る。なお、①には、左右不明の殻頂部の破片や殻片などが含まれる。

< A区 SK-03 a-a' アゼ内上層 >

マガキの右殻である。現殻長28mm前後を測る。

< A区 SK-03 b-b' アゼ内上層 >

アワビ類の破片である。

< A区 F-03Gr. SK-03 C区中層（フショク2） >

マガキとハマグリ類がみられる。マガキは、右殻の破片である。殻長61mm前後、殻高105mm前後を測る。ハマグリ類は、殻の破片である。被熱を受けている。

< A区 SK-03d 下層 >

マガキの左殻である。表面には、フジツボ類が付着する。

< A区 SK-10A >

貝殻の破片である。比較的大型の貝類とみられる。

< A区 D-07Gr SK-22 >

アカニシの殻である。体層部が破損する。被熱を受けている。

< A区 H-03Gr SD-03 F区中層 >

イタボガキ科の可能性のある破片である。被熱を受けている。

表3.貝類遺体分類群一覧

腹足綱	Class	Gastropoda
腹足亜綱	Subclass	Prosobranchia
古腹足目	Order	Vetigastropoda
		ミミガイ科 Family Helicidae
		アワビ類 Helicis sp.
新腹足目	Order	Neogastropoda
		アツキボイ科 Family Muricidae
		レイシガイ科 Subfamily Rapanae
		アカニシ Rapana venosa
二枚貝綱	Class	Bivalvia
扇形亜綱	Subclass	Pterionophila
カキ目	Order	Ostreoida
		カキ目目 Suborder Ostreina
		イタボガキ科 Family Ostreidae
		マガキ Crassostrea gigas
異腹足綱	Order	Heterodonta
		マルスダレガイ目 Order Veneroida
		シジミ科 Family Carditidae
		ヤマトシジミ Carditica japonica
		マルスダレガイ科 Family Veneridae
		ハマグリ類 Meretrix sp.

表4. 貝類同定結果

区	試料名称	種類	部位	左右	形態	数量	特徴	備考	
A区	SK-03	ヒメアザミの上層	マザキ	殻	右	破片	1	殻殻面 28土	
A区	SK-03	ヒメアザミの上層	アワビ類	殻		破片	2+		
A区	P-03G	SK-03 中層(フシホケ)	マザキ	殻	左	破片	1+	殻面 61土、殻高 105土	
			ハマグリ類	殻		破片	1+	○	
A区	SK-03d	下層	マザキ	殻	左	破片	1	フシホケ類	
A区	SK-10A		貝類			破片	1		
A区	D-07G	SK-22	アカニシ			殻	1	○	
A区	H-03G	SK-03	マタボガキ科?			破片	1	○	
A区		SK-52	ヤマトシジミ	殻	右	完母	1		
C区		下層-①	ヤマトシジミ	殻		殻面部	1	殻面部片有	
C区		SK-52	下層-②	ヤマトシジミ	殻	左	完母	1	①右部と同一個体、殻長 32.26、殻高 29.82

## 4. 考察

## (1) 出土種実および貝類からみた食料事情

近世の井戸跡等からは計431個が確認されたが、栽培種236個と種実遺体全体の5割以上を占めるという結果が得られ、遺構別ではA区SE13(1層、2層)が192個と最も多く出土した。A区SE13は、スモモとモモを除くすべての栽培種(アサ、オオケタデ(近似種)、ソバ、アブラナ属、雑草メロン型、マクワ・シロウリ型、メロン類、エゴマ、シソ属(一イヌコウジュ属)、ナス)が確認されており、種類も豊富であるという特徴が窺える。

B区SK-1013から出土したスモモ、A区SK-03、SK35A、SK37AとC区SE01から出土したモモは、果実や種子が食用、薬用、祭祀等に、花が観賞用に利用される。A区SE13から出土したアサは、果実が食用や油料等に利用され、茎からとれる繊維は衣料や縄用等に利用される。A区SE13から出土したエゴマ、A区SE13、SE14、C区SE01から出土したシソ属(一イヌコウジュ属)は、果実が食用や油料に利用される。A区SE13から出土したソバ、A区SE13、C区SK-52、SK57から出土したナスは、果実が食用に利用される。

A区SE13、C区SE01、SK-52、SK57から出土したメロン類は、果実が食用に利用される。出土種子の大半は中粒マクワ・シロウリ型で、A区SE13から小粒の雑草メロン型が1個のみ確認された。

A区SE13、C区SE01、SK57から出土したアブラナ属は、日本には自生のものはないが、多くの主要な野菜などの栽培植物(アブラナ、カブ、カラシナ、コマツナ等)が含まれ、種子が香辛料や油料に、花が観賞用に、葉、茎、根が食用等に利用される。ただし、アブラナ属は、雑種起源や地域改良種(ノザワナ、ミズナ等)もあり、さらに種名が判然としないものが多いため、出土種子の詳細な種類の特定には至らなかった。

これらの出土した栽培種の多くが食用できる分類群であることから、当時利用された植物質食料を反映していると考えられる。なお、A区SE13から出土したオオケタデ(近似種)は、清水編(2003)によれば、東～南アジア原産で、鑑賞用として江戸時代より栽培され、また野生化しているとされる。本試料の出土から、本遺跡周辺には、オオケタデが既に渡来し、栽培されていた可能性がある。

また、土坑や溝跡から出土した貝類も、いずれも食用できるアワビ類、アカニシ、マガキ、ヤマトシジミ、ハマグリ類であった。出土貝類の生息域は、アワビ類が岩礁地、アカニシが水深30m以浅の砂泥底、マガキが汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底・泥底、ヤマトシジミが河口の汽水域の砂底、ハマグリ類が潮間帯下部から水深20mの砂泥底ないし砂底などに生息するとされている。いずれも町屋跡内の遺構から出土していることから、食用とされた貝類に由来すると考えられる。なお、SK-03bから出土したハマグリ類、SK-22から出土したアカニシは一部黒色を呈しており、SD-03から出土したイタボガキ科とみられる破片も表面に発泡が観察された。また、大型の殻であるアカニシは体層部が破損する状況が確認された。これらの状況は、加熱や可食部である身を取り出す際に打ち割るなどの調理時の痕跡の可能性が考えられる。

## (2) 古環境

栽培種を除いた種実遺体群は、草本類主体の種類組成を示す。草本類は、A区SE13、SE14、C区SE01、SE13、SK-52から確認され、C区SE13が大半を占める。5遺構からは、イボクサ、ヤナギタデ(近似種)、ポントクタデ(近似種)、スズメウリなどの水湿地生植物や、明るく開けた、やや乾いた場所に生育するエノコログサ属、ギシギシ属、イヌタデ近似種、タデ属、ハコベ類、ヒユ属、エノキ

グサ、アカネ科、ナス科、海辺の砂地に生育するマツナ属が確認された。これらは、当時の調査区（町屋）周辺の草地環境を示すと考えられ、水湿地等の存在も窺える。なお、C区 SE01 から出土したオオゴミムシは、日本全土に分布し、平地の草地・荒地・河川敷などに極めて普通の種であることから、上述した草本類が生育する近辺に生息していたと考えられる。

一方、木本では、C区 SE01、SK-52 から出土したマツ属複雑管束亜属は、日当たりの良い海岸の砂浜や岩上などに生育する常緑高木のクロマツ、または、山地の尾根筋等の土壌の痩せたところや乾燥地に生育する常緑高木のアカマツに由来する可能性がある。A区 SE13 から球果と種子、枝条が出土したヒノキは、尾根や岩地などの比較的土壌が薄い乾燥した場所に生育する常緑高木である。

A区 SK-03、SK37A、SK-74A、SX-14 と C区 SD-2003 から出土したオニグルミは、川沿いなどの湿り気の多い場所に生育する落葉高木である。A区 SE13 から出土したコナラ属は、山地や丘陵などに生育する落葉または常緑高木である。C区 SE01、SE13、SK57 から出土したクワ属、A区 SE13 から出土したカラスザンショウ、C区 SE01、SE13 から出土したサンショウは、森林の林縁部などの明るく開けた場所に生育する陽樹である。これらの樹種は、城下町内における植栽の可能性も含めて、本遺跡周辺および梯川流域の林分やその林縁に生育していたと考えられる。なお、オニグルミは核内部の子葉が、コナラ属は子葉がアク抜きすれば食用可能である。クワ属は果実が食用可能で、サンショウは果実や葉が香辛料に利用可能である。これらの可食種実のうち、オニグルミ、クワ属、サンショウには、人による直接の利用の痕跡は認められなかったが、コナラ属の子葉は炭化していることから、何らかの理由により火を受けたと考えられる。また、オニグルミには、リス類やネズミ類による食痕も確認されたことから、これらの動物の存在も推定される。

#### 引用文献

- 藤下典之,1984,出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法.古文化財の自然科学的研究,古文化 財編集委員会編,同朋舎,638-654.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 笠原安夫,1982,鳥浜貝塚の植物種実の検出とエゴマ・シソ種実タール状塊について.鳥浜貝塚 1980年度発掘 調査概報・研究の成果—縄文前期を主とする低湿地遺跡の調査 2—,福井県教育委員会,65-87.
- 中山至大・井之口希秀・南谷 忠志,2000,日本植物種子図鑑,東北大学出版会,642p.
- 新田みゆき,2001,シソとエゴマの分化と多様性,栽培植物の自然史—野生植物と人類の共進化—,山口裕文・島本義也編,北海道大学図書刊行会,165-175.
- 奥谷喬司・窪守恒己・黒住耐二・斎藤 寛・佐々木猛智・土田英治・土屋光太郎・長谷川和範・濱谷 巖・速水 格・堀 成夫・松隈明彦,2000,日本近海産貝類図鑑,東海大学出版会,1173p.
- 清水 建美編,2003,日本の野生植物,株式会社平凡社,337p.

※分析委託原稿の表及び図版番号は、報告書における番号とは独立したものとなっている。

なお、掲載の都合上、写真図版は巻末図版内取めてある。

## 第5章 総括

はじめに

今回の調査結果で得られた資料に対し、時間的制約もあり、十分な検討を行えたわけではない。よって、ここでは若干の補足説明を行うことで総括に代えたい。

### 1. 町屋区画について

町屋の区画想定については、その根拠となる遺構は報告文中に示したとおりである。その多くは、上層部分での痕跡を頼りに判断しており、町屋形成期の区画へそのまま遡るわけではない。SD14のように想定区画を横断する溝もあり、異なる状況が予想される。

次に、遺物の接合関係などから判明した、町屋地区の状況を述べたい。寛永17年(1640)の前田利常入城時前後の町屋整備期の造成痕とみられるのが、SX30である。肥前の碗や越中瀬戸がまとも土出している遺構である。それと接合関係にあるのがSD36・SK153であり初期遺構の可能性が高い。いぶし瓦片のみが出土したSK157も同じ頃であろう。次に、19世紀前半まで下る可能性のある造成行為だが、町屋1地区の整地、すなわちSD13の埋め立てと、町屋2地区におけるSX13の整地、町屋3地区におけるSX14の整地は、連動していた可能性がある。町屋1地区形成時に町屋2・3地区も再整地したのであろうか。また、誓願寺地区のSD03は、そのまま調査区外に延びて、町屋1地区の北側区画を示す遺構である可能性が高い。

次に、誓願寺地区(おそらく転出後)に設置された大型廃棄土坑SK22であるが、町屋2・3地区からの廃棄行為が確認された。また、SK03とは同時に存在した期間があった可能性が高い。そのSK03へは、町屋2地区からの廃棄行為が確認されている。大型廃棄土坑は、2区画程度の廃棄行為を担ったのであろう。

誓願寺地区と町屋地区を分けるSD06について、調査では攪乱が激しく、SD07と連結していたかどうか判断できなかったが、遺物の接合関係から、想定通り1本に繋がっていたと考えられる。

九谷焼の分布についてみると、いわゆる古九谷は現在のところ確認されていない。再興九谷諸窯では、若杉(八幡若杉含む)は調査区全域に分布しており、どの町屋の住人も所有していたようだ。吉田屋とみられる色絵製品は偏りがみられ、町屋10・11の南寄り区画から各1点の出土であり、他は泥川からの出土である。春日山窯も1点泥川より出土している。

また、町屋6区画の井戸SE13堆積土壌内の分析から、蔬菜や瓜などの栽培種の種子が多種類検出されている。少なくともこの区画では、空閑地において畑作が行われていたと考えられる。町屋敷背面の井戸は、畑作灌漑用の可能性もあろう。また、貝類からは、時には牡蠣や鮑を食していたことも判明している。

### 2. 木製品の所有と町屋

次に主要木製品の所有率をもとに、町屋の様相をみてみたい。分析対象は、漆器、曲物・樽・桶、櫛、下駄である。以下製品ごとに上位3地区を述べる。漆器(総数222点)は、誓願寺地区55点(28%)、町屋3地区26点(12%)、町屋9地区13点(6%)である。曲物等(総数265点)は、誓願寺地区48点(18%)、町屋3地区21点(8%)、町屋4地区9点(8%)である。櫛(総数15本)は、町屋3地区6本(40%)、町屋4地区3本(20%)、誓願寺地区1本(7%)である。下駄(総数337点)は、誓願寺地区55点(16%)、町屋3地区26点(8%)、町屋4地区14点(4%)である。ただし、泥川埋没後の遺構データを換算すると、下駄集中廃棄遺構が所在する町屋11区画が25点(7%)となる。

誓願寺地区は、櫛以外の木製品が一番多く出土している地区である。しかし、遺構の報告でも述べたが、転出後には大型土坑による塵芥処理場となったと考えているので、数が多いことも予想される。

また、前述のとおり、泥川に面する区画と面しない区画では、塵芥処理の方法が異なるため、一概には比較できない。しかし、町屋区画のなかで、町屋3地区がやや突出して多く木製品を所有してしたことは事実であろう。特に、櫛が多いことも注目される点である。陶磁器の所有率も同様であり、硯も誓願寺地区について多いのが町屋3地区である。以上のことから、町屋3地区は、多くの文物を所有しており、他の地区よりやや抜きん出た存在であったことが想定される。

### 3. 「綿谷」銘製品について

遺物報告において、「綿谷製」の銘が入った一群について述べ、当遺跡内で絵付けなどの作業が行われた可能性に言及した。ここでは、それについて補足しておきたい。

安政5年(1858)、日米修好通商条約が締結され、同様の条約がオランダ・ロシア・イギリス・フランスとも結ばれた。翌年、横浜・長崎・函館が開港され、自由貿易が許可されると、その居留地で「外国人商人との交易に乗り出す陶器商(註1)が現れた。明治に入り、「神戸・横浜の居留地で外国商館や外国人バイヤーに九谷焼の売り込みを開始(註2)した有力陶器商の中に寺井の「綿谷平八」の名がみえる。兵八は、天保8年(1837)年の生まれで、前述の安政5年に家業を継いで陶器商となった。万延元年(1860)に自宅工場で、吉田屋風、赤絵手、彩色手、有田風、錦手などの製作を始めた。明治3年(1870)頃から欧米向け製品を作り始めたようだ。明治9年(1876)には、アメリカフィラデルフィア博覧会の出品者の中に、「加賀綿谷源兵衛」の名がみえる。また、明治37年(1904)には、アメリカセントルイス万国博覧会の窯業部門受賞者に「銀賞綿谷平兵衛」の名がある。その綿谷平兵衛は、平八の息子であり、元治元年(1864)の生まれである。明治15年(1882)に横浜に支店を出し、九谷貿易商として成功を取めた。明治34年(1901)「石川県能美郡九谷陶磁器同業組合沿革及び組合定款」に評議員(販売部)として、役員の一に名を連ねている。しかし、7年後の明治44年(1911)年の「能美郡九谷陶磁器同業組合役員及び代議員」からは名前が消えている。一方、同年の「能美郡九谷陶磁器同業組合員の営業税及所得税額」の一覧には名前が載っており、住所は横浜市となっているが組合員であったことは間違いない(註3)。一覧のなかでも2位の納税額であったことから、立場の低下ではなく、何か別の理由で役員を辞したのであろう。

大川遺跡から出土した「綿谷製」製品は、寺井の陶器販売商綿谷によって発注された製品であり、分業制の中で本遺跡内において赤絵の上絵付けや金彩などの工程が行われていた可能性を考えたい。それは、おそらく顔料入れに転用した可能性のある(713)が出土している点からも肯定されるのではないかと考えられる。また、カップやポットといった輸出向けの器形や絵のデザインから、輸出産業として盛んであった明治時代の製品ではないかと考えられる。

本遺跡出土の製品をみると、鶏声コレクション所蔵品にある2点、綿谷平兵衛商店「金襴手人物山水図角香炉」の「大日本九谷綿平造」銘、「赤絵金彩花鳥図香炉」の「大日本九谷焼綿平制」とは銘が異なっている。ただし、これらの製品は、博覧会出品クラスの精緻品であり、大量輸出品ではない。よって、単に「綿谷製」・「綿谷造」と銘打たれた出土品は、一般向けの輸出品と考えられる。おそらく濫造品が大量に輸出されていた明治後期、先代ではなく綿谷平兵衛の代の製品ではないだろうか。輸出全盛期、莫大な受注に対応するため、郡内の絵描きが全員絵付けに回ったほど、多くの人手が必要だった時代である(註4)。本遺跡で絵付けの下請けを行っていても不思議ではない。

近世の範疇を外れるが、九谷焼が近代産業として成長していった歴史を物語る重要な資料であり、小松の歴史にとって欠かせない成果といえるだろう。

### 4. 陶磁器の生産地問題

最後に、陶磁器の生産地問題について、問題点等を補足しておきたい。

今回、磁器では肥前系、陶器では京・信楽、瀬戸・美濃の影響を強く受けた、あるいは模倣した一群の産地同定が問題となった。窯場資料と同定可能な資料は問題ないのだが、同定できない資料の帰属が困難なのである。一概に上記窯の製品に強い影響を受けた八幡若杉窯(註5)の製品と言い切れ

ない問題を含んでいる。加えて、少量ではあるが萩・備前なども真似た製品も散見され、さらに困難さを増している。

解決すべき問題点を整理すると、以下の3点が挙げられる。

①影響元となった産地における質の悪い製品である可能性がある。

特に、コンニャク印判の五弁花が押された製品は波佐見の可能性があり、評価保留（註6）。

② 19世紀になぜ17世紀の骨董価値のない日常雑器を模倣したのか（註7）。

同時代製品や骨董価値のある製品ならば理解できるが、上記の現象は理解に苦しむようで、その最たるものが、SX19出土の皿といえる（註8）。

③ 漆接ぎの問題。(36)など模倣製品とされるものが漆接ぎされている。

再興九谷の製品であるならば、19世紀以降であり焼き接ぎされるはずである（註9）。

①は、それらの産地の研究者が実現して判断していただく必要がある。生産地の目で検証して頂くしかない。また、九州から加賀までの間に所在する地方窯の実態説明も必要である。

②についても、地方窯の実態説明と、消費地における嗜好の問題を追及しなければならない。

③は、補修技術として、焼き接ぎが普及したのち、完全に漆接ぎが廃れたのかという技術史的問題を解決する必要がある。①のように、やはり時代的に合致する本来の産地の質の悪い製品である可能性も残る。このように問題点の解決は、全て連動したものである。現時点では答えを導き出す術もないが、今後、議論を深めていかなければならない課題である。

また、仮に模倣品と認定されたのであれば、殆どが在産窯製品となる。文政2年（1819）から磁器、翌年から陶器において、他産窯製品の移入が禁止（註10）されていたが、「実際には、金沢城下町遺跡等からの出土様相をみても、再興九谷諸窯の製品が肥前産磁器や京・信楽産陶器に替わる存在ではなかった」（註11）という状況だったようだ。そうであるならば、藩窯「若杉陶器所」の御膳元である小松町では、比較的忠実に守られていた可能性が出てくる。これは、九谷窯業史においても重要な問題であり、将来的に解明する必要がある。

おわりに

報告にあたり、巻頭に挙げた多くの先生方にご指導・ご教授を蒙った。今回、それらを活かすことはできなかった。膨大な資料及び通常より短い整理期間、初めて取り扱う資料であることなど理由はあがるが、遺構の時期的変遷など基本的な分析も含めて完了させることはできず、事実報告に終始してしまっただけ。報告書掲載載遺物も非常に偏ったものとなった可能性もあるが、調査・報告担当として弁解の余地はない。

しかし、今回の報告が「大川遺跡の個性、地域の個性を示すもの」（註12）であることに大きな意義があるのではないだろうか。引き続き検討を行い、何らかの機会に再考を期したい。



## 註

- 1 太多誠 2001 年「第二編 文献資料 第二章」『新修小松市史 資料編 3 九谷焼と小松瓦』小松市
- 2 同上
- 3 二羽弥、田中茂、道本吉太郎、道本外市、朝倉良夫編 1986 年『九谷焼 330 年史』  
寺井町九谷焼資料館による
- 4 坂下雅子氏教示
- 5 藤田邦雄 2013 年「第 6 章 総括」『小松市 八幡遺跡Ⅱ』石川県教育委員会・(財)石川県立埋蔵文化財センター
- 6 佐々木達夫氏教示、一方で、前期若杉窯に五弁花を施した製品が存在することを指摘されている。
- 7 野芝勉氏教示
- 8 同上
- 9 鈴木重治氏教示
- 10 宇佐美孝 2001 年「第二編 文献資料 第一章」『新修小松市史 資料編 3 九谷焼と小松瓦』小松市
- 11 前掲 5 文献、また、文政 11 年 (1828) より次第に禁制解除の方向へシフトしたようだ。
- 12 御指導頂いた先生方共通の認識である。

## 参考文献

- 北陸中世土器研究会編 1997 年『中・近世の北陸—考古学が語る社会史』桂書房
- 大橋康二 1983 年『肥前陶磁』ニューサイエンス社
- 二羽弥、田中茂、道本吉太郎、道本外市、朝倉良夫編 1986 年『九谷焼 330 年史』  
寺井町九谷焼資料館
- 鶏声コレクション 1990 年『鶏声コレクション所蔵品図録 第一巻』
- 小松市 2001 年『新修小松市史 資料編 3 九谷焼と小松瓦』
- 九州近世陶磁学会 2000 年『九州陶磁の編年』
- 財団法人瀬戸市文化振興財団 2005 年『江戸時代の瀬戸・美濃・三都と名古屋 -』
- 財団法人瀬戸市文化振興財団 2006 年『江戸時代のやきもの -生産と流通 -』
- 財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター 2006 年『江戸時代のやきもの -生産と流通 -』  
記念講演会・シンポジウム資料集

## 報告書

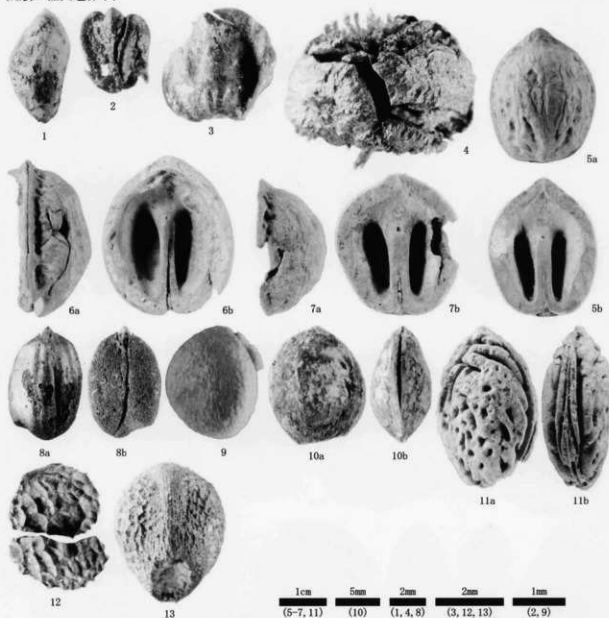
- 石川県教育委員会・(財)石川県立埋蔵文化財センター 2002 年『金沢市 木ノ新保遺跡』
- 石川県教育委員会・(財)石川県立埋蔵文化財センター 2005 年『山中町 九谷 A 遺跡Ⅰ』
- 石川県教育委員会・(財)石川県立埋蔵文化財センター 2006 年『加賀市 九谷 A 遺跡Ⅱ』
- 石川県教育委員会・(財)石川県立埋蔵文化財センター 2013 年『小松市 八幡遺跡Ⅱ』
- 金沢市 (金沢市埋蔵文化財センター) 2006 年『石川県金沢市 広坂遺跡 (1 丁目)Ⅲ (近世編 1)』
- 金沢市 (金沢市埋蔵文化財センター) 2006 年『石川県金沢市 広坂遺跡 (1 丁目)Ⅳ (近世編 2)』
- 小松市教育委員会 2011 年『小松城跡発掘調査報告書』



# 写真図版

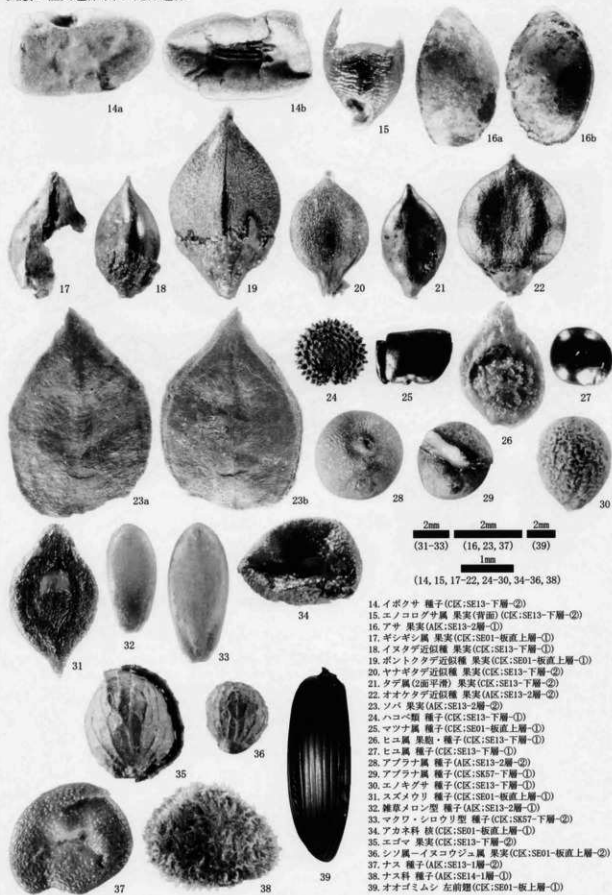


図版1 種実遺体(1)



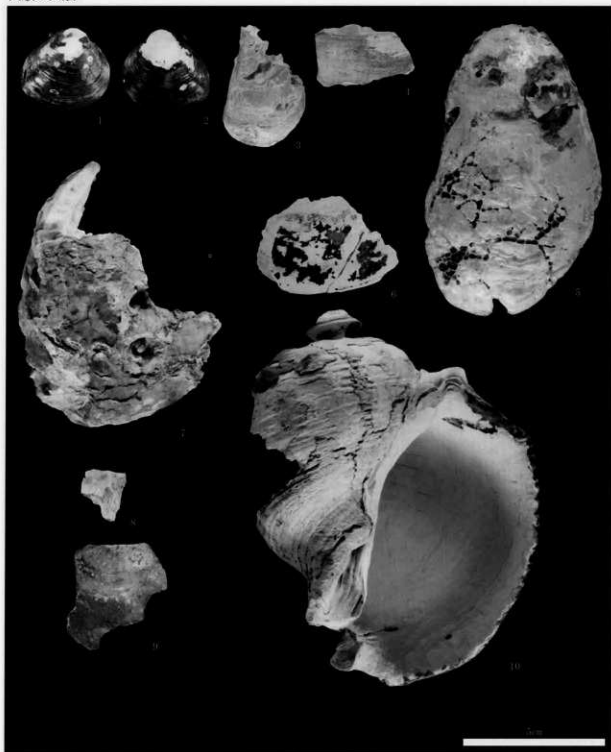
- |   |   |
|---|---|
| <p>1. マツ属複雑管束亜属 種子(C区;SE01-板直上層-①)</p> <p>3. ヒノキ 種子(A区;SE13-1層-②)</p> <p>5. オニグルミ 核/モモ 核(A区;SK-03c区中層(フシヨク2)F-03)</p> <p>7. オニグルミ 核(ネズミ類食痕)(A区;SX-14 II EWアゼ G-06)</p> <p>9. クワ属 核(C区;SE01-板直上層-①)</p> <p>11. モモ 核(A区;SK35A G-06)</p> <p>13. サンショウ 種子(C区;SE01-板直上層-①)</p> | <p>2. ヒノキ 枝条(A区;SE13-1層-①)</p> <p>4. ヒノキ 球果(A区;SE13-2層-①)</p> <p>6. オニグルミ 核(リス類食痕)(C区;SD-2003 J-19)</p> <p>8. コナラ属 炭化子葉(頂部)(A区;SE13-2層-②)</p> <p>10. スモモ 核(B区;SK-1013)</p> <p>12. カラスザンショウ 種子(A区;SE13-2層-①)</p> |
|---|---|

図版2 種実遺体(2)・昆虫遺体

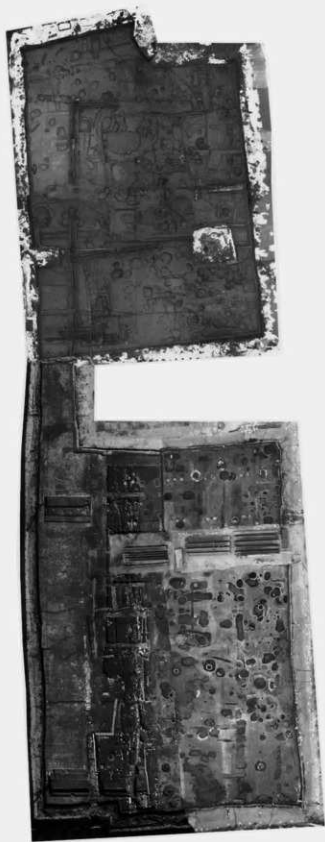


14. イボクサ 種子(CIK;SE13-下層-②)  
 15. エノコグサ属 果実(背面)(CIK;SE13-下層-②)  
 16. アサ 果実(AIK;SE13-2層-①)  
 17. ギシギシ属 果実(CIK;SE01-板直上層-①)  
 18. イヌタダ近似種 果実(CIK;SE13-下層-①)  
 19. ボントクダ近似種 果実(CIK;SE01-板直上層-①)  
 20. ヤナギタダ近似種 果実(CIK;SE13-下層-②)  
 21. タデ属(2面平滑) 果実(CIK;SE13-下層-②)  
 22. オオケタダ近似種 果実(AIK;SE13-2層-②)  
 23. ソバ 果実(AIK;SE13-2層-②)  
 24. ハコベ類 種子(CIK;SE13-下層-①)  
 25. マツナ属 種子(CIK;SE01-板直上層-①)  
 26. ヒユ属 果胞・種子(CIK;SE13-下層-①)  
 27. ヒユ属 種子(CIK;SE13-下層-①)  
 28. アブラナ属 種子(AIK;SE13-2層-②)  
 29. アブラナ属 種子(CIK;SK57-下層-①)  
 30. エノキダケ 種子(CIK;SE13-下層-①)  
 31. スズメウリ 種子(CIK;SE01-板直上層-①)  
 32. 雑草メロン型 種子(AIK;SE13-2層-①)  
 33. マクワ・シロウリ型 種子(CIK;SK57-下層-②)  
 34. アカネ科 枝(CIK;SE01-板直上層-①)  
 35. エゴマ 果実(CIK;SE13-下層-②)  
 36. シツ属-イヌコウジュ属 果実(CIK;SE01-板直上層-②)  
 37. ナス 種子(AIK;SE13-1層-②)  
 38. ナス科 種子(AIK;SE14-1層-①)  
 39. オオゴミムシ 左前腿(CIK;SE01-板直上層-①)

図版3 貝類



1. ヤマトシジミ右殻 (CEKSK-52; 下層-①)
2. ヤマトシジミ左殻 (CEKSK-52; 下層-②)
3. マガキ右殻 (AEKSK-03; a-a' アゼ内 上層)
4. アワビ類殻 (AEKSK-03; b-b' アゼ内 上層)
5. マガキ左殻 (AEKSK-03; C区 中層 (フシヨク2))
6. ハマグリ類殻 (AEKSK-03; C区 中層 (フシヨク2))
7. マガキ左殻 (AEKSK-03d; 下層)
8. 貝類 (AEKSK-10A)
9. イタボガキ科? 殻 (AEKSD-03; F区中層)
10. アカニシ殻 (AEKSK-22)

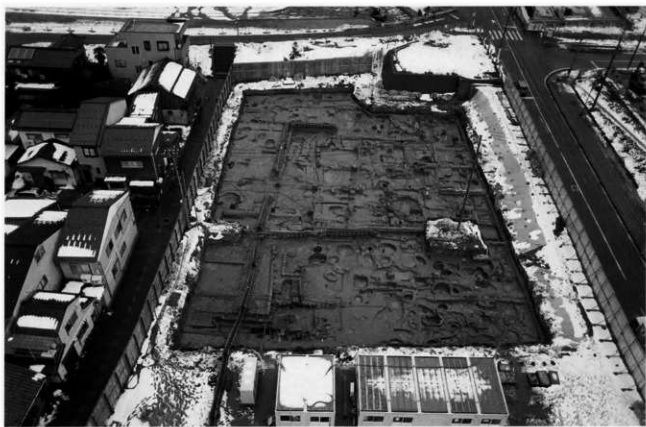


調査区全景（合成）





調査区遠景 北から



A区 南から



B区 北東から



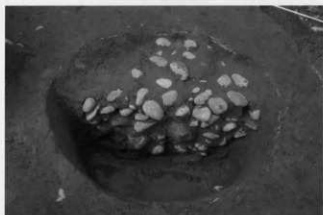
C区 北西から



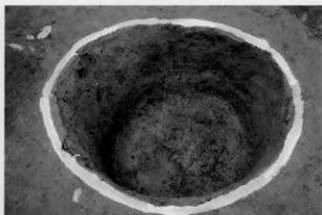
SA01 南東から



SE01 東から



SK01 断面 南東から



SK01 完掘 南東から



SK04 土層断面 西から



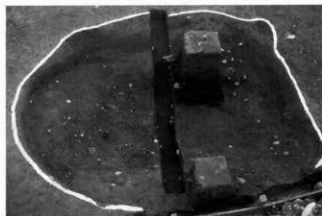
SK04 下層遺物出土状況 北東から



SK04 完掘 西から



SK10 土層断面 北から



SK10 西から



SK30 土層断面 北東から



SK30 完掘 南から



SK41 完掘 南から



SK42 半掘 北から



SK03 土層断面 西から



SK03 全景 北西から



SK22 土層断面 南西から



SK22 土層断面 南東から



SD02 土層断面 南から



SD02 土層断面 南東から



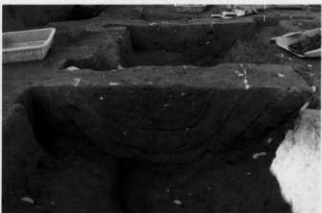
SD02 下層遺物出土状況 南から



SD02 遺物検出状況近影 東から



SD04 土層断面 東から



SD05 土層断面 南から



SD05 完掘 南から



SD06b-b' 土層断面 西から



SD06d-d' 土層断面 西から



SD06f-f' 土層断面 南から



SD06g-g' 土層断面 南から



SD09 完掘 南から



SX04 土層断面 南から



SX12ab 南から



SX12c 腐植土堆積状況 東から



SX12cd 南から



柱根 南から



柱根断面 南から



SE11 南から



SK31 南から



SD12 土層断面 西から



SD12 礎出土状況 東から



SD13 中層 北西から



SD13 下層 南西から



SD13 下層遺物出土状況 西から



土手状遺構 北東から



SK12 北から



SK86 土層断面 東から



SK86 (掘方残し) 北から



SK86 完掘 北から





SK55 東から



SK36 東から



SK54・56 南から



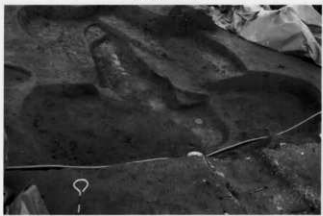
SX02 南東から



SX03 西から



SX03 土層断面 東から



SD15・18 東から



SX13b 下層土層断面 東から



SX13b 土層断面 西から



切石列 東から



土手状遺構 2 西から



SE12 土層断面 東から



SE12 東から



SK11 西から



SK37 土層断面 西から



SK37 遺物出土状況 南東から



SK37 遺物出土状況近景 西から



SK37 完掘 西から



SK39 西隅礫出土状況 南から



SK39 完掘 西から



SK25 遺物出土状況 南東から



SK24 土層断面 南から



SK24 完掘 南から



SD08(SX14 側) 北東から



SD08 遺物出土状況 北から



SE12 掘方-SD08-SX14 土層断面 西から



SX11 南から



SX14 II 土層断面 西から



SX14 II 土層断面 北から



SX14 II 遺物出土状況 北から



SX14 III 土層断面 南から



SK73 土層断面 南から



SK73 完掘 北から



SK95-SD32 土層断面 西から



SK74 完掘 北から



SX15 土層断面 北から



SX15-16 土層断面 東から



SK43 土層断面 南西から



SK43・44・48 完掘 西から



SK68・50 完掘 東から



SK62・67 完掘 西から



SD14i-i' 土層断面 南から



SD14j-j' 土層断面 北から



SD14k-k' 土層断面 南から



SD14-32 土層断面 南東から



SX16-17 土層断面 北から



SE14 土層断面 北から



SE14 東から



SE15 土層断面 東から



SE15 南から



SE16 南から



SK157 瓦出土状況 東から



SK136 南から



SK130 上面集石 南東から



SK130 土層断面 東から



SK130 完掘 北から



SK132 完掘 東から



SK112 遺物出土状況 東から



SK112 完掘 北東から



SK138・139 完掘 南から



SK151・152 完掘 北から



SK153 土層断面 南から



SD38a-a' 土層断面 西から





SD38c 土層断面 東から



SD36 土層断面 東から



SX30 上面 南から



SE13 上位井戸枠落下状況 北から



SE13 掘方土層断面 南から



SE13 北から



SK117 土層断面 南東から



SK98 土層断面 南東から



SK114 土層断面 北から



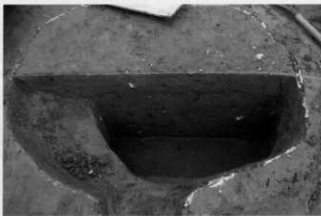
SK113 土層断面 東から



SK113 東 南から



SK96 土層断面 南から



SK97 土層断面 東から



SK99 土層断面 北から



SK110 土層断面 東から



SD35 土層断面 西から



SD33 南から



SD33 北東から



SX18 I (東側) 北から



SX18 I (西側) 北から



SX18 II 土層断面 南から



SX19e-e' 土層断面 東から



SX19f-f' 土層断面 東から



SX18h-h' 土層断面 東から



SK2063 土層断面 西から



SK2063 井戸枠接合部 南西から



SK2063 東から



SK2063 南から



SE2001 検出断面 東から



SE2001 中層板 東から



SE2001 完掘 東から



SK2043・44 完掘 南から



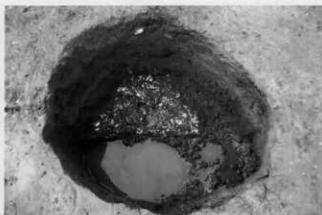
SK2049 完掘 南西から



SK2062 南から



SK2068 南西から



SK2029 貝殻出土状況 南から



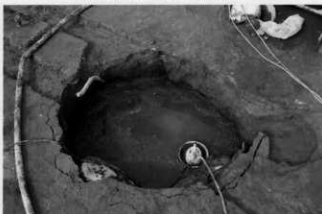
SK2008 南から



SK2009・20 完掘 南西から



SK2004 下層礫出土状況 北から



SK2004・05 完掘 西から



SK2001 西から



SK2041・42 完掘 南から



SK1009・21 完掘 南から



SK1010・22 完掘 南から



SD2002 東から



SX2002 南西から



SK1008 南から



SE2002 遺物出土状況 西から



SE2002 土層断面 西から



SE2002・SK2109・20 南西から



SE2008 遺物出土状況 西から



SE2008 土層断面 西から



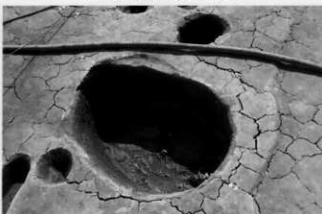
SE2008 北西から



SE2009 土層断面 南から



SE2009 北西から



SK2107 北西から



SX2004 土層断面 北から



SX2004 北西から



SX2004 南東から



SD2003 完掘 北から



SD2005d-d' 土層断面 東から



SD2005 遺物出土状況 西から



SX2005 土層断面 南から



SK1002 西から





SE2003 土層断面 北西から



SE2003 枠内 西から



SE2013 土層断面 東から



SE2013 北から



SE2013 網状枠 東から



SK2148 (井戸) 東から



SE2007 土層断面 南東から



SE2007 掘方土層断面 南東から



SE2007 南東から



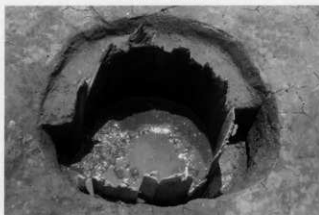
SE2019 土層断面 西から



SE2019 南西から



SE2017 検出断面 北から



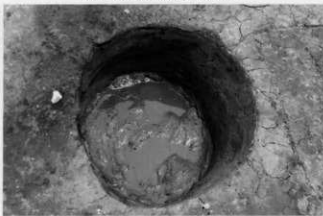
SE2017 井戸枠 北から



SE2017 土層断面 北から



SE2017 井戸枠内面 北から



SE2017 東から



SE2018 土層断面 西から



SE1010 北から



SE1011 井戸枠内土層断面 北から



SE1011 井戸枠内 東から



SK2121 北から



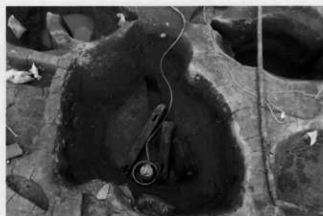
SK2073ab 東から



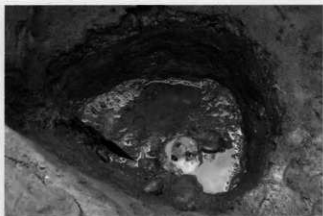
SK2075 礎断面 南から



SK2075 下層柱材 南から



SK2075 西から



SK2075 会下底ビット 北から



SK2075 上層礫 南から



SK2074 東から



SK2056 南から



SK2057a 遺物出土状況 東から



SK2057a 完掘 北東から



SK2057b タガ検出状況 西から



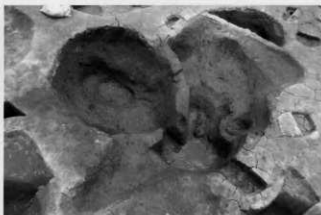
SK2057b 完掘 南から



SK2072 遺物出土状況 北から



SK2072 西から



SK2076 北から



SK2099 西から



SK2149 土層断面 西から



SK2149 遺物出土状況 西から



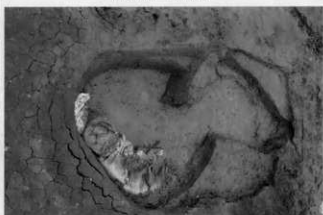
SK2149 礫 北東から



SK2149 完掘 西から



SK2097 南から



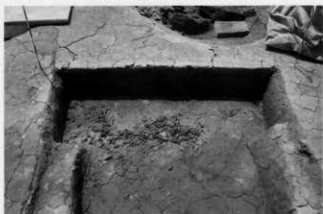
SK2033 東から



SK1006・1007 南西から



SK1016 北東から



SD2017g-g' 土層断面 北から



SD2006 土層断面 西から



SD2006 遺物出土状況 東から



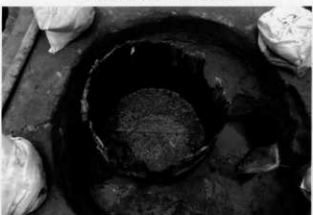
SD2006 完掘 北西から



SE2014 検出断面 南から



SE2014 礫層断面 南から



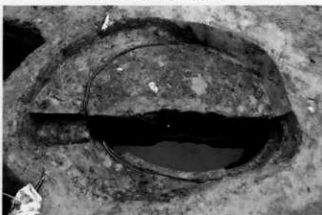
SE2014 井戸枠設置状況 南から



SE2014 底盤石 西から



SE2015 南から



SE2012 タガ検出 南から



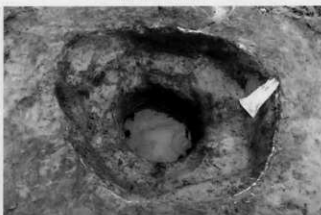
SE2010 タガ 北から



SE2016 北から



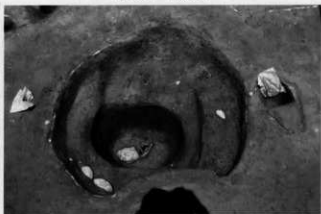
SK2052 タガ検出状況 南から



SK2051 南から



SK2051 粹材 西から



SK2055 南から



SK2058 東から

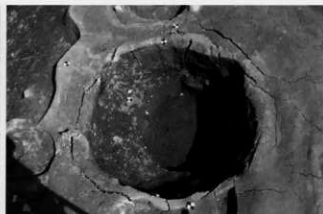


SD1013 南から





SK2019 東から



SK1039 南から



SK2035 東から



SK2015 南から



SD2014e-e' 南から



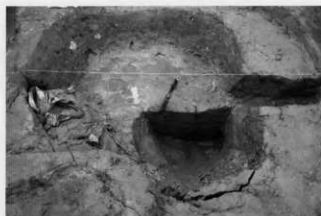
SD2010g-g' 東から



SD2014・15 付近 南東から



SK1050 北から



SK1051 下層断面 北から



SK1051 西から



SK2096 西から



SK2090 西から



SK2093 北から



SK2079 北から



Sk2091 北から



SF01 検出状況 北から



SF01 路盤断面 西から



SF01-SD07 土層断面 東から



同路盤断面近景 南から



SD31c-c' 西から



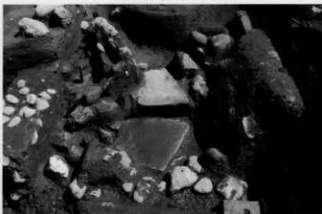
SD07 礫出土状況 東から



SD07 同礫除去後 南から



階段状遺構 n-n' 西から



階段状遺構 o-o' 西から



階段状遺構 p-p' 南から



泥川 a-a' 護岸 北から



泥川護岸 (調査区南端) 南から



泥川 a-a' 土層断面 1 北から



泥川 a-a' 土層断面 2 北から



泥川 m-m' 土層断面 1 北から



泥川 m-m' 土層断面 2 北から



泥川 m-m' 土層断面 3 北から



SK22 碗



SK22 皿・鉢・蓋・土鍋・向付・水滴など



Sk22 壺・徳利・土瓶など



SK22 瓦質土器など



SD04 出土陶磁器



SD13 碗・蓋物・蓋



SD13 鉢・搥鉢



SD13 皿・徳利・壺など



SX14 碗・鉢など



SX14 皿・餐盤・水注など





SX14 鉢・播鉢・瓦質火鉢



SX30 越中瀬戸



SX30 碗 (第113図520)



SX19 出土陶磁器



SK2041 出土陶磁器



Sk2149 出土陶磁器



第75图 37



第76图 45



第85图 176



第89图 220



第91图 241



第97图 307



第112图 457



第109图 458



第109図 506



第117図 578



第123図 657



第130図 742 (春日山藏)



再興九谷色絵製品



第127図 713



第127図 712



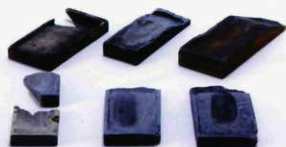
「綿谷」銘集合写真



土人形など



いぶし瓦



碓



行火 (バンドコ)



釉薬瓦



漆器



曲物



櫛等



杓子



下駄



煙管・簪・飾り金具



包丁



十能・火箸・灯心立等

## 報告書抄録

ふりがな	おおかわいせき							
書名	大川遺跡							
副書名	都市計画道路根上小松線街路工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
編・著者名	川畑謙二・岩本信一							
編集機関	石川県小松市教育委員会							
所在地	〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地 TEL (0761) 22-4111							
発行年月日	西暦2014年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因
おおかわいせき 大川遺跡	いしかわけんこまつし 石川県小松市 おおかわまち 大川町	17203		36° 24' 53"	136° 27' 00"	2010.08.24 ~ 2011.06.24	5,600㎡	都市計画道路 根上小松線街 路工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
おおかわいせき 大川遺跡	集落 (城下町)	近世	井戸、土坑、道路、 溝、堀跡	近世陶磁器、瓦、木製品、金属製品、 石製品			近世町屋の遺構・ 遺物を多数検出。	
要約	近世の絵図において、小松城東側の泥町とされる地点である。今回の調査区は、北国街道を挟んだ西側の町屋群で、誓願寺と泥川(堀)の一部を含んでいる。また、絵図に描かれている北国街道から小松城方向へ延びる道路も検出されている。現代までほぼ当時の区画を踏襲し、造成や嵩上げを繰り返した地区であり、建物跡を把握することはできなかったが、多くの井戸やごみ廃棄坑などが検出された。陶磁器をはじめとする多量の遺物が出土し、中でも特に19世紀以降の再興九谷製品の様相が、在地窯の成立と消費地の関係を考える上で注目される。							

---

---

## 大川遺跡

都市計画道路根上小松線街路工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 26 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 石川県小松市教育委員会  
石川県小松市小馬出町 91 TEL (0761) 22-4111

印刷 株式会社 日本テリード出版  
石川県小松市上本折町 299 TEL (0761) 24-1166

---

---